

## 第Ⅶ章

### サクシュコトニ川遺跡の遺物

VI-1

#### [第1文化層の遺物]

土器器種類12個体分と須恵器大甕1個体分が出土した。

##### ① 分布

つぎの3群にわけられる。

- ① 05-05, 05-09, 05-10, 05-11, 06-09, 06-10, 07-06, 07-08, 07-10, 07-11, 08-08, 08-11, 09-06, 09-07, 09-08, 09-09, 10-07, 10-08グリッドで、発掘区の東南部分にあたり、分布範囲はもっとも広く5個体分の土器が出土した（個体番号甕53,54,55,101,183）。
- ② 09-18グリッドで、1個体分の上器が出土した（個体番号甕56）。
- ③ 墓上72とその周辺から7個体分の上器（個体番号甕107,157,172,173,174,184、須恵器大甕）が出土した。

以上であり、①、②は遺物包含層、③は墓上遺構に関係する。

##### ② 土器の特徴

個体番号甕53 出土位置：05-09, 05-10, 06-09, 06-10, 06-11, 07-08, 07-10, 09-09  
の8グリッドにまたがる。

法量：高さ39.8cm、口径30.4cm（推定）、底径10.0cmで器厚約1cmである。文様：口縁部から頸部に施文される。口縁部文様は縦帶を口縁部にそって張り付け、その上にヘタによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦・横・斜位の沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様。腹部との境に刻み目を付した降帯を張りつけている。器面調整：胸部外面は縦位の細かいハケ目のある縦位のヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理が施されている。

個体番号甕54 出土位置：09-07, 09-08, 10-07, 10-08の4グリッドにまたがる。法量：計測不可能。但し、底径7.8cmである。文様：頸部に施文される。複数の横走沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様。腹部との境に二本単位の鋸歯文がみられる。器面調整：胴部外面の上半は横・斜位の太いハケ目、下半は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキである。

個体番号甕55 出土位置：05-11, 06-10, 06-11, 07-10, 07-11, 08-11の6グリッドにまたがる。法量：高さ38.0cm、口径29.8cm、底径8.2cmで器厚約1.2～2.2cmである。文様：口縁部に施文される。降帯を口縁部にそって張

り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、肩部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理されている。

## 個体番号壺156

出土位置：09-18グリッドである。法量：高さ28.2cm、口径26.0cm、底径7.6cmで器厚約0.7cmである。文様：口縁部から頸部にわたる、口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦位のハケ目の後、上下に鋸歯状文、肩部との境に刻み目と鋸歯文を付した隆帯を張り付けている。器面調整：胴部外面は縦位のハケ目のあと縦位のヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、肩部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。

## 個体番号壺101

出土位置：07-06、08-07、09-06、09-07の4グリッドにまたがる。法量：高さ19.0cm、口径16.6cm、底径6.2cmで器厚約0.2cmである。文様：みられない。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目のあとヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキである。

## 個体番号壺107

出土位置：焼土72。底部（径8.9cm、厚さ1.3cm）。文様：みられない。器面調整：胴部外面は斜位のヘラミガキ、内面は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。

## 個体番号壺157

出土位置：31-17グリッドで焼土72の西へりである。法量：高さ17.5cm、口径19.0cm、底径8.4cmで器厚約0.6～0.8cmである。文様：口縁部から頸部にわたる、口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。頸部文様は横走の多重沈線文のうえに縦位の沈線文、鋸歯状文を組み合わせている。肩部との境に刻み目が付けられている。器面調整：外面の口縁部から頸部にかけてはヨコナデ、肩部は風化していて不明である。内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキである。

## 個体番号壺173

出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：横走沈線の上に鋸歯状文が描かれ、肩部との境に刻み目が付されている。器面調整：胴部外面は不明、内面は横位のヘラミガキである。

## 個体番号壺174

出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：斜・横位の隆起沿とそれにそった刺突文、複数の沈線文の組み合わせ文様である。器面調整：胴部外面は横位のハケ目とヘラミガキである。

## 個体番号壺183

出土位置：05-05グリッド、口縁部の破片である。文様：口縁部にそって隆起帶が巡り刻み目が付される。器面調整：外面はヨコナデ、内面は横位のヘラミガキである。

## 須恵器大甕

出土位置：30-17グリッド、胴部の破片である。器厚は0.5～0.8cm。器面：器外面の側面叩き目は縦位平行線叩き目で、下部で異方向の叩き目と重複する。この部分が底面に近い部分である。内面は重複する半弧状の当て具痕がみられる。

なお、個体番号壺172、同184の説明は省略する。

## 小括

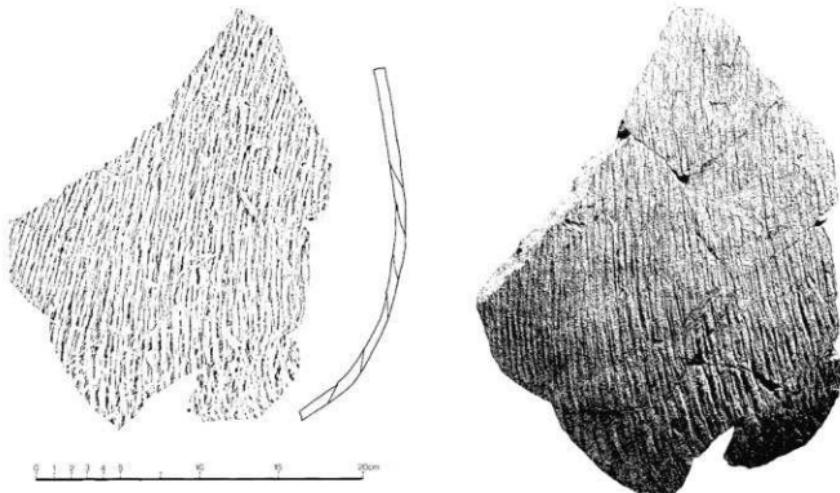
a 這構は焼土跡が1箇所検出されただけで、住居跡などは見出されなかった。

b 漢物は12個体分の土師質甕と1個体分の須恵器大甕が出土した。これらの土器類は燒土跡を中心に分布するほか、合わせて3箇所にみられた。

c 土師質甕は器高が20cm以上のもの（個体番号甕53, 54, 55, 56）4個体、器高20cm以下のもの（個体番号甕101, 157）2個体がみられた以外は破片である。

d 土師質甕は個体番号甕101以外口縁部から頸部にかけて文様がみられる。また、器面は内外ともヘラミガキによって調整され、個体番号甕53, 55のように内面に黒色処理を施すものもみられる。  
（横山英介）

PL. II-11 須恵器大甕



## VI-2 [第2文化層の出土遺物]

出土遺物は、土器類、土製品類、石器・石製品類、金属器・鉄滓類、木製品類、骨角器類および動物・植物遺存体などである。

以下にこれらの遺物類について述べる。

## VI-3 [土器類]

### ① 種類と数量

土器類には土師器、須恵器、「赤燒」土器などがある。量的には土師器が主体を占め、須恵器、「赤燒」土器が少量みられる。

胎属性不明の破片も同様の傾向を示す。

Tab. VI-5 第2文化層の土器類出土数

土器類	土師器		須恵器		「赤燒」土器		計	
	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数
壺類	113	1,139	7	66	4	-	124	1,205
甌類	183	5,562	-	-	-	-	183	5,562
瓶類	-	-	5	-	-	-	5	-
その他	1	-	-	-	-	-	1	-
計	297	6,701	12	66	4	-	313	6,767

### ② 出土状況

土器の種類別にみた個体別出土状況を以下に述べる。

#### ① 土師器系類

- 個体番号壺1  
炭化物52と遺構外から出土した。
- 個体番号壺2  
1号土壙の周辺の焼土炭化物から出土した。
- 個体番号壺3  
2号堅穴住居の周辺(18-16グリッド)から出土した。
- 個体番号壺4  
2号堅穴住居内から出土した。
- 個体番号壺5  
2号堅穴住居内と炭化物52から出土した。
- 個体番号壺6  
炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壺7  
2号堅穴住居の周辺(17-16, 18-20グリッド)から出土した。
- 個体番号壺8  
5号堅穴住居内から出土した。

- 個体番号環9  
2号堅穴住居内と炭化物52から出土した。
- 個体番号環10  
2号堅穴住居の覆土中と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環11  
焼土24と炭化物52周辺から出土した。
- 個体番号環12  
5号堅穴住居の縦道内から出土した。
- 個体番号環13  
3号堅穴住居の覆土中から出土した。
- 個体番号環14  
遺構外(06-08グリッド)から出土した。
- 個体番号環15  
遺構外(10-08グリッド)から出土した。
- 個体番号環16  
3号土壙内と焼土41と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環17  
焼土18、焼土28、炭化物30、炭化物マウンドと遺構外(08-05グリッド)から出土した。
- 個体番号環18  
2号堅穴住居のカマド内から出土した。
- 個体番号環19  
1号土壙周辺の焼土・炭化物から出土した。
- 個体番号環20  
炭化物52から出土した。
- 個体番号環21  
焼土43と炭化物マウンドのへりから出土した。
- 個体番号環22  
焼土27と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環23  
炭化物52から出土した。
- 個体番号環24  
焼土44と炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環25  
2号堅穴住居の覆土中、焼土43、炭化物52と遺構外(19-16グリッド)から出土した。
- 個体番号環26  
4号土壙内から出土した。
- 個体番号環27  
炭化物70から出土した。
- 個体番号環28  
炭化物52のへりと炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環29  
5号堅穴住居内から出土した。
- 個体番号環30  
炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環31  
4号土壙内、炭化物42、炭化物52、炭化物マウンドと遺構外(15-08グリッド)から出土した。
- 個体番号環32  
3号堅穴住居の覆土中から出土した。
- 個体番号環33  
5号堅穴の床面、1号土壙周辺の焼土・炭化物、焼土27のへりから出土した。
- 個体番号環34  
炭化物52から出土した。
- 個体番号環35  
炭化物42およびその周辺、炭化物マウンド(フローテーション資料)と遺構外(13-22グリッド)から出土した。
- 個体番号環36  
炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環37  
炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環38  
炭化物19のはかは遺構外(06-07、08-12、08-14、10-17、11-16グリッド)から出土した。
- 個体番号環39  
2号堅穴住居の覆土中のほかは遺構外(11-18、13-15、13-17、14-15グリッド)から出土した。
- 個体番号環40  
焼土35、焼土37のへりのほかは遺構外(13-15、13-16、14-15、15-15グリッド)から出土した。
- 個体番号環41  
炭化物52、焼土62と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環42  
炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環43  
2号堅穴住居の床面と焼土43、同44、炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号環44  
焼土68から出土した。
- 個体番号環45  
炭化物52のへりのほか遺構外(17-13グリッド)から出土した。

個体番号坪46	炭化物19、焼土61と遺構外(07-07グリッド)から出土した。
個体番号坪47	6号土壙内とその周辺から出土した。
個体番号坪48	5号堅穴住居の床面、5号土壙内と遺構外(04-06グリッド)から出土した。
個体番号坪49	2号堅穴住居の床面と焼土30、炭化物52から出土した。
個体番号坪50	炭化物52から出土した。
個体番号坪51	焼土43と炭化物マウンドから出土した。
個体番号坪52	すべて遺構外から出土した。
個体番号坪53	炭化物マウンド、破片2点だけが1号堅穴住居のへりから出土した。
個体番号坪54	焼土43と炭化物マウンドから出土した。
個体番号坪55	炭化物52、炭化物マウンドと遺構外(12-08グリッド)から出土した。
個体番号坪56	2号堅穴住居の覆土中と炭化物52のはかは遺構外(15-14、15-15、15-16グリッド)から出土した。
個体番号坪57	すべて遺構外(21-14グリッド)から出土した。
個体番号坪58	焼土53と炭化物マウンドから出土した。
個体番号坪59	すべて遺構外(19-18、21-13、21-17グリッド)から出土した。
個体番号坪60	炭化物52と焼土62から出土した。
個体番号坪61	炭化物マウンドから出土した。
個体番号坪62	1号土壙周辺の焼土・炭化物、焼土17と炭化物マウンドから出土した。
個体番号坪63	5号堅穴住居の覆土中、5号土壙内と炭化物30から出土した。
個体番号坪64	すべて炭化物52のへりから出土した。
個体番号坪65	焼土47と遺構外(11-13、19-12グリッド)から出土した。
個体番号坪66	3号堅穴住居の北東へりと1号土壙周辺の焼土・炭化物から出土した。
個体番号坪67	焼土43のへりと遺構外(11-09、15-16グリッド)から出土した。
個体番号坪68	4号土壙内から出土した。
個体番号坪69	すべて遺構外(11-11、14-17グリッド)から出土した。
個体番号坪70	炭化物52と遺構外(16-13グリッド)から出土した。
個体番号坪71	5号堅穴住居の床面、5号土壙内と遺構外(08-05、09-06、09-08グリッド)から出土した。
個体番号坪72	遺構外(29-15グリッド)から出土した。
個体番号坪73	遺構外(10-10グリッド)から出土した。
個体番号坪74	焼土70から出土した。
個体番号坪75	遺構外(09-11グリッド)から出土した。
個体番号坪76	焼土7、焼土11と遺構外(07-07、09-06、09-08、09-10グリッド)から出土した。
個体番号坪77	遺構外(18-14グリッド)から出土した。
個体番号坪78	4号土壙内から出土した。
個体番号坪79	炭化物52と遺構外(10-09グリッド)から出土した。
個体番号坪80	遺構外(06-08グリッド)から出土した。
個体番号坪81	5号堅穴住居の東面から出土した。
個体番号坪82	4号土壙の周辺と遺構外(17-13グリッド)から出土した。
個体番号坪83	遺構外(08-09、14-12、15-05グリッド)から出土した。
個体番号坪84	焼土・炭化物20・21から出土した。
個体番号坪85	遺構外(16-09グリッド)から出土した。

個体番号環86	底部であり、焼土24(07-12グリッド)から出土した。
個体番号環87	遺構外(14-14グリッド)から出土した。
個体番号環88	遺構外(22-21グリッド)から出土した。
個体番号環89	焼土42から出土した。
個体番号環90	焼土11から出土した。
個体番号環91	遺構外(07-08グリッド)から出土した。
個体番号環92	遺構外(05-08グリッド)から出土した。
個体番号環93	4号土壙内から出土した。
個体番号環94	遺構外(09-07, 09-09グリッド)から出土した。
個体番号環95	5号土壙内から出土した。
個体番号環96	遺構外(30-16グリッド)から出土した。
個体番号環97	遺構外(04-09グリッド)から出土した。
個体番号環98	焼土22と遺構外(10-10グリッド)から出土した。
個体番号環99	炭化物14から出土した。
個体番号環100	5号土壙内と炭化物16から出土した。
個体番号環101	遺構外(09-08グリッド)から出土した。
個体番号環102	遺構外(20-16グリッド)から出土した。
個体番号環103	遺構外(10-06グリッド)から出土した。
個体番号環104	炭化物4から出土した。
個体番号環105	遺構外(10-05グリッド)から出土した。
個体番号環106	2号堅穴住居のカマド内と炭化物52から出土した。
個体番号環107	4号土壙、焼土22から出土した。
個体番号環108	5号堅穴住居の覆土中から出土した。
個体番号環109	5号堅穴の覆土中と遺構外(07-11グリッド)から出土した。
個体番号環110	炭化物マウンドから出土した。
個体番号環111	焼土11から出土した。
個体番号環112	破片1点が5号堅穴住居の床面から出土、5号堅穴住居の東壁外(11-04-)からの破片2点と接合した。
個体番号環113	炭化物52から出土した。

## ② 土器器類（代表個体）

個体番号甕1	5号堅穴住居の床面と1号土壙内から出土した。
個体番号甕2	1号土壙内から出土した。
個体番号甕3	焼土27のほか遺構外から出土した。
個体番号甕4	2号堅穴住居の床面、炭化物マウンド、3号堅穴住居の北側(10-11グリッド)などから出土した。
個体番号甕5	遺構外(21-17グリッド)から出土した。
個体番号甕6	3号堅穴住居の覆土中から出土した。
個体番号甕7	1号堅穴住居のカマドで支脚として使用されていた。
個体番号甕8	5号堅穴住居の床面から出土した。
個体番号甕9	1号堅穴住居のカマド焼口に固定されて出土した。
個体番号甕10	1号堅穴住居の覆土中や付近(19-14グリッド)、炭化物マウンド、焼土43のへり、炭化物52のへり、焼土58などから出土した。
個体番号甕11	炭化物マウンドと炭化物52から出土した。
個体番号甕12	炭化物マウンド、焼土43、炭化物52などから出土した。

- 個体番号甕13 1号堅穴住居の南側(18-14グリッド)1個所に集中する。
- 個体番号甕14 4号土壙内、焼土32、4号堅穴住居の東および西側から出土した。
- 個体番号甕15 2号堅穴住居の床面、炭化物マウンド、焼土34、同51などから出土した。
- 個体番号甕16 5号堅穴住居の床面およびカマドの縦道内から出土した。
- 個体番号甕17 5号堅穴住居の床面と2号堅穴住居の西側(20-21グリッド)から出土した。
- 個体番号甕18 遺構外(09-09～10-09グリッド)から出土した。
- 個体番号甕19 焼土64から出土した。
- 個体番号甕20 炭化物マウンド、炭化物52、同53から出土した。
- 個体番号甕21 2号堅穴住居の土壙中、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号甕22 4号堅穴住居の覆土中から出土した。
- 個体番号甕23 2号堅穴住居のカマド周辺、炭化物マウンド、焼土41、焼土43、炭化物52から出土した。
- 個体番号甕24 5号堅穴住居の床面、1号土壙周辺の焼土・炭化物、6号土壙内およびその周辺部、炭化物マウンド内から出土した。
- 個体番号甕25 焼土36、同39、4号堅穴住居の北東側から出土した。
- 個体番号甕26 炭化物52の中に破片が1点みられ、多くの破片はその周辺から出土した。
- 個体番号甕27 破片2点が1号堅穴住居でカマドの袖に使用され、他の破片は同堅穴の床面やその周辺、3号土壙内、焼土47、同48のへり、焼土51などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕28 2号堅穴住居の床面と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号甕29 炭化物マウンド、焼土43、炭化物52から出土した。
- 個体番号甕30 2号堅穴住居の床面、焼土37、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号甕31 2号堅穴住居の床面、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕32 2号堅穴住居の床面、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕33 2号堅穴住居の覆土中、焼土43およびその周辺に分布している。
- 個体番号甕34 2号堅穴住居の床面や住居外の南東部分、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドおよび4号堅穴住居周辺、焼土34、同47などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕35 2号堅穴住居の覆土中、4号堅穴住居周辺、焼土43から出土した。
- 個体番号甕36 焼土35、同37、同43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕37 2号堅穴住居の床面とカマド、焼土43、炭化物52、炭化物70などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号甕38 2号堅穴住居の床面やカマド、焼土41、同43、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号甕39 5号堅穴住居の床面に破片が2点出土、大部分の破片は10-10グリッドに集中する。
- 個体番号甕40 5号堅穴住居の床面とカマドの縦道内、1号土壙内および周辺の焼土

- ・炭化物、3号・4号堅穴住居周辺部から出土した。
- 個体番号堀41  
2号堅穴住居の床面と覆土中、焼上43およびその周辺に分布している。
- 個体番号堀42  
2号堅穴住居の床面と覆土中、焼上13およびその周辺に分布している。
- 個体番号堀43  
焼上43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号堀44  
5号堅穴住居の床面、カマド煙道部から出土した。
- 個体番号堀45  
2号堅穴住居の床面やカマド、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀46  
遺構外(05-08、06-08、09-06、19-13、20-09グリッド)から出土した。
- 個体番号堀47  
遺構外(13-11、14-06、14-09、14-11、15-10、19-13グリッド)から出土した。
- 個体番号堀48  
炭化物52、同53、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀49  
2号堅穴住居の床面、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀50  
遺構外(20-09、20-10、21-10グリッド)から出土した。
- 個体番号堀51  
焼上27とその周辺部に分布している。
- 個体番号堀52  
2号堅穴住居の床面やカマドおよび覆土中、焼上41、同43、同44、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀53  
焼上41、同43、同48、炭化物52、同50、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀54  
遺構外(20-17、20-18、21-17、22-14グリッド)から出土した。
- 個体番号堀55  
2号堅穴住居の床面や炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号堀56  
焼土35、同39に分布している。
- 個体番号堀57  
焼上43、炭化物52に分布している。
- 個体番号堀58  
個体番号堀59  
個体番号堀60  
個体番号堀61  
個体番号堀62  
個体番号堀63  
個体番号堀64  
個体番号堀65  
個体番号堀66  
個体番号堀67  
個体番号堀68  
個体番号堀69  
個体番号堀70  
個体番号堀71  
2号堅穴住居の床面やカマドおよび覆土中、焼上43、炭化物52に分布している。
- 焼土43、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 焼土41、同43、炭化物19、炭化物マウンド、1号堅穴住居と炭化物58の間に主として分布している。その他3号堅穴住居の西側(09-18グリッド)約20mにも破片がみられる。もっとも離れていた破片間の距離は約80mである。
- 2号堅穴住居のカマド内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドに破片が分布している。
- 2号堅穴住居のカマド周辺に7点の破片が出土。5号堅穴住居のカマド煙道内の1点の破片、炭化物52からの破片と接合した。もっとも離れたもので約60mの距離がある。
- 2号堅穴住居の床面・カマド周辺、焼上43、炭化物52、炭化物マウンドに破片が分布している。
- 2号堅穴住居の床面・カマド周辺・煙道内、およびその周辺部、3号堅穴住居の覆土中、焼上43、炭化物30、炭化物52、炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 2号堅穴住居の床面および覆土中、焼上41、同43、炭化物52、炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 2号堅穴住居の床面およびその覆土中、焼土41、同43、炭化物52からの破片と接合した。
- 3号堅穴住居の床面およびその周辺部、5号堅穴住居の床面、4号土壙内、焼上22、兼132、炭化物16、炭化物52および炭化物マウンドのハリからの破片と接合した。

個体番号斐72	炭化物52から出土した。
個体番号斐73	4号土壙内と焼上24からの破片が接合した。
個体番号斐74	5号堅穴住居の床面および覆土中と焼上28などからの破片が接合した。
個体番号斐75	2号堅穴住居のカマド周辺、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
個体番号斐76	4号土壙内、焼土12、同18、炭化物14、同19、焼土27からの破片が接合した。
個体番号斐77	5号土壙内、焼上27、同29、炭化物28からの破片が接合した。
個体番号斐78	3号堅穴住居のカマド焚口から出土した。
個体番号斐79	5号土壙の東がわから南がわぞいと2号堅穴住居の南西がわ(16-22、グリッド)に分布した。
個体番号斐80	5号堅穴住居の覆土中および5号土壙の周辺部、1号土壙周辺の焼土・炭化物からの破片と接合した。
個体番号斐81	3号堅穴住居の覆土中から出土した。
個体番号斐82	3号堅穴住居の覆土中から出土した。
個体番号斐83	焼上24から出土した。
個体番号斐84	遺構外(31-16グリッド)から出土した。
個体番号斐85	2号堅穴住居の床面・カマド周辺、煙道内、焼土43、同49、同62、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
個体番号斐86	遺構外(20-13、20-15、21-16、22-18グリッド)から出土した。
個体番号斐87	2号堅穴住居の覆土中、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
個体番号斐88	炭化物52の周辺部から出土した。
個体番号斐89	焼土13や同18の周辺部からの破片が接合した。
個体番号斐90	炭化物マウンドと遺構外(21-22グリッド)からの破片が接合した。
個体番号斐91	遺構外(21-15、21-16、21-17グリッド)から出土した。
個体番号斐92	2号堅穴住居の床面と炭化物52からの破片が接合した。
個体番号斐93	2号堅穴住居のカマド周辺、焼土41、同43、炭化物4、同52からの破片が接合した。
個体番号斐94	炭化物52から出土した。
個体番号斐95	焼上43から出土した。
個体番号斐96	遺構外(21-18、21-19、22-18グリッド)から出土した。
個体番号斐97	遺構外(22-18、22-21グリッド)から出土した。
個体番号斐98	4号土壙内と焼上22からの破片が接合した。
個体番号斐99	炭化物マウンドから出土した。
個体番号斐100	遺構外(10-08グリッド)から出土した。
個体番号斐102	4号堅穴住居外の南西がわ、焼土49、同50、炭化物マウンドのへりからの破片が接合した。
個体番号斐103	5号堅穴住居の床面から出土した。
個体番号斐104	焼土24から出土した。
個体番号斐105	2号堅穴住居のカマド煙道内、3号土壙内、焼上43、炭化物マウンドなどからの破片が接合した。
個体番号斐106	炭化物52から出土した。
個体番号斐108	3号堅穴住居のカマド周辺や煙道内からの破片が接合した。

- 個体番号塗109 炭化物70から出土した。
- 個体番号塗110 炭化物70から出土した。
- 個体番号塗111 炭化物19と遺構外(10-17グリッド)から出土した。
- 個体番号塗112 炭化物52と遺構外(18-20グリッド)から出土した。
- 個体番号塗113 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号塗114 1号堅穴住居の南側(18-14グリッド)から出土した。
- 個体番号塗115 炭化物52と遺構外(12-07, 15-13, 15-16, 17-13, 18-15, 19-15グリッド)から出土した。
- 個体番号塗116 2号堅穴住居の覆土中, 焼土43, 炭化物52からの破片が接合した。
- 個体番号塗117 焼土・炭化物20・21周辺から出土した。
- 個体番号塗118 2号堅穴住居の床面・カマド周辺, 焼土41, 同43, 同47, 同60, 炭化物50, 同52, 炭化物マウンドからの破片が接合, 一方1号堅穴住居の南側(18-14グリッド)や4号堅穴住居の付近(10-09, 13-14グリッド), 3号堅穴住居と4号堅穴住居の間などにも破片が分布し, もっとも離れた距離は約60mである。
- 個体番号塗119 炭化物52と炭化物マウンドからの破片が接合した。
- 個体番号塗120 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号塗121 2号堅穴住居の北西側(19-18グリッド)から出土した。
- 個体番号塗122 遺構外(08-09グリッド)から出土した。
- 個体番号塗123 遺構外(21-17グリッド)から出土した。
- 個体番号塗124 遺構外(14-13グリッド)から出土した。
- 個体番号塗125 遺構外(16-13グリッド)から出土した。
- 個体番号塗126 遺構外(20-19, 22-18グリッド)から出土した。
- 個体番号塗127 2号堅穴住居の西側(17-20, 17-21グリッド)から出土した。
- 個体番号塗128 焼土43から出土した。
- 個体番号塗129 5号堅穴住居の床面から出土した。
- 個体番号塗130 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号塗131 炭化物52と遺構外(20-19グリッド)から出土した。
- 個体番号塗132 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号塗133 遺構外(22-15グリッド)から出土した。
- 個体番号塗134 遺構外(07-14グリッド)から出土した。
- 個体番号塗135 遺構外(07-09グリッド)から出土した。
- 個体番号塗137 炭化物19と遺構外(06-08, 07-05, 07-09グリッド)から出土した。
- 個体番号塗138 遺構外(10-11, 10-12グリッド)から出土した。
- 個体番号塗139 遺構外(05-10グリッド)から出土した。
- 個体番号塗140 遺構外(26-16グリッド)から出土した。
- 個体番号塗141 5号堅穴住居の床面と焼土27からの破片が接合した。
- 個体番号塗142 遺構外(11-07グリッド)から出土した。
- 個体番号塗143 遺構外(09-06グリッド)から出土した。
- 個体番号塗144 遺構外(12-21グリッド)から出土した。
- 個体番号塗145 炭化物70から出土した。
- 個体番号塗146 焼土43から出土した。
- 個体番号塗147 炭化物52から出土した。
- 個体番号塗148 焼土68から出土した。
- 個体番号塗149 1号土壤周辺の焼土・炭化物と遺構外(05-06, 09-07グリッド)から出

土した。

- 個体番号壺150 壺穴住居の覆土中から出土した。  
 個体番号壺151 炭化物70から出土した。  
 個体番号壺152 4号土壤内、炭化物14、同19と焼土24から出土した。  
 個体番号壺153 炭化物16と遺構外(4号堅穴住居の周辺部)から出土した。  
 個体番号壺154 遺構外(19-20、20-20、22-21グリッド)から出土した。  
 個体番号壺155 焼土64と遺構外(19-16、21-16グリッド)から出土した。  
 個体番号壺156 2号堅穴住居の床面と炭化物52、焼土59からの破片が接合した。  
 個体番号壺158 遺構外(09-07～09-08グリッド)から出土した。  
 個体番号壺159 炭化物19と焼土・炭化物20・21から出土した。  
 個体番号壺160 遺構外(05-09、05-10、05-11グリッド)から出土した。  
 個体番号壺161 焼土64、同67から出土した。  
 個体番号壺162 炭化物70から出土した。  
 個体番号壺163 5号堅穴住居覆土中、焼土22から出土した。  
 個体番号壺164 焼土37と遺構外(4号堅穴住居の周辺部)から出土した。  
 個体番号壺165 3号堅穴住居のカマド縦道内や覆土中、焼土24からの破片が接合した。  
 個体番号壺166 3号堅穴住居のカマド縦道内や覆土中、焼土24からの破片が接合した。  
 個体番号壺167 焼土・炭化物20・21から出土した。  
 個体番号壺168 遺構外(19-13グリッド)から出土した。  
 個体番号壺169 遺構外(21-16、21-17グリッド)から出土した。  
 個体番号壺171 遺構外(15-12グリッド)から出土した。  
 個体番号壺176 1号土壤周辺の焼土・炭化物からの破片が接合した。  
 個体番号壺177 焼土71から出土した。  
 個体番号壺178 遺構外(08-09、09-09グリッド)から出土した。  
 個体番号壺179 2号堅穴住居の覆土中、4号土壤内、焼土27、炭化物マウンドからの  
破片が接合した。  
 個体番号壺180 5号土壤内、焼土22、炭化物16からの破片が接合した。

### [3] 土師質土器その他

3号堅穴住居のカマド縦道内から破片が出土した。

### [4] 須恵器・「赤焼」土器（16個体のうち11個体について説明する）

- 個体番号須恵器1 炭化物4と遺構外(05-07、05-09、06-07グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器2 炭化物50と炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号須恵器3 焼土18と炭化物19から出土した。  
 個体番号須恵器4 炭化物16と遺構外(05-10グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器5 焼土・炭化物59と遺構外(21-17、22-18グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器6 焼土62と炭化物52の周辺から出土した。  
 個体番号須恵器7 炭化物マウンド、焼土43から出土した。  
 個体番号須恵器9 炭化物70から出土した。  
 個体番号須恵器10 6号土壤内と焼土11から出土した。  
 個体番号須恵器11 5号堅穴住居の床面と遺構外(09-05グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器12 遺構外(09-06、11-10、11-11、11-12グリッド)から出土した。

なお、須恵器類の個体識別が可能なものは、16個体である。その他破片などで帰属不明

なものは、28番まで番号を付して分布図に示してある。

### ③ 種類別に見た土器の特徴

#### ① 土師器(土師質土器)

环類、甕類およびその他の土器にわけて説明する。

##### ① 环類

ここで环類とした土器は、底部から口縁部にかけて大きな屈曲をもたず単純に外傾しながら立ち上がる器形のものをさす。このなかには、环、鉢、甕、皿などが含まれる。

环類として個体識別された土器は113個体。帰属不明の破片は1,139点ある。

##### ▶ 环類の形態と製作手法による分類

环類の製作にロクロによる調整があるかどうかによって二類にわけられる。

###### 1類：ロクロによる調整のみられない环類

A 一部に単数の横走沈線を施すもの

B 一部に横走沈線や段などを施さないもの

C 口縁部にそって横走沈線や段を施すもの

###### 2類：ロクロによる調整がみられる环類

A 一回転糸切り後、体部や底部に再調整を施すもの

B 一回転糸切り後、体部外面や底部に再調整を施さないもの

以下に、各類別にその特徴を述べる。

##### ▶ 1 A類

個体番号环19、個体番号环27の2個体が見られる。

法量は口径が14.4cm～14.8cm、底径が5.6cm～6.2cm、器高が6.4cm～7.4cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度である。

体部の形状は、内溝しながら外傾するもの（個体番号环19）と直線的に外傾するもの（個体番号环27）である。器面調整は、いずれも外面がハケ日調査の後ヘラミガキ、内面がヘラミガキ・黒色処理されている。

底部はいずれも平底である。

##### ▶ 1 B類

個体番号环6、個体番号环12、個体番号环13、個体番号环14、個体番号环28、個体番号环42、個体番号环57、個体番号环58、個体番号环59、個体番号环64、個体番号环65、個体番号环113の12個体がみられる。そのうち、計測が可能なものは個体番号环6～同57までの7個体である。

法量は口径が10.9cm～14.8cm、底径が4.7cm～5.8cm、器高が5.2cm～8.0cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度～36度である。

そのうち、a = 口径が10.9cm～12cmまでの比較的小型のもの（個体番号环6、同12、同113）が3個体みられるほか、b = 口径が14cm～16cmまでの大型品である。

体部の形状は、I = 内溝しながら外傾するもの（個体番号环14、同42、同57、同59、同64、同65、同113）が7個体、II = 直線的に外傾するもの（個体番号环6、同12、同13、同28）が4個体みられ、Iが量的にうわさわる。

器面調整は、いずれも内外面ともにヘラミガキによって仕上げられ、内面は黒色処理が施される。しかし、ヘラミガキに先だってハケ日調査を施すもの（個体番号环12、同13、同14、同59）4個体や外面の口縁部にリコナデ調整を施すもの（個体番号环13、同57）などもみられる。

底部はいずれも平底であるが、外側へ張り出すもの（個体番号環6）もみられる。

#### ▶ 1 C類

個体番号環4、個体番号環8、個体番号環11、個体番号環15、個体番号環16、個体番号環21、個体番号環35、個体番号環39、個体番号環41、個体番号環45、個体番号環47、個体番号環50、個体番号環62、個体番号環71、個体番号環73、個体番号環75、個体番号環76、個体番号環107、個体番号環109、個体番号環110の20個体がみられる。そのうち、計測が可能なものは個体番号環4～同50までの12個体である。

法量は口径が13.8cm～17.0cm、底径が5.3cm～7.4cm、器高が6.1cm～7.7cmで、口高比が1.9～2.5となり、外傾度はいずれも29度～39度である。

そのうち、a = 口径が13.8cm～14cmまでの比較的小型のもの（個体番号環4、同16）の2個体みられるほかは、b = 口径が14.8cm（個体番号環47）～17cmまでの大型品である。

体部の形状は、II = 直線的に外傾するもの（個体番号環21）が1個体みられるほかはすべてI = 内湾しながら外傾するものである。

器面調整は、いずれも内外面とともにヘラミガキによって仕上げられるが、特に外面がヘラミガキに先立ってハケ目調整を施すもの（個体番号環11、同15、同21、同47、同50、同71、同73、同76）8個体や内外面にハケ目がみられるもの（個体番号環8）1個体、外面の口縁部にヨコナデ調整を施すもの（個体番号環35）などもみられる。内面は1個体（個体番号環41）以外黒色処理が施される。

底部は垂直あるいは、外側へ張り出すもの（個体番号環4、同16、同39、同41）4個体のほか部からスムーズに移行するもので古められている。

以上のほかに、破片や底部であるため形態が不明なものが11個体分（個体番号環52、同80、同87、同91、同92、同97、同98、同100、同103、同105、同106）みられる。

#### ▶ 2 A類

個体番号環1、個体番号環3、個体番号環20、個体番号環25、個体番号環30、個体番号環31、個体番号環33、個体番号環40、個体番号環60、個体番号環63、個体番号環65、個体番号環70、個体番号環90の13個体みられる。そのうち、計測が可能なものは個体番号環1～同40までの9個体である。

法量は口径が13.5cm～16.6cm、底径が5.8cm～7.4cm、器高が6.2cm～7.9cmで、口高比が2.0～2.4となり、外傾度は23度～36度である。

そのうち、a = 口径が13.5cm～14.5cmまでの比較的小型のもの（個体番号環1、同33、同65）が3個体みられるほかは、b = 口径が14.8cm～16.6cmまでの大型品である。

体部の形状は、II = 直線的に外傾するもの（個体番号環20）が1個体とIII～内湾しながら外傾し口縁部で若干外反するもの（個体番号環1）が1個体みられるほかは、すべてI = 内湾しながら外傾するものである。

器面調整は、多くのものについて底部外面以外クロクロ調整後ヘラミガキによって仕上げられ、内面を黒色処理している。しかし、特に部外面が部分的にヨコナデ（個体番号環1）あるいは底部の外面がケズリ調整されるもの（個体番号環20、同60）、部外面についてヘラミガキ調整されるもの（個体番号環40）がみられる。

底部は、楊底（個体番号環1、同3、同20、同30、同33、同40）が6個体、平底（個体番号環25、同31）が2個体で、回転糸切りの痕跡をとどめているが、ヘラミガキ調整によってそれが消失しているもの（個体番号環40）が1個体みられる。

#### ▶ 2 B類

個体番号環2、個体番号環5、個体番号環7、個体番号環9、個体番号環10、個体番号環17、個体番号環18、個体番号環22、個体番号環23、個体番号環24、個体番号環26、個体番号環29、個体番号環32、個体番号環34、個体番号環36、個体番号環37、個体番号環38、

個体番号环43, 個体番号环44, 個体番号环46, 個体番号环48, 個体番号环49, 個体番号环51, 個体番号环53, 個体番号环54, 個体番号环55, 個体番号环56の27個体がみられる。そのうち, 計測が可能なものは個体番号环48以外の26個体である。

法量は口径が14.2cm(個体番号环5)～17.5(個体番号环17)cm, 底径が5.8cm(個体番号环17, 同23)～7.2cm(個体番号环29), 高さが6.2cm(個体番号环49)～7.9cm(個体番号环29)で, 口高比が2.0～2.6となり, 外傾度は, ①21度～30度に16個体, ②31度～41度に8個体みられ, ①が②の2倍である。ちなみに, 「夫」文字環(個体番号环17)は①に含まれる。

体部の形状は, I=内窓しながら外傾するもの(個体番号环9, 同10, 同18, 同24, 同26, 同34, 同36, 同43, 同44, 同46, 同49, 同51, 同53, 同54, 同55)が15個体, III=内窓しながら外傾し口縁部で若干外反するもの(個体番号环2, 同5, 同7, 同17, 同22, 同23, 同29, 同32, 同37, 同38, 同56)が11個体みられる。

器面調整は内面にかぎられ, 13個体(個体番号环5, 同9, 同22, 同23, 同24, 同32, 同34, 同36, 同37, 同43, 同44, 同48, 同55)がヨコ・ナナメのヘラミガキによって調整されており, 全個体について黒色処理されている。

底部は体部からスムーズに移行するもの(個体番号环18, 同32, 同37)が3個体と少なく, 大部分のものは低い台状を呈する。

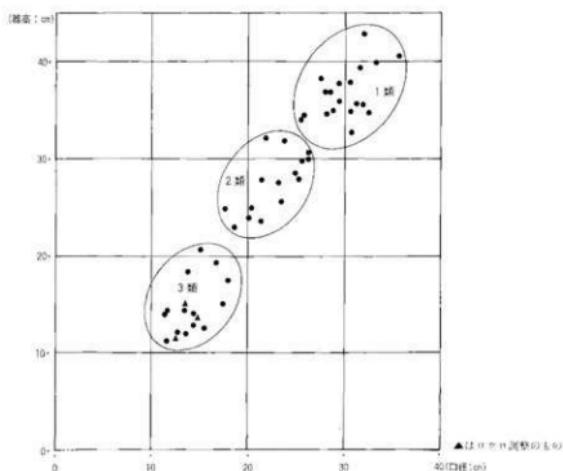
以上のほかに, 2類に含められるが形態の不明なものが21個体分(個体番号环61, 同66, 同67, 同68, 同69, 同77, 同78, 同81, 同82, 同83, 同84, 同85, 同86, 同88, 同89, 同93, 同94, 同95, 同96, 同99, 同100)みられる。

## ② 壺類

ここで壺類とした土器は, 最大径が口縁部にあり胴部が長胴形ないし胴張形をなし, 頭でしまり口縁部がひらく器形で, 頭部の径が最大径の約2分の1以上のものをさす。

壺類として個体識別された土器は183個体, 滑膚不明の破片は5,562点ある。

PL. II-12 壺の形態別分布



甕類の製作過程でロクロ調整をうけたものはわずかに4個体（個体番号甕8、同14、同88、同90）で全体の2.2%にすぎず、他は粘土紐の積み上げによるもので占められる。

#### ▶ 甕類の形態分類

甕類の口径と器高との相関関係にもとづくなら、三類にわけられる。

計測が可能なものは51個体で、全体の27.9%である。さらにこれらのデータをもとに底部以外の個体で類型化できたものが131個体、それができなかつたものが52個体で、全体の約7割が類型化できたことになる。

1類：口径が25.5cm～36.0cm、器高が33.0cm～44.0cmにおさまる甕

2類：口径が17.5cm～26.0cm、器高が23.0cm～32.0cm代におさまる甕

3類：口径が10.0cm弱～18.0cm弱、器高が8.0cm代～21.0cm弱におさまる甕

以下に、各類別にその特徴を述べる。

#### ▶ 1類

計測が可能なものはつぎの19個体である。

個体番号甕1、個体番号甕2、個体番号甕24、個体番号甕27、個体番号甕28、個体番号甕29、個体番号甕30、個体番号甕31、個体番号甕32、個体番号甕33、個体番号甕36、個体番号甕39、個体番号甕40、個体番号甕41、個体番号甕64、個体番号甕69、個体番号甕70、個体番号甕76、個体番号甕77。

これらの甕類は、口径が27.0cm～33.0cm、器高が35.0cm～39.0cmの範囲内に12個体（個体番号甕27、同28、同29、同30、同31、同32、同33、同40、同64、同69、同70、同77）ともっとも多くみられ、それより小さいものが3個体（個体番号甕24、同36、同76）、大きいものが4個体（個体番号甕1、同2、同39、同41）みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが44個体分（個体番号甕34、同35、同37、同38、同42、同43、同44、同45、同46、同60、同62、同63、同65、同66、同67、同68、同71、同72、同73、同74、同75、同78、同79、同81、同85、同86、同102、同104、同112、同113、同116、同134、同149、同163、同166、同167、同176、同179、同186、同190、同191、同192、同193、同194）あり、1類の甕の総数は63個体である。

甕1類の製作過程でロクロ調整をうけたものはみられず、すべて幅1cm～1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

#### ▶ 器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は、31個体である。

1 頸部が短く（器高の約10分の1強）、外反しながら口縁部へ移行するもの

個体番号甕1、同27、同32、同33、同34、同35、同37、同38、同40、同41、同66、同70、同77、同81の14個体である。

2 頸部が直立あるいは内傾（器高の約5分の1弱）し、大きく外反しながら口縁部へ移行するもの

個体番号甕2、同24、同28、同29、同30、同31、同36、同39、同62、同64、同68、同69、同71、同76、同79、同85、同179の17個体である。

#### ▶ 器面調整

観察が可能なものは、54個体である。

器面調整は部位によって異なるが、口縁部はヨコナデ（個体番号甕1、同2など）、頸部、胴部はハケ目、ヘラミガキ、あるいはその組み合わせである。

器外表面ともにハケ目調整が施されるものは、24個体（個体番号甕1、同28、同32、同40、同43、同44、同45、同46、同62、同65、同66、同67、同70、同73、同75、同76、同81、同86、同102、同104、同112、同179、同192、同193）ともっとも多い。

器外表面ともにヘラミガキ調整が施されるものは、3個体（個体番号甕27、同30、同31）

と少ない。

器外側がハケ日調整で、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、4個体（個体番号斐2、同72、同149、同163）みられる。

器外側がハケ日調整で、内面にヘラミモキ調整に先だってハケ日調整が施されるものは、6個体（個体番号斐29、同33、同35、同42、同64、同167）みられる。

器外側がヘラミガキ調整に先だってハケ日調整が施され、内面にハケ日調整が施されるものは、4個体（個体番号斐69、同74、同77、同85）みられる。

器外側がヘラミガキ調整に先だってハケ日調整が施され、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、2個体（個体番号斐24、同39）みられる。

器内外ともにヘラミガキ調整に先だってハケ日調整が施されるものは、8個体（個体番号斐24、同36、同37、同38、同60、同68、同79、同194）みられる。

器外側がヘラミガキ調整で、内面にハケ日調整が施されるものは、1個体（個体番号斐63）みられる。

器外側がヘラミガキ調整で、内面にヘラミガキ調整に先だってハケ日調整が施されるものは、1個体（個体番号斐41）みられる。

#### ▶ 器面調整のハケ日やヘラミガキの方向

器外側では頸部、胴部は縦位もしくは斜位、頭部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に、器内側では口縁部から頸部は横位もしくは斜位、胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶ 文様

文様が施される部位は、口縁部から頭部にかけてである。

観察が可能な個体は47個体分であり、そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって、斐1類では53.2%に文様がみられたことになる。

#### ▶ 文様の種類

1 横走沈線文—22個体

a 1～2本の横走沈線文—5個体（個体番号斐27、同62、同76、同77、同163）

b 多重横走沈線文—17個体（例えば個体番号斐2）

2 多重横走沈線文、縦位沈線文、鏽齒文、刻み目文の組み合わせ文—2個体（個体番号斐102、同186）

3 斜行沈線文の組み合わせ—1個体（個体番号斐36）

#### ▶ 文様のある器形

斐1類で文様のある器形は、「頸部器形2」が大部分である、「頸部器形1」では2個体にしかみることができず、文様の種類も1-a（個体番号斐27）であり、文様の部位も頸部と胴部との境日に付される（個体番号斐77）。

#### ▶ 2類

計測が可能なものはつきの15個体である。

個体番号斐9、個体番号斐16、個体番号斐17、個体番号斐18、個体番号斐19、個体番号斐20、個体番号斐21、個体番号斐22、個体番号斐23、個体番号斐25、個体番号斐26、個体番号斐57、個体番号斐118、個体番号斐152、個体番号斐154。

これらの斐類は、口径が17.0cm～21.0cm、器高が23.0cm～25.0cmの範囲内に5個体（個体番号斐16、同18、同57、同152、同154）、口径が21.0cm～25.0cm、器高が26.0cm～29.0cmの範囲内に5個体（個体番号斐9、同17、同19、同20、同21）、口径が21.0cm～26.0cm、器高が30.0cm～32.0cmの範囲内に5個体（個体番号斐22、同23、同25、同26、同118）みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが22個体分（個体番号斐47、同48、同49、同

50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同80, 同82, 同89, 同93, 同95, 同96, 同97, 同108, 同137, 同150, 同164, 同181, 同182, 同189) であり, 2類の甕の總数は37個体である。

甕2類の製作過程でロクロ調整をうけたものはみられず, すべて幅1cm~1.5cmの粘土紐の積み上げによる, 粘土紐の接合状況は器内へと傾斜している。

#### ▶ 器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は, 24個体である。

1 頸部が短く(器高の約6分の1強), 外反しながら口縁部へ移行するものは, 3個体(個体番号甕26, 同47, 同182)である。

2 頸部が直立あるいは内傾(器高の約3分の1~4分の1)し, 大きく外反しながら口縁部へ移行するものは, 17個体(個体番号甕9同16, 同17, 同18, 同19, 同20, 同21, 同22, 同23, 同25, 同48, 同49, 同50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同82, 同118, 同152, 同154)である。

#### ▶ 器面調整

観察が可能なものは, 30個体である。

器面調整は部位によって異なるが, 口唇部はヨコナデ, 頸部・胴部はハケ目, ヘラミガキ, あるいはその組み合わせである。

器外面とともにハケ目調整が施されるものは, 8個体(個体番号甕9, 同17, 同19, 同21, 同49, 同80, 同82, 同152)である。

器外面とともにヘラミガキ調整が施されるものは, 14個体(個体番号甕18, 同20, 同22, 同23, 同25, 同26, 同50, 同58, 同59, 同89, 同93, 同96, 同154, 同164)ともっとも多い。

そのほか器外面がハケ目調整で, 内面にヘラミガキ調整(側体番号甕52, 同57, 同181)やヨコナデ(個体番号甕16)が施されるものなどもみられる。

#### ▶ 器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部, 胴部は縦位もしくは斜位, 頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に, 器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位, 胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶ 文様

文様が施される部位は, 口縁部から頸部にかけてがもっとも多い。観察が可能な個体は30個体分であり, そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって, 甕2類では約70%に文様がみられたことになる。

#### ▶ 文様の種類

1 横走沈線文—12個体

a 1~2本の横走沈線文—2個体(個体番号甕22, 同182)

b 多種横走沈線文—10個体(個体番号甕9, 同19, 同21, 同26, 同57, 同89, 同96, 同97, 同154, 同164)

2 多種横走沈線文, 縱・斜位沈線文, 錐文, 刺突文, 刻み文の組み合わせ文—13個体

a 頸部に1本の横走沈線文を施し, 口唇部に刻み目をつけるもの(個体番号甕47)

b 頸部に多重横走沈線文を施し, 口縁部と頸部・胴部の境(個体番号甕20)あるいは頸部に複数列の刺突文をつけるもの(個体番号甕48)

c 頸部に多重横走沈線文, 縱・斜位沈線文, 刺突文の組み合わせ文(個体番号甕17, 同50, 同52)を, あるいはさらに胴部上半に錐文(個体番号甕18, 同25)をつけるもの

d 頸部に多重横走沈線文, 斜位沈線文の組み合わせ文(個体番号甕59, 同118, 同120)

81) を、あるいは脛・脛部沈縫文の組み合わせ文（個体番号749）をつけるもの

e. 頸部多重横走沈縫文と鋸歯文を組み合わせたもの（個体番号189）

以上のように、型2類には約7割に文様が施文されていた。文様は口唇部から胸部上半に限られ、特に頸部を横走沈縫文で充満するという特色がみられた。

文様の種類には多重横走沈縫文を基調とし、縦・斜沈縫文、刺突文、刻み目文、鋸歯文などの組み合わせ文がみられた。

### ▶ 3類

計測が可能なものはつぎの17個体である。

個体番号73、個体番号74、個体番号75、個体番号76、個体番号77、個体番号78、個体番号79、個体番号10、個体番号11、個体番号12、個体番号13、個体番号14、個体番号15、個体番号88、個体番号153、個体番号155、個体番号156、個体番号169。

これらの型類は、口径が11.0cm～16.0cm、器高が11.0cm～15.0cmの範囲内に11個体（個体番号73、同4、同6、同7、同8、同11、同12、同13、同14、同88、同156）ともっとも多くみられ、それより小さいものが1個体（個体番号75）、大きいものが5個体（個体番号10、同15、同153、同155、同169）みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが14個体分（個体番号71、同83、同84、同87、同90、同91、同92、同94、同98、同99、同100、同117、同133、同180）あり、3類の型の総数は31個体である。

3類の製作過程でロクロ調整をうけたものは4個体（個体番号78、同14、同88、同90）で12.9%である、その他は幅1cm～1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

### ▶ 器形の特徴

まず、ロクロ調整の4個体にはつぎの2種類がみられる。

1. 頚部と胴部の境が不明瞭で、頸部が直立ないし外傾し、外反する口縁部へ移行するもの（個体番号74、同90）。

2. 頚部と胴部の境が不明瞭で、頸部が強くしめる、口縁部は短く外反する。最大洋は胴部にあり、大きく盛らむ（個体番号78、同88）。

つぎに、ロクロ調整のみられないものにはつぎの2種類がみられる。

1. 口縁部から頸部までの長さが、器高の約3分の1を占めるもので8個体（個体番号73、同4、同5、同10、同11、同12、同153、同156）ある。

2. 口縁部から頸部までの長さが、器高の約4分の1を占めるもので5個体（個体番号76、同13、同15、同155、同169）ある。

1. 2いずれも頸部は直立、内傾、外傾し口縁部へ大きく外反する。また、個体番号74は「ロクロー1」と形態が似ており、個体番号74は二重口縁部をもつ器形である。

### ▶ 器面調整

観察が可能なものは、29個体である。

まず、ロクロ調整の4個体について、風化の著しい個体番号78以外はつぎのようになる。

個体番号74は内面をヘラミガキ、個体番号88は内面をヘラケズリによって再調整している。しかし、個体番号90は再調整がみられない。

つぎに、ロクロ調整のみられないものについて、観察が可能なものは25個体である。

器面調整は部位によって異なるが、口縁部はヨコナデ、頸部・胴部はハケ目、ヘラミガキ、あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは、7個体（個体番号72、同13、同83、同

91、同92、同94、同98)、器外面とともにヘラミガキ調整が施されるものは、6個体(個体番号斐11、同51、同84、同87、同100、同180)とほぼ半々である。器外面がハケ目・ヘラミガキ調整で、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、3個体(個体番号斐4、同5、同155)みられる。器外面がハケ目調整で、内面にヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの(個体番号斐6、同10、同153、同156)と内外面がヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの(個体番号斐7、同15、同99、同169)はともに4個体みられる。また、器外面上にハケ目調整が施され、内面にヨコナデ調整が施されるものは、1個体(個体番号斐3)みられる。

以上のように、斐3類の器面調整の約7割が、器内外のいずれかにヘラミガキ調整を施す、という特徴を示している。

#### ▶ 器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部、副部は縦位もしくは斜位、頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に、器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位、胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶ 文様

文様が施される部位は、口縁部から頸部にかけてであるが、胴部に施文されるもの(個体番号斐13)が1個体だけみられる。

観察が可能な個体は23個体分であり、そのうち文様がみられたものは16個体である。したがって、斐3類では約65%に文様がみられたことになる。

#### ▶ 文様の種類

- 1 多重横走沈線文—5個体(個体番号斐4、同11、同98、同117、同155)
- 2 多重横走沈線文、綱・斜位沈線文、錐齒文、刺突文、刻み目文の組み合せ文—7個体
  - a 多重横走沈線文と口唇部斜位刻み目文の組み合せ文—2個体(個体番号斐3、同10)
  - b 多重横走沈線文と口唇部および頸部刻み目文の組み合せ文—2個体(個体番号斐15、同153)
  - c 多重横走沈線文、綱・斜位沈線文、刻み目文の組み合せ文—2個体(個体番号斐84、同99)
  - d 多重横走沈線文と口唇部刻み目文、錐齒文の組み合せ文—1個体(個体番号斐100)
- 3 斜行沈線文の組み合せ文—2個体(個体番号斐12、同51)
- 4 斜行沈線文と縦位沈線文の組み合せ文—1個体(個体番号斐156)
- 5 多重横走沈線文のほか副部に斜行沈線文が施文されるもの—1個体(個体番号斐13)

#### ③ その他の土器

大形の鉢型の土器が1個体、3号堅穴住居のカマド煙道底面から出土した。法量は口径が36.8cm、底径が8.5cm、器高が14.3cmで、器厚は1.4cmである。口高比が2.6、外傾度は57度である。

体部の形状は、直線的に外傾し口縁部に移行する。土器の成形は、幅約1.5cmの粘土紙の積み上げによる。器面調整は、器外面とともにヘラミガキ調整で、内面は黒色処理が施されている。

底部は厚く(1.5cm~2.3cm)、高台様の平底で、ヘラミガキ調整が施されている。

以上のような特徴をもつ土器は、人形の鉢とみられる一方で、蓋としての形態をもそなえている。

## [2] 須恵器・「赤焼」土器

壺類と瓶類において説明する。

### ① 壺類

須恵器の壺類は、7個体（個体番号須恵器1, 同3, 同6, 同7, 同10, 同11, 同12）出土した。

法量は口径が12.7cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器11）、底径が4.6cm（個体番号須恵器1）～6.4cm（個体番号須恵器7）、器高が4.6cm（個体番号須恵器1, 同10）～6.0cm前後で、口高比が2.1～2.8となり外傾度は22度～39度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器7, 同10, 同11）が3個体②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器1, 同6, 同12）が3個体③直線的に外傾するもの（個体番号須恵器3）が1個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器1, 同3, 同10）が3個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器6, 同7）が2個体とほぼ半々みられる。

「赤焼」土器としたものは、個体番号須恵器2, 同4, 同5, 同9の4個体分である。

法量は口径が11.4cm（個体番号須恵器4）～14.8cm（個体番号須恵器5）、底径が5.4cm（個体番号須恵器4）～6.2cm（個体番号須恵器5, 同9）、器高が3.7cm（個体番号須恵器9）～6.7cm（個体番号須恵器4）で、口高比が1.7～3.6となり外傾度は18度～29度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器4, 同9）が2個体、②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器2, 同15）が2個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器5, 同9）が2個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器4）が1個体みられる。

### ② 瓶

合計5個体分みられたが、個体番号須恵器8について述べる。

#### ▶出土状況

2号竪穴住居の覆上中、炭化物マウンド、炭化物50、同52、燒土57、同62、同64、同65とかなり広範囲に破片が分布している。

#### ▶土器の特徴

頸部が肩部との接合部分で破損している。

上器の肩部は比較的張りが強く、なだらかに底部へ下降する。底部幅は広く、頸部幅とほぼ同じで端が尖る低い高台が付されている。器厚は一定せず、肩部から胴部上半にかけて厚く（約1cm）、胴部下半から薄くなる（約3～4mm）。底部も中央部分が周辺部分より厚い。

この土器は、ロクロによる調整をうけているが、その後器外面は肩部から胴部下半にかけて縦・斜位右ドリのハケ目調整が施されている。また、器内面では頸部と肩部の接合部分に縦位の、底部付近に斜位のハケ目調整を施している。

なお、現存の法量は器高が20.7cm、頸部径が10.2cm、肩部径（最大径）20.8cm、底部径が10.8cmである。

## ④ 土器の小括

### ① 土器の出土および分布状況

#### ① 出土状況

第2文化層の土器類は、つぎのような出土状況を示した。

##### ① 土器の使用時あるいは意図的な配置を示しているもの

使用時にかなり近い状態を示している例に、1号堅穴住居のカマド焚口部に据え付けられた中形甕と支脚用小形甕がある。使用後の状態を示している例に、1号土壤内から倒立て出土した2個体の大形甕がある。

##### ② 土器の再利用の状態を示しているもの

###### A 土器自体を再利用したもの

1号堅穴住居のカマド焚口部に支脚として埋め込まれていた小形甕がある。

###### B 土器の破片が使用された例

###### a 煮沸用土器の固定材としての使用

1号堅穴住居のカマドの袖に埋め込まれ、煮沸用土器の固定材として使用されていた大形甕の破片

###### b カマドの補強材としての使用

3基の大形住居のカマドにみられた。なかでも2号堅穴住居で破損した甕の破片のうち1点だけが、他の複数の土器の破片とともに5号堅穴住居のカマド座卓底面に散かれていた。

###### c 土器片の敷設

1号土壤内で、土器片の敷設された面がみられた。

##### ③ 土器の廃棄の状態を示しているもの

第2文化層の土器は、ある個体の破片が堅穴住居内から、残りの破片が他の遺構あるいは遺構外から出土する場合が圧倒的に多い。この大半は堅穴住居内での破損品を、堅穴住居外に持ち出し廃棄したことを示すもので、堅穴住居内の破片は廃棄もれ、と考えられる。ここでは3基の大形住居を中心、土器片の分布をもとに廃棄の状況をみる。

#### ② 分布状況

##### ① 2号堅穴住居からは38個体分の土器（土師器壺7個分、土師器甕30個体分、須恵器瓶1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

###### a 3号土壤、焼土41、同43、同44、炭化物52、焼土59、同62など住居に近接した地域

###### b 炭化物マウンドを中心に焼土47、同49、炭化物50、焼土51、同60など住居の北東側で、かけ離れた地域

###### c 3号堅穴住居の庭地、炭化物4、焼土13、炭化物30、焼土34、同37など住居の東南側で、かけ離れた地域と炭化物70など北側で、かけ離れた地域

この3地域のうち、分布の上位はa、bにある。これは、2号堅穴住居の人々はもっぱら住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廃棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった、ということを物語っている。

##### ② 3号堅穴住居からは7個体分の土器（土師器壺1個体分、土師器甕5個体分、すり鉢形土器1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

- a 焼土22、同24など住居に近接した地域  
 b 1号上塙周辺の焼土・炭化物、4号上塙内など住居の東側で、かけ離れた地域  
 c 炭化物52、炭化物マウンドなど住居の北東側で、かけ離れた地域

この3地域のうち、分布の主体はa、bにある。これは、3号堅穴住居の人々はもっぱら住居の周りや東側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し、炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった、ということを物語っている。

- ③ 5号堅穴住居からは27個体分の土器（土師器坏10個体分、土師器甕17個体分、須恵器1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

- a 1号上塙内およびその周辺の焼土・炭化物、炭化物28など住居に接近した地域  
 b 5号上塙、6号上塙内など住居の南西側で、かけ離れた地域  
 c 炭化物52、炭化物マウンドなど住居の西側で、かけ離れた地域

この3地域のうち、分布の主体はa、bにある。これは、5号堅穴住居の人々はもっぱら住居の周りや南西側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し、炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった、ということを物語っている。

## ② 種類別出土量

識別された個体総数は、313個体である。

土師器（土師質土器）が297個体、須恵器が12個体、「赤焼」土器が4個体である。個体総数に占める割合では、土師器（土師質土器）が94.9%と圧倒的に多く、須恵器が3.8%、「赤焼」土器が1.3%と少ない。

## ③ 器種構成

上面器（土師質土器）には坏類、甕類、その他の上器の3種類がみられる。量的には坏類が113個体(38.0%)、甕類が183個体(61.6%)、その他が1個体(0.3%)となり、甕類が坏類を大きく上回っている。

須恵器には坏類と瓶類の2種類がみられる。出土量は少ないが、坏類が7個体、瓶類が5個体で坏類がやや多い。また、「赤焼」土器には坏類が4個体みられるだけである。

土器の形態別では、坏類が124個体(39.6%)、甕類が183個体(58.5%)、瓶類が5個体(1.6%)、その他が1個体(0.3%)となり、煮沸形態の土器（土師器あるいは土師質土器の甕類）が供膳形態の土器（土師器、須恵器、「赤焼」土器の坏類および須恵器の瓶）を上回っている。

PL. II-13 土器類種類別出土量(313個体)



PL. II-14 土器類形態別出土量(313個体)



#### [4] 土師器环類の特徴

個体総数113個体のうち、形態不明の7個体を除く106個体について、製作手法をもとに2種類にわけられた。

それによると、1類(ロクロによる調整のみられないもの)が45個体(42.5%), 2類(ロクロによる調整のみられるもの)が61個体(57.5%)で、2類が1類を上回る。

##### ① 环1類の特徴

幅1cm~1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形し、器内外面ともヘラミガキによって調整している。しかし、器面にはハケ目痕を残しているものもみられるから、ヘラミガキの前かあるいは並行してハケ目調整も行なわれたことをうかがわせる。内面は、ほとんどのものが黒色処理されている。

环1類は体部に単数の横走沈線文や段などがみられるもの(A類)が2個体(4.4%), 体部に横走沈線文や段などがみられないもの(B類)が12個体(26.7%), 口縁部に横走沈線文や段を施すもの(C類)が20個体(44.4%), 不明11個体(24.4%)となり、C類がもっとも多くみられ、以下B類、A類の順となる。

このように环1類は、C類を主体にしてB類が組み合わせとなり、非常に少ないがA類もみられるところに特徴がある。

##### ② 环2類の特徴

ロクロによる調整の後、体部や底部に再調整を施すもの(A類)が13個体(21.3%)と再調整を施さないもの(B類)が27個体(44.3%)で、21個体(34.4%)が不明である。観察が可能な個体では、B類がA類の2倍強にのぼる。

A、B類ともほとんどの土器は、ロクロによる調整以前に、幅1cm~1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形されている。

また観察が可能な資料にもとづけば、ロクロからの底部切り離しは、回転糸切り法による。

A類の器面再調整は、ヘラミガキが基調となっている。内面の黒色処理はA、B類ともほとんどの個体に施されている。

#### [5] 土師器(土師質)壺の特徴

個体総数183個体のうち、形態不明の52個体を除く131個体について、口径と器高との相関関係をもとに3種類にわけられた。

ここで仮りに1類を大形壺、2類を中形壺、3類を小形壺とするなら、大形壺が63個体(48.1%), 中形壺が37個体(28.2%), 小形壺が31個体(23.7%)となり、大形壺が全体のおよそ半分近くを占めている。

壺の製作過程でロクロ調整をうけたものは、小形壺の中に4個体(2.2%)みられただけで、それ以外のものは粘土紐の積み重ねによって形成されていた。粘土紐の幅は1cm~1.5cmで、その接合縫断面は器内面へ傾斜するのが一般的である。

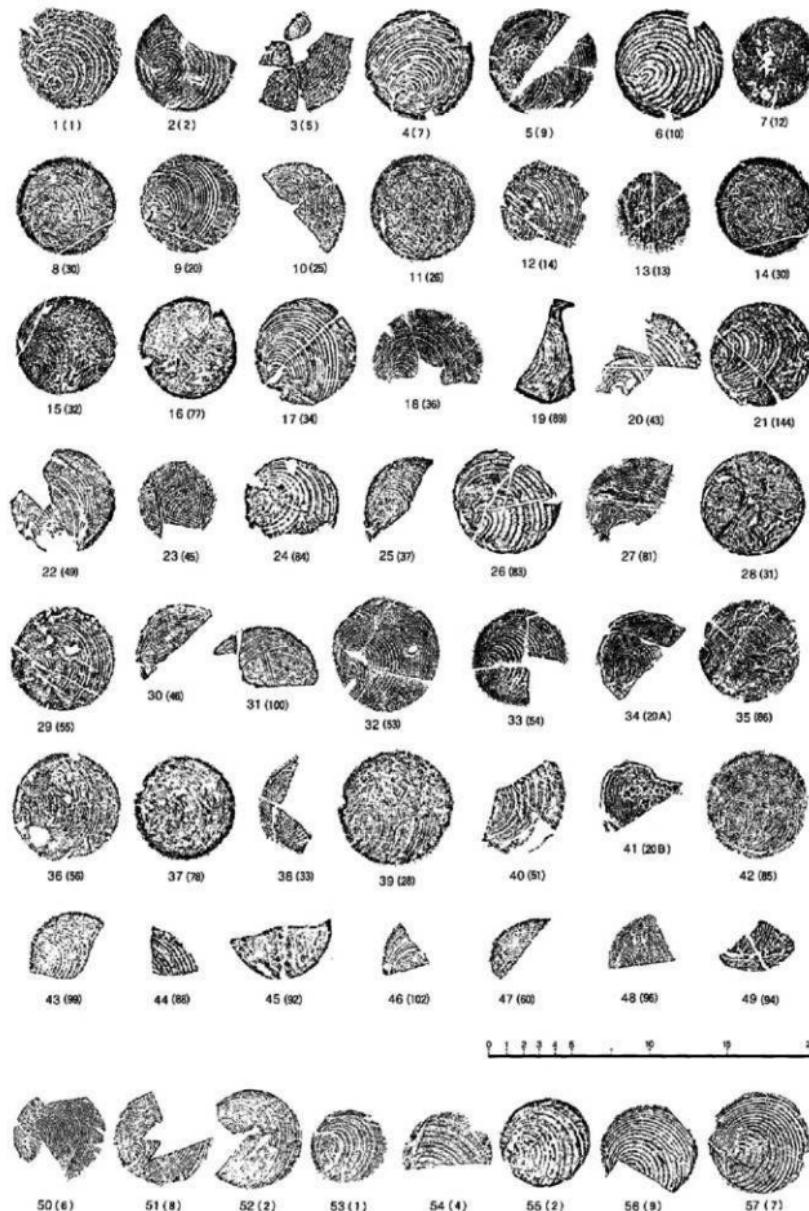
器形の特徴は、器高に対して頸部の占める割合と、頸部から口縁部までの形状によくあらわれている。

まず、頸部は各類とも長いものが多くみられるが、とくに大形壺よりも中形壺や小形壺にその傾向が大きい。

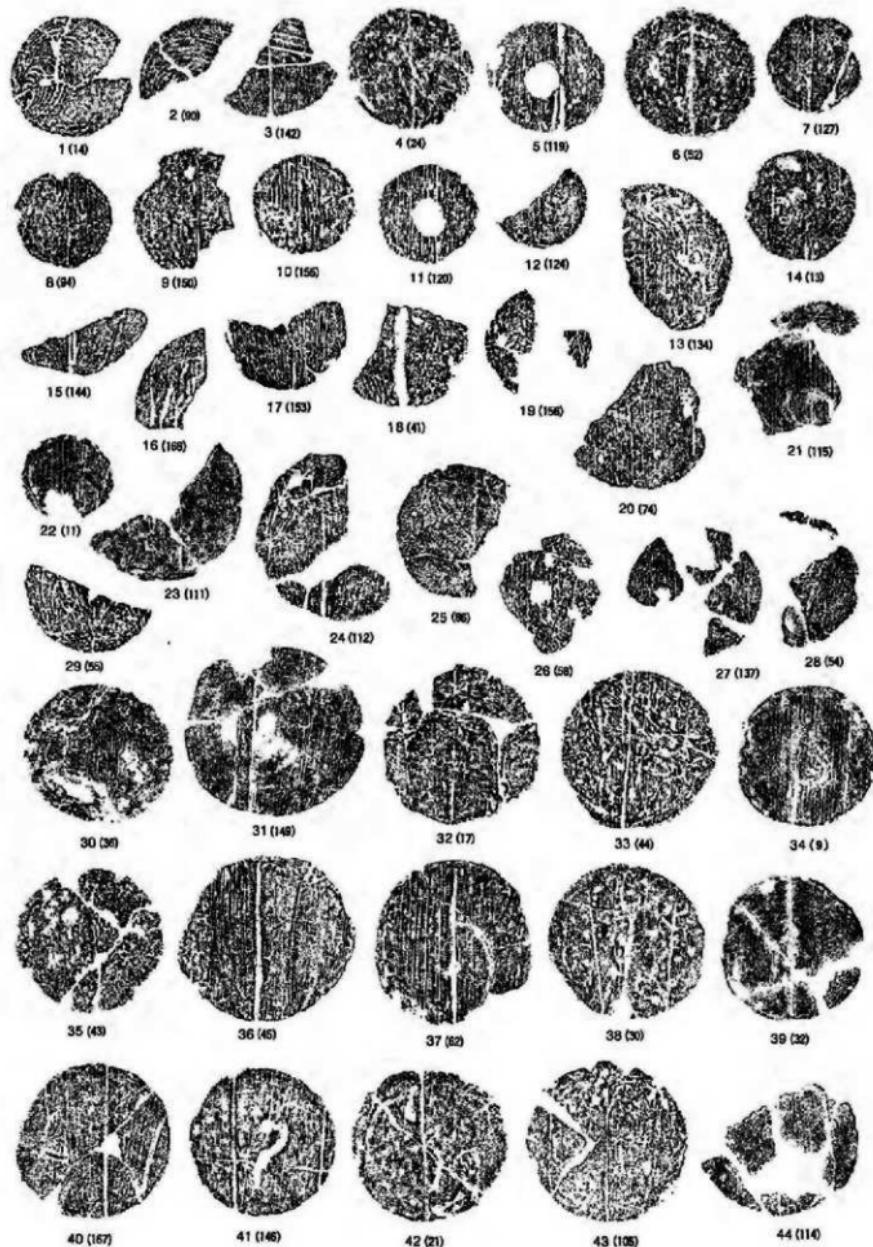
頸部から口縁部までの形状は、頸部が短い壺では外反し、頸部が長い壺では直立あるいは内傾し大きく外反しながら口縁部へ移行するものが多い、という傾向がうかがえる。

底部は平で、半数以上のものにササや木の葉の圧痕がみられる。

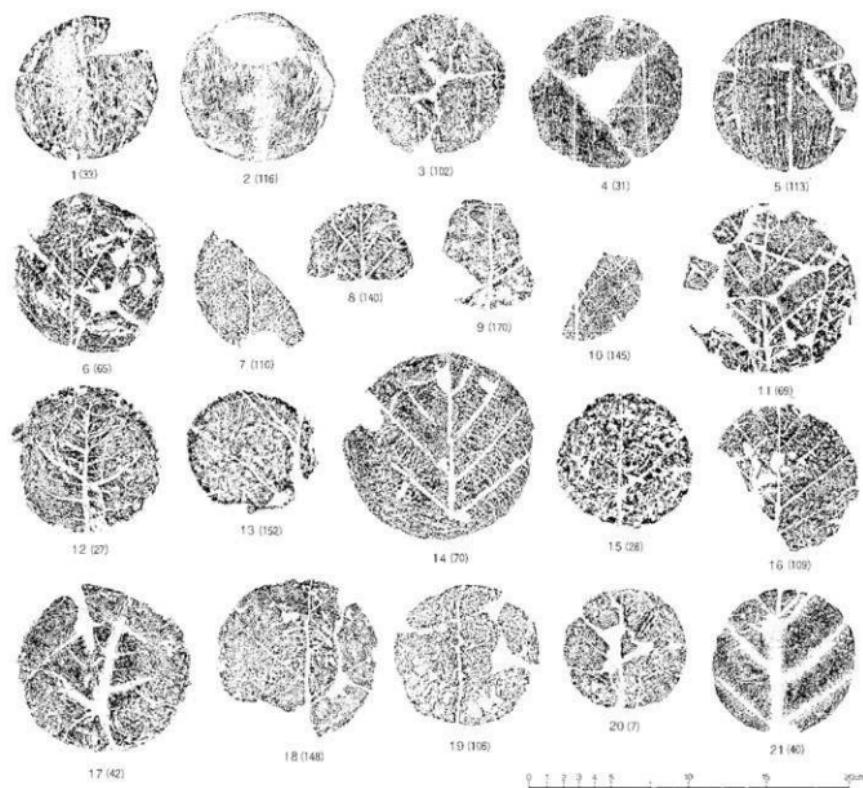
PL. II-15 土器器形(1)～(49), 順序器(50)～(57)の底面拓影〔( )内は個体番号を示す〕



PL. III-16 頭の底部拓影 ①【( ) 内番号は個体番号を示す】



PL. II-17 豚の底部折影 ② [()内番号は個体番号を示す]



器面調整は、口縁部がコナデ、頭部や胴部がハケ目かヘラミガキ、あるいはそれら併用という手法が一般的である。とくに胴部についてみると、大形瘻では器内外面ともにハケ目調整というものが24個体みられ、ヘラミガキ調整3個体を大きく上回っている。中形瘻ではヘラミガキ調整が14個体で、ハケ目調整8個体をやや上回っている。小形瘻ではヘラミガキ調整が6個体、ハケ目調整7個体と両手法の使いわけは接近しているが、残りの個体は両手法を併用している。

以上のように、大形瘻ではハケ目調整が主体を占めるのに対し、中形瘻や小形瘻ではヘラミガキ調整を軸にハケ目調整と併用するところに特徴がある。

文様が施された瘻は、観察が可能な100個体のうち66個体(66%)にみられた。そのうち、大形瘻が25個体(37.9%)、中形瘻が25個体(37.9%)、小形瘻が16個体(24.2%)となり、文様が施されるのは大形瘻と中形瘻に多くみられる。

施文の部位は口縁部から頭部にかけてであるが、胴部施文の例が小形瘻に1個体だけがみられた。

文様は沈線文、とりわけ多重横走沈線文が主体を占める。沈線文にはほかに1~2条の

横走沈線文、縦位沈線文、斜位沈線文、螺旋文などがある。

文様はほかに割み目文、刺突文などもみられる。

これらの文様は単独か、あるいは複数が組み合わせとなって施文されている。大形壺では沈線文、とりわけ多重横走沈線文が17個体にみられ他の文様と組み合わせとなるものは2個体にしかみられないのに対し、中形壺、小形壺では多重横走沈線文を基調に純彌が増加する傾向にある。

#### [6] 土器類、「赤焼」土器

土器類は7個体、瓶類5個体、「赤焼」土器壺類4個体については、第Ⅱ章3・3-(2)に示した。

そのうち、壺類のロクロからの底部切り離しには、回転糸切り法によることが製作上もっとも大きな特徴のひとつであること、を指摘するにとどめる。

#### [7] 土器類の構年的位置

他の遺物同様土器についても、遺跡での出土状況や共伴遺物等から、直接年代を知り得るような手掛りは発見されていない。

また、この種の土器を出土する北海道内の他の遺跡においても、直接年代を知り得るような手掛りが発見されたという情報もない。

北海道では土器類が東北地方からもたらされ、展開する時代を擦文時代といふ。その開始期の土器類は、壺類、甕類、壺類、盤などが組成をなしており、壺類の製作にロクロ調整がみられないことなどが大きな特徴となっている。このような土器の組成、製作技法などから判断して、擦文時代は西暦8世紀代に開始されたと考えられている。

それでは、サンショコトニ川遺跡第2文化層のように、土器類の壺類の製作にロクロ調整が施される土器群は擦文時代の中でのあたりに位置づけられるだろうか。

まず、擦文時代の遺跡で層位的上下関係あるいは遺構の切り合い等によって、開始期の土器類と新旧関係が把握された例を示そう。

千歳市末広遺跡では堅穴住居跡88基、土塙墓1基、製鐵遺構1基を含む擦文時代の集落が発掘調査された。そのうち、堅穴住居が直接切り合っていたり、新たに堅穴住居を構築する際に、隣接する古い堅穴内に堆土を投棄したりして、その新旧がわかった例が20数組あった(大谷・田村 1981, 1982 p. 28)。

そのなかで例えば、「I H 14」(旧)→「I H 15」(新)という遺構間の新旧関係は、堅穴住居の床面やカマドから出土したロクロ調整のみられない土器類の土器群がロクロ調整による土器類の土器群より時間的に先行するものである、という事実を示すものである。

末広遺跡でのこのような土器群の新旧関係が、擦文時代の土器層年の大筋を示しているとすれば、それは東北地方での土器類の変遷とつなぎのような理由で符合し、矛盾がない。

東北地方の土器類の変遷は、宮城県多賀城跡出土の土器類を中心とした最近の研究によればつなぎのような傾向を示す。

土器は土器類、須恵器、須恵系土器(「赤焼」土器)の3種類が主体を占め、土器類では製作過程でロクロを使用しない土器群からすべての壺類がロクロによって製作される土器群へ、須恵器では壺類のロクロから切り離しがヘラ切りを主体とするものから糸切りを主体とするものへ、須恵系土器では壺類が比較的大型の壺類だけで構成されていたものからこれに小型の壺類が加わる組成のものへ、と変遷したことが確かめられている。

さらに、土器類の壺類がすべてロクロによって製作される土器群(C群土器)は、西暦9世紀の初頭からであるという年代観が示されている(近藤ほか 1982 pp.388~393)。

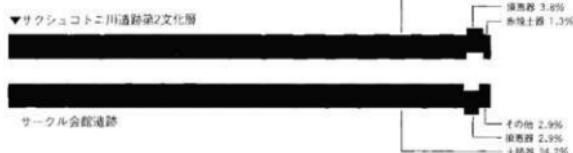
一方、擦文時代のロクロ調整のみられない土器類の土器群は3型式あるいはⅢ期に分

類されており、そのうちもっとも新しい土器群は西暦9世紀に入ってきたのである。とみられている(斎藤 1967、横山 1984)。したがって、北海道でロクロ調整の上部器环が使用されるのは、東北地方より1型式あるいは1期分遅れてからということになる。

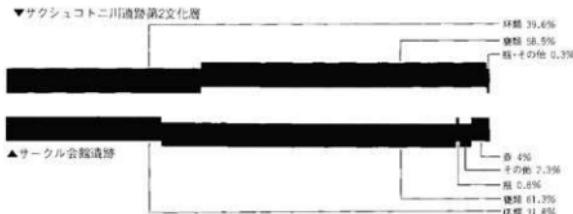
それでは、サクシコトニ川遺跡第2文化層の土器群とロクロ調整のみられない土器器環の土器群のうち、もっとも新しい土器群との関係はどうであるか、を北大構内のサークル会館遺跡(古崎・田中編 1981 P.P. 11~35)との比較を通してみよう。

サクシコトニ川、サークル会館両遺跡から出土した土器の種類および形態別比較グラフを示す。

PL. II-18 土器の種類別組成比



PL. II-19 土器の形態別組成比



それによると、種類別ではいずれの遺跡でも土器(土器質土器)が94~95%以上を占め、須恵器などより圧倒的に多いことが確かめられた。一方、サクシコトニ川遺跡の土器組成に「赤焼」土器がみられることが特徴的である。

また、形態別ではいずれの遺跡でも窓がおよそ60%を占め、煮沸形態の土器が供給形態の土器を上回る、という共通した特徴を示している。

主な器種別では、つぎのような特徴を示している。

#### ▶土器器環類

坏類の製作で、サクシコトニ川遺跡の土器はロクロ調整のみられるものとみられないものとが併存していたが、サークル会館遺跡の土器には全くロクロ調整がみられなかった。

ロクロ調整がみられない土器のうち、サークル会館遺跡で主体を占めるのは体部に横走沈線文や段を施す器形のものであるのに対し、この種の器形の土器はサクシコトニ川遺跡ではわずかに2個体(4.4%)しかみられなかった。また、体部に横走沈線文や段などを施さない器形のものはサークル会館遺跡ではわずかに2個体(18.2%)しかみられないのに対し、サクシコトニ川遺跡では22個体(26.7%)とやや多くを占めていた。

さらに、両遺跡の坏類のもっとも大きな違いに、サクシコトニ川遺跡の坏類の中にロクロ調整技術がみられるに加えて、ロクロ調整がみられないもので口縁部直下に横走沈線文や段を施す器形が出現することをあげることができる。

\* 課外活動共用施設遺跡の俗称である

器面調整はいずれもヘラミガキを基調とし、内面には黒色鉛墨を施す、という共通性がみられる。

#### ▶須恵器環類

サークル会館遺跡の環類(2.9%)、サクシュコトニ川遺跡の環類(3.9%)とも土器組成に占める割合が著しく低い、という共通した特徴を示している。

しかし、ロクロから底部を切り離す製作技法が、サークル会館遺跡の環類では回転ヘラ切り法であるのに対し、サクシュコトニ川遺跡の環類では回転糸切り法である、という大きな違いを見る事ができる。

#### ▶土師器(土師質上器)要類

サクシュコトニ川遺跡の要類は、大形甕が要類全体のおよそ半数を占めていたのに対し、サークル会館遺跡の要類は大形甕に相当するものがみられず、すべて中・小形甕類によって占められていたという違いがある。

製作はいずれも幅およそ1cm~1.5cmの粘土盤の積み重ね法による、という共通性がみられる。しかし、サクシュコトニ川遺跡の要類にわずか4個体(2.2%)だけだが、ロクロ調整のものが併出していることは注目される。

器面調整では顕著な違いはみられない、ただサークル会館遺跡の中・小形甕類にハケ目調整が多用される、という傾向がうかがえる。また、底外面の二次調整はサークル会館遺跡の甕の方がいきとどいているようである、という点は、底外面にササや木の葉状痕がみられるものが、サクシュコトニ川遺跡の甕類ではおおよそ半数のほどのに対し、サークル会館遺跡の甕類ではわずか4例しかない、という違いがあるからである。

文様がみられる甕は、サークル会館遺跡ではわずか5%強と少ないので対し、サクシュコトニ川遺跡ではおよそ12倍の66%にそれがみられる、という大きな違いがある。その結果、種類も沈線文と口縁部刻み日文しかみられないサークル会館遺跡の甕類に比べ、サクシュコトニ川遺跡の甕類では多重沈線文を基調に変化に富んだ文様構成がみられるようになるわけである。

以上のような比較にもとづけば、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群をサークル会館遺跡の土器群、つまりロクロ調整のみられない土師器環の土器群のうち、もっとも新しい土器群の直後に位置付けることに何ら矛盾はない、そして、ロクロ調整のみられない土師器環の土器群の段階を「擦文時代前期」とするなら、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群からを「擦文時代中期」とし、その開始を西暦9世紀中葉に求めることができよう。

また第Ⅳ章で述べたように、サクシュコトニ川遺跡での層位は、第2文化層が第1文化層より古い時期の所産である、という事実を示している。ただ、第2文化層のような土器群が直接第1文化層のような土器群へ至るのか、あるいはその間にいくつかの異なった土器群が介在するのかなどの問題は、現状では判断することができず、今後の課題として残る。

(横山英介)

#### 《引用文献(アルファベット順)》

- ▶大谷敏三・田村俊之 1981, 1982『末広遺跡における考古学的調査(上),(下)』『千歳市文化財調査報告書』, 編・千歳市教育委員会
- ▶斎藤栄 1967『擦文文化初頭の問題』『古代文化』第19巻第5号 pp. 77~97
- ▶進藤秋輝ほか 1982『多賀城跡一宮跡本文掘一』宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所
- ▶横山英介 1984『北海道におけるロクロ使用以前の土師器—擦文時代前期の設定—』『考古学雑誌』第70巻第1号 pp. 52~75
- ▶吉崎昌一・岡田淳子編『1981北大構内の遺跡1』北海道大学

## VI-4 [土製品類]

土製品類には、支脚、フイゴの羽口、紡錘車、玉などがみられた。

### ① 支脚

总数は7個体で、完形品は1個体（個体番号支脚1）である。

#### ▶分布

- 個体番号支脚1 5号堅穴住居の床面(10-05[21]グリッド)と3号堅穴住居の覆土中(10-13グリッド)から出土した。
- 個体番号支脚2 5号堅穴住居の床面、1号土壤内、6号土壤内に破片が分布する。これは、5号堅穴住居で使用、破損したものの破片の一部を、個体番号要40などの破片とともに1号土壤の中に散設さらに他の破片を6号土壤の③層に廻棄したものである。
- 個体番号支脚3 燃土43に分布する。これは燃土43のピット内に固定して使用、破損したものである。
- 個体番号支脚4 5号堅穴住居の床面と1号土壤周辺の燃土・炭化物に破片が分布する。これは5号堅穴住居内で破損したものを1号土壤周辺の燃土・炭化物に廻棄したこと意味している。
- 個体番号支脚5 燃土22(08-11グリッド)から破片が出た。
- 個体番号支脚6 2号堅穴住居のカマド焚口と炭化物52に破片がみられた。これは2号堅穴住居のカマド焚口に固定されて使用、破損後破片が炭化物52へ廻棄されたものである。
- 個体番号支脚7 燃土65(26-15グリッド)から破片が出土した。

#### ▶用途

例として、燃土43でピット（個体番号支脚3）に、あるいは2号堅穴住居のカマド焚口（個体番号支脚6）に支脚が埋め込まれていたことをあげることができる。

#### ▶形態・製作

円筒状で1対の透しが設けられ、天井が粘土板で封じられるもの（個体番号支脚1、同2、同4、同5、同6）が5点、天井が封じられないもの（個体番号支脚3、同7）が2点みられる。大きさは、最も大きいもの（個体番号支脚2）で器高が16.7cm、天井径8.2cm、脚間が11.6cmである。透しの高さは、器高の2／3弱のもの（個体番号支脚1、同4、同5、同6）と、1／3弱と小さいもの（個体番号支脚2、同3）との2種がある。製作は、いずれも幅1.5cm～2cm弱の粘土紐の積み上げによる。粘土紐の重なりは、器外側へ傾斜する。器面の整形は内面に明瞭に残されており、横位のハケ目調整である。

#### 小括

a. 形は円筒形で天井板のあるものとないものの2種類があり、いずれも対になる透しが切りこまれる。

b 製作は、幅1.5～2cmの粘土紙を7～8段を積み上げたものである。器面はハケ目調整で、特に内面に顕著に残っている。

c 出土状況で支脚の用途を示すものは2個所でみられた（個体番号支脚3、同6）。それらはいずれも地面を掘り込んで固定（その場合支脚6によると、透しは焚口一煙道を筋ぶ線とおよそ90度の向きを示している）し、煮沸用の器台として用いられていたことを示している。そのため二次的に過熱され、破損したものが多く、他の遺物とともに魔棄の場から出土した。

## ② 羽口

土質質で円筒状をなすもので、2点出土した。いずれも破損品である。

**個体番号羽口1** 先端部の小破片、直径6.0cm、孔の径は約4cmである。先端は強い火熱をうけて脆く、黄赤色に変色している。製作法や器面調査不明である。出土位置は、5号堅穴住居の覆土中（10-05[12]グリッド）で、小破片が接合した。

**個体番号羽口2** 先端部の破片、直径は約8cm、孔の径約5cmで大型品である。この部分の破片には二次的に火熱されたようすがみられない。器面は外面が黒、内部のナデ調整が施されている。口唇は器内外面にヨコナデ調整がみられる。孔内面は縦の条痕がみられ、芯に粘土を巻きつけ、ナデ調整で成形し、芯を引き抜いて焼成したことを示している。

出土位置は、5号堅穴住居の覆土中（10-05[02, 03]グリッド）である。

## ③ 紡錘車

出土総数は、14点で完成品は3点（個体番号紡錘車2、同3、同4）である。

### ▶出土状況

- ① 住居に伴うもの—2点（個体番号紡錘車3、4）
- ② 土壇に伴うもの—1点（個体番号紡錘車2）
- ③ 炭化物マウンドと焼土43に破片がまとまるもの—1点（個体番号紡錘車9）
- ④ 炭化物52—2点（個体番号紡錘車6、同10）、炭化物マウンド—3点（個体番号紡錘車8、同9、同13）
- ⑤ 造構外出土—6点（個体番号紡錘車1、同5、同7、同11、同12、同14）

### ▶形態

一面が平坦で、他面は周縁部以外へこむ、いわゆる紡錘形である。中央には芯棒を通す小孔（焼成前）がみられる。

### ▶大きさ・重さ

完形品3点にもとづけば、大きさは6.6～5cm（最大径）、厚さ2.4～1.5cmで2cm前後のものが多い。重さは、44g～100gである。

### ▶整形・文様

器面は表裏、側面ともにヘラミガキによって整形されている。文様は2点（個体番号紡

鍾車 6は放射状文、個体番号鍾車 8は個縁に锯齒状文)にみられる。

#### ④ 土製玉

ここでいう土製玉とは、土師質で円柱状をなし、軸方向に貫通孔を有するものである。17点出土しており、14点が完形品である。

#### ▶出土状況

- ① 炭化物マウンドから出土したものは15点(個体番号玉1, 同2, 同3, 同4, 同5, 同6, 同7, 同8, 同9, 同10, 同11, 同14, 同15, 同16, 同17)
- ② 炭化物50から出土したもの 1点(個体番号玉12)
- ③ 炭化物52から出土したもの 1点(個体番号玉13)

以上のように、炭化物マウンドでの在り方は、小マウンドA, B双方から土器片などと共に出土した。

#### ▶形態・大きさなど

完形品の形態は、A: 截断面が側辺に膨らみをもち、方形に近いもの(個体番号玉1, 同7, 同8, 同9, 同10, 同12, 同13, 同15, 同16, 同17)が10点、B: 円形に近いもの(個体番号玉2, 同3, 同4, 同5, 同6)が5点、C: 長方形に近いもの(個体番号玉11)が1点で、Aが多い。

Tab. IV 6 土製玉計測表

No.	形	最大径(cm)	高さ(cm)	貫通孔直径(cm)
1	A	1.4	1.0	0.4
2	B	1.6	1.5	0.4
3	B	1.0	0.9	0.2
4	B	0.9	0.7	0.2
5	B	1.1	0.9	0.2
6	B	1.1	1.0	0.2
7	A	1.0	1.0	0.2
8	A	1.0	0.8	0.2
9	A	0.9	0.7	0.2
10	A	1.0	0.8	0.2
11	C	1.1	1.1	0.3
12	A	0.9	0.8	0.2
13	A	1.5	1.1	0.4
14	A	0.9	0.7	0.2
15	A	1.3	1.0	0.4
16	A	1.0	0.9	0.2
17	A	1.0	0.8	0.3

大きさは、最大径が0.9~1.6cm、高さが0.7~1.5cmである。

形態との関係をみると、Aでは、0.9~1.0cm、Bでは0.9~1.1cmにまとまる。

貫通孔の直径は、0.2cmが多く、他に0.3cmと0.4cmがそれぞれ2点と4点みられる。

(横山英介)

## VI-5 [石器・石製品および礫]

### ① 石器・石製品

#### ▶種類と出土点数

石器・石製品の総数は77点である。石器は、石錐、スクレイバー、ビエス・エスキュー、剝片・碎片と石核が72点(94.7%)、磨製石斧、たたき石、石製品が5点(5.3%)で、いわゆる剝片石器の類が石核石器を大きくうわまわっている。

#### ▶出土状況

13個所の遺構から出土した。堅穴住居では2号、5号堅穴住居の2箇所から、土壙では4号土壙内から出土。残りは炭化物マウンドをはじめとする炭化物、焼上遺構からである。遺構外では、2号堅穴住居や炭化物52などの周辺部に多い。

#### ▶種類別の特徴

- ① 石錐：07-13[11]グリッドから出土。貞岩製である。1.9cm × 1.4cm × 0.5cm。
- ② スクレイバー：2号、5号堅穴住居、炭化物マウンド、炭化物16、焼土43からそれぞれ1点、炭化物52から5点出土。残りの7点は遺構外から出土した。すべて黒曜石製で、剝片のエッジに細かな二次加工を施している。

Tab. VI-7 石器・石製品種類別出土点数

出土地点	石錐	スクレイバー	ビエス・エスキュー	剝片・碎片	石核	磨製石斧	たたき石	石製品	合計
2号堅穴住居	—	1	—	2	1	—	—	—	4
5号堅穴住居	—	1	—	—	—	—	1	—	2
4号土壙	—	—	—	2	—	—	—	—	2
炭化物マウンド	—	1	—	2	—	—	—	—	3
炭化物16	—	1	—	—	—	—	—	—	1
炭化物20	—	—	—	1	—	—	—	—	1
炭化物27	—	—	—	—	1	—	—	—	1
炭化物28	—	—	—	2	—	—	—	—	2
焼土43	—	1	—	3	—	—	—	—	4
炭化物52	—	5	—	10	—	—	—	1	16
焼土55	—	—	—	1	—	—	—	—	1
炭化物58	—	—	—	3	—	—	—	—	3
炭化物70	—	—	—	—	1	—	—	—	1
小計	—	10	—	26	3	—	1	1	41
遺構外部	1	7	2	22	0	2	0	1	35
合計	1	17	2	48	3	2	1	2	76

注※ フローテーションにより1箇検出

- ③ ビエス・エスキュー：2点出土しており、いずれも遺構外である。もっとも大きなもの（図示のもの）で2.9cm × 1.9cm × 1.1cmである。黒曜石製。
- ④ 剥片・碎片：48点出土した。すべて黒曜石製である。剥片の大きさは最大で3cm前後、最小で2mm前後である。剥片の形状は絶長、幅広、梯形などいわゆる不定形のものである。また、剥片の約6割には使用による細かな刃こぼれがみられる。
- ⑤ 石核：2号堅穴住居、炭化物27（破損品が接合して1個体になる）、炭化物70から

それぞれ 1 点出土した。

石核の技術的な特徴のひとつに打面の軸位がほとんど行なわれないことがあげられる。黒曜石製。

⑥ 磨製石斧： 2 点出土した。

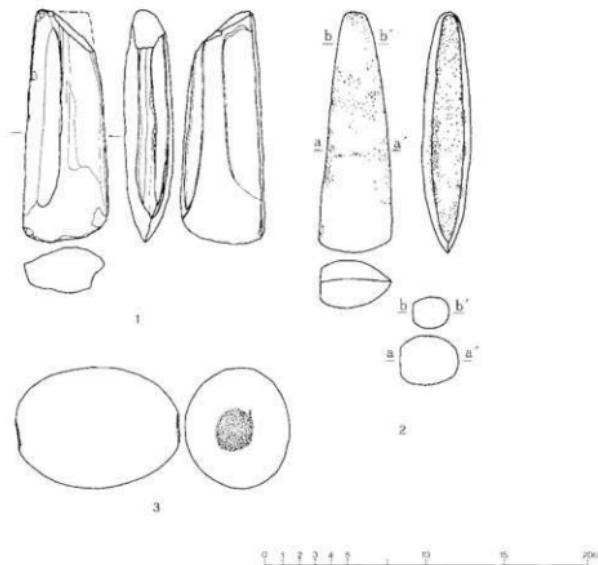
1：緑泥岩製擦り切り磨製石斧、出土位置は 16-17[01] グリッドで焼土 43 のスキニに混じて出土、3 号土壙にも近接している。基部の一部が破損している。両刃で、一方の刃部に使用による刃こぼれがみられる。14.3×5.3×3.0cm。

2：閃綠玢岩（？）、両面、両側を研磨している。部分的に敲打痕も残っている。出土位置は、19-18[03] グリッドで、2 号堅穴住居の西壁に近接している。14.9×4.5×3.8cm。

⑦ たたき石

頁岩、卵形の自然縫の両側に敲打痕がみられる。出土位置は、5 号堅穴住居跡内出土（10-05[00] グリッド）である。10cm×7.5cm。

PL. II 20 磨製石斧 (1,2) とたたき石 (3)



⑧ 石製品： 2 点出土した。

1：安山岩製。14-18[30] グリッドから出土した。棒状縫の一端寄りに敲打痕が一周する。陽物様石製品。11.1cm×4.8cm。

2：頁岩製。炭化物 52(19-15[23] グリッド) から出土した。小縫の短軸にそってえぐり込みがみられる。性格不明。5cm×2.7cm。

### ▶接合資料

- 接合資料は9組ですべて黒曜石である。「石器の分布図」に線で結んで示してある。
- ① 接合資料1：剝片（番号9116と9125）が2点剝離面で接合する。番号9125は2号堅穴住居の床面から出土した。
  - ② 接合資料2：剝片（番号8159と12436）が2点剝離面で接合する。番号8159は炭化物52から出土した。
  - ③ 接合資料3：スクレイバー（番号906）1点と剝片6点が剝離面で接合する。番号12301以外は炭化物52から出土した。
  - ④ 接合資料4：石核（番号1745）にスクレイバー（番号8928、1720）2点と剝片（番号12113）1点が剝離面で接合する。石核は舟底状を呈する。スクレイバーは側面から剝離された剝片を用いている。分布は、石核が2号堅穴住居の床面、剝片が炭化物52から、スクレイバーが2号堅穴住居の周辺部から出土した。剝片の生産が2号堅穴住居内で行なわれたことを示している。
  - ⑤ 接合資料5：スクレイバー2点と剝片6点が剝離面で接合する。これらの8点は同一平垣面から同一方向に剝離されている。剝離の順序はつぎのようになる。  
 番号9474→同9471→同6006→同6008→同11524→同6007  
 ↓  
 →同12419→同11703  
 分布は2号堅穴住居の北側に近接した所に集中する。
  - ⑥ 接合資料6：スクレイバー（番号8288、12043）2点と剝片（番号9010、11378）2点が剝離面で接合する。分布は剝片が炭化物52から、スクレイバーが遺構外から出土した。
  - ⑦ 接合資料7：剝片（番号6195、6196）2点が剝離面で接合する。21-05グリッドから出土した。
  - ⑧ 接合資料8：破損した剝片が炭化物52（番号7682）と炭化物マウンド（番号8632）から出土した。
  - ⑨ 接合資料9：破損した石核（番号15301と15302）が施土27内で接合した。

### 小括

- a これらの石器・剝片類は、層位、出土・分布状況から判断して第2文化層に伴うことが確実である。
- b 出土・分布にみられる特徴は、これらの石器類がおもに2号堅穴住居と5号堅穴住居を起点として製作・使用された後、住居外へ廃棄された状況をよく示している。とくに「接合資料4」にもとづけば、剝片の剝離→剝片石器の製作→石器の使用までの作業は2号堅穴内で行なわれ、廃品は炭化物52など住居外へ廃棄されたことを示している。
- c 石器・剝片類の大部分は、黒曜石によって作られている。石器の主体はスクレイバーで、ビエス・エスキューや石錐がわずかにみられる。また、剝片の約6割に使用によるものとおもわれる刃こぼれがみられる。
- スクレイバーの二次加工は、剝片の一部に主要剝離面側から施される。
- d 石器は、いわゆる第二次生産用具のなかにその役割を占めていた。2点の磨製石斧は統縄文期など、より古い時期の製品の再利用品である可能性が強い。

## ❶ 磚群

遺構内や遺構外から安山岩の磚がまとめて出土した。

### ① 遺構に伴う磚群

遺構に伴う磚群は2号堅穴住居と3号土塙から出土した。

#### ① 2号堅穴住居の磚群

出土位置——床面で住居の北西壁寄りに10個の磚が集中して出土した。

状況———40cm～25cmの範囲内で、不規則にならんでいる。土製纺錘車（個体番号 紡錘車3）を伴う。

重量———10個とも100g以上で、160g～180gのものが多い。

#### ② 3号土塙④層の磚群

出土位置——土塙の中央部から西側へかけて33個の磚が集中して出土した。

状況———積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。土製纺錘車（個体番号2）を伴う。

重量———320gのものが1個みられるが、100g～200gにまとまり、その中でも140g～200gのものが多い。

### ② 遺構外の磚群

遺構外の遺物包含層で、磚群が5箇所から発見された。

#### ① 13-10グリッドの磚群

出土状況———65cm×35cmの範囲内に39個の磚が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

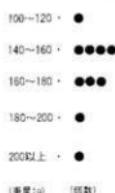
重量———80g～100gに5個、200g以上に3個みられるが、100g～200gにまとまり。その中でも100g～140gのものが多い。

#### ② 20-08～21-08グリッドの磚群

出土状況———70cm×35cmの範囲内に45個の磚が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量———150g以下に集中し、その中でも50g～110gのものが多い。

PL. II-21 磚石器の重量分布図



#### ③ 20-15グリッドの磚群

出土状況———30cm×50cmの範囲内に64個の磚が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量———100g以上のものは2個で、それ以下にまとまりをみせる。その中でも20g～40gのものが多い。

④ 21-15 グリッドの縁群

出土状況——2m四方の範囲内に33個の縁が出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——100g以下に18個、140g以上に4個で120g以下のものが多い。

⑤ 31-16 グリッドの縁群

出土状況——35cm×20cmの小範囲内に7個の縁が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——120g～180gにまとまる。

### 小括

a 縁群は遺構に伴うものが2箇所と遺構外のもの5箇所の合計7箇所で出土した。遺構に伴うものは2号堅穴住居と3号土壙である。

b 縁群に伴う遺物は上製紡錘車であり、いずれも遺構に伴う縁群に関係する。

c 縁群はもっとも少ない個数で7個(31-16グリッド)、もっとも多い個数で64個(20-15グリッド)である。それらは積み上げた様子はみられず、不規則に分布し出土した。

d 縁個々の重量分布から縁群はおよそつぎの3群にわけられる。

① 80g～200g以内で、200g以上のものがわずかに含まれる。特に、140g～200gのものが多い縁群(2号堅穴住居や3号土壙、31-16グリッド)と100g～140gのものが多い縁群(13-10グリッド)がみられる。

② 100g以下で20g～60gに集中する縁群(20-15、21-15グリッド)

③ 30g～150gで50g～100gに集中する縁群(20-08～21-08グリッド)

(横山英介)

## VI-6 [金属器および鉄滓]

### ① 金属器

#### ▶種類と出土点数

金属器は3点出土した。環状金属器が2点と刀子(?)の破片が1点である。

#### ▶種類別の特徴

- ① 環状鉄製品：長径4.8cm、短径4.2cmで、厚さ0.4cmである。炭化物マウンド(17-11〔13〕グリッド)から出土した(個体番号金属器1)。
- ② 環状錫製品：長径3.4cm、短径3.3cmで、厚さ0.7cmである。5号竪穴住居の東側(11-04〔20〕グリッド)から出土した(個体番号金属器2)。
- ③ 刀子(?)：鉄製品。大部分が破損しているが、断面が三角形をなしており、刀子と思われる。遺構外(09-05〔22〕グリッド)から出土した(個体番号金属器3)。

### ② 鉄滓

鉄滓は、圓形のものと粉末状のものが合計10点、遺構内外から出土した。

- ① 1号竪穴住居出土：圓形の鉄滓1個(個体番号鉄滓4)。
- ② 4号土塙内出土：圓形の鉄滓1個(個体番号鉄滓10)。
- ③ 6号土塙内出土：鱗片状の鉄片1個(個体番号鉄滓11)。
- ④ 炭化物マウンド出土：圓形の鉄滓1個(個体番号鉄滓12)。
- ⑤ 焼土24出土：圓形のものと鱗片状のものが採取された(個体番号鉄滓5、同6、同7、同8、同13)。
- ⑥ 10-08グリッド出土：圓形の鉄滓1個(個体番号鉄滓9)。

(横山 英介)

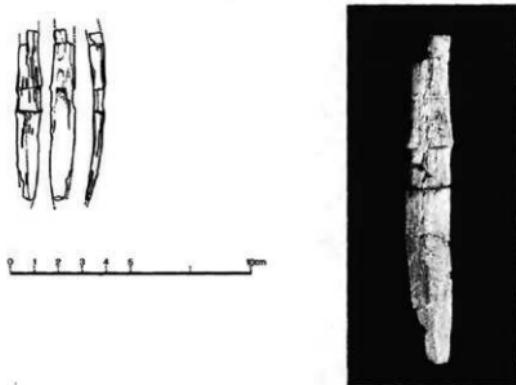
## VI-7 [骨角器]

高橋 理・

2号堅穴住居の床面(18-18)より1点出土している。いわゆる抉入離頭鉈(大塚 1966)であるが、先端部と尾部のそれぞれ1部が欠損している。現存最大長は69.2mm、最大幅9.7mm、最大厚5.4mmである。また茎槽部はやや不明瞭であるが幅4.5mm長さ15mmほどで、コ形に造り出されている。この離頭鉈の先端部の表面(索溝のある面)および索溝から尾部へかけての一部に海綿状組織が残っていることから、索溝のある表面が素材としての骨角の内側となっていることがわかる。素材という点については確定的ではないが、先端部の裏面(基槽のある面)に2~3の凹凸があることからシカの角を加工して作成されたと推定される。この離頭鉈はPL.II-22に示したように、裏面(基槽のある面)の側に湾曲している。この形状は中柄に着装し、鉈として機能させるには不都合であると推定されるが、全体が火を受けていることから、本来は直線的あるいは表面(基槽のある面)の側に湾曲していたのが加热によって変化したという可能性も考えられる。

概文時代の遺跡における離頭鉈の出土例は多くはない。サクシュコトニ川遺跡の離頭鉈に形態上類似する例としては、虻田郡豊浦町礼文草の小櫻洞穴出土の離頭鉈(北大解剖学教室調査団 1963)、岩内郡共和村発足の免足洞穴出土の離頭鉈(竹田 1964)、古宇郡神恵内村櫻音洞穴(石川 1982、石附 1983)出土の鉈頭が挙げられるであろう。

PL.II-22 2号堅穴住居跡出土の離頭鉈



〈引用文献〉

- ▶北大解剖学教室調査団 1963 「小櫻洞窟遺跡」『北方文化研究報告』第18輯 pp.179~287
- ▶竹田輝雄 1964 『免足岩陰遺跡』小樽博物館 pp.9~17, fig.6
- ▶大塚和義 1966 「抉入離頭鉈」『物質文化7』 pp.33~46
- ▶石川直掌 1982 「圓軸式鉈先—キテの源流」『考古学と古代史』 同志社大学考古学シリーズ I pp.19~28
- ▶石附喜三男 1983 「〈ニゾ地の鉈〉 鉈と鉈—さまざまな王權の基盤—」『日本民俗学大系3.』 pp.301~321

## V-8 [動物遺存体]

高橋 理

サクシュコトニ川遺跡においては、擦文時代の堅穴住居内部・土壤・周辺に分布する多量の焼土や炭化物及び炭化物マウンドの中にサケ科魚類を主体としたかなりの量の骨片が含まれていた。このことは、採取した土壤をフローテーションによって処理した後の残渣を双眼実体顕微鏡を用いて精査した結果判明した。これらの動物遺存体は、すべて熱をうけており白色化している。乾燥させた後、同定・測定・集計を行なった。

### ① 出土動物遺存体

同定された動物遺存体は以下である。

#### ▶ 軟体動物門

腹足綱 *Gastropoda*

陸産貝類

#### ▶ 脊椎動物門

硬骨魚綱 *Osteichthes*

サケ科 *Salmonidae gen. et sp. indet.*

イツワ *Huchia perryi*

コイ科 *Cyprinidae gen. et sp. indet.*

ウダイ *Tribolodon hakonensis*

ニシン科 *Clupeidae*

マイワシ *Chropea pallasi*

カサゴ科 *Scorpaenidae gen. et sp. indet.*

鳥綱 *Aves*

骨片 1 点のみ

哺乳綱 *Mammalia*

ウサギ科 *Leporidae gen. et sp. indet.*

ネズミ科 *Muridae gen. et sp. indet.*

### ② 動物遺存体の遺構別・地点別出土数

出土した動物遺存体の遺構別・地点別出土数は次頁の表のとおりである。

### ③ 出土動物遺存体の分析

#### ▶ サケ科魚類を中心として

出土した動物遺存体の中で、量的に最も多いのはサケ科魚類である。サケ科魚類と同定できたのは頭離歯及びその破片・椎骨片で、その他頸骨と推定される骨片も出土しているが、部位が一定でなく、從って測定部分が決定できないことから今回は分析の対象から除外

Tab. II-8 サケ科魚類椎骨片・追跡表

遺構	椎骨片	追跡箇
焼土、炭化物集積	4	5
	14	70
	18	184
	19	31
	20	14
	21	6
	22	47
	27	587
	43	273
	50	1
	52	1,828
	54	20
	56	3
	57	96
	59	12
	64	0
	65	27
	68	4
	69	1
	70	2
	72	8
	75	15
計	3,553	2,072
遺構	椎骨片	追跡箇
2号竪穴住居 カマド	880	55
カマドまわり	7	1
壁面	3	0
b <sup>2</sup> (17-16)	2	2
b <sup>2</sup> (17-18)	113	41
b <sup>2</sup> (19-17)	494	136
小計	(1,499)	(235)
3号竪穴住居	705	1,653
計	2,204	1,888
遺構	椎骨片	追跡箇
1号土壤	105	30
2号土壤	3	2
3号土壤	736	212
4号土壤	941	12
5号土壤	63	66
計	1,848	322
遺構	椎骨片	追跡箇
炭化物マウンド	17-09	0
	17-10	108
	17-11	488
	17-12	1,108
	18-10	68
	18-11	16
展示用	1,207	781
計	2,995	1,882

Tab. II-9 出土動物遺存体

遺構	出土動物遺存体	個数
焼土、炭化物集積跡	19. ウサギ中節骨(基節骨?) (近位端)	2
	20. ウグイ頭椎骨	1
	コイ科魚類椎骨	3
	21. コイ科魚類椎骨 鳥類尺骨(?)	1
	22. コイ科魚類椎骨 ネズミ左上頸骨(基部)	10
	27. コイ科魚類椎骨	7
	43. コイ科魚類椎骨	1
	50. コイ科魚類椎骨	1
	52. コイ科魚類椎骨 イトウ椎骨	5
	57. コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	16
	70. コイ科魚類椎骨	1
	72. コイ科魚類椎骨	3
遺構	出土動物遺存体	個数
2号竪穴住居 カマド	陸産貝類(鰐穴部)	1
	コイ科魚類椎骨	5
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
19-17	コイ科魚類椎骨	1
3号竪穴住居	コイ科魚類椎骨	2
	陸産貝類(鰐穴部)	1
遺構	出土動物遺存体	個数
1号土壤	コイ科魚類椎骨	11
3号土壤	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	4
4号土壤	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
5号土壤	ウグイ椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	2
遺構	出土動物遺存体	個数
炭化物マウンド	17-10	1
	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
	カサゴ科魚類椎骨	2
17-11	コイ科魚類椎骨 カサゴ科魚類椎骨 カサゴ科魚類背鱗棘 イトウ椎骨 ニシン科魚類椎骨 ネズミ類尾椎 ネズミ類中節骨(基節骨?)	7
	ネズミ類中手骨(中足骨)	1
17-12	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨 イトウ椎骨 ネズミ類尾椎 ネズミ類中節骨(基節骨?)	12
18-10	コイ科魚類椎骨	4
展示用	ウグイ椎骨 コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	9
出土位置不明	シカ中節骨 シカ末節骨	1

Tab. II-10 遊離歯エナメル質質

遺構	遊離歯エナメル質																		(単位:mm)																							
	14	4.4	5.0	18(1)*	4.7	4.5	3.6	2.7	3.1	3.3	1.4	18(2)	6.6	5.2	3.7	6.2	3.1	3.0	2.0	4.3	5.9	3.9	4.0	5.4																		
堆土・文化層集積	19	8.0	2.6	1.2	3.1	5.0	3.4	3.7	4.6	6.1	3.7	5.0	4.0	4.4	3.0	4.1	2.6	2.6	4.2	2.4																						
	21	—	2.1																																							
	22(1)	—	1.7	2.4																																						
	27(1)	1.8	1.6	2.4	1.8	1.5																																				
	27(2)	3.2	6.2	5.3	4.2	4.7	5.2																																			
	49(2)	4.2	3.2	5.0	4.2	4.8	4.2	3.4	2.7	3.3	2.8	2.8	3.0	3.6	2.0																											
	52(2)	3.9	2.4	2.9	1.7	2.6	4.0	3.0	3.0	1.9	2.0	3.2	3.2	2.0	2.2	2.1	3.4	3.2	2.7	2.6																						
	53(2)	2.5	2.1	1.4	1.6	2.0	1.6	3.1	2.0	2.0																																
	54(2)	4.0	4.9	3.9	4.1	4.5	3.2	3.9	3.8	1.8	2.1	2.2	2.1	1.4	1.1	2.5	3.3	1.6	2.5	1.6																						
	56	2.6	2.5	2.8																																						
	54(3)	1.9	1.9																																							
	54(4)	5.5	5.0	5.4	5.3	4.3	3.2	1.6	4.4																																	
	56	2.3	1.4																																							
	57(3)	3.0	2.7	2.5	2.8	1.8	2.5																																			
	69	—	2.1																																							
	72	—	5.3	1.7																																						
	75	—	5.3	4.7																																						
	計	149個																																								
2号堅穴住居	17	5.6	4.2	4.8	2.9	3.9	2.3	2.0	2.0	2.2																																
	17-18	5.7	5.8	3.5	2.0	1.9																																				
	カツフ	2.5	3.0	3.3	1.7																																					
	27	—	14個																																							
3号堅穴住居	1	2.8	3.9	3.8	3.5	2.6	3.2	3.3	3.4	1.6	3.1	1.7	1.8	1.7	1.8																											
	2	4.7	6.0	5.1	4.3	3.4	3.5	3.0	2.9	2.5	3.8	3.2	4.1	2.5	1.5	3.0	1.9	2.8	1.8	2.2																						
	3	6.5	5.6	5.5	6.2	5.2	6.4	4.6	5.4	4.8	4.2	3.8	2.8	3.3	2.7	2.6	4.2	5.2	4.0	4.2																						
	4	4.0	2.9	2.3	2.7	2.7	3.2	3.7	3.1	2.8	2.5	3.6	3.0	1.7	5.1	3.7	2.7	5.1	2.1	2.1	3.4																					
	5	3.0	3.4	3.5	2.7	3.2	3.7	3.1	2.8	2.5	3.6	2.7	3.2	2.2	2.2	3.0	2.4	2.4	3.0	2.2																						
	6	1.6	1.9	3.3	2.8	1.7	2.4	1.9	1.8	1.7	1.9	1.5	2.1	1.3																												
	7	4.5	4.9	4.5	6.0	4.6	4.2	3.2	4.5	4.6	4.6	4.0	4.0	2.7	3.3	3.9	2.9	2.5	3.0	4.3																						
	8	2.9	3.4	4.0	1.9	2.8	2.5	2.0	2.5	2.5	2.2	1.8	3.0	2.5	2.3	2.5	3.2	3.2	2.9	1.9	3.2																					
	9	2.7	3.2	2.1	1.8	2.8	2.5	1.4	1.7	1.6	2.4	2.3	2.6	1.9	2.7	2.8	2.0	2.3	2.0	2.3	2.0																					
	10	2.8	1.2	2.3																																						
	計	162個																																								
1号土塙		4.7	2.3																																							
	27	—	2個																																							
2号土塙	1	1.7	1.8	2.2	1.4	1.3	0.7																																			
	2	4.0	5.0	4.6	4.0	5.0	2.7	2.1	2.4	5.5	2.9	2.8	3.4	3.7	1.8	3.4	4.0	2.2	2.6	1.8	1.8																					
	3	2.4	2.1	2.0	3.0	1.8	2.3	2.8	2.0	2.2	2.4	1.4	1.3	1.5	2.0	1.5	2.4	1.8	1.7																							
	4	—	4個																																							
4号土塙	1	3.5	2.5	2.6																																						
	2	—	3個																																							
5号土塙	1	3.0																																								
	2	4.3	2.4	2.1	3.1	2.5	2.3	1.4	1.9																																	
	3	—	9個																																							
加化物マウンド	17	14(2)**	3.6	4.7																																						
	17-11(2)	—	3.3																																							
	17-11(3)	—	3.9	2.0																																						
	17-11(5)	—	3.7	7.2	3.0	4.6	3.8	2.5	4.6	2.4	3.1	2.3																														
	17-11(6)	—	2.3																																							
	17-11(7)	—	4.5	6.1	4.3	3.6	5.3	3.9																																		
	17-11(8)	—	4.0	3.9	4.5																																					
	17-11(9)	—	4.1	3.2																																						
	17-11(10)	—	4.1	3.6	3.8	2.1																																				
	17-11(11)	—	2.2																																							
	17-11(12)	—	4.4	5.3	1.8	2.4	2.4	1.2	1.2	1.6	2.0	1.4																														
	17-12(1)	—	3.4	4.7	4.2	4.0	3.2	3.6	4.3	2.8	4.4	3.4	2.8	1.7	2.1	3.9	2.0																									
	17-12(2)	—	4.2	3.2	2.4	2.8	1.5																																			
	17-12(3)	—	7.7	3.4	4.0	4.2	3.2	3.0	4.0	3.0	4.0	3.7	3.2	2.4	2.0	2.3																										
	17-12(4)	—	3.7	2.4	2.0																																					
	18-10(1)	—	4.4	4.9	4.8																																					
	18-10(2)	—	3.7	2.4	2.4																																					
	36-25(2)	—	2.1																																							
	36-30(2)	—	3.5	2.0	2.3	4.4	2.1	2.9	4.7	3.0	2.7	1.7	1.7	3.6	3.4	2.0	3.1	1.3	2.3	2.5	1.7																					
	37-26(2)	—	3.7	2.6	2.9	1.8																																				
	37	—	108個																																							
	総計	—	453個																																							

\*○囲みの数字はサンプル番号、\*\*—で接続する数字はグリッドを示す。

Tab. II-11 標本サケナメル質高測定値

S.L. 630mm						(単位:mm)	
歯骨		主上顎骨		前上顎骨			
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r		
8.0	8.0	4.1	2.2	3.9	2.8		
4.8	4.5	3.4	2.9	6.0	5.9		
6.8	6.4	3.2	3.2	4.6	4.7		
4.5	4.0	2.8	2.7	4.5	5.0		
4.3	3.2	3.2	3.2	3.3	4.7		
4.0	3.1	2.0	1.5	4.1	3.0		
4.0	1.7	2.1	3.0	4.3	4.3		
3.6	3.0	2.6	3.2		3.9		
3.2	3.0	2.0	2.4				
3.4	2.7	1.2	2.4				
3.3	2.7	2.1	1.4				
2.4	2.5	1.9	2.0				
2.8	2.6	1.4	2.6				
2.8	2.1	1.8	2.2				
2.6	2.7	1.8	1.2				
2.9	2.9	2.0	1.3				
2.7	1.8	2.0	1.6				
2.3	3.0	1.9	1.9				
1.7	1.0	1.5	1.2				
3.0	2.6	1.5	1.3				
2.5	1.5	1.7	1.2				
2.8	1.7	0.8	1.4				
3.0	2.5	1.4	0.9				
1.2	2.2	1.7	1.1				
2.0	2.2	1.7	0.6				
2.3	1.6	1.2	1.0				
1.0	1.5	1.2	0.8				
1.9	1.5	0.6					
1.2	1.5						
1.3	0.7						
0.9	0.8						
4.0	0.9						
	1.4						

測定部数 135

S.L. 960mm						(単位:mm)	
歯骨		主上顎骨		前上顎骨			
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r		
5.7	9.3	3.8	2.3	7.9	6.7		
8.6	9.4	5.2	3.9	6.7	6.0		
6.1	6.3	3.6	4.8	6.0	6.7		
5.4	5.2	3.8	4.1	5.9	7.9		
4.2	3.8	3.6	5.0	6.7	5.9		
3.1	2.7	4.8	4.1				
1.9	4.2	4.2	4.3				
3.3	3.0	3.8	3.1				
3.3	2.7	3.2	4.2				
3.4	3.3	3.3	4.0				
3.3	3.5	1.5	2.7				
2.4	2.7	2.5	2.6				
3.6	3.0	2.5	2.4				
3.1	1.8	3.0	2.0				
1.9	3.5	1.9	2.0				
2.7	3.6	2.0	1.5				
2.7	2.9	2.7	2.0				
3.1		2.5	1.2				
2.9		2.0	2.0				
2.4		2.5	2.4				
3.3		2.0	1.6				
1.5		2.0	1.5				
3.0		2.0	1.6				
4.0		1.4	1.2				

測定部数 99

Tab. II-12 椎骨前位・後位端の横径測定値

S.L. 630mm						S.L. 960mm	
前位		後位		前位		後位	
—		8.7	—	—	9.9	—	
8.2	8.2	10.7	10.4	8.0	10.5	10.2	
7.9	8.1	9.5	9.5	7.3	10.9	10.7	
7.7	7.8	9.9	10.5	7.6	9.8	9.8	
7.9	8.1	9.5	9.6	8.1	10.0	9.1	
8.0	8.3	9.6	10.0	8.2	10.2	9.7	
8.2	8.1	10.3	9.7	8.2	9.8	10.2	
7.8	7.9	9.6	9.8	8.1	10.9	9.6	
8.4	8.7	9.2	11.0	8.2	10.8	9.6	
8.1	8.1	9.7	10.7	8.2	10.8	10.4	
8.2	8.5	10.1	9.9	8.5	10.2	10.6	
8.8	—	11.0	9.6	8.6	11.0	11.0	
8.8	8.6	10.1	9.2	8.8	10.0	9.9	
9.0	9.9	10.0	9.7	9.2	11.2	10.6	
9.2	9.4	9.3	11.1	9.3	11.1	11.1	
9.2	9.3	10.9	9.6	9.2	10.8	10.9	
9.2	9.4	10.7	11.1	9.2	10.8	10.9	
9.5	9.3	10.9	11.1	9.5	10.8	10.6	
9.1	9.3	10.5	10.6	9.2	10.5	10.5	
9.1	9.1	9.6	10.5	9.1	10.9	10.9	
9.1	9.1	10.9	10.8	9.1	10.9	10.8	
9.1	9.1	11.4	11.6	9.1	11.4	11.6	
9.2	9.0	11.3	11.4	9.2	11.3	11.4	
9.0	9.0	10.9	11.3	9.0	11.2	10.5	
9.0	9.3	11.2	10.5	9.1	10.8	10.8	
9.1	9.0	10.8	10.8	9.0	11.0	10.8	
9.0	9.0	11.0	10.8	8.7	10.8	10.6	
9.2	9.1	11.4	11.0	9.2	11.4	11.0	
9.1	8.9	9.7	11.4	9.1	9.7	11.4	
9.1	9.2	10.6	10.0	9.0	11.0	11.1	
9.0	9.1	11.0	11.1	9.1	11.6	10.4	
9.1	8.7	11.6	10.4	9.2	10.2	11.1	
8.9	8.6	10.0	9.9	8.9	10.0	9.9	
8.7	—	10.3	9.7	8.7	10.3	9.7	
9.0	8.5	10.2	10.2	8.8	10.0	10.3	
8.6	8.3	9.8	10.1	8.6	8.5	9.9	
8.6	8.5	8.2	9.9	8.2	8.0	7.0	
8.0	7.8	9.6	8.2	8.0	8.0	9.5	
8.0	8.0	—		7.0	7.0	129	
9.9	5.3	—		9.9	5.3	—	
测定部数 131				测定部数 129			

99

99

Tab. III-13 推定椎骨横径

遺構	推定椎骨横径					(単位:mm)
27①	11.0~11.5					
27②	11.0~11.5	10.5~11.0	8.0~8.5			
43②	7.0~7.5	7.5~8.0				
52②	9.5~10.0	9.0~9.5	7.0~7.5	7.5	9.0~9.5	8.0~8.5
52③	2.7(イトウ)	11.0~11.5	10.0~10.5			
57②	10.0~10.5	10.5~11.0	9.0~9.5			
72	10.0~10.5	7.0~7.5	7.5~8.0	7.0~7.5		
75	10.5~11.0					
2号堅穴住居	b <sup>2</sup> 19-17	9.0~9.5	9.0~9.5	10.0~10.5	7.0~7.5	
	b <sup>2</sup> 17-18	10.5~11.0	7.0~7.5			
	かまと	8.5~9.0	11.0~11.5	7.0~7.5	8.5~9.0	
3号堅穴住居	②	8.5~9.0				
3号土塁	②	11.0~11.5	8.0~8.5	8.0~8.5	9.0~9.5	
炭化物マウンド	17-11⑤	11.0~11.5	3.9(イトウ)	5.0~5.5		
	17-11⑩	11.0~11.5				
	17-12①	3.5				
	17-12④	5.5(イトウ)				
	17-12⑥	10.0~10.5	10.0~10.5	10.5~11.0		
	17-12⑧	11.0~11.5	9.0~9.5	9.0~9.5		
	18-10①	6.5~7.0				
	展示用	10.5~11.0	8.5~9.0	10.0~10.5		
総計		54				

外した。検出した遊離歯の总数は6,036点、椎骨片10,092点である。椎骨は完形は皆無ですべて1/4以下の大さに割れていた。(上記の数値は残存の程度、大きさに関わりない破片数である) 各地点ごとの出土数はTab. II-8に示してある。

#### ① 出土したサケ科魚類の体長推定

遊離歯・椎骨片から標準体長(吻端より終尾椎までの長さ、以下SLとする)の推定を試みた。まず遊離歯の中でエナメル質の部分が完全に保存されているものを選別し、高さを測定した(Tab. II-10)。

次に、現在手許にある2体のシロザケの現生標本について左右歯管・前上顎骨・主上顎骨の骨のエナメル質高を推定した。2体のシロザケはいずれもオスで、11~12月に宮城県沿岸の定置網で捕獲されたものである。SLはそれぞれ630mm、960mmで、産卵期にあたり、吻端・歯が著しく内湾している。それぞれの推定値はTab. II-11に示した。

サケ科魚類は硬骨魚綱に属するが、真骨魚類の中でも原始的な部類で化骨の程度は低い。このことは脆い頭骨や網目状の椎骨などからもわかる。また歯数も固体によってばらつきがあり、しかも左右同数ではない。SL 630mmは135本、SL 960mmは99本である。測定の結果、630mmでは平均2.6mm、SL 960mmでは平均3.62mmとなり両者を合せると測定数234、平均3.03mmで1.0~3.0mmに最も多い。

一方、遺存体の測定結果についてみると、3号堅穴住居跡出土の資料は測定数162で、平均3.08mm、1.5~3.0mmに最も集中する。2号堅穴住居跡・3号堅穴住居跡の資料合計について、測定数180、平均約3.10mmで、やはり1.5~3.0mmに最も集中する。

さらに、他の土壤出土の遊離歯を加えると測定数237、平均2.99mmとなり1.5~3.0mmに集中する。

また、塗土・炭化物分布域全体では測定数148、平均3.24mmで、1.5~3.0mmと4.0mmが多い。

また、1号住居跡の東側にある炭化物マウンドでは、測定数108、平均3.25mmであり、2.0mmに最も集中し、3.0~4.0mmがそれに次ぐようである。焼土・炭化物分布域と炭化物マウンドの合計では測定数256、平均3.24mmとなり1.5~4.0mmに多い。

最後に、遺跡出土の遊離歯についてみると、測定数493、平均3.12mmとなり、1.5~3.2mmによく集中し、4.0mmがそれに次ぐ。

以上、標本と遺存体のエナメル質高分布を調べて來たが、これから次のことが言えるだろう。

各遺構ごとの出土した遊離歯のエナメル質高分布は互いによく似ている。平均3.0~3.3mmであり、共通して1.5~3.0mmに多く集中する。また、これら遺構出土の遊離歯のエナメル質高分布と2標本のエナメル質高分布もまた非常に似たものになっている。このことは特に2標本を合計した場合において一層明確といえるだろう。最小値についても、ともに0.5~1.0mm（未満）におさまる（S L630mmの0.6mm、3号七塔出土の0.7mm）。最大値の場合、S L960mmの個体には、8.5~9.5mmに及ぶ歯があるが、遺存体の遊離歯では、7.5mm台の1点（炭化物マウンド出土の7.7mm）が最大で、7.0mm台にも一点あるにすぎない。今回は、エナメル質が完全に残されているものについて測定しているので、その対象外となつた破損した遊離歯の中に、本来はより大型のものが含まれていた可能性があるが、筆者の実見した限りでは、8.5mm以上に及んだと考えられる遊離歯の破片はないようである。これにより、S L960mmを大きく越える個体は遺存体の中には含まれていないと推定される。

以上より、サクショコトニ川遺跡より出土したサケ科魚類の標準体長は、エナメル質高の分布から60~95cm程と推定される。

同様に、出土した椎骨片と、S L630m・S L960mmの2標本の椎骨との比較によって、標本体長の推定を試みた。前述したように、サケ科魚類の椎骨は、完全な形を留めているものはほとんどなく、1/4以下に割れており、しかも加熱、土圧の影響もあり変形している例が多い。従ってある程度の大きさを保ち、かつ変形のない（あるいは小さい）椎骨片は非常に少なく、全部で54点にすぎない。サケ科魚類の椎骨は、前・後位端面の形状は円ではなく、左右方向（横方向）に大きな楕円であり、また一つの椎骨でも、前位端面と後位端面の大きさが異なる。そこで、2つの標本の椎骨の大きさを左右の長さ、即ち横径で代表させることとし、前位端と後位端について測定した。標準体長の違いは椎骨の横径によく反映され、S L630mmとS L960mmの分布はほとんど重複はないようである。次にこれらの標本の椎骨から0.5mmごとの大きさのものを選びだし、前位端と後位端のトレースによって輪郭線をとり、さらにそれを用いて型紙を作成した。54点の出土椎骨片を1点ずつ輪郭線と型紙にあてて横径の分布を推定した結果がTab.Ⅳ-13である。数が少なく、また測定の精度にも多少の問題があるので、細かい部分までは言及できないが、横径が7.0~11.5mmに多いことは明らかである。また、横径2.5・3.5・5.0・5.5mmの各1点ずつはサケ科の中のイトウの椎骨と同定されたので、これらを除けば椎骨の大きさの推定値からも、標準体長60~95cm程の個体が出土していることが裏付けられたと言えるだろう。

## ② 他の動物遺存体について

Tab.Ⅳ-9に示したように、サケ科魚類以外の動物遺存体の出土数は、同定困難で不明とした例を加えても非常に少ない。

貝類が2点出土しているが、いずれも陸産貝類であり、しかもマイマイのような大型の陸産貝類ではなく、ヒラマキガイ科の貝類のような直径10mmにも満たない微細な個体である。これらの微細な貝類が捕獲の対象となったものではないことは言うまでもなく、この遺存体に限って熱を受けていないことをみても、鹿糞物の中に後から混入したものであろう。

魚類では、コイ科魚類とニシン科魚類が多い。コイ科魚類は椎骨が多いが、種の判定は困難である。ただし大きさを考慮するとウグイ・フナ・コイなどが考えられる。また明らかにウグイと同定される咽頭骨・椎骨が出土していることから、ウダイの占める割合がかなり高いことも想定される。ニシン科魚類は椎骨のみ出土しているが、マイワシと同定される。非常に小型でかつ大きさが揃っており、体長10cm以下の個体である。

鳥類は第21地点(08-10グリッド)より骨片が1点出土している。小破片であり、稜線の形状は尺骨に類似するが断定はできない。

哺乳類については、中~大型の哺乳類の遺存体は、ほとんど検出されなかった。ウサギ類は第19地点(07-08)から出土しているだけであるが、ネズミ類は頸骨・中節骨・基節骨・尾椎など比較的多い。大きさはイエネズミほどである。

## ① 小括

以上、動物遺存体の分析を行なってきたが、出土数は圧倒的に魚類が多い。特にサケ科魚類が主体を占めており、サクシュコトニ川遺跡を残した擦文時代の人々の漁撈活動は、サケ科魚類を中心としたものであったことが判明した。またサケ科魚類は、その遊離歯がほとんど屈曲しており、標準体長は60~95cmと推定される個体に集中されることから、イトウ・カワマスなどの陸封魚ではなく、降海して海で成熟し、産卵のため遡河したサケ科魚類であろう。日本に生息するサケ科魚類の中で体長が60~96cmに達する降海型の種類は以下のサケ属に限られる。

### サケ属 Genus *Oncorhynchus*

ベニマス *Oncorhynchus nerka*

サケ(シロザケ) *Oncorhynchus keta*

ギンマス *Oncorhynchus kisutch*

マスノスケ *Oncorhynchus tschawytscha*

サクラマス *Oncorhynchus masou*

この中で、日本、特に北海道西部地域において、一定量の捕獲が可能なサケ属はシロザケが圧倒的に多い。シロザケは、その捕獲される時期、場所によってトキシラズ・アキアジと呼びわけられているが、産卵のために沿岸に来遊し、9~12月に河川を遡るのはアキアジである。サクラマスは、日本において主として捕獲される。日本海を中心に分布し、サケ科の中では最も温帯性である。幼魚はヤマメと呼ばれ、ふ化一年目の春にギンケヤマメとして降海する。その年の冬、沿岸もどり、急速に成長し、北海道では5月下旬~6月下旬に産卵のため遡河する。豊平川の本流である石狩川に遡河するサケ科魚類は、やはりシロザケが主であり、明治元年から16年までの間の8年間は、年百万尾以上の水揚げが記録され、9月下旬の漁期には、川口の石狩町は非常にぎわいをみせたという(市川1977)。

シロザケとサクラマスを骨の形態から判別することは困難である。石狩川及びその支流において捕獲されるサケ科魚類のうち大型のものはシロザケが主体である。したがってサクシュコトニ川遺跡の臨むサクシュコトニ・セロンベツ両川で捕獲されたサケ科魚類は、かなり高い確率でシロザケと限定できるのではないだろうか。

捕獲の方法としては、セロベツ川より出土した櫛状構造(テシ・櫛状置構)、及びその中から出土したヤヌ、マレックなどが大きく関わってくるだろう。

以上のサクシュコトニ川遺跡出土の動物遺存体の分析の結果をまとめると次のようになる。

- a　堅穴住居跡・土壤・周辺の焼土、炭化物中に多量の動物遺存体がふくまれていた。
- b　動物遺存体の主体はサケ科魚類であり、他にコイ科・ニシン科・カサゴ科魚類が少量出土した。
- c　魚類以外では、陸産貝類・鳥類・小型哺乳類がごく少数出土した。
- d　サケ科魚類の遊離骨・椎骨片の大きさより、遺構・地点の別に関わりなく標準体長60～95cm程の個体が大部分であった。
- e　これらのサケ科魚類は9～12月に産卵のために石狩川を遡河したシロザケを捕獲したものと推定される。

#### 〈参考文献〉

- 東 正雄 『原色日本陸産貝類図鑑』 保育社1982
- 中村守純 『原色淡水魚検索図鑑』 古蔵舎1982
- 阿部宗明 『原色魚類検索図鑑』 北隆館1980
- 前川健夫 『日本のサケ—その文化誌と漁』 日本放送出版協会 1977

VI-9

## [植物種子遺存体]

Gary W. Crawford

### サクシコトニ川遺跡出土の植物遺存体

#### はじめに

本論は、サクシコトニ川遺跡出土の植物遺存体のうち、主にフローテーション・サンプルの分析と若干の考察からなっている。分析研究は現在も続行中であり、本論は最終報告ではない。この遺跡でフローテーション法を採用した目的は、a) 梁文期における植物利用のパターンを復元すること、b) 同期における農耕の存在を検証すること、の2点である。ことに農耕の存在については、およそ同時期と考えられる道内の3遺跡から炭化栽培植物が検出されていること、また農耕具も他の遺跡から検出されたことなどを考えあわせると非常に重要な問題であるといえよう(石井 1975; 亀田・山田 1982)。今回の調査で得られたフローテーション・サンプルの分析により、農耕の存在は確証を得たといえよう。

#### サンプル

本論では種子と果実についてのみ触れる。同定できた種とその量はTab. II-15にまとめである。炭化物のうち調査済みのものは約197 g、未調査のものは約200~210 gである。調査済みの遺物の中には116,422個の種子が含まれていた。これより推察すると、この遺跡よりえられたすべてのサンプル中には約234,000個の種子が含まれ、そのほとんどが栽培植物のものであろう。なおこれらのサンプルは2号、3号住居の廃土、および住居外の「炭化物マウンド」から得られた。

#### 同定

ここで報告する32種類の植物のうち10種類は栽培植物である。それに加え、同定はできたが、分類しえなかつたもの、同定もできなかつたものなどがある。

非栽培植物は、1年生の雑草(非栽培植物のうち46%)、多肉果実(47%)、他に4種類の植物群からなる。タデ属(*Polygonum*)の中ではレンズ状の種子をもつ*P. densiflorum*が最も優勢である。オオイタドリ(*P. sachalinense*)に類似したものもみられた。イネ科雑草のうち穀果のものは、ヒニ属(*Echinocloa*)を除き、「未同定」の数の中に含まれている。「未同定」のイネ科雑草は、キビ属に含まれるものと、Crawford(1983: 37)あげた「Type 2」のイネ科雑草の2つに大きく分けられる。ヒニ属の種子は平均 $1.5\text{mm} \times 1.1\text{mm}$ であるが、縞文前末期から中期末にかけて種子の大きさが15%増大することが、亀田半島の遺跡で確認されている。イネ科植物の表現型が多様であることはよく知られており、例えばタイベニ(*E. crusgalli* Beauv. var. *olyzicola*)は水田雑草としてよくみられるものである(Barrett 1983)。しかし、サクシコトニ川遺跡でイネが検出されたとはいえる。ここでみられるヒニ属は水田雑草であることや、イネが栽培されていたといいう明確な証拠はない。この他にギシギシ属(*Rumex*, 種はスイバ <*R. acetosa*>, ギシギシ <*R. japonicus*>, もしくはエゾノギシギシ <*R. obtusifolius*>)とアカザ属(*Chenopodium*, おそらくシロザ <*C. album*> もしくは、コアザ <*C. ficifolium*> と思われる)が検出された(Craw-

ford 1983 : discussion参照).これらの植物は主に種子と葉を食用としていたと考えられる。

非栽培植物の中で多肉果実の占める割合が47%であることはすでに述べた。しかし、多肉果実は一般に種子まで食され炭化種子となる蓋然性は低く、これらは数字以上に重要な食糧資源であったと考えられる。

現在までに道内の遺跡から5種類の多肉果実が検出されている。そのうち、イヌホオズキ(*Solanum nigrum*)、ホオズキ属(*Physalis*)、ガンコウラン属(*Empetrum*)の3種類は、今回の検出例が最初である。これらはいずれも食用となる(Heiser 1969; Ohwi 1965 : 788)。また、最初の2種は荒れ地や農耕で搅乱された土地でよくみかけるものである。

多肉果実の遺存体については、すでに Crawford(1983)の中で触れているが、この種類の植物は食用以外にも利用されていて、この遺跡においても「テシ」の多くがニワトコ(*Sambucus*)の木で作られている。また、ミズキ属(*Cornus*)、ブドウ属(*Vitis*)も食用の他、イナウなど宗教的器具の材料となる。

「その他」の中には4種類のものが含まれている。そのうちネギ属(*Allium*)は、住居外の「炭化物マウンド」からかなり多量の検出があった。ただし炭化種子ではなく、炭化した球芽としてである。この種のうちノビル(*Allium grayi*)は、低地の草原でみられるものである(Ohwi 1965)。付表にあがっていない他の3種類はキハダ(*Phelodendron*)?、オニグルミ(*Juglans ailanthifolia*)そしてエンドウマメ様のマメ科植物である。最後のものはレンリソウ属(*Lathyrus* sp.)として道内4個所の遺跡からの出土が知られている。

数字の上では、キビ(*Panicum miliaceum*)アワ(*Setaria italica*)は優勢な栽培植物である。この他にキビもしくはアワである可能性を持つグループがあるが、これは「未同定」としている。これらの中にヒエが含まれている可能性があるが、ヒエとキビとの区別は微妙なものであるため確定はできない。道内の先史遺跡からのヒエの出土例は報告されていないが、西南日本の歴史時代の遺跡からは3例が知られている。

PL. I-23, 24にキビとアワの種子の大きさの変異を示しておいた。2つの測定値ともヨーロッパ種(Van Zeist 1968)として報告されたものの値の範囲におさまる。

この遺跡において、数の上では、最も優勢な栽培植物であった穀物はオオムギである。これは六条オオムギ(*hexastichous*)である。PL. I-25に示した測定値は、北部ヨーロッパ種(Van Zeist 1968)の範囲におさまる。国内の他の先史遺跡出土のオオムギは比較的小型で、九州上ノ原の例(3.8×2.0mm, 小谷 1972)を除くと、サシコトニ遺跡出土例のもつ変異の範囲におさまる。

この遺跡出土のコムギはあまり例のないもので、その測定値はコンパクトコムギ(*Triticum aestivum* ssp. *compactum*)の変異の範囲の外側に位置する。この種は、小型種のインディアンワードコムギ(*T. aestivum* ssp. *sphaerocephalum*)となんらかの関係があることも考えられる。測定値は小型種のコムギとパンコムギの値の間に位置している(PL. I-26 参照; Janushevich 1984 : 275, 276; Van Zeist 1968 : 126, 128)。またこれらはエンマコムギ(*T. dicoccum*)ともいくつかの類似点がみられる。

イネは6個体検出され、いずれも短粒型の*japonicum*である。測定可能であった1個体の値は $4.1 \times 2.6\text{mm}$ ( $L/W=1.6$ )であった。なお佐藤(1971)では、100以上の弥生遺跡出土のイネを分析し、 $L/W=1.3 \sim 2.0$ 、短粒型であるとしている。

マメ科植物ではアズキ(*Vigna angularis* var. *angularis*), ケフルアズキ(*V. radiata* var. *radiata*)を検出した。

ウリ(*Cucumis melo*)は破損したもの1個体を検出した。藤下(1984 : 64)に日本各地出土の5,076個体のウリが集成されているが、本例に適合するものは含まれていない。この他にシソ(*Perilla frutescens* var. *crispata*), アサ(*Cannabis sativum*)を検出した。ともに食用の他に油採集などに利用されたであろう。

### 考察

まだ分析していない試料の中に、かなりの量のムギの小穂の柄の一部が含まれている。このことは農耕の存在と矛盾しない。さらに、筆者はこれら栽培植物が食生活の中で重要な位置を占めていたと考えている。

これら栽培植物の多くは日本列島の先史遺跡からの出土としては最北の例である。また、アワ、イネ、ウリ、コムギは道内最初の例である。イネ、ウリはごく少量のため、ここで栽培されたものである確証はない。しかし、筆者は、小規模であるが、ここでの栽培を想定している。

最後にサクシュコトニ川遺跡の植物遺存体の構成は、カナダ・オンタリオの Woodland(Iroquoian)における構成に類似している点を指摘しておきたい。両者とも、各々の地域で最も北の食糧生産地帯であること、狩猟採集を主な生業としていること、同様の技術体系をもっていることなど共通点を多くもっている。その中で植物の構成が類似していること(Crawford 1985, Monckton 1985)を考察することは、エゾ社会における初期農耕をめぐる議論の一助となろう。

## SAKUSHU-KOTONI-GAWA PLANT REMAINS

Gary W. Crawford \*

### Introduction

This report details the analysis and initial interpretations of the flotation samples from Sakushu-Kotoni-Gawa. The data reported herein were identified and quantified in December of 1984 with some analysis continuing until the time of this writing. The purposes for collecting the plant remains were a) to describe plant use patterns in the Ezo-Hajū phase (Yoshizaki & Okada 1984) and b) to test for the existence of plant husbandry. The latter test was important because of previous discoveries of a few carbonized cultigen remains from three sites on Hokkaido dating to roughly the same time period as Sakushu-Kotoni, as well as agricultural tools from several other sites (Ishizuka 1975; Okada and Yamada 1982). In this first analysis of flotation samples from the ninth century in Hokkaido, the plant husbandry hypothesis has been confirmed. The quantities, taxonomy, and metric data regarding the cultigens, along with a discussion of wild and weedy taxa and their implications to understanding Ezo-Hajū subsistence are outlined.

### The Samples

Some 150 soil samples were floated by the excavation staff utilizing a form of the bucket method outlined in Crawford (1983). The light fractions were decanted into fine gauze rather than geological sieves. The gauze succeeded in collecting a large quantity of millet ranging from about 0.8 mm in minimum width, as well as smaller weed seeds. The carbonized seeds\* were separated from their light fraction matrix over a two year period. This analysis pertains to the resulting seed and fruit portion only. Contents of small samples were examined in their entirety. Larger samples were not because of extreme time constraints; 30–50% of these samples were carefully examined and the contents of the remaining portion estimated on the basis of the examined components. Identifications and quantifications are summarized in (Tab. II-15)

Nearly 197g. of carbonized material have been analyzed to date. Approximately 200 to 210g. of sorted remains have not yet been examined. The unexamined samples number 65, averaging 3.0 to 3.2g. per sample. In the material examined so far are 116,422 seeds. Assuming that the unexamined light fractions have a similar composition, the total sample from Sakushu-Kotoni is expected to contain approximately 234,000 items, mostly cultigen seeds. The samples are from Houses 2 and 3, external house pits, areas of burned soil (e.g. unit 22-16) and refuse dumps outside houses (e.g. units 17-10 through 18-10).

### Identifications

Thirty-two plant taxa comprise the collection reported here. Ten of these are cultigens. An additional 16 taxa are identifiable (64 seeds) but not yet classified (unknown). Some unidentified specimens are present. Tab. II-14 summarizes the taxa that occur in the samples. Items are listed in the same order that they appear in Tab. II-15.

The non-cultigens (1679 items) consist of weedy annuals (46% of non-cultigens), fleshy fruits (47%), and four other taxa (7%) (Plate 1). Several species of *Polygonum* (11) are present, but the lenticular *P. densiflorum* is the most common. Nineteen achenes are likely *P. sachalinense* while eight specimens are unidentified, trigonous achenes. Caryopses of wild grasses in the sample belong

\* Department of Anthropology, Erindale Campus, University of Toronto, Ontario, Canada

to a number of yet unidentified taxa except for the 109 specimens of *Echinochloa* (12). The unidentified grass seeds are mainly two types. One appears to be in the Paniceae tribe, with flat, rugulate caryopses measuring 1.2 by 0.9 mm. The second type is similar to the Type 2 grass illustrated in Crawford (1983:37). The *Echinochloa* seeds measure, on average, 1.5 by 1.1 mm. *Echinochloa* has been identified in Jomon samples from the Kameda Peninsula where the seeds increase in size by about 15% over a period spanning the end of the Early Jomon to the end of the Middle Jomon (1000 to 1500 year span) (Crawford 1983). The grass is genetically flexible and phenotypically variable. For example, *E. crus-galli* var. *oryzicola* Ohwi is a rice mimic in paddy fields. It is a large seeded form (Barrett 1983). Although rice is present at Sakushu-Kotoni, there is no evidence that the *Echinochloas* here is a large seeded rice mimic, nor does it appear to be a cultigen.

Two other herbaceous weeds, *Rumex* (14) and *Chenopodium* (15) are present. Both are present in archaeological collections from the Kameda Peninsula (Crawford 1983). The latter taxa cannot be identified to species at the moment, but the first is likely either *R. acetosa*, *R. japonicus* or *R. obtusifolius* and the latter is probably *C. album* or *C. ficifolium*. The possible identifications are based on the size range of the specimens (see Crawford 1983 for discussion). Plants in this herbaceous weedy annual group can be used for their seeds and greens except for the grasses which could be used as a grain source.

Fleshy fruit seeds are an important component of the Sakushu-Kotoni assemblage. Although they represent 47% of the non-cultigen seeds, their importance here is probably underestimated by the percentage figure. The weedy annuals are prolific seed producers in comparison with fleshy fruit producing plants. Fleshy fruits are usually ingested seeds and all, so again, the probability of fleshy fruit seeds being carbonized is lowered. The weedy annuals probably represent fortuitous weed seed inclusions in the cultigen harvest and to some extent represent a source of leafy vegetable food. The fleshy fruit group is more likely a food source.

Five of the fleshy fruit taxa have been previously reported from archaeological sites in Hokkaido. Three, *Solanum nigrum* (16), *Physalis* (17), and *Empetrum* (18), are reported here for the first time from archaeological contexts in Hokkaido. The first two are herbaceous weeds, common in waste ground and areas disturbed by cultivation. *Solanum nigrum* berries (16) are toxic when green, but present no problem once ripe. The young leaves of this plant are edible as well (Heiser 1969). *Physalis alkekengi* (17) is a weedy, perennial herb producing an edible berry within a bladdery calyx (Ohwi 1965:788). This is the only Asian species in northern Japan today. It is also found throughout Korea and northeastern China (ibid). It is often cultivated today, and it is a possible cultigen at Sakushu-Kotoni. *Empetrum nigrum* is an evergreen shrub that is common in Hokkaido and grows in dense mats (Ohwi 1965). It grows along the Japan sea coast today, and not in the immediate Sapporo area. Whether or not its distribution was different in the ninth century is unknown.

The remaining fleshy fruit taxa are all discussed in Crawford (1983). Of all the taxa in this group, *Sambucus* is the most common in the site vicinity today. As reported by Hirakawa elsewhere in this volume, much of the fish wier was constructed of elderberry wood. *Cornus* and *Vitis*, besides providing edible berries, are reportedly important sources of raw materials for making items such as *inau* and other sacred symbols (Sarashina and Sarashina 1976).

Within the "Other" category are four taxa, one of which, *Allium* (17), is in significant abundance in five samples from the large midden east of House 2. The remains of *Allium* are not seeds; they are carbonized sessile bulbils which form in place of flowers on some members of this genus. Ohwi (1965) lists only one species, *Allium grayi* (*nobiru*), in Japan with this charac-

Tab. II-14 Plant Taxa Identified in the Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples

Cultigens		
1. <i>Hordeum vulgare</i>	barley	o-mugi
2. <i>Triticum</i> c.f. <i>T. aestivum</i>	wheat	ko-mugi
3. <i>Panicum miliaceum</i>	proso or broomcorn millet	kibi, inakibi
4. <i>Setaria italica</i>	foxtail millet	ara
5. <i>Oryza sativa</i> var <i>japonicum</i>	rice	kome
6. <i>Vigna angularis</i> var <i>angularis</i>	azuki	azuki
7. <i>V. radiatus</i> var <i>radiatus</i>	mung bean	ketssuru-azuki
8. <i>Cucumis melo</i>	melon	uri, makuwa-uri
9. <i>Perilla frutescens</i> var <i>crispa</i>	beefsteak plant	shiso
10. <i>Cannabis sativa</i>	hemp	asa
Weedy Grains/Greens		
11. <i>Polygonum</i> sp.	knotweed	tade zoku
<i>P. densiflorum</i>		insu-tade
<i>P. sachalinense</i>		o-istadori
12. <i>Echinochlea crusgalli</i>	barnyard grass	inubie, ta-inubie
13. Gramineae	grass family	ine ka
14. <i>Rumex</i> sp.	dock	gishi-gishi zoku
15. <i>Chenopodium</i> sp.	chenopod, goosefoot	akara zoku
Fleshy Fruits		
16. <i>Solanum nigrum</i>	black nightshade	inu-hozuki
17. <i>Physalis</i> sp. c.f. <i>P. alkekengi</i>	Chinese lantern plant	hozuki
18. <i>Empetrum nigrum</i>	crowberry	gankowan
19. <i>Rubus</i> sp.	bramble	ki-ichigo zoku
20. <i>Vitis</i> sp.	grape	budo zoku
21. <i>Actinidia</i> sp.	silervine	matatabi, kokusa
22. <i>Sambucus</i> sp. c.f. <i>S. sieboldiana</i>	elderberry	ezo-niwaiko
23. <i>Cornus</i> sp.	dogwood	mizu-ki zoku
Others		
24. <i>Rhus</i> sp.	sumac	urushi zoku
25. <i>Ostrya japonica</i>	ironwood	asada
26. <i>Potamogeton</i>	pondweed	hiru-mushiro zoku
27. <i>Allium</i> c.f. <i>A. grayi</i>	onion	negi zoku; c.f. nobiru

teristic. *Nobiru* is found in lowland meadows, and would have probably been available close to the hamlet. Collection of *nobiru* may not always have taken the Ainu outside the hamlet. Sarashina and Sarashina (1976:160) mention that *nobiru* could be harvested from the back yards of Ainu houses. No mention is made of whether or not the plant was encouraged to grow there or in gardens. Nevertheless, both Sarashina and Sarashina (*Ibid.*) and Ohnuki-Tierney (1974) report that *nobiru* (presumably *nobiru* in the case of Ohnuki-Tierney who refers to "leeks") was minced and added to a variety of foods. Large quantities of *Allium* were stored and dried; harvesting took place in July to mid-August (Ohnuki-Tierney 1974:29).

Three other taxa are in the samples, but they are not listed in the Tables. The first is a single possible *Phedodendron amurense* (*kihada*, Amur corktree) in a sample from 18-11(00). Fragments of *Juglans ailanthifolia* (*onigurumi*, walnut) are in the same sample as well as from 18-10(03) for a total of 0.69g. Finally, three pea-like legume seeds are present in the same midden. Their seed coats are missing, and their diameters are 2.4, 2.7 and 3.0 mm. The genus appears to be *Lathyrus* sp. (*renri-so zoku*, wild pea), with four possible species in Hokkaido (Plate 4). The specimens bear close resemblance to *Lathyrus maritimus* (L.) Bigel (*L. japonicus* wild.) (beach pea, *hama-endo*), a species common along beaches in Hokkaido today.

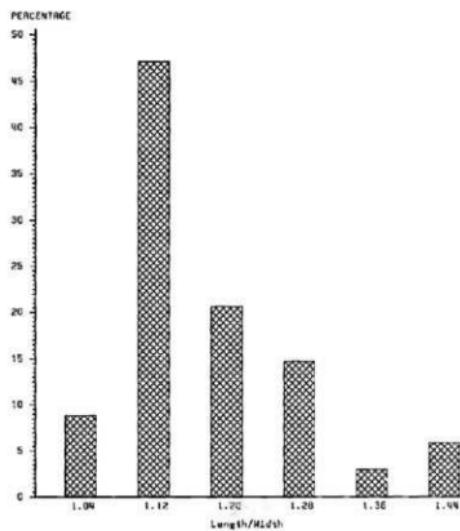
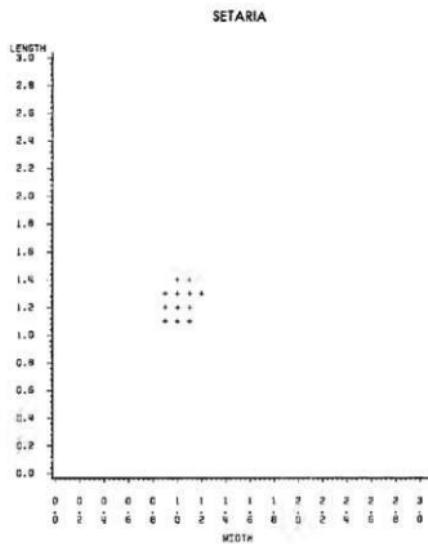
Broomcorn millet (3) and foxtail millet (4), are numerically the dominant cultigens in the samples (Plate 2). Few specimens are not hulled. They are found in nearly all contexts. A third group of large, panicoid grass seeds are difficult to further classify but seem to be either broomcorn or foxtail millet; these seeds are the "unidentifiable" millet in (Tab. 1-15). Another type, barnyard millet (*Echinochloa utilis* or *hie*) may be present in the samples, but its presence has not been confirmed. The distinction between barnyard and broomcorn millet is subtle, but for the present, none is clearly identifiable as barnyard millet. This millet has not yet been found from any prehistoric Hokkaido site, although it is known from three historic sites in southwestern Japan (Matsutani 1984).

PL. 1-23, 24 illustrate the size distribution of the two millet taxa. The sample of measured broomcorn millet numbers 108 while a sample of 105 foxtail millet seeds was measured. The length vs. width plot of foxtail millet shows few points due to considerable overlap of measurements. Both sets of measurements fall within the range of variation reported for European specimens (Van Zeist 1968).

Next to the millets, the numerically most common cultigen at Sakushu-Kotoni is barley. The barley is hexastichous, with both hulled and naked grains apparent. Length-width measurements are summarized in PL. 1-25. The measurements fall within the range reported by Van Zeist (1968) for northern European specimens. Although Asian barleys are relatively unique, in particular by being small seeded (Takahashi 1964), the barley in this sample is not small (PL. 1-25). Other prehistoric barley grains from Japan are relatively small, but except for the single measured grain from Uenoharu, Kyushu (3.8 by 2.0 mm) (Kotani 1972), they are within the Sakushu-Kotoni range.

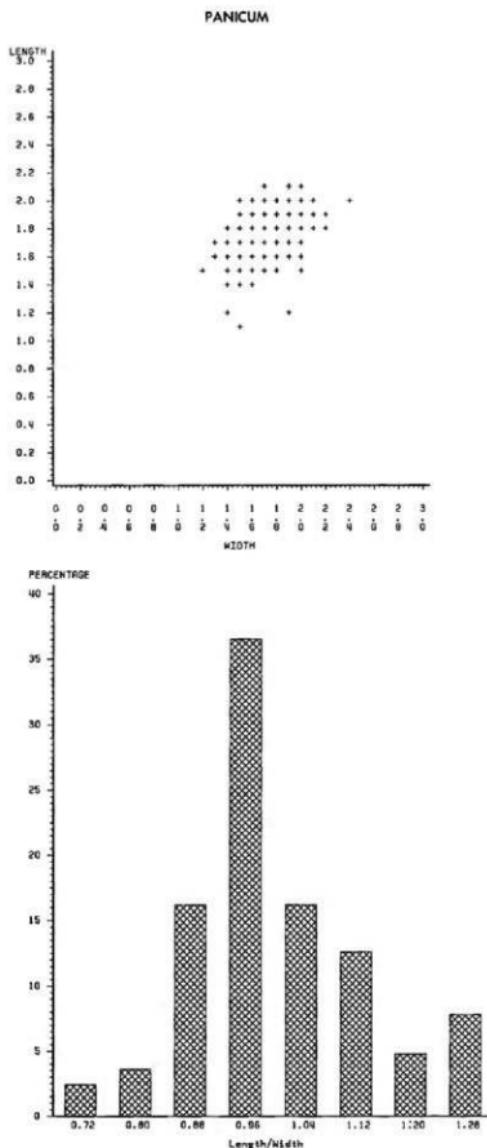
The Sakushu-Kotoni wheat is unique (see PL. 1-26, PL. 2-346 and PL. 2-347). The sample of 106 measured caryopses has mean length and width measurements outside the range of the small club wheat, *Triticum aestivum* ssp. *compactum*, which differs from bread wheat by one gene (Van Zeist 1978:53). The maximum width of the caryopses is toward the embryo end of the caryopses, making them somewhat drop shaped in contrast to the club and bread wheats. Indian dwarf wheat (*T. aestivum* ssp. *sphaerococcum*) is another compact form that may have some historical and taxonomic relationship to the Ezo wheat, but this has not been closely examined

PL. II-23 Carbonized Foxtail Millet (*Ama*): Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.  
 $n = 105$ , Mean L/W = 1.2, Mean L × W = 1.2 × 1.0 mm.

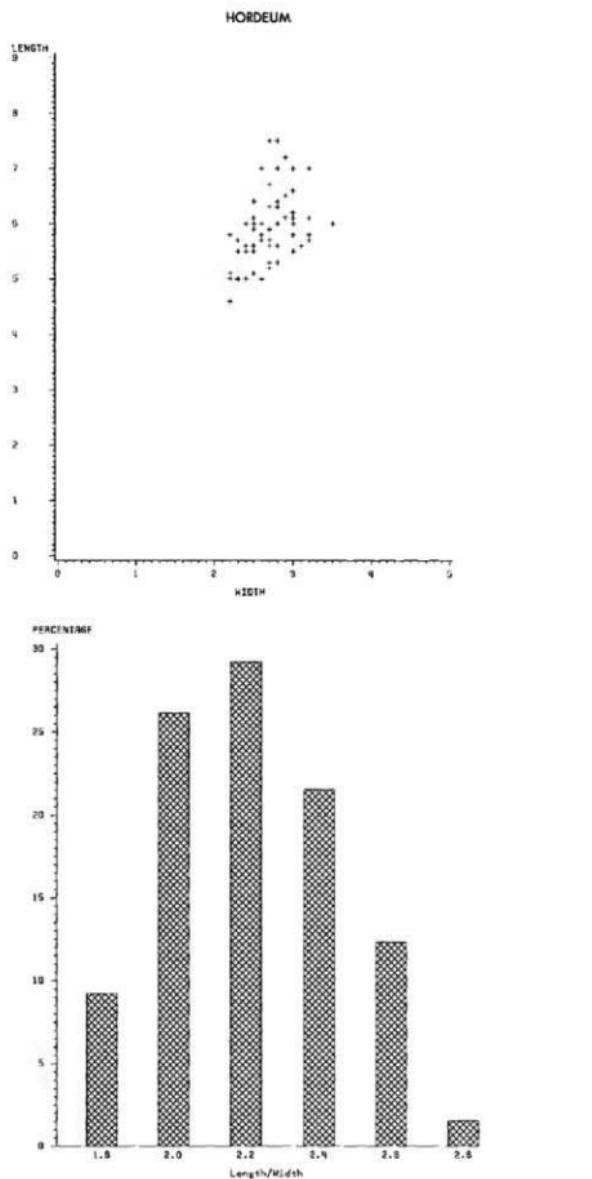


PL. II-24 Carbonized Broomcorn Millet (*Kibik*) Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.

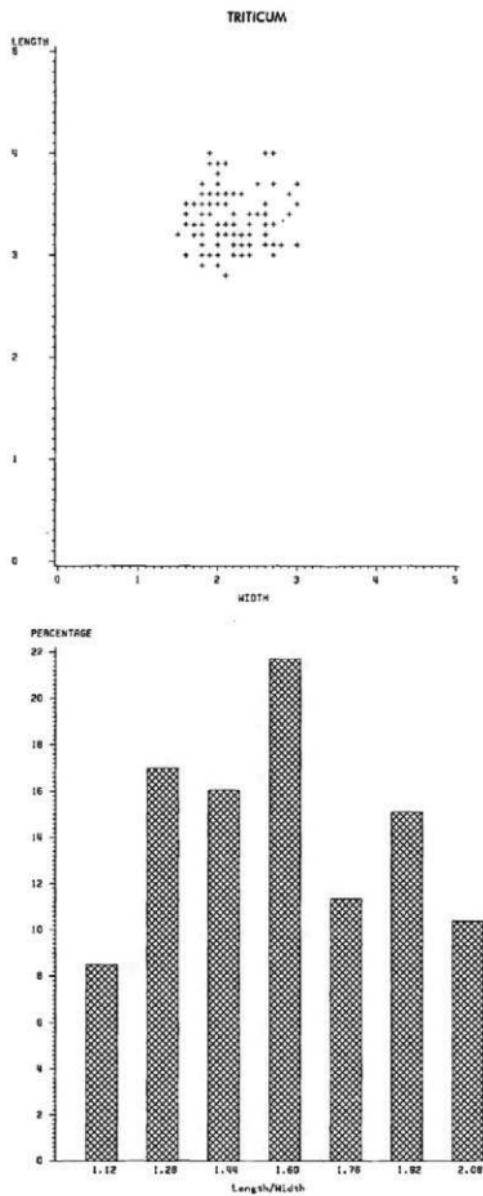
$n = 105$ , Mean L/W = 1.0, Mean L×W = 1.8×1.8 mm.



PL. II-25 Carbonized Barley: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.  
 $n = 63$ . Mean L/W = 2.2, Mean L × W = 5.9 × 2.7 mm.



PL. II-26 Carbonized Wheat: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.  
 $n = 106$ , Mean L/W = 1.5, Mean L × W = 3.4 × 2.2 mm.



at the time of writing. The mean length/width ratio (PL. 11-26) is between that reported for some compact forms and regular bread wheat [e.g. Janushevich 1984:275, 276; Van Zeist 1968:126, 128]. In a way, the Sakushu-Kotoni wheat is similar to emmer (*T. dicoccum*), which occasionally has carbonized seeds which are drop shaped. These caryopses are wider at the end opposite the embryo. Emmer caryopses are larger than the Sakushu-Kotoni specimens as well, and are not nearly so plump (L/W ratios of emmer are larger than 1.6 for the most part).

The half-dozen rice caryopses from Sakushu-Kotoni are all the short-grained variety, *japonicum*. One measurable seed is 4.1 by 2.6 mm. (length/width = 1.6). Sato (1971) classifies rice caryopses from over 100 Yayoi sites with length/width ratios between 1.3 and 2.0 as short-grained as well. All prehistoric rice so far recovered in Japan is *Oryza sativa* ssp. *japonicum*.

Within the 61 specimens of the legume, *Vigna*, two types are present. These are adzuki (6) and mung (7). No attempt has been made to separate the whole sample of beans into the two taxa; however, examples of each have been examined. Mung appears to be rare in the assemblage. A sample of 13 beans were measured and have mean (range) dimensions in millimeters of 6 (4.8 - 8.0), 4.1 (3.0 - 5.7) and 3.8 (2.3 - 5.0) mm.

One broken melon (8) seed has been identified. It is not measurable, but compares well with reference specimens of cultigen melon seeds. Not including this specimen, 5076 archaeological melon seeds from 102 sites have been reported in Japan (Fujishita 1984:64). 69% are from sites later than the Yayoi period (later than A.D. 300).

A few specimens of beefsteak plant (9) are in the Sakushu-Kotoni collection. The plant was likely used as an herb and for its oil producing seeds. This is a red-leaved form of the plant. A green leaved form (*P. frutescens* var. *japonica*:*egoma*) has seeds which are generally distinguishable from *shiso* seeds.

Another relatively abundant cultigen seed is that of hemp (10), a plant indigenous to central Asia (Bailey 1976:218; Simmonds 1976:203). This plant has several uses: as an oil, food, fibre and drug source. Hemp grown in the north is usually used for oil, food, and fibre. The Ainu used hemp in weaving clothing and making baskets.

### Discussion

This report has dealt with an initial presentation of the Sakushu-Kotoni-Gawa plant remains. A number of technical and interpretive aspects of the remains have not been attempted at this stage. For example, Dennell (1972) and Hillman (1984) have documented techniques for determining crop processing methods using among other factors, grain size variation as a clue to sieving procedures. Metric data have been presented here to describe intra-specific variation; a full documentation of such variation by sample will be required eventually.

One important aspect of this ongoing research is that at Sakushu-Kotoni we have incontrovertible evidence for an ancestral Ainu food production phase. This phase was suspected from a few sporadic discoveries of plant remains throughout Hokkaido, but confirmation did not exist until the research on this collection. References to the early evidence can be found in English in Aikens and Higuchi (1982:307) and Crawford (1983:25). Two discussions in Japanese are by Ishisaki (1975) and Okada and Yamada (1982). To briefly summarize the interpretive status of the few cultigen reports until 1982, either the cultigens were considered sporadic imports because the few reports until then were coastal, or there was, indeed, an early agricultural phase in Hokkaido. The nearly quarter of a million carbonized seeds from Sakushu-Kotoni from excellent context, demonstrate that the latter was the case. Rice paddies and dry fields are common in the area

(Ishikari Plain) today. The Plain receives an average annual precipitation of 1200 mm. Between May and September are 2600 cumulative mean temperature degrees (Hokkaido Development Bureau 1983). Rice, for example, today requires more than 2500. The local environment is quite suitable for agriculture today.

This interpretation raises several questions. When did this plant husbandry begin and how did it develop? What became of it? What role does plant husbandry play in understanding Ainu history? Regarding the last question, the Ainu were considered to be foragers until 1884. In that year, the Japanese government instituted a programme to encourage the Ainu to take up agriculture (Watanabe 1967:72). Agriculture seems not to have been entirely new to the Ainu. Apparently, some Ainu in the Tokapchi and Azuma Valleys had done some small scale farming (Watanabe 1972:41). According to Watanabe, households grew foxtail millet (*awa*) and barnyard millet (*hie*) in plots of 1000–2000 m<sup>2</sup> on river banks. Hayashi (1975), too, has examined ethnohistoric data and has interviewed Ainu elders concerning this problem. The Ainu, according to Hayashi's data grew *awa*, *hie*, barley, wheat, *azuki*, pea, *daiyu* (soy bean), *daikon* (radish), hemp, *negi* (leek or onion, *nabiru*?), cucumber, tobacco, a potato and two types of American squashes. Rice was known to the Ainu but was apparently imported. Naked barley was the most important of the *mugi* group which is also comprised of wheat (*komugi*) and hulled barley. Wheat was grown, but was not an important crop. All of these plants but *hie* (barnyard millet), according to Ainu myth, were introductions (*Ibid.*). Two legumes, *Vicia* and *Crotalaria* were reportedly harvested from gardens as well. This plant husbandry likely has a longer history in Hokkaido than previously suspected, a history needing considerable research.

Ten taxa of cultigen seeds appear in varying quantities in the samples. Another cultigen remain which has not been analyzed yet is the considerable quantity of barley and/or wheat rachis fragments. Including these fragments, the assemblage of carbonized plant remains are consistent with an interpretation that the Sakushu-Kotoni residents were involved in plant husbandry. Cultigen plants must have been an important part of their diet. No sickles, hoes or plough shares have been identified at the site yet, but the former are reported from three Ezo sites while the latter have been found at two Ezo sites (Okada and Yamada 1982).

Most of the cultigens at Sakushu-Kotoni are at their northernmost occurrences in prehistoric Japan. Foxtail millet, rice, melon and wheat are reported for the first time in prehistoric Hokkaido. Of these plants, rice and melon are so rare as to suggest they were not grown locally. I suspect, however, that they were grown at Sakushu-Kotoni but were not an important part of the plant husbandry system.

There are two cultigens conspicuous in their absence from the sample buckwheat (*Fagopyrum esculentum* or *soba*) and safflower (*Carthamus tinctorius* or *benibana*). A single carbonized buckwheat seed was recovered from the late Early Jomon Hamanasuno site in southwestern Hokkaido in 1974 (Crawford, Hurley and Yoshizaki 1976; Crawford 1983). Since then, pollen analysis from archaeological contexts suggests the presence of buckwheat in northern Japan by the Final Jomon (Yamada 1980) and buckwheat pollen is known from several Zoku Jomon and Ezo period sites on Hokkaido (Yamada 1975, 1978, 1979; Okada and Yamada 1982:28). The presence or absence of buckwheat husbandry in prehistoric Japan remains a problem. To compound the issue, preservation characteristics may influence buckwheat seed recovery. In the Netherlands, the earliest carbonized buckwheat (a single seed) comes from Dommelin (Van Vilsteren 1984:230). In later periods, the prehistoric buckwheat seeds are never carbonized and come from cesspits. Carbonized seeds do not occur at the same sites (*Ibid.*). Carbonized buckwheat reported from the Ezo site of

Tab. II-15 Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples: Seed Taxa as Percentage Total Number of Seeds per Sample

Grid	Pd	Rudbeckia	Trifolium	Cultigens								Wetland Grains/Greens				
				Unidentifiable	Millet	Panicum	(Klein)	Oryza	Vigna	Ciceraria	Canavalia	Polygonum	Echinochloa	Grevillea	Ranunc.	Chenopodi.
4-7	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
4-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-7	-	-	-	-	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	3.3
5-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-10	-	-	-	-	15.0	10.0	-	-	-	-	5.0	-	12.5	65.0	-	5.0
7-6	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-
7-8/9	-	-	-	-	-	-	15.0	-	-	-	-	-	2.0	4.7	-	-
7-9(33)	4	-	-	-	-	-	5.9	11.8	-	-	-	-	5.9	-	-	-
8-7	6	9.1	27.3	-	9.1	36.4	-	-	-	-	-	-	9.1	-	-	-
8-8	-	-	-	-	-	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-
8-9(32)	4	13.1	3.4	-	37.1	43.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-9(33)	-	21.2	8.7	-	26.2	42.7	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	-	-
8-8	6	-	-	-	-	-	91.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-10	-	-	-	-	25.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-9	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-13	-	-	-	-	59.1	36.4	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-
15-15	-	-	-	-	21.7	78.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16-11	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16-18	-	-	-	-	17.9	35.0	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-
16-22	-	-	0.1	-	-	-	10.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-19(23)	-	63.5	11.8	-	19.1	1.6	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-
17-11(24)	-	-	-	-	32.6	75.6	-	-	-	-	-	8.4	-	-	-	-
17-11(25)	-	6.1	-	-	17.7	81.8	-	-	-	-	-	0.4	-	0.1	-	-
17-11(26)	-	3.8	2.1	-	43.1	49.2	-	6.5	-	-	-	0.1	0.1	-	-	-
17-11(27)	-	2.5	0.3	-	38.6	51.4	-	-	-	-	-	2.4	0.5	0.2	2.3	-
17-11(28)	-	7.9	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	10.5	-	78.9	-	-
17-11(30)	-	21.5	10.7	14.0	44.2	7.8	-	-	-	-	-	0.5	-	-	-	-
17-11(31)	-	23.7	11.2	0.1	21.6	35.1	-	-	-	-	-	0.1	0.1	0.3	-	-
17-11(32)	-	4.3	1.1	-	59.8	33.7	-	-	-	-	-	0.1	0.2	*	-	-
17-12(11)	-	7.1	21.4	-	21.4	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-12(20)	-	0.5	1.3	-	66.8	26.6	-	9.3	-	-	-	-	1.8	-	-	-
17-16	-	-	-	-	42.9	14.3	-	-	-	-	-	-	21.6	-	-	-
19-9	-	-	-	-	33.1	42.3	-	-	-	-	-	-	31.6	-	-	-
19-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	1.7
19-13	-	0.9	1.7	7.8	36.2	27.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-15	-	11.6	1.2	-	18.4	65.1	-	-	-	-	-	-	-	0.3	-	-
19-16	-	26.4	7.1	-	11.5	53.4	-	-	-	-	-	0.1	-	0.2	-	-
19-18	-	-	-	-	50.0	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3	-	-	-
21-15	-	-	-	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	4.2	-	-	-
22-15	-	8.0	56.0	-	8.0	30.0	-	-	-	-	-	-	-	4.0	-	-
22-16	-	-	-	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-
22-18	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-12	-	-	-	-	-	30.0	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-14	-	-	-	18.2	38.2	-	-	-	-	-	-	-	18.2	-	-	-
20-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total Number	4	1143	4108	2058	34037	61800	6	62	1	10	186	429	106	30	140	5

at less than 0.01%

at less than 0.1%

Fleshy Fruits								Others								Weight(g)	Total Number
Solanum	Pyrus	Euphorbia	Rubus	Vitis	Astracida	Sambucus	Cornus	Busa	Ostrya	Patagonia	Allium	Uncertainable	Unknown				
-	56.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	2	
-	-	-	-	-	-	43.8	-	-	-	-	-	18.8	25.0	-	10.04	16	
11.1	-	-	-	-	-	66.7	-	11.1	-	-	-	11.1	-	-	0.61	3	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	10	
-	25.0	-	-	-	-	83.5	-	-	-	-	-	12.5	-	-	8	8	
-	-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	15.8	-	-	0.08	30	
8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	0.7	-	0.06	148	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	-	-	0.64	34	
-	-	-	-	-	-	55.9	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	11	
-	-	-	-	-	-	19.1	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	8	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	134	
-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.65	134	
-	-	-	-	-	-	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	12	
-	-	-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	a	2	
-	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.14	44	
-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	12.5	-	-	0.05	23	
-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	a	3	
-	-	-	-	-	-	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	0.06	28	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	11	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-	3.17	619	
-	-	-	-	-	-	28.6	-	-	-	-	-	18.2	-	-	31.23	41210	
-	-	-	-	-	-	45.5	-	-	-	-	-	1.3	-	-	0.06	5796	
-	-	-	-	-	-	0.8	-	1.0	0.3	-	-	-	-	-	0.18	3088	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	3955	
0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	-	0.01	7	
-	-	-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	12.05	7447	
-	-	-	-	-	-	0.3	0.1	-	-	-	-	0.4	0.1	-	0.16	23416	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.14	3088	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	26	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-	-	0.02	25	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.3	-	0.01	116	
0.1	0.1	0.3	*	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	-	0.3	0.3	-	0.50	118	
-	-	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	14	
-	-	0.2	-	-	-	42.9	-	-	-	-	-	-	-	-	0.75	1204	
-	-	0.2	-	-	-	1.3	-	0.1	-	-	-	0.4	-	-	0.01	7	
-	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	26	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	116	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	1.7	-	14.09	10836	
-	-	2.0	-	*	0.2	19.8	-	-	-	-	-	0.1	-	-	37.42	10960	
-	-	0.7	-	0.1	*	-	-	-	-	-	-	0.2	0.2	-	0.02	8	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	18	
-	-	-	-	-	-	160.0	-	-	-	-	-	-	-	-	a	4	
-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	10	
-	-	-	-	-	-	46.7	-	-	-	-	-	4.2	-	-	0.01	24	
-	-	-	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	0.10	25	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	5	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	1	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	11	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-	0.01	18	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	10	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	5	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	19	
-	-	-	-	-	-	25.3	-	5.5	33.3	-	-	-	-	-	a	3	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	a	5	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	-	-	0.02	50	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	0.01	6	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	5	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	16	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	-	-	0.05	42	
19	368	110	10	104	36	126	1	5	3	7	102	129	64	19688	116422		

Toyotomi (Kohno 1959) have now been identified as safflower (Crawford 1985; Crawford and Yoshizaki, in preparation). These are the seeds I reported as an unknown composite (Crawford 1983:25). Safflower is native to the Middle East (Knowles 1976:31) and is known to have been in western Japan by the eighth century (Yamazaki 1961).

The wild and weedy component of the plant assemblage likely represents fortuitous inclusions in the case of rare items and weed seeds and utilized plants in other cases. The knotweeds, grasses, dock and chenopod are useful as both grain and green, leafy vegetable food sources. Such seeds can also appear as a result of contamination during harvesting. All of the fleshy fruits but crowberry, which is not found in Sapporo or around Sakushu-Kotoni today, are likely part of the anthropogenic flora established around and in the Sakushu-Kotoni hamlet by the numerous ecologically disruptive activities of the inhabitants. Chinese lanternplant is an unconfirmed garden plant and may have become established in Hokkaido with the prehistoric introduction of cultigens.

This plant remain assemblage is somewhat similar to Late Woodland (Iroquoian) assemblage I am familiar with in Ontario, Canada. The comparison is appropriate because both Ontario and Hokkaido are northernmost occurrences of food production in their respective areas, and both Late Woodland and Ezo societies were unranked, maintained foraging as an important activity, and had similar technologies. All of the genera of fleshy fruits except for *Actinidia* and *Empetrum* are known from such Ontario sites (Crawford 1985; Monckton 1985). In addition, *Polygonum*, *Gramineae*, *Chenopodium*, *Rhus* and *Ostrya* are part of such assemblages. The habitats around plant husbandry oriented communities in Ontario are analogous to those from which the plant remains at Sakushu-Kotoni were derived. This further supports the contention of a local plant husbandry adaptation in Ezo period Hokkaido.

#### Acknowledgements

I would like to acknowledge the support of Yoshizaki Masakazu who facilitated my contribution to the over all Sakushu-Kotoni project. The Office of Research Administration of the University of Toronto provided a grant to support the plant remains analysis. I would also like to thank the staff of the Salvage Archaeology Center of Hokkaido University, and Hayashi Kensaku, Kikuchi Toshihiko, Okada Atsuko, Okada Hiroaki and Yokoyama Eisuke in particular, for their part in making this research come to fruition. Matsutani Akiko of Tokyo University made the original identification of rice from Sakushu-Kotoni. Hirakawa Yasuhiko and Tsubakisaka Yasuyo did the preliminary sorting of the flotation samples. The scanning electron microscope photographs were taken in the agriculture department of Hokkaido University with the assistance of Hirakawa Yasuhiko. Hiroto Takamiya and Jane Macaulay assisted me in the Toronto lab. A final note of thanks must go to Clara Stewart, who typed this chapter with her usual patience and skill.

## REFERENCES CITED

- Aikens, C. Melvin, and Takayasu Higuchi  
 1982 *Prehistory of Japan*. New York: Academic Press.
- Bailey, Liberty Hyde  
 1976 *Hortus Third*. MacMillan Publishing Co., Inc., New York.
- Barrett, Spence C.H.  
 1983 Crop mimicry in weeds. *Economic Botany* 37(3):255-282.
- Crawford, Gary W.  
 1985 Subsistence Ecology of the Seed Site. A Report on Ontario Heritage Foundation Grant ARG-156
- Crawford, Gary W.  
 1983 *Palaeoethnobotany of the Kameda Peninsula Jomon*. Ann Arbor, Michigan: Anthropological Papers, Museum of Anthropology, University of Michigan No. 73.
- Crawford, Gary W., William M. Hurley and Masakazu Yoshizaki  
 1976 Implications of plant remains from the Early Jomon Hamansuno site. *Asian Perspectives* XIX(1):145-148.
- Crawford, Gary W. and Masakazu Yoshizaki (in preparation)  
 Ainu Ancestors and Prehistoric Asian Agriculture.
- Dennell, R.W.  
 1972 The Interpretation of Plant Remains: Bulgaria. In *Papers in Economic Prehistory*, edited by E.S. Higgs, pp. 149-60. London: Cambridge University Press.
- Fujishita, Noriyuki  
 1984 *Shutsudo itai yuri mitsu ura-ka shokubatsu no sharui to henkan to sono ryōko* (Archaeological cucurbita types, temporal change and their use). In *Kobunkazai no Shizen-kagakuteki Kenkyū*, edited by Kobunkazai Henshu linkai, pp. 638-654. Tokyo: Dohisha.
- Hayashi, Yoshishige  
 1965 *Ainu no noko bunka* [Ainu Agriculturalists]. Tokyo : Keiyusha
- Hillman, Gordon  
 1984 Interpretation of archaeological plant remains: the application of ethnographic models from Turkey. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 1-42. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Hokkaido Development Bureau  
 1983 *Agricultural Development in Hokkaido*. Agriculture and Fisheries Department, Sapporo, Hokkaido, Japan.
- Ishizuki, Kiso  
 1975 *Satsumon shiki bunka ni okeru noko sakumotsu* [Agriculture Crops in the Satsumon Phase]. *Kodaigaku Kenkyū* 74:36-38.
- Janushevich, Z.V.  
 1984 The specific composition of wheat finds from agricultural centres in the USSR. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 267-276. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Kohne, Hiromichi  
 1959 *Hokkaido shutsudo no egata U jikei teki ni tsuite*. A u-shaped iron tool excavated in Hokkaido. *Hokkaido Gakugei Daigaku Kokugaku Kenkyukai Renrakushi*.
- Kotani, Yoshinobu  
 1972 *Economic Bases During the Later Jomos Period in Kyushu, Japan: A Reconsideration*. Ph.D. Dissertation, University of Wisconsin. Ann Arbor: University Microfilms.
- Monckton, Stephen  
 1985 Investigations into Huron paleoethnobotany: an interim report. On file at the Ontario Heritage Foundation.

- Ohnuki-Tierney, Eniko  
 1974 *The Ainu of the Northwest Coast of Southern Sakhalin*. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc.
- Ohwi, Jisaburo  
 1965 *The Flora of Japan*. Washington, D.C.: Smithsonian Institution.
- Okada, Atsuko and Goro Yamada  
 1982 *Hokkaido ni okeru noko no kigen ni kansuru yosatu* (A short note on the origin of agriculture in Hokkaido). In *Hokkaido ni okeru Noko no Kigen* (The origin of agriculture in Hokkaido) edited by T. Umehara, pp. 26-34. Sapporo.
- Sarashina, Genzo, and Koh Sarashina  
 1976 *Kotan seibutsu I* (Kotan Ethnobiology I). Tokyo: Hosei Daigaku Shuppan Kyoku.
- Simmons, N.W.  
 1976 Hemp. In *Evolution of Crop Plants* edited by N.W. Simmons, pp. 203-204. Longman: New York.
- Takahashi, R.  
 1964 Further studies in the phylogenetic differentiation of cultivated barley. *Barley Genetics I*: 19-26.
- Van Vilsteren, V.T.  
 1984 The medieval village of Dommelin: a case study for the interpretation of charred seeds from postholes. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 227-235. Rotterdam: A.A. Balkema.
- Van Zeist, W.  
 1968 Prehistoric and early historic food plants in the Netherlands. *Palaeohistoria* 14:61-173.
- Watanabe, Hitoshi  
 1967 Subsistence and ecology of northern food gatherers with special reference to the Ainu. In *Man the Hunter* edited by Richard Lee and Irven Devore, pp. 69-77. Chicago: Aldine.
- 1972 *The Ainu Ecosystem*. Seattle: University of Washington Press.
- Yamada, Goro  
 1975 *Teshio-kawaguchi iseki no kafun bunsaki* (Pollen analysis from the Teshio-kawaguchi Site). In *Teshio-kawaguchi Iseki*, pp. 50-53. Teshio: Teshio-Chō Board of Education.
- 1978 *Dojo shiryō no kafun bunsaki ni tsuite* (Pollen analysis from soil). In *Archaeological Research in the Naibetsu Basin*, pp. 131-133. Hokkaido: Chitose Board of Education.
- 1979 *Nayoro-chi Chitoh iseki no kafun bunsaki* (Pollen Analysis of the Chitoh Site, Nayoro). Nayoro: Nayoro Board of Education.
- 1980 *Iwate-ken Kitakami-shi Kunenbashi iseki no kafun bunsaki ni tsuite* (Analysis of Pollen from the Kunenbashi Site, Kitakami, Iwate Prefecture). In *Kunenbashi Site, Report Number 6*, edited by the Kitakami board of Education, pp. 63-75. Kitakami: Kitakami Bunkazai Chosa Hokoku, No. 29.
- Yamazaki, Akira  
 1961 *Kusaki-zome* (Dyeing with Natural Materials). Kanagawa: Getsumei-kai.
- Yoshizaki, Masakazu and Okada, Atsuko  
 1984 *Kobogaku ni okeru Ezo-chi*.  
 In *Sose no Sekai*, 49: pp. 80-105 Shogakukan, Tokyo.

## VI-10 [炭化材]

### ① 炭化材の樹種鑑定結果

堅穴、土壌、焼土・炭化物集積遺構より出土した炭化材は、原形に近い形状を維持しているものと、土壤中に混じり合っている木片があるため、前者で取上げ法を変え、前者についてはペインダー #17を含浸させ1点ずつ、後者については浮遊選別法により各遺構ごとに一括して取り上げを行なった、それらの炭化材の出土地点や数の内訳は以下の通りであるが、浮遊選別材については出土量把握の目安としておおよその重量を示す。しかし、この値には木粉等も大量に含まれているためあくまでも目安であることに注意されたい。

#### ① バインダー含浸材 (62点)

- a, 2号堅穴住居跡 7点
- b, 3号堅穴住居跡 45点
- c, 2号土壌 10点

#### ② 浮遊選別材

a, 2号堅穴住居跡	覆土	約23kg
	かまと	約50g
	かまとまわり	約1kg
	煙道	約70g
b, 3号堅穴住居跡	覆土	約340g
c, 土壌	1号	約900g
	3号	約50g
	4号	約460g
	5号	約340g
	6号	約260g
d, 炭化物集積遺構(炭化物マウンド)		約5.5kg
e, 焼土・炭化物(33箇所)		約3.5kg
(16, 18, 19, 21, 22, 25, 27, 30, 32, 37, 38, 40, 41, 43, 44, 47, 48, 49, 51, 52, 54, 58, 59, 60, 61, 62, 64, 65, 68, 69, 70, 71, 72)		

これらのうち、ペインダー含浸材については全点を、浮遊選別材については各地点ごとに適量を選び出し、樹種鑑定を行なった。浮遊選別材は、木粉等も含めてはあるが検体全量が約35kgにも達するため、大体の樹種構成が把握された時点で鑑定を打ち切った、そのため少數個体樹種については見落しの可能性も否定できない、しかし、検索個体の全重量は約2.2kgに達し、検体(木片)1個の重量は0.5kg以下であることから、検体個数は4,400点以上にも上るため、樹種構成等の観察はほぼ把握できたものと考える。

樹種鑑定の方法は以下のとおりである。

ペインダー含浸材からは1cm程度の木片を割り振り、浮遊選別材については木片をそのまま実体顕微鏡で観察、同定し、同定困難なものについては走査型電子顕微鏡(SEM)で

観察した。浮遊選別材については、無作為に選び出した木片の鑑定により樹種構成の一般傾向を把握してから、少数個体樹種の見落しがないよう肉眼的に質観の異なるものをできるだけ多く選び出し、鑑定を進めた。

SEM観察試料の調整方法は、気乾状態の木片を、まず軸方向と直角方向に折り、一方を木口面観察試料とする、次に、残りの木片に片刃カミソリでわずかに切れ込みを入れ、剖裂し、板目又は粂目面を露出させ、縦断面の観察試料とした。炭化材のSEM観察表面の露出には、刃物で切るのではなく、試料を割るか折る方法が効果的である。その後、試料を導電性ペーストでSEM試料台に貼付け、イオンスパッタリング法により金を7 mA, 1 KV, DC, デコーティングした。時間は7～15分間であるが、チャージアップの発生が著しい場合にはさらにコートィングを加えた。炭化材では、一般的に知られているイオノスパッタリングによる試料損傷は少く、コートィング時間の延長に特に問題はない。SEM観察には、JSM-35CFⅡを用い、加速電圧15KV～25KVで観察した。写真撮影用フィルムはネオバン S S (6 × 7 cm) である。

バインダー含浸材62点と浮遊選別材を鑑定した結果、20科、25属を同定し、そのうち5属については種のレベルまで同定することができた。それらを既述の項目別に炭化材の表1に示す。樹種構成は、針葉樹3属、広葉樹22属、フル性植物1属（2属以上の可能性もある）であり、他に同定できなかったものが草本類も含め数種ある。各樹種の同定の根拠、組織・構造等については、第Ⅳ章の10-2を参照されたい。

以下には、炭化材の表1の各項目別に樹種鑑定結果の概略を記す。重量の単位はgである。

### ① 2号堅穴住居跡

#### a バインダー含浸材

バインダー含浸材全7点中の内訳は、トネリコ、ヤナギ、クルミの各属が順に、5:1:1点であり、トネリコ属個体が多い。

#### b 覆土

15属が認められ、多いものから順に、トネリコ、クルミ、カエデ、ニレの各属で、重量比は635, 65, 10, 5であり、他はキハダ、ニガキ、ヤナギ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、サクラ、ニシキギ、ミズキの各属が少量認められた。量的には、トネリコ属が圧倒的に多いのが特徴である。樹皮も7とかなり多い。

#### c かまと

12属が認められ、トネリコ属が3とやや多く、ニレ、ニシキギ、モミ、クルミ各属が2程度であり、コナラ、タツ、ハコヤナギ、ヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレンの各属が少量認められた。しかし、量的には、各樹種間で特に大きな差はない。樹皮もわずかに認められた。

#### d かまとまわり

13属認められた中で、特に多いのはトネリコ属の260であり、やや多いのはニレ、ヤナギ、クルミの各属でフル性植物で、重量比は8, 5, 5, 5であった。その他のものは少なく、コナラ、タツ、イスエンジュ、カバノキ、カツラ、モクレン、ニシキギ、ミズキ、ニワトコの各属が認められた。

#### e 煙道

2属認められたがフル性植物がやや多く、タツ、ヤナギ属がわずかに認められたにすぎず、炭化材は極めて少なかった。

### ② 3号茎穴住居跡

#### a バインダー含浸材

全45点の内訳は、トネリコ属が29点と多く、以下、ヤナギ：4、キハダ：3、カバノキ：3、ニレ：2、クルミ：2、カエデ：1、クワ：1の順であった。

#### b 覆土

12箇認められた中で量的に多いものは、ニレ：13、キハダ：5、トネリコ：3、ヤナギ：3の順であり、他の各属、クワ、イヌエンジュ、クルミ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、サクラ、カエデ、フル性植物は1～2と少量であった。

### ③ 土壌

#### a 1号土壤

12箇中、トネリコ属が10と多く、ヤナギ、ニワトコの各属が3とやや多い。その他は少量であり、モミ、ニレ、エノキ、クワ、キハダ、クルミ、ハンノキ、ニシキギ、カエデの各属とフル性植物であった。

#### b 2号土壤

全10点中でヤナギ属が7点を占め、他にはニレ、キハダ、アジサイの各属が1点ずつであった。

#### c 3号土壤

7属中でやや多いのがハンノキ属であるが、他と大きな差はない。他にはニレ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、カエデが認められた。

#### d 4号土壤

15箇中、ヤナギ属が5と多く、ニレ、トネリコ、クルミの各属が2～3とやや多い。その他は少量で、イチイ、コナラ、エノキ、クワ、ニガキ、トネリコ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、サクラ、ニワトコの各属とフル性植物が認められた。樹皮も8とかなり多いが、樹種の特定はできない。

#### e 5号土壤

15箇中、多いものはニワトコ、ヤナギの各属が各々5であり、ニレ、トネリコの各属も各々3とやや多い。その他は少量で、モミ、トウヒ、コナラ、イヌエンジュ、キハダ、クルミ、カバノキ、カツラ、サクラ、ニシキギ、カエデの各属とフル性植物が認められた。樹皮も5と多く、他に、草本類も少數認められた。

#### f 6号土壤

10箇中多いものはトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が順に、8、5、5、5であり、その他のクワ、イヌエンジュ、カバノキ、ハンノキ、カエデ、ニワトコの各属は少量であった。樹皮も3とやや多く、草本類も少數認められた。

各土壤間では、トネリコ属の多いもの（1号、6号）、ヤナギ属の多いもの（1号、2号、4号、5号、6号）等、変化に富み、窓穴のバインダー含浸材や覆土材でトネリコ属が多いのとは様相を異なる。また、草本と考えられる炭化物が認められる。

### ④ 炭化物マウンド

本遺構内では、炭化物層も複数に入り組み、ある樹種では遺構内で偏在する等の傾向が認められるため、1×1mの小グリッドごとにわけて鑑定を行なった。

遺跡内でも最高の20箇が認められ、ニレ、ヤナギ、トネリコ、クルミ各属の順に多く、量は、85、78、67、36であった。その他としては、モミ、コナラ、エノキ、クワ、イヌエンジュ、キハダ、ハコヤナギ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、モクレン、アジサイ、サクラ、カエデ、ニワトコの各属とフル性植物が認められた。遺構内では、北側に偏

在する樹種（モミ、クルミの各属）、南側に偏在する樹種（エノキ、キハダ、アサダ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、カエデの各属）、やや西側に偏在する樹種（コナラ、カツラ、サクラの各属）がある。他に、わずかではあるが草本も認められた。

### ⑤ 燥土・炭化物

- N<sub>16</sub>：全 8 属、ヤナギ属がやや多い。その他はニレ、エノキ、クワ、トネリコ、クルミ、ハンノキ、ニワトコの各属とツル性植物。
- N<sub>18</sub>：ヤナギ属が少量。
- N<sub>19</sub>：全 6 属、ニレ属やや多い。その他はヤナギ、クワ、キハダ、トネリコ、ニワトコの各属が少量。
- N<sub>21</sub>：全 10 属、ニレ属やや多い。その他は、イチイ、エノキ、クワ、トネリコ、ヤナギ、カツラ、サクラ、カエデ、ニワトコ、の各属とツル性植物。樹皮も多い。
- N<sub>22</sub>：ヤナギ属とツル性植物が少量。
- N<sub>25</sub>：全 7 属、量的差異はない。ニレ、クワ、ヤナギ、クルミ、カバノキ、サクラ、ニワトコの各属。
- N<sub>27</sub>：コナラ、ヤナギ、サクラ、ニワトコの 4 属、量的差異はない。
- N<sub>30</sub>：全 6 属、量的差異はない。ニレ、クワ、イスエンジュ、トネリコ、ヤナギ、カエデの各属。
- N<sub>32</sub>：ニレ、トネリコ、ヤナギの各属にツル性植物、量的差異はない。
- N<sub>37</sub>：イスエンジュ、ヤナギ、ニワトコの 3 属が少量。
- N<sub>38</sub>：ヤナギ属が少量。
- N<sub>40</sub>：ハンノキ属のみ。
- N<sub>41</sub>：全 6 属、ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、カバノキの各属とツル性植物、量的差異はない。
- N<sub>43</sub>：全 11 属、トネリコ属が 15 と多く、ニレ属も 3 とやや多い。他は少量で、クワ、キハダ、ニガキ、ヤナギ、クルミ、アサダ、ハンノキ、サクラ、カエデの各属とツル性植物。
- N<sub>44</sub>：ツル性植物のみであるが、ブドウ属とは、若干異なる。
- N<sub>47</sub>：全 6 属中、ツル性植物が 5 と多く、他は少量。ニレ、トネリコ、ヤナギ、アサダ、ハンノキ、ニワトコの各属、樹皮も 5 と多く、草木類も少量。
- N<sub>48</sub>：ニレ、ヤナギ、クルミ、ニワトコの 4 属で量的差異はない。
- N<sub>49</sub>：全 5 属中、ニワトコ属が 5、ツル性植物も 6 と多く、コナラ、ヤナギの各属も各々 3 とやや多い。他にはカエデとアジサイの各属が少量。
- N<sub>51</sub>：ヤナギ属とツル性植物。
- N<sub>52</sub>：全 12 属中、トネリコ属が 15 と多く、ニレ、クルミの各属も各々 3 と多い。他には、ヤナギ属が 3、コナラ、カエデ、ニワトコの各属が 2 とやや多く、トウヒ、クワ、イスエンジュ、ハンノキ、ニシキギの各属とツル性植物は少量。
- N<sub>54</sub>：全 6 属、ヤナギ属がやや多い。ニレ、クワ、トネリコ、カエデ、ニワトコの各属は少量。
- N<sub>58</sub>：全 7 属、量的差異はない。ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、ハンノキの各属とツル性植物。
- N<sub>59</sub>：全 6 属、量的差異はない。ニレ、クワ、トネリコ、クルミ、カバノキ、カエデの各属。
- N<sub>60</sub>：サクラ属のみ。
- N<sub>61</sub>：ヤナギ、ニワトコの各属。

- N<sub>62</sub> : 3 属のみであるが、トネリコ属が15と多い。他にはニレ、クルミ各属が少量。
- N<sub>64</sub> : 全4属、量的差異はない。ニレ、クワ、イヌエンジュ、ヤナギの各属とツル性植物。
- N<sub>65</sub> : ニレ、クワ、トネリコ、ヤナギの4属で、量的差異はない。
- N<sub>68</sub> : 全8属中で、ヤナギ属が3とやや多い。その他は少量で、コナラ、ニレ、クワ、イヌエンジュ、トネリコ、ハンノキ、カエデの各属とツル性植物。
- N<sub>69</sub> : ヤナギ、カエデの各属。
- N<sub>70</sub> : 全10属中、トネリコ属が20と多く、ヤナギ、カエデの両属も5と多い。他は少量で、コナラ、ニレ、エノキ、クワ、イヌエンジュ、カツラ、コワトコの各属とツル性植物。
- N<sub>71</sub> : ヤナギ属とツル性植物。
- N<sub>72</sub> : 全9属中、トネリコ属が15と多く、クルミ属もやや多い。他は量的差異がなく、クワ、ハコヤナギ、ヤナギ、ハンノキ、カツラ、モクレン、ニワトコの各属とツル性植物。

焼土では、炭化材のない遺構や12属あるものまで、また樹種間で量的差異のないものからかなり大きいものまで、樹種数や個体数が各遺構ごとに多様である。しかし、トネリコ属に関しては若干の傾向が認められる。トネリコ属が他の樹種より多い遺構は、N<sub>43</sub>, 52, 62, 70, 72の5地点であるが、それらは全て遺跡の西側に偏在している。また、これら5地点では、N<sub>62</sub>を除き、全て1地点内で10種以上と樹種数も多い地点である。また、1地点内で1~2属のみと少ないのは、N<sub>18</sub>, 22, 38, 40, 44, 51, 60, 61, 69, 71の10地点であるが、樹種は、ヤナギ、ハンノキ、サクナ、カエデ、ニワトコの各属とツル性植物のうちのいずれかであり、焼土全体としては量的に多く認められたトネリコ、ニレ、クルミの各属を含まないのが特徴である。

Tab. II-16においては、各樹種の出土遺構数および各遺構ごとの樹種数も示したが、各樹種の遺跡内での分布の様相をPL. II-27~30に示す。

出土遺構数は、検索全47個所（バインダー含浸材3、浮遊選別材44）中で最も多く認められたのが、ヤナギ属の42個所であり、以下ニレ属：31、トネリコ属：28等の順であり、最も少いものは、イチイ属：2、トウヒ属：2、ミズキ属の2個所等であった。

また、各遺構内の樹種数は、ツル性植物を含めて炭化物集積遺構内（炭化物マウンド）での21を最高に、5号土壤：16、2号堅穴住居跡覆土：15、4号土壇：15等で多く、焼土内では全般的に樹種数は少なく、1種のみの遺構が5個所ある。

以上に樹種鑑定結果の概要を記したが、遺跡全体の炭化材量の樹種別の比較の目安として、検索済炭化材量を多いものから順にTab. II-17に示す。

浮遊選別材の重量は、各遺構ごとに無作為抽出し、鑑定を行っていることから、各樹種ごとの炭化材量比較の目安となりうるが、原形での個体数把握の根拠とはならない。例えば、大怪材一本と小枝材二本では、前者が大量に認められるものの、個体数はあくまで一点である。また、同条件で炭化した場合には、大怪材の残存率が明らかに高いものと推定され、また、樹種的にも差があるものと考えられる。従って、個体数が重要な意味を持つ場合には、この種の炭化材量の値は参考とならない。

しかし、本遺跡中の炭化材については、堅穴等の構造材と推定される材についてはバインダー・含浸させ個体数が把握されており、その他については、燃料用材が大部分であるものと思われ、利用樹種やその中の主要樹種の概略が分れば十分であるように思われる。

先の例であれば、個体数が仮に少ないとても、大径材であれば、主要利用樹種と考えて問題ないであろう。

遺跡全体の炭化材量は、多いものから順に、トネリコ、ヤナギ、ニレ、クルミ、カエデの各属でありTab.Ⅱ-17、中でもトネリコ属は堅穴で特に多く、その他の遺構においても全体的にみれば主要な材である。また、ヤナギ、ニレ、クルミの各属も各遺構が多く、やはり主要樹種といえるであろう。しかし、既述したように、各遺構ごとに利用樹種や主要樹種に違いがみられ、各遺構ごとに検討の要があることはいうまでもない。また、出土炭化材全量からみれば、堅穴内覆土については全量の約5%、同様に土壙では8%、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では9%、燒土では15%を検索したにすぎず、あくまでも一般傾向を把握したにすぎない。

以上の結果を基に、既述の項目別に炭化材について検討を進める。

#### ▶ バインダー含浸材と覆土材

家屋等の構造材の一部と考えられるバインダー含浸材は、堅穴中では、2号で7点中5点、3号で45点中29点がトネリコ属であり、トネリコ属が堅穴に共通の構造材の主要樹種であるものと考えられる。また、2号堅穴の他2属、ヤナギとクルミは、3号堅穴でも認められており、両堅穴に共通の構造材としては、トネリコ、ヤナギ、クルミの3属が挙げられる。これらの事実からも、両堅穴の家屋建築様式は樹種的な意味で類似しているも

Tab.Ⅱ-16 炭化材の樹種

No.	属名	代表的樹種	出土 遺構数	2号堅穴住居			3号堅穴住居			土壙		
				2号 堅穴 点数	魔土 かまと 点数	燒土 かまと 点数	魔土 かまと 点数	燒土 かまと 点数	魔土 かまと 点数	燒土 かまと 点数	魔土 かまと 点数	燒土 かまと 点数
1	イチイ ( <i>Taxus</i> )	イチイ*	2								○	
2	モミ ( <i>Abies</i> )	トドマツ	4		○				○		○	
3	ヒュヒ ( <i>Picea</i> )	アカエゾマツ	2								○	
4	コナラ ( <i>Quercus</i> )	ミズナラ	10		○	○					○	
5	ニレ ( <i>Ulmus</i> )	ハルニレ	31	○	○	○	○(2)	○	○	○(1)	○	○
6	エノキ ( <i>Celtis</i> )	エゾエノキ	6						○		○	
7	タガ (Morus)	ヤマタガ	25	○	○	?	?(1)	○	?		○	
8	イヌエンジニア ( <i>Moraceae</i> )	イヌエンジニア	11		○				○		○	
9	キハダ ( <i>Phellodendron</i> )	キハダ	12		○		○(3)	○	○	○(1)	?	○
10	ニホノキ ( <i>Picea</i> )	ニホノキ	3	○						?		
11	トネリコ ( <i>Fraxinus</i> )	ヤチダモ	29	○(5)	○	○	○(2)	○	○	○	○	○
12	ハコヤナギ ( <i>Populus</i> )	ドロノキ	5	○	○						○	
13	ササギ ( <i>Salix</i> )	エゾカワヤナギ	42	○(1)	○	○	○	○(4)	○	○	○(7)	○
14	クラン ( <i>Juglans</i> )	オニグル	21	○(1)	○	○	○(2)	○	○	○	○	○
15	アザダ ( <i>Ostrya</i> )	アザダ	4					○				
16	カバノキ ( <i>Betula</i> )	シラカンバ	12		○	○	○	○(3)	?		?	○
17	ハンノキ ( <i>Aleurites</i> )	ハンノキ	16		○	?			○	○	○	○
18	カツラ ( <i>Cercidiphyllum</i> )	カツラ	7			○				?	?	
19	モクレン ( <i>Magnolia</i> )	ホオノキ	5		○	○	○					
20	アンサイ ( <i>Hydrangea</i> )	ノリウツギ	4		○					○(1)		
21	カラマツ ( <i>Pinus</i> )	エゾヤマカラマツ	10	○				○		○	?	
22	ニシキギ ( <i>Elaeagnus</i> )	マユミ	6	○	○	○			○		○	
23	カエデ ( <i>Acer</i> )	イタヤカエデ	18	○			○(1)	○	○	○	○	
24	ミズキ ( <i>Cornus</i> )	ミズキ	2	○	○							
25	エウトコ ( <i>Sambucus</i> )	エウトコ	20		○			○		○	○	○
26	フルボ植物 ( <i>Vitis</i> 等)	ヤマブドウ等	24		○	○		○	○	○	○	
樹種数				3	15	12	14	3	8	13	13	4
												10

注1. バインダー含浸材には(•)内に点数表示をした。

2. ?はやぶ確実なもの

3. 権名が同定されたものは•印

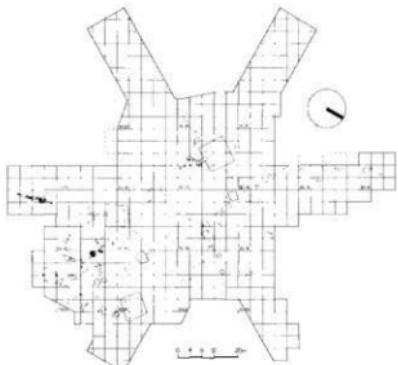
のと考えられるが、それでは、3号穴の他のペインダー含浸材樹種（ニレ、タク、キハダ、カバノキ、カエデの各属）は2号でも使用されていたのだろうか、ここで一つのがかりとなるのが兩十材の鑑定結果である。

2号窓穴覆土中では、トネリコ属が多く、タルミ属も多い。また、3号窓穴でもバインダー含浸材樹種8属は全て覆土中に含まれ、ニレ、キハダ、トネリコ、ヤナギの各属は量的にも多い、即ち、覆土中には構造材の一部が混入し、覆土材樹種の一部は構造材樹種を反映しているものと推定される。3号窓穴では覆土中のトネリコ属材が2号程多くないが、これはバインダー含浸材が2号に比較して多いことからみて、構造材の覆土への混入が少なかったものであろう。そこで、先の3号窓穴のバインダー含浸材の残り5樹種を2号窓穴の覆土材と比較すると、それらは、クワ属を除き全て覆土中に認められ、かつニレやカ

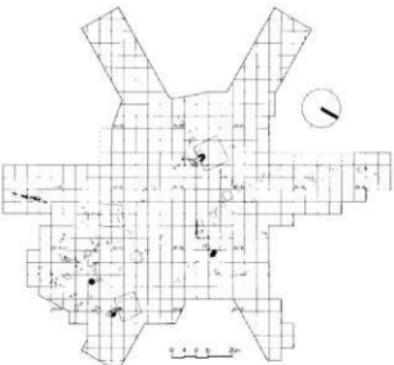
Tab. II-17 檢索清潔化材質

属名	代表的樹種名	全量	茎穴内	土壤	炭化物集積遺構	焼土
トネリコ	ヤチダモ	1,128 g	901 g	23 g	67 g	137 g
ヤナギ	エゾノカワヤナギ	163 g	10 g	19 g	76 g	56 g
ニレ	ハルニレ	165 g	28 g	13 g	85 g	39 g
クルミ	オニグルミ	137 g	73 g	10 g	36 g	18 g
カエデ	イタヤカエデ	33 g	11 g	5 g	1 g	16 g
その他(21属)		637 g	53 g	84 g	250 g	250 g
計		2,263 g	1,076 g	154 g	517 g	516 g

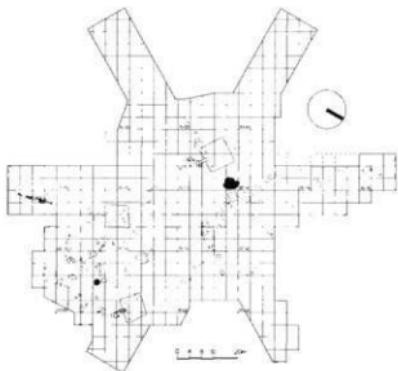
## PL. II-27 炭化材の樹種別分布(①)



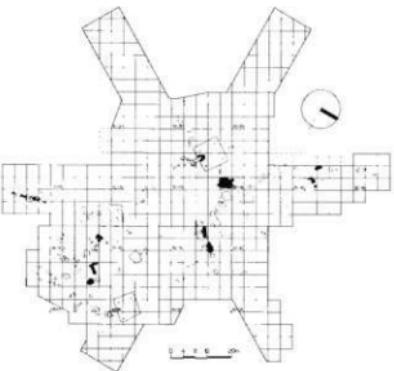
1 イタイ



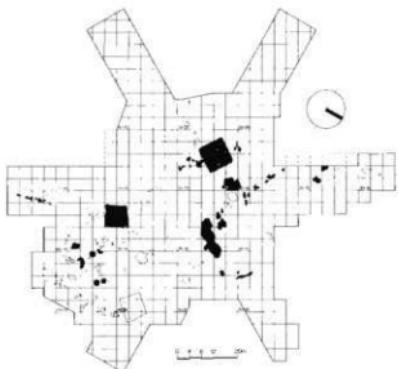
2 モミヶ原 (トドマツ等)



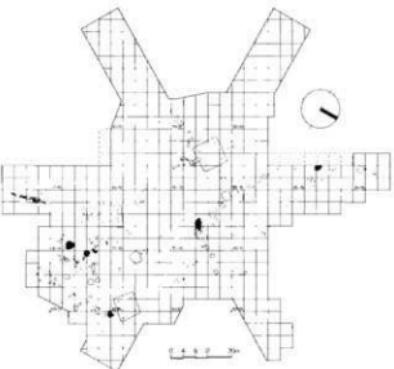
3 トウビヶ原 (アカエゾマツ等)



4 コナラヶ原 (ミズナラ等)



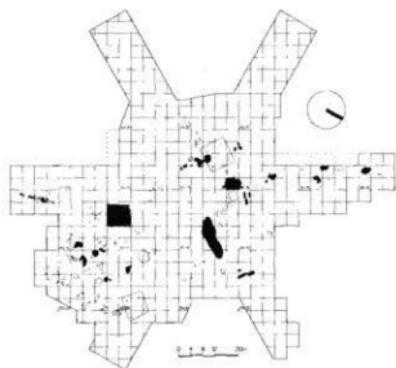
5 ニレヶ原 (ハルニレ等)



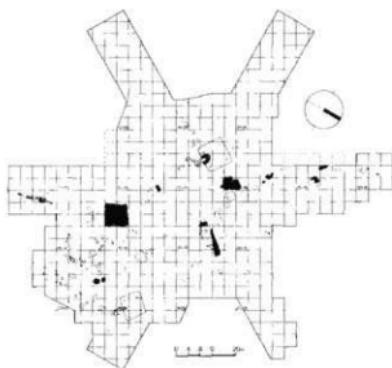
6 エノキヶ原 (エノキ等)

(注: ミズナラは、羽衣上中およびカツラ生れりに認められたが図からは削除した)

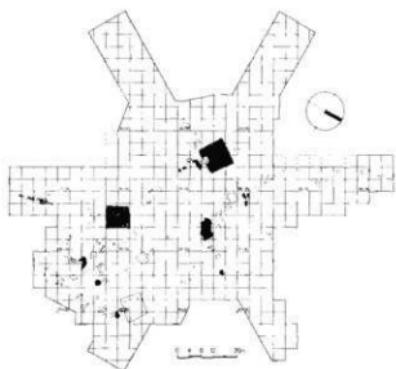
PL. II-28 岩化材の樹種別分布②



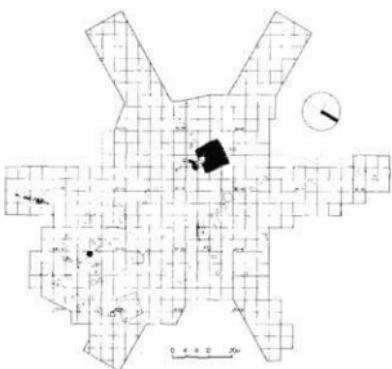
7. クワ属 (ヤマクワ等)



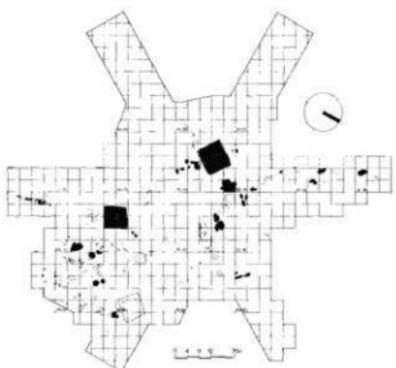
8. イヌエンジュ



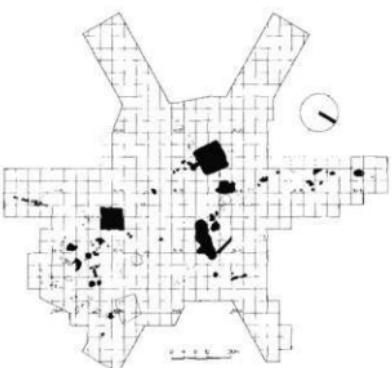
9. キハダ属 (キハダ等)



10. ニガキ

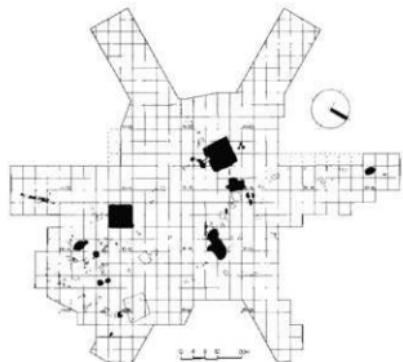


11. トキリコ属 (ヤチダ等)

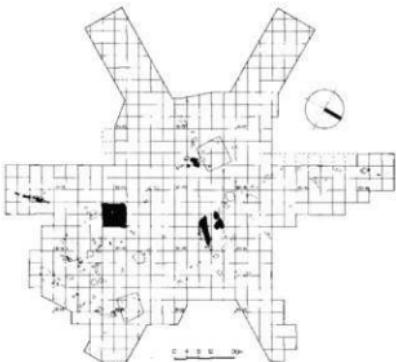


12. ヤツギ科 (ドロノキ, エゾノカツラセナギ等)

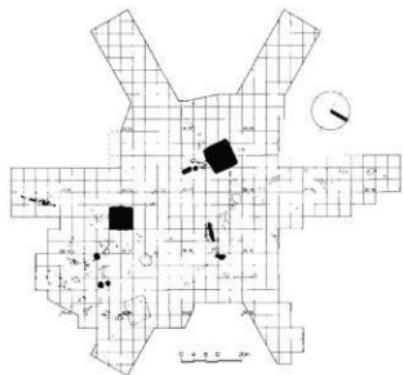
PL. II-29 炭化材の樹種別分布③



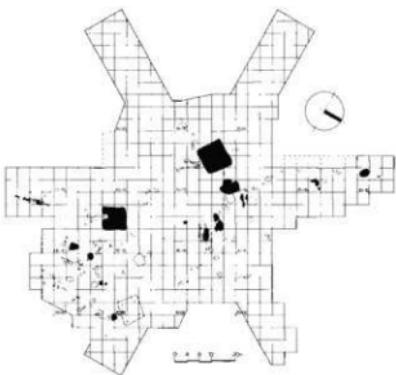
13 オニグルミ



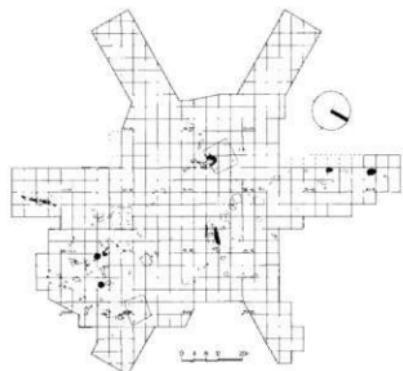
14 アサダ



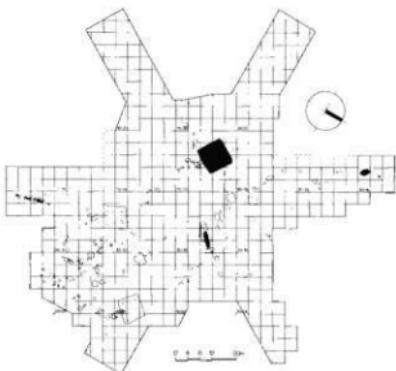
15 カバノキ属（シラカンバ等）



16 ハンノキ属（ハンノキ等）

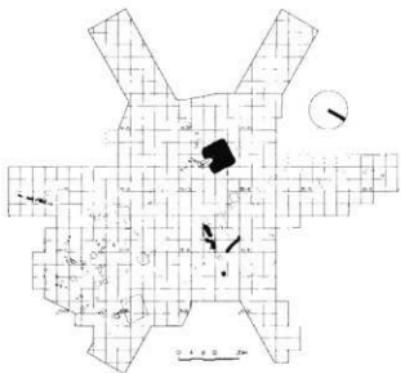


17 カツラ

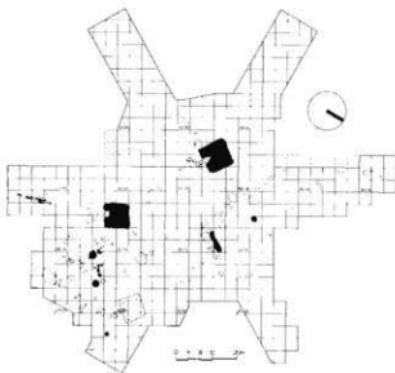


18 モクレン属（ホオノキ等）

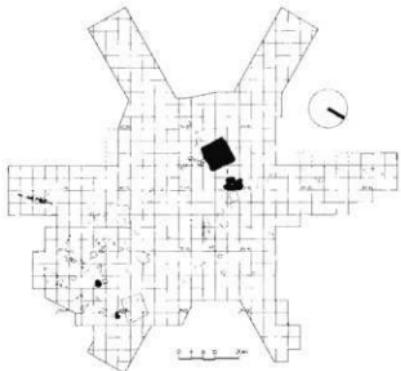
PL. II-30 炭化材の樹種別分布④



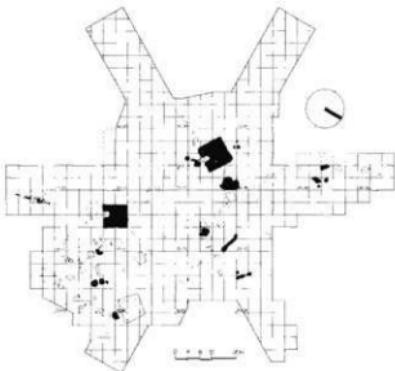
19 アジサイ属 (ノリクワガ等)



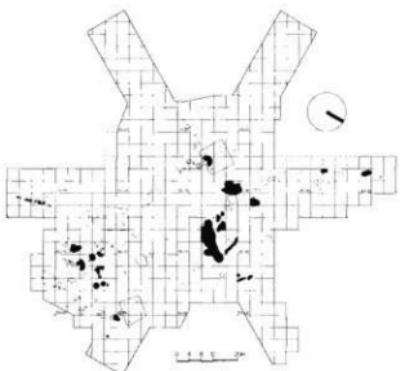
20 サクラ属 (エゾヤマザクラ等)



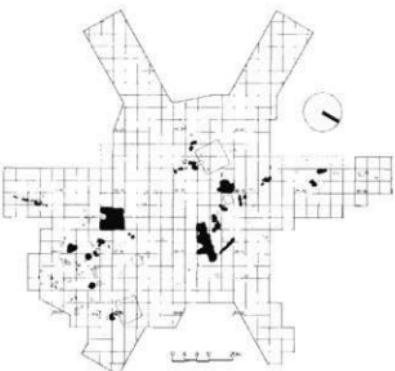
21 ニシキギ属 (ニユヒ等)



22 カエデ属 (イタヤカエデ等)



23 ニワトコ属 (エゾニワトコ等)



24 ツル性植物 (セツグドク等)

エデも多いことから、2号窓穴においてもそれらが構造材として使用されていた可能性が強いように思われる。これから的事実からみれば両窓穴の家屋建築様式は、樹種的には類似し、構造材としてはトネリコ属が大部分を占め、補助的にニレ、クリ、キハダ、クルミ、カバノキ、カエデの各属が使用されていたものと推定される。覆土中のその他の樹種も構造材として利用されていた可能性があるが、量的に少なく、道具や薪材である可能性の方がより高いように思われる。

窓穴ではトネリコ属が主要樹種であるのに対して、2号土壌ではバインダー含浸材10点中7点がヤナギ属と、窓穴とはやや異なる樹種選択であり、やや異なる性質の構造物であったかもしれない。しかし、2号土壌中のニレ、キハダ、ヤナギの各属は3号窓穴の構造材としても認められており、主要樹種は異なっていても、全く異なる樹種が利用されているわけではない。2号土壌中で認められたアジサイ属はノリウツギと推定されるが、小個体であり、道具類の一部と考えられる。これはテシ中で認められたヤス・中柄と同一樹種であり興味深い。

バインダー含浸材が構造材であるものとの前提で考察してきたが、テシとその周辺から出土した材と比較するならば、さらに興味深い事実が認められる。テシ中の薪材の施材はトネリコ属であり、その上流域から出土した割材はキハダ属であった。これら2属の個体は当時の家屋構造材の一部と考えて問題ないものと思われ、これらが3号窓穴の構造材と一致することは、テシと周辺部窓穴との関係を知る上で大きなかかりとなるように思われる。

#### ▶カマド材、カマドまわり材、煙道材

カマド材は燃料用材と考えられるが、12箇中でトネリコ属がやや多い程度で、樹種ごとの量的差は少なく、針葉樹、広葉樹等幅広く利用していたものと考えられる。多くの場合、年輪の曲率からみて枝材が多く、比較的出土地点数の少ない樹種（セミ、コナラ、モクレン、ニシキギの各属）をも含むのが特徴である。また、範囲中で頻繁に認められるニワトコ属、ツル性植物を含まないのも特徴である。

カマド材は、ある程度炭化し燃え残りが蓄積された時点で窓穴外へ捨てられたであろうが、場所としては、全12箇中11箇を共有する炭化物集積遺構（炭化物マウンド）の可能性が高いかもしれない。

カマドまわり材は、13箇と多いが、トネリコ属が極端に多いのは、覆土材の一部が混入したのかもしれない。ツル性植物が多いのは、カマド材の一部とも考えられず、用途は不明である。

煙道では殆ど炭化材は認められない。

#### ▶土壤材

土壤材は各遺構ごとに構成樹種も異なり、また主要樹種も異なるなど変化に富み、各構の性格付けを木材からの情報だけで行なうのは困難である。しかし、4号と6号では、量的にトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が多く、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似している。また、1号と5号では、トネリコ、ヤナギ、ニワトコが量的に多い点、さらに出土地点数の少ないセミ、ニシキギの各属を含む等の点においては、類似している。2号と3号は、樹種数も少なく、他とはやや性格の異なる遺構のようである。

#### ▶炭化物集積遺構（炭化物マウンド）

炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では、小グリッドごとの検索により、遺構内で分布

傾向の異なる樹種が認められたが、それらは特に他の遺構との関係を示すものではない。炭化材全体で全25属のうち他遺構にあって本遺構にないものは、イチイ、トウヒ、ニガキ、ニシキギ、ミズキの5属であり、全て出土遺構数の少ない樹種である。炭化材量や樹種数が多い点において本遺構は遺跡中でもかなり重要な意味を持つ遺構であろうが、樹種的には他の全ての遺構のそれをカバーしてしまうため逆に他遺構との関連性について言及するのが困難である。既述したように、主要樹種は堅穴の構造材とはやや異なっており、燃料用材を代表する遺構であるといえるかもしれない。

#### ▶ 焼土・炭化物

焼土は既述したように、各遺構ごとで樹種構成等が多様であるが、No16, 43, 52, 58の4地点では、トネリコ、ヤナギ、ニレ、タルミの4属を全て含む点において焼土以外の他の遺構と類似している。中でもNo52は、これら4樹種が量的に多く、堅穴内覆土や炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似しているが、コナラ、ニワトコの各属やフル性植物を含む等の点においてはむしろ後者と類似している。

先のバインダー…含浸樹種をとりあげると、焼土中においては、ヤナギ、ニレ、トネリコ、クワの各属が29~16地点と広く認められかつ量的にもやや多い地点がかなりあるが、カエデ、タルミ、キハダ、カバノキの各属は10~3地点と少ない。また、後4者のうち焼土中で量的に多いものは、No52でのタルミのみである。No52が炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似し、単なる焼土とは性格を異なる可能性が強いことをからみれば、前4者（ヤナギ、ニレ、トネリコ、クワ）は、構造材、かまど用燃料材、たき火用材として幅広く利用されていたのに対して、後4者（カエデ、タルミ、キハダ、カバノキ）は構造材やかまど用燃料材として一部利用はされているものの、単なるたき火用材としてはほど用いられていないかもしない。それらに対して、ニワトコ属やツル性植物は出土地点数も多く、量的にも多い地点がある等たき火用材としては、かなり手軽に用いられていたのかもしれない。

炭化材についての分析結果をのべてきたが、炭化材は樹種数も多いことから遺構間で完全に樹種が一致する場合は少なく、遺構間の関連性等について樹種鑑定結果のみから言及するのは困難である。したがって、Tab.I-16や同17等から気の付く点について羅列してきたが、これらについては他の遺物と照らし合わせてさらに検討していく必要があろう。しかしいくつかの点においては、明らかに樹種的な特徴を示すものと思われ、それらは以下のようによく要約されるであろう。

- ① 坚穴構造材は、トネリコ属が主要利用樹種であり、補助的に他樹種が用いられ、それらはニレ、クワ、キハダ、ヤナギ、タルミ、カバノキ、カエデの各属である。
- ② 坚穴以外の遺構における構造材の使用例としては1例認められ、ヤナギ属が主要利用樹種であり、他にニレ、キハダの各属も使用されている。
- ③ 各遺構ごとに主要樹種は異っていても、構造材としては上記のいずれかが使用されている。
- ④ 構造材として使用されている樹種の中で、他にも燃料用材やたき火用材として大量に使用されているものには、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属がある。
- ⑤ 構造材として補助的に使用されていた樹種の中でもキハダ、カバノキの各属は、焼土中には少なく、たき火用材としての使用は少ない。
- ⑥ カマド用燃料材の中で7属（モミ、コナラ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、ニシキギ）は焼土中には極めて少なく、同じ燃料材でも樹種構成はかなり異なる。しかし、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属は、肉者で共通に使用されている。

⑦ 炭化材として幅広く使用されている3属（ニレ、トネリコ、ヤナギ）は、テシ中の基本骨格構造材の構成樹種であり、また、堅穴構造材の主要樹種であるトネリコ属は、テシ中においても骨格構造材の主要樹種である。

以上結果に加えて、炭化材の組織構造観察から得られた若干の知見について述べる。炭化材をSEMにより観察した所、組織中には腐朽菌の菌糸や腐朽劣化跡、また泥状物質の沈着がしばしば認められた。これらは、一部の木材が、風倒や伐倒等の後に、かなりの時間放置されていたことや、河川流木であったことを示すものと考えられる。泥状物質の沈着は、炭化後の埋没中に起こりうるであろうが、菌糸が炭化以前に繁殖していたことは確実である。PL-II-31の1と2には、モミ属とサクラ属の炭化材中における菌糸を、同3にはコナラ属の小道管の腐朽がかなり進んだ例を示す。

樹種的には、針葉樹や広葉樹等にかかわらず菌糸が認められるが、バインダー含浸材や堅穴覆土中のトネリコ属材では菌糸侵入や腐朽の例は少なく、かなり良質の木材を使用していたものと推定される。それに対して焼土中の木材では、菌糸侵入の例が多い。しかし、同3に示したような顕著な腐朽の例は少なく、少なくとも河川流木のような木材の使用は少なかったものと思われる。また、構造材については、家屋建立後に長年を経たものならば環境条件によっては木材は腐朽劣化するものと考えられるが、それも少ないようであり、建立後さほど老朽化しない状態のまま火災にあったものと考えられる。

枯枝等に時間的にどの程度菌糸が侵入するかについての報告は少なく、明確な判断はできないが、木材腐朽菌は一般的にさほど高温、多湿でなくとも繁殖することが知られている。1や2に示した程度の菌侵入は、外観的に異常が認められない木材においてもみられる例であり、これらはかなり腐朽が激しい例といえ、流木等かもしれない。

従って、本遺跡中の燃料用材は、外見上では少なくとも腐朽がわからない程度の材を利用していたものと考えられ、流木等は少なかったものと推定される。それは、テシの自然流木中で、ハンノキ属個体が多数みられるのにもかかわらず、炭化材はさほどの量ではないことも一致している。構造材としては伐倒後の良材を、燃料用材としてはそれらの枝材に加えて枯枝や枯れた低木等を利用していったのではなかろうか。

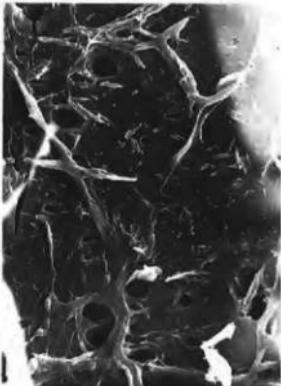
#### PL-II-31 炭化材中の木材腐朽菌



1 モミ属炭化材の根道管中の菌糸 ( $\times 11,450$ )



2 サクラ属炭化材の道管中の菌糸 ( $\times 2,820$ )



3 コナラ属炭化材の小道管内表面の腐朽状態  
( $\times 1,140$ )

また、カマドや焼土の燃料用材では、枝材が多いことについては、それらの採取が容易であったことに加えて、木材の乾燥にも関係していたものと考えられる。例えば、頻繁に使用されているニレ属やトネリコ属でハルニレやヤチダモを利用していたとすれば、それらが多湿心材をもち心材部では伐倒後にもかなりの水分を含んでいることからみて大径木の伐倒直後の使用は困難であり、心材部が少なく乾燥しやすい枝を利用していたものであろう。

## ② 樹種同定の根拠、写真的説明

サクシュコトニ川遺跡においては、テシの木材と空穴、土壌、焼土、炭化物集積遺構の炭化材について樹種鑑定を行ない、前者では19科24属、後者では20科25属、全22科28属を同定した。それらの一覧表をTab.Ⅳ-18に示し、以下にはそれらの同定の根拠、および鑑定結果の写真を示す。なお、同定にあたっては、既往の報告(Ohtani&Ishida 1976, 1978a, 1978b, 島地、伊東 1982)および手持の材鑑と比較検討し、鑑定を行なった。

以下の樹種説明および写真的配列は、針葉樹、広葉樹の環孔材・散孔材、同定できなかつたものの順とし、それらの中での配列順序や学名は、大井次三郎の日本植物誌(大井 1978)に従つた。テシ木材の写真番号はアラビア数字で、炭化木材のそれは算用数字で表示してある。1組の写真(例えば1a, 1b, 1c)では大部分のものについては木口面、板目面、らせん肥厚等の特徴的な細胞壁変異の微細形態の順に配列してあり、それらは全て同一個体の試料から得たものである。中には各樹種の典型的な組織・構造特徴を示さない写真もあるが、それは、枝やこぶ等のやや一般組織と異なるものが含まれていたり、腐朽等の影響により多少細胞壁形態が変化している場合があることによる。サクシュコトニ川遺跡から出土した木材の樹種同定の根拠、組織・構造の特徴は以下のとおりである。

### 1 イチイ(*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.) (PL.Ⅳ-348, PL.Ⅳ-360)

材は仮道管と放射柔細胞からなり(1a, 1a), 分野壁孔はヒノキ型とトウヒ型の中間である(1b, 1b), 仮道管の内壁にはらせん肥厚が常に存在する(1c, 1c). 1bの左側の仮道管内壁には菌糸が認められる。

### 2 モミ属(*Abies*) (PL.Ⅳ-348, PL.Ⅳ-360)

材は仮道管と放射柔細胞からなり(2a, 2a), 晚材部の幅は狭い。分野壁孔は典型的なスギ型であり(2b, 2b), 仮道管内壁にはいぼ状層が存在する(2c, 2c). 放射柔細胞の壁は厚く、じゅず状末端端を有する。トドマツ(*Abies sachalinensis* (Fr. Schm.) Masters)と推定される。

### 3 トウヒ属(*Picea*) (PL.Ⅳ-348, PL.Ⅳ-360)

材は仮道管、放射柔細胞、放射仮道管およびビセリウム細胞からなり(3a, 3a), 分野壁孔はトウヒ型である(3b, 3b), 板目面では、水平樹脂道を含む紡錘形の放射組織がみられる(3c, 3c). アカエゾマツ又はエゾマツと推定されるが、大量に出土した球果はアカエゾマツが大部分を占めており、アカエゾマツ(*Picea glehnii* (Fr. Schm.) Masters)の可能性が強い。

### 4 コナラ属(*Quercus*) (PL.Ⅳ-349, PL.Ⅳ-361)

環孔材であるが、孔洞外の道管は急に大きさに減じ、やや放射状に配列する(4a, 4a). 孔

環部の大道管にはチロースが認められる(Na)、放射組織は、単列および広放射組織のみかのなり(Nb,4b)、中間形ものは存在しない。ミズナラやコナラ等が推定されるが、孔圈外小道管が接線方向にかなり大きな幅で配列するものも認められ、カシワも存在するものと推定される。なお、Ohtaniらによれば、ミズナラ小道管には特異的肥厚 (Localized thickenings) が認められるとの報告 (Ohtani&Ishida 1978 b) があるが、その確認はできなかった。

### 5 ニレ属(*Ulmus*) [PL.2-349, PL.2-361]

環孔材であり、孔圈外では多数の小道管が接合して複合管孔を形成し、接線方向にかなり規則的に配列する(Va,5a)。放射組織は1～6細胞幅で、同性である(Vb,5b)。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する(Vc,5c)。ハルニレ又はオヒョウと推定される。

### 6 エノキ属(*Celtis*) [PL.2-349, PL.2-361]

環孔材で、孔圈外の小道管は多数集まって円形等のやや不規則な集団管孔をなす(Ma,6a)。放射組織は1～2細胞幅の小葉のものと7～10細胞幅の大型のものがあり、中間のものはない(Mb,6b)。板面では放射組織が異性であることは確認しやすいが、6bの左上の放射組織の下側では方形細胞が認められる。木属では精細胞の存在が特徴的であることが知られているが、木検体ではその確認が困難であった。小道管には、常に顯著ならせん肥厚が存在している(Vc,6c)。エゾエノキ (*Celtis jessoensis* Koidz.)と推定される。

### 7 クワ属(*Morus*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材で、孔圈部では2～3個の道管が複合し、孔圈外では小道管が複合して円形状をなす(Va,7a)。道管内にはチロースが認められ(Va,7a,7b)。放射組織は1～6細胞幅で異性である(Vb,7b)。小道管のらせん肥厚は一般的に走行方向が不規則なものが多いが、Vcと7cではかなり規則的である。炭化材検体についてはヤマガワ (*Morus bomycis* Koidz.)と推定され、全く問題がないが、テシの検体についてはややらせん肥厚が規則的すぎ、他属樹種である可能性も否定できない。

### 8 イヌエンジ属(*Maackia*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材であるが、孔圈部から孔圈外への道管の大きさの移行はゆるやかであり、年輪界付近には小道管の集団管孔の不規則な配列がみられる(Va,8a)。放射組織は1～8細胞幅で同性であり(Vb), 板面では小道管が剛密状配列をなすことがわかる(8b)。小道管には顯著ならせん肥厚が認められ(8b,8c)。マメ科等の特有のベスチャード壁孔が認められる(Vc,8c)。イヌエンジ (*Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *huergeri* (Maxim.) C.K.schm.)と推定される。

### 9 キハダ属(*Phellodendron*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材であり、孔圈部では大道管が2～3個接して存在する(Ka,9a)。放射組織は、1～4細胞幅で同性であり(Kb,9b)。小道管には顯著ならせん肥厚が認められる(9c)。また、大道管にも不規則ではあるがらせん肥厚が存在する(Kc)。キハダやヒロハノキハダ等と推定される。写真Kaと9aとでは、同属であるにもかかわらず木口面での形状がかなり異って見える。

**10 ニガキ(*Picrasma quassoides* (D.Don) Benn.) (PL.㉚-363)**

環孔材であり、孔圈部道管は大きく、孔圈外では急激に大きさを減じる(10a)。放射組織は1~5細胞幅であるが、高さは4から時には20細胞高と不揃いであり異性である(10b)。道管にらせん肥厚は存在しない。

**11 ハリギリ(*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) (PL.㉚-351)**

環孔材であり、孔圈部道管は一列であり、孔圈外では小道管が多数接合し複合管孔を形成し斜線状に配列する(Xa)。放射組織は4~6細胞幅で異性である(Xb)。道管にらせん肥厚は存在しない。

**12 トネリコ属(*Fraxinus*) (PL.㉚-351, PL.㉚-363)**

環孔材であり、孔圈部道管は大きく、孔圈外では急激に大きさを減じかつ2~3個が半径方向に複合する(Xa,11a)。放射組織は1~4細胞幅で、高さも10細胞高程で比較的均一であり同性である(Xb,11b)。道管壁にらせん肥厚は存在しない、ヤチダモやアオダモ等が推定される。

**13 ハコヤナギ属(*Populus*) (PL.㉚-351, PL.㉚-363)**

散孔材であり、道管の多くは2~4個の複合管孔を形成し(XIIa,12a)。全て単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。写真12aではビスフレックスが認められる。放射組織は單列でかつ同性である(XIIb,12b)。ドロノキ(ドロヤナギ)やヤマナラシ等が推定される。

**14 ヤナギ属(*Salix*) (PL.㉚-352, PL.㉚-364)**

散孔材であり、道管は2~3個の複合道管を時々形成する(XIIIa,13a)。また、全ての道管要素が単せん孔を持ち、らせん肥厚は存在しない。放射組織は單列でかつ異性である(XIIIb,13b)。エゾノカワヤナギ、オメヤナギ、バッコヤナギ、エゾバッコヤナギ等が推定される。

**15 オニグルミ(*Juglans ailanthifolia* Carr.) (PL.㉚-352, PL.㉚-364)**

散孔材であり、大型の道管が單独又は2~3個が複合して存在し(XIVa,14a)。チヨースを含むことが多い(14a,14b)。また、道管要素は単せん孔をもちらせん肥厚は存在しない。放射組織は1~4細胞幅であり、一般的には同性である(XIVb,14b)。本種やサワグルミ属の特徴である、木口面でみられる柔細胞の接続方向への配列(XVa)は、炭化材のSEM観察では認めにくい。

**16 アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.) (PL.㉚-364)**

散孔材で、比較的大型の道管が2~3個放射方向に複合し、年輪の外境付近では大きさを減じ、かつ3~8個放射方向に複合する(15a)。放射組織は1~3細胞幅であり、また20細胞高になる場合も多く同性である(15b)。道管要素は全て単せん孔をもつが、稀には特異な形状のものもあり、分布密度や走行方向が不規則ならせん肥厚をもつことが多い(15c)。

**17 カバノキ属(*Betula*) (PL.㉚-352, PL.㉚-365)**

散孔材で、道管は2~5個主として放射方向に複合し(XVa,16a)。全ての道管要素は階段せん孔をもつ(XVb,c,16b)。放射組織は1~4細胞幅で、同性である(XVb,16b)。

また、写真16cでは、本属特有の道管相互間の壁孔が認められる、シラカンバやウダイカンバ等が推定される。

#### 18 ハンノキ属(*Alnus*) [PL.2-353, PL.2-3]

散孔材で、道管は2～5個が主として放射方向に複合する(XM1a,17a)。放射組織は單列かつ同性であり(17b)，集合放射組織を形成する(XM1b)。全ての道管要素は階段せん孔をもち(XM1c,17c)，らせん肥厚は存在しない。ハンノキ，ケヤマハンノキ等が推定される。

#### 19 カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) [PL.2-353, PL.2-365]

散孔材であり、大部分の道管は複合せず単独で分布するが、道管の数は極めて多く年輪全体を通じて平等に分布する(XM1a,18a)。放射組織は1～2細胞幅であり異性である(XM1b,18b)。全ての道管要素は階段せん孔をもち、Barの数も1せん孔につき20本以上が多い(XM1c,18c)。また、らせん肥厚は存在しない。

#### 20 モクレン属(*Magnolia*) [PL.2-353, PL.2-366]

散孔材であり、単独あるいは2～数個主として放射方向に接合した道管が平等に分布する(XM2a,19a)。放射組織は1～2細胞幅であり異性であるが(XM2b,19b)，板目面では判別しにくい。多くの道管要素は単せん孔を持ち(XM2c)，階段壁孔(19c)およびらせん肥厚を持つ。ホオノキは隔壁木織維を持つことが大きな特徴であるが、炭化材では確認しにくい。ホオノキ、ヨブシ等が推定される。

#### 21 アジサイ属(*Hydrangea*) [PL.2-364, PL.2-366]

散孔材であり、道管が単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布し、木口面では柔細胞が放射方向へと連続して認められるのが特徴である(XK1a,20)。放射組織は多くの場合2～3細胞幅であり、板目面では上下方向で柔細胞と接している(XK1b,20b)が、高さは3～5細胞高と低い。全ての道管要素は階段せん孔を持つ(20c)。らせん肥厚は稀に道管要素の一部に認められることが報告されているが(Ohtani&Ishida 1978b)，本検体ではその存在は確認されなかった。材鑑標本および現生木から採取した標本と比較してノリウツギと一致することから、ノリウツギ(*Hydrangea paniculata* Siebold)と推定したが、アジサイ属の他樹種である可能性も否定できない。

#### 22 サクラ属(*Prunus*) [PL.2-366]

散孔材であり、道管は単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布する(21a)。放射組織は1～4細胞幅であり、20細胞高以上に達する場合が多く(21b)，異性であるが、板目面では判別しにくい。全ての道管要素は単せん孔を持ち、また幅の小さいらせん肥厚をもつ(21c)が枝分れするらせん肥厚は少ない。エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウワミズザクラ等が推定される。

#### 23 ニシキギ属(*Euonymus*) [PL.2-367]

散孔材であり、極めて径の小さい道管が年輪内に平等に分布する(22a)。放射組織は單列かつ同性である(22b)。全ての道管要素は単せん孔を持ち、かつ、らせん肥厚を持つ(22c)。また、本属では本部織維にもらせん肥厚を持つ(22b)ことが大きな特徴である。ニシキギ、マユミ、ツリバナ等が推定される。

**24 カエデ属(*Acer*) (PL.㉚-354, PL.㉚-367)**

散孔材であり、單独あるいは放射方向に数個複合した道管が均等に分布するが、道管数は比較的少ない(XXa,23a)。放射組織は1～5細胞幅であり同性である(XXb,23b)。道管要素は全て單せん孔を持ち、かつ比較的不規則ならせん肥厚を持つ(XXc,23c)。本検体のらせん肥厚は隆起線が長いことから、それが短いヤマモミジ等よりもイタヤカエデに近いものと推定される。しかし、カエデ属では、本道での自生種が多種に及ぶことが知られており、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、アカイタヤ等が推定されるものの、樹種の特定はできない。

**25 シナノキ属(*Tilia*) (PL.㉚-354)**

散孔材であり、多くの場合道管は2～5個接合して複合管孔を形成する。(XXa)。また、柔細胞が短接線状に並ぶことが多い(XXa)。放射組織は1～4細胞幅であり同性である(XXb)。道管要素は單せん孔を持ち、顯著ならせん肥厚を持つ(XXc)。シナノキまたはオオバボダイジュであるものと推定される。

**26 ミズキ属(*Cornus*) (PL.㉚-355, PL.㉚-367)**

散孔材であり、道管は単独あるいは放射方向に数個複合して均等に分布する(XXIIa, 24a)。放射組織は1～4細胞幅で上下両端部付近に直立細胞が多く、異性である。(XXIIb, 24b)。道管要素は全て階段せん孔を持ち(24c)、らせん肥厚は存在しない。本属は、エゾノキ属やリョウブ属と組織が類似しているが、前者は複合道管が極めて多い点、後者は道管内の特異的肥厚を持つ点で区別できる。ミズキ(*Cornus controversa* Hemsley)であるものと推定される。

**27 ハシドイ属(*Syringa*) (PL.㉚-355)**

散孔材であり、多くの道管は複合道管を形成する(XXIIIa)。放射組織は1～2細胞幅であり、同性である(XXIIIb)。全ての道管要素は單せん孔を持ち、2本の対をなすらせん肥厚を持つ(XXIIIc)ことが大きな特徴である。ハシトイ(*Syringa reticulata* <Blume> Hara)であるものと推定される。

**28 ニワトコ属(*Sambucus*) (PL.㉚-355, PL.㉚-368)**

散孔材であり、道管は複合道管を多く形成し(XXIVa,25a)、紋様状に配列することもある。放射組織は1～4細胞幅であり、異性である(XXIVb,25b)。道管要素は多くの場合單せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形狀を示す場合がある(XXIVb,25b)。道管要素は多くの場合單せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形狀を示す場合がある(XXIVc,25c)。ニワトコまたはエゾニワトコであるものと推定される。

**29 ツル性植物(ブドウ属：*Vitis*, ノブドウ属：*Ampelopsis*, 等) (PL.㉚-356, PL.㉚-368)**

木口面では、極めて径の大きい道管が不規則に分布しているのが認められる(XXV a, 26a)。放射組織も10細胞幅以上で100細胞高以上に達し(XXVb,26b)、樹木の一般木部組織とは大きく異なっている。また、道管には、階段壁孔状の構造がみられる。

ツル性植物には数多くの種類があり、その組織構造に関する報告がほとんどないため断定はできないが、現生ヤマブドウのツルを観察したところ、本検体とは組織が極めて類似していた。したがってヤマブドウ(*Vitis coignetiae* Pulliat)と推定したが、炭化種子では、マタタビまたはコクリ(*Actinidia* sp.)と推定されるものも出土しており、ノブドウ属も含めて多種の可能性も否定できない。そのため、ここでは、一括してツル性植物とし

て扱った。XXVIのa,bも写真XXVや26と組織が類似しているが、道管の配列状態や階段壁孔状の構造物のBarの数が少い等や異なるため、写真を提示した。

以下には、不確実なものや同定できないものについて、テキスト化材の順に記す。

### 30 不明1(ブナ科?) (PL図-356)

材は放射孔材であり、道管は年輪に関係なく放射方向に配列する(XXVIa)。放射組織は、異性で、大部分が単列であるが、稀に2~3細胞幅のものも存在する(XXVIb)。本検体は、タリ属、シノキ属や常緑カシ類と組織が類似しているが、同定はできなかった。

### 31 不明2(ウルシ属?) (PL図-357, PL図-368)

材は環孔材であり(XXVIIa)、道管にはチロースを含む。放射組織は1~3細胞幅であり、異性である(XXVIIb)。本検体は、放射組織の多列部が平伏細胞からなり、単列部が直立細胞からなることから、ウルシ属(*Rhus*)と推定されたが、ウルシ属特有のらせん肥厚がSEM観察でも確認できなかったことから不明樹種とした。しかし、本検体は自然流木で、細胞壁の劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を得なかつた可能性が強く、ウルシ属である可能性がかなり強いように思われる。

### 32 不明3 (PL図-357)

広葉樹材で道管配列は半環孔状であり(XXXa)、放射組織は1~5細胞幅で異性である(XXXb)。また、道管には、比較的規則的ならせん肥厚が存在する(XXXc)。樹種の特定はできなかつた。

### 33 不明4(コシアブラ?) (PL図-357)

散孔材であり(XXXa)、年輪界に接する部分で道管は環孔状に配列する。放射組織は1~3細胞幅であり、上下部には方形細胞を含む(XXXb)。道管要素は全てらせん孔を持ち、らせん肥厚は持たない。本検体は道管がやや半環孔状に並ぶことなど、ウコギ属(*Acanthopanax*)のコシアブラに類似しているが、断定はできない。

### 34 不明5(タマシデ属?) (PL図-358)

放射孔材であり(XXXIa)、放射組織は1~3細胞幅で異性である(XXXIb)。道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、道管配列や階段せん孔を持つことから、タマシデ属またはハシバミ属と推定はされるが、典型的な集合放射組織が確認できず、少くともハシバミ属とは考えにくい。また、タマシデ属の可能性は高いものの、本検体ではらせん肥厚を確認できなかつた。本検体も細胞壁劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を認め得なかつたものと思われ、タマシデ属(サワシバ等)と推定されるものの断定はできない。

### 35 不明6(タマシデ属?) (PL図-358)

放射孔材であり(XXXIIa)、放射組織は1~2細胞幅で異性である(XXXIIb)。道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。写真XXVIの検体と組織は類似しているが、道管数が極めて少なく、やや放射組織幅が狭い。本検体もタマシデ属であるものと推定されるが断定はできない。

### 36 不明7(ニレ科?) (PL図-358)

散孔材であり、道管数は少なく、放射方向に複合する場合が多い(XXXIIIa)。また、道

管にはチロースを含む。放射組織は1~5細胞幅であり、異性である(XXXIIIb)。道管要素は単せん孔を持ち、顯著ならせん肥厚を持つ(XXXIIIc)。ニレ科のムクノキに組織は類似しているが、同定はできなかった。

#### 37 不明8(ナナカマド属?, リンゴ属?) [PL図-359]

散孔材であり、道管は、単独または2~3個接合し(XXXIVa)，放射組織は1~2細胞幅で同性である(XXXIVb)。道管要素は、単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、ナナカマド属やリンゴ属と類似しているが、前者では特有のZ-helixのらせん肥厚の存在が知られており、後者でもらせん肥厚の存在が知られている。本検体は、自然木であり、細胞壁の劣化が著しくらせん肥厚の確認が困難であったものと推定されいづれかの属であるものと考えられるが、特定はできない。

#### 38 不明9(ナナカマド属?, リンゴ属?) [PL図-359']

本検体も組織は写真XXXIVの検体と類似しているが、やや道管数も少なく(XXXVa)，放射組織も2列細胞幅のものが多い(XXXVb)。その他の点では37の検体と同様であり、ナナカマド属またはリンゴ属と推定されるが特定はできない。

#### 39 不明10 [PL図-359]

散孔材であり、道管数は少なく、単独で散在している(XXXVa)。放射組織は1~2細胞幅であり、異性である(XXXVb)。道管要素は単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められなかった。本検体は、細胞壁劣化が著しく、樹種特定ができない。

#### 40 不明11 [PL図-368]

広葉樹材であり、道管は半環孔状に配列し(27a)，大道管が時折複合して分布する。放射組織は1~7細胞幅で異性である(27b)。道管要素は単せん孔を持ち、比較的規則的に配向するらせん肥厚を持つ(27c)。一般的に環孔材ではあっても小枝や蘿付近では、道管が典型的な環孔状配列をしないことは良く知られているが、仮に本検体が環孔材であるならば、ウルシ属(*Rhus*)の可能性が高いかもしれない。

#### 41 不明12 [PL図-369]

径1cm程の小株炭化物で髓は空洞である(28a)。横断面では、維管束形成層と推定される構造が不規則に並んでおり(28b)。縦断面では、道管や柔細胞が認められる(28c)。單子葉植物であろうと推定されるが、同定はできなかった。

#### 42 不明13 [PL図-369]

横断面では、写真28の検体と類似した構造が認められる(29a)。拡大像が29bであるが、この種の維管束配列は、ササ属(*Sasa*)にも類似しているように思われるが、同定はできなかった。

#### 43 不明14 [PL図-369]

径5mm程の小株炭化物で、髓は空洞である。横断面では径の擴った細胞が認められる(30a)。縦断面でも、比較的大きさの擴った細胞が認められ(30b)。写真28や29の検体とは組織がかなり違っている。同定はできなかったが、参考資料として提示した。

以上の不明樹種の中で、ウルシ属(写真XXVII)、ウコギ属・コシアブラ(写真XXX)、タマシデ属(写真XXXI)の3属については、細胞壁変異の観察が十分に行なえなかったことから不明樹種としたが、他に該当樹種もなく、おそらく同定には問題がないように思われる。また、ナナカマド属とリソゴ属(写真XXXIV, XXXV)については、前者では少數であるが存在が知られている多孔せん孔が認められることから、ややリソゴ属の可能性が強いように思われる。これらの代表樹種は、ウルシ属:ヤマウルシ、ヌルデ等、タマシデ属:サワシバ、リソゴ属:エゾノコリンゴ、ズミ等であろう。

以上の樹種鑑定にあたっては、テシ材、炭化材にかかわらず、SEM観察が極めて有効であった。出土木材は枝材等が多く、光学顕微鏡による一般組織の観察のみでは同定が難しい場合が多々あったが、細胞壁変異の観察によりかなり確実な同定を行なうことができる。例えば、針葉樹材では年輪幅の狭い個体やアテ材組織が多く、イチイ属とモミ属の判断が難しいが、らせん肥厚といふ状層の確認により確実な識別を行なうことができ、また、広葉樹材では、イヌエンジュ属のペスチャード壁孔や、多くの樹種に認められるらせん肥厚の形態がかなり確実な同定の根拠となった。

炭化材では、腐朽の少ないものが多く、特に微細形態の観察が容易であるが、テシ材のかなり腐朽の進んだものでもほとんどの場合道管内壁が残存しており、微細形態の観察は十分に行なうことが可能である。木材細胞の最内壁で腐朽抵抗性が強いことは一般的に知られており、本検体中でもそれが裏付けられたといえよう。

SEM手法としては、テシ材のような炭化していない材については、臨界点乾燥法を用いる必要がある程度で、他に特に難しい処理は必要なく、今後ともにこの種の研究にはSEMを用いていく必要があろう。

本遺跡では全28属にフル性植物が同定されたが、それらは北海道大学構内の現植生に照らしてみても特に大きく異なる樹種は含まれておらず(清水 1983)、当時の気候や地形等の環境条件は現代とさほど大きな差はなかったものと考えられる。テシと住居等の双方で大量に使用されているものはトネリコ、ニレ、ヤナギの各属であり、これらはヤチダモ、ハルニレ、エゾノカワヤナギ等と推定され、比較的温潤な地を好むものであり、全体的にみれば、遺跡周辺はかなり湿地に近い環境であったように推察される。

しかし、ニワトコやニシキギ属等の低かん木類、また、炭化雜草種子ではギシギシ属やイヌホオズキ属等の比較的日当りの良い場所を好むものが認められている等の点からみれば、当時の遺跡周辺では、草原や灌木林に近いような区域もあったように思われ、こまかくみれば周囲の環境はかなり変化に富んでいたように推察される。それらが人為的な、たとえば農耕等による環境変化によるものなのかどうかはさらに検討してから結論すべき問題であろう。

炭化種子との比較では、オニグルミ、エゾニワトコ、ミズキ属、ウルシ属、アサガ属の木本植物種子にブドウ属等のフル性植物種子が認められており、ウルシ属を除いては炭化材でも認められているものもある。しかし、炭化材中の他樹種、例えばイチイ、クワ、キハダ、モクレン、サクラ、ニシキギ等の各属の種子はかなり残りやすいものと思われるにもかかわらず見いだされていない。その理由としては種々あるが、食用として遺跡内に持込まれず、かつ遺跡から離れた場所で材のみが採取されたためか、季節的な結実時期の違いが主なものであろう。ここで、注目したいのは、食用としても適し実の数も多いクワ属の材がかなり多く認められているにもかかわらず種子が見いだされていないことであり、本属が夏の時点で結実し、既述のエゾニワトコ等が秋に結実するとの異なる点である。これは、単に遺跡のごく近くの植生のためかもしれないが、仮に本遺跡が秋の生活跡のみを残しているとすれば、本遺跡が秋に限定されるような季節性をもった生活場所であった可能性も否定できないように思われる。

Tab. II-18 サクシコトニ川遺跡における木材の樹種

属名	代表的樹種	チシ木材		炭化材
		加工材	自然流木	
1 イチイ ( <i>Taxus</i> )	イチイ*	○	○	○
2 モミ ( <i>Abies</i> )	トドマツ	○	○	○
3 トウヒ ( <i>Picea</i> )	アカエゾマツ	○	○	○
4 コナラ ( <i>Quercus</i> )	ミズナラ	○	○	○
5 ニレ ( <i>Ulmus</i> )	ハルニレ	○		○
6 エノキ ( <i>Celtis</i> )	エゾエノキ	○		○
7 クワ ( <i>Morus</i> )	ヤマグワ	○	○	
8 イヌエンジュ ( <i>Manilkara</i> )	イヌエンジュ	○		○
9 キハダ ( <i>Phellodendron</i> )	キハダ	○		○
10 ニガキ ( <i>Piceuma</i> )	ニガキ			○
11 ハリギリ ( <i>Kalopanax</i> )	ハリギリ*	○	○	
12 トネリコ ( <i>Fraxinus</i> )	ヤチダモ	○	○	○
13 ハコヤナギ ( <i>Populus</i> )	ドロノキ	○	○	○
14 ヤナギ ( <i>Salix</i> )	エゾノカワヤナギ	○	○	○
15 クルミ ( <i>Juglans</i> )	オニグルミ*	○		○
16 アサガ ( <i>Ostrya</i> )	アサガ			○
17 カバノキ ( <i>Betula</i> )	シラカンバ	○		○
18 ハンノキ ( <i>Ailanthus</i> )	ハンノキ	○	○	○
19 カツラ ( <i>Cercidiphyllum</i> )	カツラ	○		○
20 モクレン ( <i>Magnolia</i> )	ホオノキ	○		○
21 アジサイ ( <i>Hydrangea</i> )	ノリウツギ	○		○
22 サクラ ( <i>Prunus</i> )	エゾヤマザクラ*			○
23 ニシキギ ( <i>Eucryphus</i> )	マユミ			○
24 カエデ ( <i>Acer</i> )	イタヤカエデ	○	○	○
25 シナノキ ( <i>Tilia</i> )	シナノキ	○		
26 ミズキ ( <i>Cornus</i> )	ミズキ	○		○
27 ハシドイ ( <i>Syringa</i> )	ハシドイ	○		
28 ニワトコ ( <i>Sambucus</i> )	ニワトコ		○	○
29 ツル性植物 ( <i>Vitis</i> 等)	ヤマブドウ等	○	○	

※種名が同定されたものには\*印

最後に本遺跡の木材の樹種鑑定や保存処理にあたって多くのご協力とご教授をいただき、北海道大学農学部の石田茂雄名誉教授はじめ林産学科、木材理学講座の諸先生方、また、開拓記念館の三野紀夫氏、山田悟郎氏に深甚なる謝意を表します。 (平川泰彦)

## 参考文献

- ▶ 潜澤文武 「出土木材の性質と保存上の問題点」『材料』 28, 582-590 1979
- ▶ 松田篤嗣 「出土木材の自然乾燥にともなう内部形態変化」『保存科学研究室紀要』 N.3, 71-85  
1974
- ▶ 松田篤嗣 「出土木材のPEG含浸処理に関する実験(III)」『保存科学研究室紀要』 N.4, 23-31 1  
975
- ▶ 大井次三郎 『日本植物誌』 至文堂 1978
- ▶ Ohtani,J. & Ishida,S. Study on the pit of wood cells using scanning electron microscopy  
Report 5. Vestured pits in Japanese dicotyledonous woods. Res. Bull. Coll. Exp. For. Hokkaido Univ., 33-2, 433-464, 1976
- ▶ Ohtani,J. & Ishida,S. An observation on the perforation plates in Japanese dicotyledonous  
woods using scanning electron microscopy. ibid. 35-1, 65-98, 1978 a
- ▶ Ohtani,J. & Ishida,S. An observation on the spiral thickenings in the vessel members in  
Japanese dicotyledonous woods using scanning electron microscopy. ibid. 35-2, 433-464  
1978 b

- ▶岡本一・増澤文武 「出土木材、その性質と保存処理」『木材工業』 39-6, 7-13 1984
- ▶佐藤健 「ポリエチレングリコール(PEG)と木材」『木材工業』 38-5 7-13 1983
- ▶島地謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社 1982
- ▶清水雅男 「自然環境の復元」『北大構内の遺跡 2』 吉崎・岡田編 16-17 北海道大学 1983
- ▶W.Wilcox. Anatomical changes in wood cell walls attacked by fungi and bacteria. *Bot. Rev.* 36: 1-28 1970

## VI-11

## [刻字土器「夫」の意義]

佐伯有清\*

## ●

北海道大学構内のサクシコトニ川遺跡から出土した多数の遺物のなかに、2粒のコメと、「夫」という文字が刻まれている土器片が発見されたのは、1982年12月のことであった(『千年前の米つぶ出土』(昭和57年12月3日付『北海道新聞』),『千年前にも道内で米食』(同日付『朝日新聞』参照)。

その後、土器片に刻まれていた「夫」という「漢字らしきもの」が、なんという文字なのか、判読してほしいと、北大埋蔵文化財調査室から依頼を受けた筆者は、ただちに、「夫」の字は、蠻夷の「夷」の異体字であろうと思われる回答を回答した。この判読については、まもなく新聞で報道されたが(『本道最古の漢字資料』(昭和58年2月24日付『北海道新聞』参照)),それとは別に筆者は、「学内の遺跡から出土した文字のある西暦9世紀の土器片」と説明が付された同土器片の鮮明な写真を表紙に掲載した『北大時報』(昭和58年2月号, №347)に解説の短文を寄せた。

そのさい、「夫」の文字が、「夷」の異体字であろうとみなした論拠として、「夷」の字を、「夫」と書いた例のあることを指摘した。「夷」の字は、中国の隋唐時代の人である李靖(571~649)の書蹟などにみられる。だが、問題となるのは、土器片の「夫」の字には、3画目の「一」に、「夷」の字のように湾曲部分がないことがあげられるであろう。

しかし、『偏頗碑別字』などの異体字書に掲げられている「夷」の異体字を調べてみると、たとえば、唐の等慈寺碑に「夷」の字が、「夷」と書かれているのとならんで、隋の首山舍利塔銘には、「夷」と記されていることは、注目してよいであろう。というのは、「夷」の字の「→」の部分の画が、「一」のように、真っすぐに一直線で書かれる場合のあったことが知られるからである。

事実、日本古代においても、「夷」の字の例ではないが、「佛」の字を、「併」と墨書きしている資料があるのは、「夫」を「夷」の字とみなしてよい傍証としてあげができるであろう。ちなみに、「併」と書かれている墨書き土器は、山形県東置賜郡川西町の道伝遺跡から出土したものである。同遺跡からは、寛平8年(896)の年記を記す木簡が出土しており、「佛」の字を「併」と記す墨書き土器も、9世紀のものと考えてよい(『木簡研究』第2号, 47~49ページ参照)。

## ●

サクシコトニ川遺跡から「夫」と刻字された土器片が発見された当時、北大埋蔵文化財調査室では、同字体で記された遺物が、他の遺跡から出土していないかどうか、東北地方出土の墨書き土器などについて克明な調査がなされた。しかし、他に類似した例が発見されず、本遺跡出土の刻字土器片は、孤立した資料として、その後の同類の資料の出現が望まれていたのである。

ところが、最近になって二つの同類の文字資料が知られるにいたった。

その(1)は、平城宮跡のS D2700と呼称されている推定第2次内裏東外郭回廊の東22メートルの位置において検出された玉石積の大規模な南北溝の遺跡から出土した墨書き土器である。その土器片には、次頁の写真にみられるように、あきらかに「夫」の字が記されている。この土器片は、須恵器の环であって、1964年度の第21次調査のさいに出土したもので

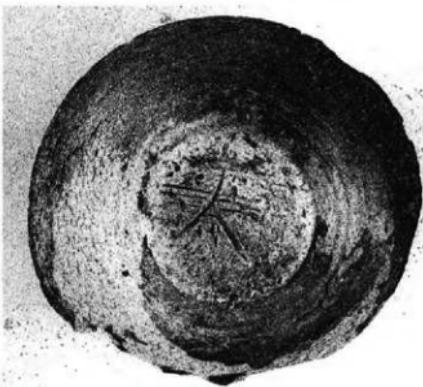
ある。この「夫」の文字は、不明文字として報告書では判読されていないが(奈良国立文化財研究所編『平城宮出土墨書き土器集成』I, 17ページ参照)、サクシュコトニ川遺跡出土の刻字土器片の「夫」と、まったく同字体であって、「夷」の字と判読すべきであろう。

PL. II-32 平城の「夷」



その(2)は、秋田城跡の南約12キロメートルの位置にある湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器である。この土器は、3号土壙墓から検出した2点のうちの一つであって、須恵器の杯の底部に「夷」と刻字されている。同遺跡の報告書には、「1の底部にはヘラ書きがあるが判読できなかった」(247ページ)とあるが、最近刊行された富樫泰時氏の著書には、「三

PL. II-33 秋田市湯の沢F遺跡3号土壙墓出土土器の「夷」



号土壙墓から検出された杯の底部には線刻の文字があり、『夷』と判読される北海道大学構内の学生寮宿舎建設地区でも同様な線刻文字のある土器が検出されており、興味のもたれるところである」(富樫泰時『日本の古代遺跡』24 秋田, 147ページ)と述べられており、また同土器の図の説明には「湯ノ沢F遺跡の須恵器の線刻『夷』の文字」(148ページ)とある。

## ①

東北地方の秋田城跡に比較的近い湯ノ沢F遺跡から「蝦夷」と同字義の「夷」の字が刻まれた土器が検出されたのは、それほど異様なことではない。しかし、北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡や、平城宮跡のS D2700遺跡から「夷」の字が記された土器が出土したことは、どういうわけなのであろうか。歴史的に、その背景を探ってみる必要があろう。

まず平城宮跡出土のものから考察を加えることにする。SD2700遺跡は、その埋土が6層に分れていたという。その最下層である第Ⅵ層からは、天平元年(729)、同2年(730)の年紀をもつ木簡が出土し、最上層である第Ⅰ層からは、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀を記す木簡が検出されている。これによって、この遺跡の年代が知られるが、出土した木簡のなかには、「宮内」「宮内省」と書かれているものが3点、「木工寮」「典膳」「豊子所」と記されたものが各1点あり、また「宮内省」「大炊」と墨書きされた土器も検出されており、宮内関係の名詔の比較的多いことが注意されている(奈良国立文化財研究所編『平城宮木簡』二、解説15~16ページ参照)。

なかでも、とくに注目されるのは、「宮内天長節」と墨書きされた土器が、第Ⅱ層より出土していることである。「天長節」のことが文献にみえる最初は、『統日本紀』宝亀6年(775)10月壬寅(11日)条であって、その記事には、

勅。十月十三日。是朕生日。每至比辰。感慶兼集。宜令諸寺僧尼。每年是日齋經行道。海內諸國。并宜斷屠。内外百官賜酒宴。一日。仍名此日為天長節。庶使邇斯功德。虔奉先慈。以庇此慶。普被天下。

とある。同書には、この初見記事について、同年10月癸酉(13日)条に、

是日天長。大酒。群臣。歡。飲酒食。宴畢。祿有差。

とみえ。さらに宝亀10年(779)10月己酉(13日)条に、

是日當天長節。仍宴。群臣。賜。祿有差。又詔贈外祖父從五位上紀朝臣諸人從一位。

とみえる。これらの記事によって、「天長節」が、宝亀6年(775)から始まり、以後毎年、この節が宮中で催されたことが知られ、「宮内天長節」とある墨書き土器が出土した第Ⅱ層は、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀をもつ木簡が出土した第Ⅰ層に接する埋土層であるので、まさに第Ⅱ層は、宝亀年間に発掘された遺物の包含層と断じてよい。

遺憾ながら「夷」と記された須恵器の坏がどの埋土層より検出されたのか報告書には記載がないが、おそらく宝亀年間といふ年次を考慮のうちに入れてもよいであろう。なぜならば、宝亀年間に、宮内における「蝦夷」の動向が、しばしば記録にみられるからである。

(1)天皇御大極殿受朝。文武百官。渤海蕃客。陸奥出羽蝦夷。各依儀拝賀。(『統日本紀』宝亀3年正月壬午朔<1日>条)

(2)陸奥出羽蝦夷帰。那。賜爵及物。有差。(宝亀3年正月丁酉<16日>条)

(3)御大極殿受朝。文武百官。及陸奥出羽蝦夷。各依儀拝賀。(宝亀4年正月丁丑朔<1日>条)

(4)陸奥出羽蝦夷停囚帰。那。叙。位賜。祿有差。(宝亀4年正月庚辰<14日>条)

(5)宴五位已上於楊柳宮。饗出羽蝦夷停囚於朝堂。叙。位賜。祿有差。(宝亀5年正月丙辰<16日>条)

(6)詔停蝦夷停囚入朝。(宝亀5年正月庚申<20日>条)

(7)仰。陸奥出羽。追。蝦夷廿人。為。擬。唐客拝朝儀衛也。(宝亀9年12月戊戌<26日>条)

これらの記事は、いずれも正月拝賀の儀に、「蝦夷」も参列したことによるとかわるものである。『統日本紀』におけるその初見は、

(8)天皇御大極殿受朝。隼人蝦夷等亦在列。左將軍正五位上大伴宿禰旅人。……等。於。皇城門外朱雀路。東西分頭。陳。列騎兵。引。隼人蝦夷等。面進。(『統日本紀』和銅3年正月壬子朔<1日>条)

(9)天皇御重闇門。那。宴文武百官并隼人蝦夷。奏。諸方案。從五位已上賜衣一襲。

隼人蝦夷等。亦授。位賜。祿各有差。(和銅3年正月丁卯<16日>条)

であるが、また同書には、

(例)天皇御=大板殿-受。朝。……陸奥出羽蝦夷、并南嶋奄美、夜久、度感、信覺、球美等  
來朝。各貢=方物。其儀朱雀門左右陣=列波吹騎兵。……(靈龜元年正月甲申朔<1日>  
条)

(例)蝦夷及南嶋七十七人、授=位有=差。(靈龜元年正月戊戌<15日>条)

(例)御=大権殿-受。朝。文武百官及陸奥蝦夷、各依=儀拝賀。(神護景雲3年正月辛未<2日>  
条)

(例)御=法王宮-。宴=於五位己上-。道鏡与=五位已上摺衣人一領。蝦夷摺袍人一領-。  
(神護景雲3年正月丙子<7日>条)

(例)御=東院-。賜=宴於侍臣。饗=文武百官。主典已上。陸奥蝦夷於朝堂-。賜=蝦夷爵及  
物-各有=差。(神護景雲3年正月丙戌<17日>条)

などとみえる。

上に掲げた記事(5)・(9)・(10)などによって、正月拝賀の儀に参列した「蝦夷」が朝堂などにおいて賜宴されていることが知られ、また記事(2)・(4)・(5)・(9)・(10)などから、「蝦夷」が位を授けられ、禄物を贈られたことがわかる。さらに記事(2)・(4)によって、「蝦夷」が拝賀の儀が終ると「帰郷」したことが知られるので、「蝦夷」は拝賀の儀に参列するためには、わざわざ陸奥・出羽の地から呼び出されたのであった。それは、記事(7)に、「蝦夷仕人を追(めさ)しむ」とあることからも確かめられる。

上掲の記事が、年代的に飛び離れているのは、「蝦夷」の拝賀のことが記載されなかつたというのではなく、「蝦夷」の地の情勢によって、「蝦夷」の拝賀をとりやめたことを反映しているとみなすべきであろう。(6)に「蝦夷」と「俘囚」の入朝を停めたとあるのは、その年、すなわち宝亀5年(774)の陸奥国における不穏な状況によるものであって、それは『統日本紀』宝亀5年7月丁巳(20日)条、同月庚申(23日)条、同月壬戌(25日)条、同年8月己巳(2日)条、同月辛卯(24日)条以下の記事についてみればあきらかである。

いざれにしても、神護景雲3年(769)より宝亀9年(778)にかけて、「蝦夷」が、しばしば正月拝賀の儀のために「入朝」し、饗宴を受けているのは、平城宮跡 S D 2700遺跡から出土した墨書き器の一つに「夫」と記されていることと無関係でないと考えられる。おそらく、「夫」銘のある須恵器の杯は、そうした「蝦夷」を饗應するために用いたものとみなして差し支えないであろう。

### ①

それでは、北海道大学構内のサクシコトニ川遺跡から出土した「夫」と刻字されている土器について、どのように考えたらよいのであろうか。

PL. II-34 サクシコトニ川遺跡出土土器



岡田淳子氏によると、その土器は、食物を盛る壺で、鍵輪を使用して製作されており、内部が黒く塗られた典型的な本州の土器器であって9世紀に東北地方北部で焼かれたものと考えられるという(『木造最古の漢字資料』前掲参照)。

また岡田氏は、その土器は、9世紀の半ばごろのものとも指摘している(岡田淳子他「古代北方文化の形成」『アート世界』第49号、1984年2月刊、106ページ参照)。

この岡田氏の指摘によって、問題の土器器は、9世紀ごろに作られ、東北地方北部から北海道のサクシコニ川地域に持ち込まれたものであって、そうした背景には、当時、北海道の石狩地方と東北地方北部とのあいだに交流があったことが、当然考えられてくる。

そこで思いいたるのは、「渡鷲蝦夷」についてのことである。「渡鷲蝦夷」に関して、(A)陸奥国言、渡鷲狀二百人來...著部下氣仙郡...非...當國所...管...令...帰去...狀等云。

時是寒節...海路難...越...願願...來春...欲...帰...本郷...者...許...之...留住之間...宣...給...衣糧...

(『日本後紀』弘仁元年10月甲午<sup>27日</sup>条)

(B)出羽国言、渡鷲荒狀反叛、水軍八十艘...殺...略秋田鮭海兩郡百姓廿一人...勅...牧宰...討...平之... (『三代実録』貞觀17年11月16日乙未条)

とあるのによれば、「渡鷲蝦夷」は、海路によって陸奥国気仙郡に来襲していること(A)、水軍をもって出羽国秋田・鮭海両郡を要撃していること(B)が知られ、ここにみえる「渡鷲」は、海を越えて行く地方で、関口男氏が指摘しているように、「津軽の北方、すなわち北海道を想定することが最も妥当」である(関口明「北海道式古墳と渡鷲蝦夷」『古代文化』第37巻第7号、18ページ)。

このように、北海道の「蝦夷」とみなすことができる「渡鷲蝦夷」は、(A)の記事で知られるように、陸奥国の所管外にあり、それが出羽国管轄下にあったことは、次の『続日本紀』宝亀11年5月甲戌(11日)条の記事によって察することができる。

勅...出羽國...曰...渡鷲狀早効...丹心...來朝貢獻...為...日稍久...方今帰俘作...逆...侵...擾...辺民...宜...將軍國司賜饗之日...存...意慰喻...焉...

また、そのことは、延暦21年6月24日付の「太政官符」に、

右被...右大臣宜...稱...渡鷲狀等來朝之日...所...貢方物...例以...羅皮...而王臣諸家競買...野皮...所...殘惡物以擬...進官...仍先下...符禁制已久...而出羽國司寛縱曾不...違率...為...吏之道豈合...如...此...自今以後...嚴加...禁斷...如違...比制...必處...重科...事緣...勅語...不得...重犯...

とあることからもたしかめられる。

これらの記事によれば、「渡鷲蝦夷」は、出羽の国衙に「來朝貢獻」し、その「貢納物」には、羅皮があり、また「來朝」のさいには、「賜饗」のことがあったことがわかる。ここにいう「賜饗」とは、「養老令」職員令大國条に、「其陸奥出羽越後等国兼知...饗給...征討...斥候...」とある「饗給」のことであって、『令義解』の同条に「謂...饗...食并給...祿也」とあるように、「蝦夷」に対して食を齎し、祿を給することを「饗給」といったのである(関口明、前掲論文20ページ参照)。関口氏が述べているように、出羽の国司は、「來朝貢獻」した「渡鷲蝦夷」に対しても、職員令大國条の「饗給」の規定にもとづいて、饗宴を催し、採物を給したのであった。そして、おそらく「夫」と刻字されているサクシコニ川遺跡出土の土器器は、そうした饗宴の場で用いられたものが、「渡鷲蝦夷」の手によって、「本郷」、すなわち北海道に持ち帰られたのであろう(関口明、前掲論文23ページ参照)。

「渡鷲蝦夷」のことについては、さらに『三代実録』元慶3年(879)正月11辛丑条に、又渡鷲首百三人、率...種類三千人...肅...秋田城...与...津軽俘囚...不...進...賊者百余...同...共...帰...落...化...若不...勞...陽...恐生...怨恨...由...是遣...從五位下行權介藤原朝臣統行...從五位下行權介藤原真人有房及令望...滋...實...貞...額...勞...變...

とみえる。この記事で注目されるのは、「渡鷲夷首」103人が、その「種類三千人」を率

いて秋田城に齎ったことであり、また出羽国の權介藤原朝臣統行、同權掾の文室真人有房、同權掾清原真人令望、左馬權大允藤原朝臣滋実、また出羽國の權大目茨田連貞頼らの園司などを遣わして「渡鶴蝦夷」を「労饗」していることである。ここにいう「労饗」とは、もちろん「賜饗」や「饗給」と同じ内容のものであり、もし彼ら多數の「渡鶴蝦夷」が、「本郷」に帰ったならば、彼らとともに、多量の出羽国内の物品が、北海道に持ちこまれたことになるであろう。9世紀における「渡鶴蝦夷」は、出羽国や、その管轄下の秋田城と密接な関係があるから、「夫」と刻字された土師器の出所は、おそらく、そうした地域に求めてよいであろう。その意味で、秋田城跡の南方に位置する湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器の存在が注目されるのである。

## V-12 [出土スラグの顕微鏡観察について]

野口徹・小笠原正明・石井邦宣・

1981年6月にサクシコトニ川遺跡の発掘現場で出土し、鉄器またはスラグと推定された物質（個体番号4）について、顕微鏡による予備的な調査を行った。

この物質はPL-II-35（切断後）に示すように縦8cm、最大幅約5cm、厚さ1.5—2cm程度の大きさの固体である。表面は赤褐色で凹凸があり、いたるところに気泡の凝固したあとが見られる。

マイクロトームを用いて図のように切断したところ、黒色の光沢をもつ面が得られた。しかし金属の存在を示す独特の光沢は認められなかった。断面のところどころに、気泡によるものと思われる大小さまざまな穴が見られた。

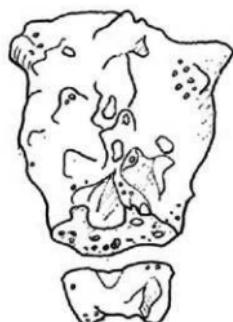
この断面の50倍および200倍の光学顕微鏡写真を、PL-II-36およびPL-II-37に示した。PL-II-36に見られる黒い大きな影は、空孔によるものである。PL-II-37の白い部分はマグネタイトの存在を示している。また残りの黒い部分はスラグによるものである。この部分をさらに拡大して見ると、未溶解のスラグが一部に認められた。

顕微鏡による観察からは、つぎのようなことが推定される。

- ① この物質は、鉄の精錬の際に生じたスラグであって、鉄器ではない。
- ② 溶けかけたスラグが認められることから、この物質が生成した時の温度は1200度あるいはそれ以下と推定される。
- ③ マグネタイトは、空气中ではこのような低い温度では生成しないことから、一応還元的雰囲気で処理したときに生じたものと思われる。
- ④ しかし、マグネタイトよりもさらに酸素原子数の少ないウスタイトや金属鉄は認められてないので、還元的雰囲気は完全とはいえず、密閉性の悪い、比較的簡単な炉の中で生成したものであることが推定される。

さらに信頼できる結論を得るためにには、今後、化学分析およびエッカス線マイクロアナライザなどによるスラグの組成の分析が必要であろう。

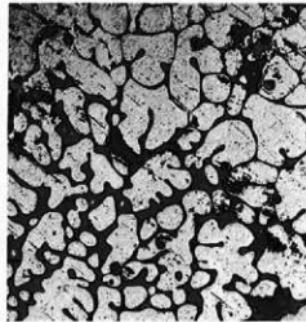
PL-II-35 スラグの外観



PL-II-36 スラグの顕微鏡写真(×50)



PL-II-37 スラグの顕微鏡写真(×200)



## VI-13 [花粉化石について]

山田悟郎・

### ① 試料および処理方法

ここで取扱った土壤試料は北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡の発掘調査に際して、住居の覆土・土壤の覆土・腐棄された炭化物の集積遺構・焼土から採取された14点である。

2号住居では覆土と床面から各1点、4号土壤の壌底から1点、腐棄された炭化物の集積遺構からは炭化物マウンド・炭化物4, 16, 19, 40, 52, 58と呼称される7個所から各1点が、焼土11・43・44・71の4個所から各1点の試料がそれぞれ採取されている。試料はいずれも炭化物を多量に含む、腐植に富んだ砂質シルトである。

試料の処理にあたっては、土壤試料500gをビーカーにとり、下記のように化学・物理処理を行なった。

アルカリ処理(24時間)…水洗(3週間)…沈殿法により砂礫等を除く…混酸処理(3分間)…水洗…アルカリ処理(5分間)…水洗…比重分離(比重2.0, 1000r.p.m.で1時間遠心分離)…水洗…アセトリシス処理(3分間)…水洗…一時計量処理-HF処理…水洗の順に処理し、プレパラートを1試料につき各3点を作成した。

検鏡は通常400倍で行ない、必要に応じて1,000倍で行なった。同定にあたっては、樹木花粉を200個以上数えるまでに順次出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数するよう努めた。しかし樹木花粉が200個以上産出した試料は無かった。

従って、表示にあたっては各試料から産出した花粉・胞子数を一覧表にして示した。

### ② 分析結果

試料が花粉・胞子が腐食作用を受けやすい、通気性の高い砂質堆積物である為か、土壤の花粉含有数は少なかった。また、焼土中に熱によって変形した花粉・胞子が多く含まれていた。

14点の試料から21属1科の樹木花粉、2属23科の草本花粉、3科の胞子、形態分類胞子2種類が産出した。その内訳及び想定される主な母植物は下記の通りである。

樹木: *Picea*(トウヒ属; エゾマツ・アカエゾマツ), *Abies*(モミ属; トドマツ), *Pinus*(マツ属; ハイマツ), *Salix-Populus*(ヤナギ-ハコヤナギ属; エゾカワヤナギ・オノエヤナギ他), *Alnus*(ハンノキ属; ハンノキ・ケヤマハンノキ他), *Betula*(カバノキ属; シラカンバ・ウダイカンバ・ダケカンバ), *Fagus*(ブナ属; ブナ), *Juglans*(クルミ属; オニグルミ), *Carpinus*(クマシデ属; サワシバ), *Corylus*(ハシバミ属; ハシバミ・ツノハシバミ), *Quercus*(コナラ属; コナラ・ミズナラ・カシワ), *Ulmus*(ユレ属; ハルニレ・オヒヨウニレ), *Fraxinus*(トネリコ属; ヤチダモ・アオダモ), *Magnolia*(モクレン属; ホウノキ・コブシ), *Tilia*(シナノキ属; シナノキ・オオバボダイジュ), *Acer*(カエデ属; イタヤカエデ・ハウチワカエデ他), *Rubus*(キイチゴ属; クマイチゴ・エビガライチゴ他), *Phellodendron*(キハダ属; キハダ), *Araliaceae*(ウコギ科; ハリギリ・タラノキ他), *Rhus*(ウルシ属; ヌルデ・ヤマウルシ他), *Sambucus*(ニワトコ属; エゾニワトコ), *Hydr-*

Tab. II-19 産出した花粉・孢子化石数

	2号堅穴住居		4号土壤	炭化物マウンド		炭化物		焼土					
	覆土	床面		4	16	19	40	58	11	43	44	52	71
<i>Picea</i>	1	2	2	1	1	4	1	4	5	2	1	3	—
<i>Abies</i>	3	5	5	13	2	8	5	2	11	6	5	5	1
<i>Pinus</i>	—	1	1	5	—	1	1	2	—	3	2	1	2
<i>Salix-Populus</i>	5	4	5	3	1	8	5	3	5	5	8	4	1
<i>Juglans</i>	11	15	11	5	2	11	7	12	5	9	11	7	8
<i>Alnus</i>	33	31	27	22	5	39	29	31	15	37	35	33	29
<i>Betula</i>	19	13	16	8	1	18	13	18	3	15	19	15	14
<i>Carpinus</i>	3	1	2	3	1	3	1	1	1	1	3	1	—
<i>Corylus</i>	2	1	2	2	—	2	1	1	—	1	1	—	—
<i>Fagus</i>	1	1	3	1	—	3	1	1	—	1	1	—	2
<i>Quercus</i>	39	41	36	36	3	36	37	39	19	45	43	41	38
<i>Ulmus</i>	18	20	21	18	1	23	19	23	13	24	21	19	19
<i>Magnolia</i>	2	1	1	2	—	3	1	1	1	2	1	1	2
<i>Hydrangea</i>	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—
<i>Rubus</i>	1	—	1	—	—	1	1	1	—	3	1	—	2
<i>Rhus</i>	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—
<i>Acer</i>	3	4	2	1	1	5	2	5	1	2	4	5	3
<i>Tilia</i>	3	5	4	4	2	3	3	6	3	5	4	3	3
Araliaceae	1	1	1	—	1	—	1	1	—	2	2	1	—
<i>Fraxinus</i>	1	3	3	1	1	6	3	3	1	3	3	1	4
<i>Phellodendron</i>	3	3	2	—	—	3	1	3	1	4	3	1	—
<i>Sambucus</i>	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	1	—
Moraceae	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1	—
Urticaceae	—	3	—	—	—	1	—	—	—	3	2	—	5
Polygonaceae	22	35	29	3	1	26	15	23	16	24	26	24	14
Chenopodiaceae	1	5	3	—	—	5	3	1	1	1	1	—	1
Caryophyllaceae	1	4	2	—	2	3	2	1	—	2	2	—	1
Ranunculaceae	15	21	27	14	2	21	18	18	13	28	21	19	17
Cruciferae	1	6	1	3	—	1	—	1	3	—	1	2	—
Saxifragaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
Rosaceae	5	1	3	1	—	3	3	6	1	9	3	3	5
Leguminosae	1	1	2	—	—	2	1	—	—	1	—	—	1
Balsaminaceae	1	—	2	—	—	—	—	—	—	1	1	—	3
Haloragaceae	—	—	2	—	—	—	1	1	—	1	—	—	—
Umbelliferae	7	15	7	2	1	8	5	8	3	9	7	9	6
Labiatae	2	5	—	1	—	—	—	—	—	2	—	2	—
Vierianaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
Campanulaceae	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1
Garduoideae	13	25	8	4	1	11	5	11	12	5	21	20	6
Cichorioideae	3	6	1	—	—	3	1	3	1	1	3	1	1
<i>Artemisia</i>	41	59	39	9	8	45	36	43	25	31	45	44	37
Typhaceae	1	21	11	—	—	9	7	9	1	5	3	5	13
Gramineae	56	95	81	30	35	81	75	91	35	85	95	86	76
Gramineae(45μ>)	—	3	5	3	—	5	2	8	—	8	6	2	5
Cyperaceae	11	15	13	2	1	21	17	20	2	15	13	17	18
<i>Lysichiton</i>	—	9	3	—	—	3	4	—	—	2	1	3	5
Commelinaceae	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1
Liliaceae	1	—	1	—	—	1	1	1	—	1	2	—	1
Equisetaceae	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1
Osmundaceae	6	8	2	1	1	5	1	1	1	3	5	3	2
Lycopodiaceae	3	1	2	2	—	2	1	3	1	2	2	2	1
Monolete type spore	25	46	21	13	8	28	18	31	15	27	23	25	18
Trilete type spore	2	3	—	—	—	3	—	—	—	2	2	—	1
合計(個)	369	539	412	216	82	466	348	451	198	449	452	409	386
Undetermined(個)	8	3	9	3	9	11	7	5	8	18	8	10	9

*angea*(アジサイ属; ノリウツギ他)

草本: Moraceae(タワ科; カナムグラ・アサ), Chloranthaceae(センリョウ科; ヒトリシズカ他), Urticaceae(イラクサ科; イラクサ), Polygonaceae(タデ科; オオイタドリ・ミゾソバ・ハルタデ他), Chenopodiaceae(アザガ科; アザガ・シロザ), Caryophyllaceae(ナデシコ科; ハコベ・ミミナグサ他), Ranunculaceae(キンボウゲ科; カラマツソウ・アキカラマツ他), Cruciferae(アブラナ科; タネツケバナ・スカシタゴボウ他), Saxifragaceae(ユキノシタ科; ネコノメソウ他), Rosaceae(バラ科; オオダイコンソウ・エゾノシモツケソウ・ナガボノシロワレモコウ他), Leguminosae(マメ科; タサフジ・ハマエンドウ他), Balasaminaceae(ツリネソウ科; キツリフネ・ツリネソウ), Labiateae(シソ科; カワミドリ・イヌゴマ他), Onagraceae(アカバナ科; ヤナギラン), Araliaceae(ウコギ科; ウド), Umbelliferae(セリ科; ヤブジラミ・エゾニユウ・オオバセンキュウ他), Haloragaceae(アリノトウグサ科; アリノトウグサ), Artemisia(ヨモギ属; オオヨモギ他), Carduoideae(キク亞科; アキタブキ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・チシマアザミ他), Cichorioideae(タンポポ亞科; ハチジョウナ・コウヅリナ他), Typhaceae(ガマ科; ガマ), Gramineae(イネ科; ススキ・ヨシ・イワノガリヤス・エノコログサ・栽培種のイネ科植物他), Cyperaceae(カヤツリグサ科; エゾアラガヤ・オクノカシマグサ他), Lysichiton(ミズバシヨウ属; ミズバシヨウ・ザゼンソウ), Commelinaceae(ツユクサ科; ツユクサ), Liliaceae(ユリ科; バイケイソウ・オオウバユリ他) 胚子: Equisetaceae(トクサ科; トクサ・スピギナ), Lycopodiaceae(ヒカゲノカズラ科; ヒカゲノカズラ他), Osmundaceae(ゼンマイ科; ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ他) 形態分類: Monolate type spore(單条孔型胞子; シダ類), Trilite type spore(三孔型胞子; ワラビ他)

14点の試料で確認された花粉・胞子は、ほぼ同様な出現傾向を示している。

樹木花粉では針葉樹の *Abies*, *Picea* と落葉広葉樹の *Juglans*, *Populus*, *Juglans*, *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, 草本花粉・胞子では *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Rosaceae*, *Umbelliferae*, *Carduoideae*, *Artemisia*, *Typhaceae*, *Gramineae*, *Cyperaceae*, *Lysichiton*, *Osmundaceae*, Monolate type spore を主とした花粉化石群集が各試料で確認されている。

樹木花粉では *Alnus*, *Quercus*, *Betula*, *Ulmus* が優勢で、次いで *Juglans*, *Abies*, *Picea*, *Salix*, *Populus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, *Phellodendron* が多く産出している。肥沃な沖積地を好む *Ulmus*, *Tilia* や河畔に多い *Alnus*, *Juglans*, *Salix*, *Populus* が多く産出している。また、日当りのよい場所を好む *Rubus*, *Araliaceae*, *Sambucus* 等も産出するほか、現在その自生分布北限を黒松内低地帯とする、冷温帶落葉広葉樹の *Fagus* も僅かではあるが各試料で確認されている。針葉樹の *Picea*, *Abies*, *Pinus* は現地性の樹木ではないと考えられる。

草本花粉・胞子では *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Artemisia*, *Gramineae*, Monolate-type spore が優勢で、次いで *Chenopodiaceae*, *Caryophyllaceae*, *Rosaceae*, *Umbelliferae*, *Carduoideae*, *Typhaceae*, *Lysichiton*, *Cyperaceae*, *Osmundaceae* が多く産出する。低湿地や幾分湿った場所を好む *Urticaceae*, *Balasaminaceae*, *Typhaceae*, *Haloragaceae*, *Cyperaceae*, *Lysichiton* や、日当りのよい草地を好む *Polygonaceae*, *Ranunculaceae*, *Rosaceae*, *Umbelliferae*, *Artemisia*, *Gramineae* 等の草本が多いのが注目される。

畑地雜草として耕作地に多く生育する *Chenopodiaceae*, *Caryophyllaceae*, *Cruciferae*, *Commelinaceae* が比較的多く産出しているほか、花粉の赤道直徑が45μ以上の栽培種と考えられる *Gramineae* も各試料で確認されていいる。

わずかに産出している *Moraceae* の母植物について、栽培種のアサの可能性も考えられる。

### ① 古環境について

#### a) 古植生

サクシコトニ川沿いの微高地に位置した縄文時代のサクシコトニ川遺跡の周囲には、ハシノキ、ヤチダモ、ヤナギ類、オニグルミ、シラカンバ、ハルニレ、ミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ、キハダ等を主とした落葉広葉樹が分布していたと考えられる。

このような樹木構成からなる林は、河川沿いの肥沃な冲積地に発達したハルニレ、シナノキ、イタヤカエデを主とした落葉広葉樹林が、縄文時代の人々による伐採等の活動によって破壊され、一部にミズナラ、シラカンバ、オニグルミ等が進出して二次林が形成されたことを示すものと考えられる。

さらに、キイチゴ属、タラノキ、エゾニワトコ等の灌木の存在は、樹木が伐採され日当たりの良い空間が存在したことを見ている。

多く産出している陽地性のオオイタドリ、カラマツソウ、アキカラマツ、エゾニユウ、オオヨモギ、アキタブキ、チシマアザミ、バラ科植物、ススキは、遺跡周囲の林は伐採され陽地性草本群落が生育可能な、空間が広がっていたことを裏づけるものである。

また、河畔にはハシノキ、ヤチダモ、ヤナギ類からなる低湿地林が分布し、ガマ、ミズバショウ、エゾアブラガヤ、ヨシ、トクサ等が繁り、河畔沿いの幾分湿った場所にはクリフネソウ、キツリフネ、アリノトウグサ、ゼンマイ、シダ類が繁っていたことが予想される。

針葉樹のトウヒ属、モミ属、マツ属と冷温帯落葉広葉樹のブナについては、花粉が風によって運ばれたもので、遺跡周辺に生育していたとは考えがたい。

現在、遺跡周辺の川辺にはハシノキ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデが優占する林が生育している。

#### b) 耕栽培植物について

サクシコトニ川遺跡の発掘に伴って、炭化物廃棄遺構の土壤や焼土が多量に採取され、大規模にフローテーションが行なわれている。これまでに発表された概報等のなかで、多量のサケの骨のはかにコメ、オオムギ、コムギ、綠豆、キビ、アワ等の栽培植物遺存体の产出が報告されている(吉崎・岡田編 1984)。

吉崎・岡田(1984)によると、オオムギの出土は多量で栽培植物種子がセットになっていてことから、かなりの規模で農耕が行なわれていたと推定されている。

産出した花粉の中には赤道直径が45μ以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が含まれており、イネ科の雑穀が栽培されていたことを示している。

イネ科のどの栽培植物に該当するかは不明であるが、フローテーションで得られたコメ、オオムギ、コムギ、キビ、アワのいずれかの花粉であろう。

ただし、コメについては現地で栽培されたと考えるより、本州から移入したと考えるべきであろう。

さらに、母植物として樹木のクワ、草本のアサ、カナグラムが想定されるクワ科の花粉がわずかであるが産出している。アサの種子は福井県島浜貝塚の縄文時代前期の遺物包含層から産出し、かなり古い時代に日本に渡来し栽培されていたことがあきらかとなっており(笠原 1984)、本道では統編文時代の江別太遺跡から産出している(矢野 1981)。ここで確認されたクワ科花粉の母植物がアサであるか否かは、炭化種子の産出によって裏づけられるであろう。

アカザ、ミミナグサ、ハコベ、タネツケバナ、スカシタゴボウといった畠地雜草の花粉も比較的多く産出しており、遺跡近くに耕作地が存在しフローテーションで得られた植物

が栽培されていたのは確かであろう。道内では12箇所の縄文時代遺跡から栽培植物遺存体や花粉化石が産出し、縄文時代に農耕活動が行なわれていたことは否定できない事実となっている。しかし、サクシュコトニ川遺跡のように、多量に栽培植物が産出するとともに多くの作物がセットとなって出土した例はなく、一見すると特異な遺跡に見える。このように多量の土壤のフローテーションを行なった発掘調査はかつてなく、縄文時代の遺跡の土壤の中に多くの情報が含まれていたことを示したもので、特異な遺跡とは言えないであろう。

### ① おわりに

サクシュコトニ川遺跡の発掘に際して、採取された14点の土壤試料の花粉分析を行なった結果、下記の事が明らかとなった。

- 1) 樹木花粉21属1科、草本花粉2属23科、胞子3科、形態分類胞子2種類が確認された。
- 2) 遺跡の周辺にはハンノキ、ヤチダモ、ミズナラ、ハルニレ、イタヤカエデ、シナノキ、シラカンバ、オニグルミ、ヤナギ類を中心とした落葉広葉樹林が分布していた。
- 3) 林は二次林の様相を示すもので、樹木が伐採された生活空間には陽地性の草本群落が繁っていた。
- 4) 赤道直徑45メートル以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が産出するとともに、畑地雜草のアカザ科、ナデシコ科、アブラナ科花粉も多く産出していることから、イネ科に属する雜穀が栽培されていたことがあきらかとなった。
- 5) わずかではあるが母植物としてアサが想定されるクワ科花粉が産出している。

### 〈参考文献〉

- ▶笠原安夫(1984)「縄文時代(前・後期)遺跡から出土したゴボウ、アサの種実について」『昭和59年度文化財科学会大会研究発表要旨』
- ▶矢野牧夫(1981)「石狩低地帯の先史遺跡から出土した植物遺体」『北海道開拓記念館研究年報』第9号
- ▶吉崎昌一・岡田淳子編(1984)『北大橋内の遺跡3—昭和57年度』
- ▶吉崎昌一・岡田淳子(1984)「考古学におけるニゾとエゾ地」『創造の世界』№49

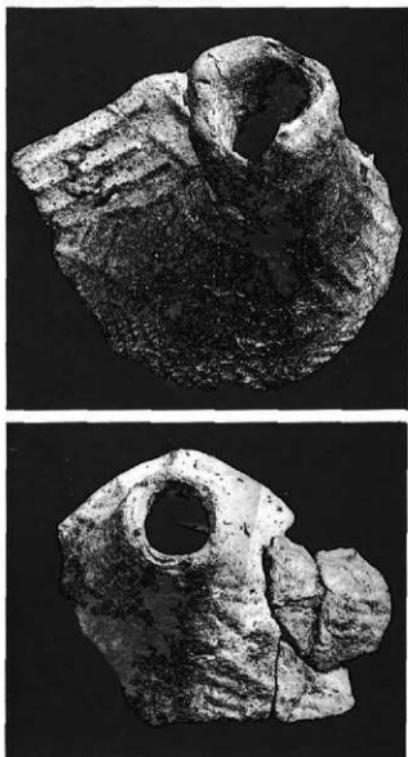
W-14

## [第3文化層の土器]

第W層の砂層中から、統繩文期中葉（後北C 2式）の土器3個体分が出土した。そのうち図示した2個体は注口部分を残す破片である。PL-II-38上は07-07[12]グリッドから、PL-II-38下は06-10[32]グリッドから出土した。そこは埋没河川・セロンベック川の左岸域にある。

(横山英介)

PL. II-38 第三文化層出土の注口土器



## まとめにかえて

### 〈発掘と整理〉

北海道大学が新しい寮の建設を計画したのは、もう10年以上も前になる。昭和55年にその計画が具体化した時にまず問題となつたのは、その敷地をどこにするかということであった。本学の施設部と埋蔵文化財プロジェクト・チームは幾多の協議を重ねながら、敷地の選定を模索した。できる限り埋蔵文化財の包蔵地にからないよう配慮するためである。可能性のある地域はいくつあったが、我々の手持ち資料と札幌市教育委員会の収集資料ならびに明治時代中期に調査された遺跡分布図から、文化財に関する情報のもっとも空白の地帯として、当時準硬式野球場だった現在地が選定された。記録によるかぎり、この場所は地下水位が高く、耕作も行なわれたことがなかったと伝えられている。ところが、全面的な発掘を実施した結果、擦文時代の集落が検出されたのである。ここに贈るのは、その発掘報告である。

発掘調査は、北海道大学埋蔵文化財プロジェクト・チームの岡田宏明・岡田淳子・菊池俊彦・林謙作・吉崎昌一と北海道大学埋蔵文化財調査室の横山英介・松岡達郎・平川泰彦・椿坂恭代ほか多数のメンバーがあたり、その作業を円滑に実施するため、北海道大学本部事務局が部・課の枠を超えた明確な支援態勢をととのえた。整理研究も同様である。

関連する諸分野についても多数の人々の御援助をいただいた。金属製品とスラグについては北海道大学工学部工業物理学講座助教授小笠原正明氏、機械材料学講座助教授野口徹氏、金属工学第二講座助教授石井邦宣氏らが、植物種子の同定には以前から共同作業を続いている。カナダ・トロント大学助教授のG・W・クロフォード氏が参加した。植物種子と出土木材の電子顕微鏡写真的撮影には、北海道大学農学部木材理学科の全面的な支援を受け、名譽教授石田茂雄氏、教授深沢和三氏の指導で可能になったものである。出土した魚歯骨は、東北大学考古学研究室の須藤隆助教授指導のもとに、高橋理氏があつた。問題の刻字土器の歴史的検討には元北海道大学教授で現在成城大学教授の佐伯有清氏から玉稿をたまわった。また、花粉分析は北海道開拓記念館の山田悟郎氏に依頼した。

遺跡の調査活動の第一段階は、こうした人々の協力と支援によって到達されたものである。

### 残された問題

### 〈土器の接合関係と遺構〉

擦文時代の遺跡をほぼ全面発掘できることになった時、大学構内という立地条件を生かして、いくつかの作業仮説の検討あるいは実験を含む調査を計画した。その一つは発掘区5,904m<sup>2</sup>全域から出土する土器の接合関係を調べたことである。この方法は、先土器時代の発掘調査ではしばしば実施され、遺物スポットの相互関係の判断材料に使用されている。これを比較的遺物出土量の少ない擦文時代に適用し、そこから遺構や遺物の相互関係を判断する手がかりにしたいと最初に提案したのは横山である。その結果については、23~94頁を参照されたい。この分析から横山は遺構の相互関連に迫り、集落内部の変遷に触れている。だが、この手法が普遍的に無理なく使用できるためには、かなり量的にも多い接合

資料が必要となる。それなくしては、二次的な廻棄個所からの混入という危険性を無視できない場合があろう。今後の資料増加を待ち、より精度の高い手順の開発を進めたい。

#### 〈遺物の廻棄パターン〉

遺物の分布図と個体別出土表をみると、土器の廻棄散乱の状態におおまかに2種類あるように思われる。第一は特定個体を構成する破片が比較的まとまって出土する場合、第二は散乱の度合がはげしく、なかには50mも離れていた土器片が接合するといったケースも少なくない。この種の土器個体は、整理作業がある程度進行して後に復元、特定が可能になる場合が多い。このような廻棄散乱の差は、集落の存続期間中に使用されていた土器の時間的な新旧と関連するのであろうか。それとも遺物の種類によって廻棄の様式が異なるのだろうか。まだ検討の余地があり確定にいたっていない。今後、遺物廻棄パターンの資料として研究分析を実施したいと考えている。

遺物廻棄パターンに関連して、もうひとつ注意を喚起しておきたいことがある。それは各大型住居からの土器廻棄についてある傾向が認められそうなことだ。例を2号住居にとろう、29頁の記載にもあるとおり、この住居内の土器と接合関係を示す土器片は、2号住居の縦道に隣接する「焼土43」、住居の北東方向の「炭化物52」および「炭化物マウンド」に集中して発見された。横山も『2号竪穴住居の人々はもっぱら住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廻棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廻棄しなかった……』(116頁)と述べている。この基本的な廻棄のパターンは、他の2棟の大型住居についても同様に認められる。つまり、3、5号住居においても縦道に隣接して焼土や遺物の廻棄があるが、これらの住居に由来する土器は、主として両竪穴住居のほぼ中間に位置する地域、X08~09、Y05~10にかけて廻棄されていた。しかも横山の観察では3号住居が廃絶した直後に5号住居が建設されているから(92~94頁)、この廻棄の場に関するかぎりその場所は堅穴住居の移設とは関係なく、継続して利用されていた可能性が高い。

こうした廻棄の場が、ある程度の安定性をもって存在し得た背景は、どのように理解されるべきだろうか。それを説明するひとつの手がかりを、あまり検出例の多くない土玉の出土状況に求めたい。

この遺跡から総数で17個の土玉が検出されている。そのうち15個は2号住居と関連する炭化物マウンドから発掘され、1個はこのマウンドの周囲から、残る1個が炭化物52から見出された。

縄文時代の装飾品の検出例は、一般にあまり多くない。千歳末広遺跡から土製玉が玉と木製玉(千歳市教育委員会 1981, p.36), ウサクマイN遺跡(石附 1977 p.17)と、恵庭市柏木川から土玉(高橋 1971, p.6), 留萌管内小平遺跡からガラス玉(福士 1985, p.17~18)などが報告されているくらいである。このような状況のもとで、サクシコトニ川遺跡第二文化層に属する炭化物マウンドから10個をこす土玉が出土したことは、この場所が墳墓でないこともあって注目する必要がありそうである。発掘精度からみても、この遺跡の他の地域や竪穴住居中の土玉を見逃しているという可能性は一応排除できる。だとすれば、これらの土玉の出土は、特定の場にたいする意図的な廻棄として説明できるのではないだろうか。もし この推論が的を得ているならば、これこそアイヌ民族例にみられるような「送り場」(宇田川 1985: pp.32~78)の初期形態の例として、検討されるべきであろう。

### 〈栽培植物の出現について〉

サクシュコトニ川遺跡の住民が農耕を行なっていたことは、G・クロフォード氏と山田悟郎氏の報文に詳しい。擦文時代の農耕については評価がまちまちであるが、大方の見解としては、きわめて小規模の家庭菜園程度のものであろうというのが一般的であった（たとえば加藤ほか 1983; p.21-21, 菊池 1983, p.2）。しかし、本報告のなかで述べられている資料からすれば、これまでの考え方を変換を余儀なくさせる。

かつて筆者は、擦文時代の堅穴住居の形態、特にそれまで北海道に存在しなかった煙道付きのカマドの出現を説明する仮説として、この時点でおきた食生活の大幅な変化一般物食の出現をあげたことがある。また、同時にそうした農耕文化が、北海道においては中世以降に衰退した可能性についてもふれた（吉崎ほか 1972, pp.50-52）。

現在までに語られている擦文時代生業論の致命的な欠陥は、具体的な資料の検出を図らないで遺跡の立地から想像をたくましくすぎた点にある。こうした弱点を補強する資料として、サクシュコトニ川遺跡の資料のもつ意味は大きい。

この遺跡ではオオムギ、コムギ、アワなどを中心とする雑穀栽培が、かなり大規模に実施されていたことは、検出された種子の組成からもまちがいない。しかし、その具体的な農耕がどのようなものであったかについては、まだ資料が不足している。農耕具そのものの出土もなかった。だが、北海道内で発掘されている他の擦文時代の遺跡からは、鉄製農具の歛・鉢先・鎌などの出土が知られている（岡田・山田 1982, p.27~28）。とくに、前出の柏木川遺跡で発見された墳墓には、歛先と鎌がセットになって埋葬されていたことを想起したい。しかし、これらの鉄製農具は北海道の背梁山脈以西から発見されているので、岡田らも指摘しているように（前出）、この分布にみられる差が、北海道内における農耕伝統の違いをあらわしている可能性のあることも否定できない。その意味では、サクシュコトニ川遺跡は、西部北海道伝統の代表例として扱う必要があるのかもしれない。

最近の本州各地の発掘では、畑そのものの遺構がしばしば確認されているが、ここでは確認できなかった。小河川によって囲まれていたサクシュコトニ川遺跡の居住空間は、それほど大きくなないので、主たる畑は集落から若干離れていた可能性はある。今後、プラント・オペールなどの資料を収集して、その位置を検討する機会をもちたいと思う。なぜなら、施肥をおこなわないで雑穀栽培を実施した場合、その畑が使用に耐えうるのは、たかだか10年末満。状況によっては5年末満が限界であるからだ。第Ⅱ章で解説しているように、サクシュコトニ川・コトニ川水系には多數の遺跡が分布しているのだが、それらのうち、サクシュコトニ川遺跡と時間的に平行する集落が存在するとすれば、各々の耕作地を含めた集落領域の広さを念頭において、分析しなくてはならないからだ。同時に彼等の重要な蛋白源を供給していた魚止め（テシ）の設置地点と集落領域との関連についての分析も重要項目である。

### 〈集落の廃絶と移動〉

サクシュコトニ川遺跡においては、第2文化層の上部を無遺物の砂質粘土層がおおい、その上に第1文化層が存在していた。つまり第2文化層の集落の放棄と埋没については、2つの見方を提示することができる。それは、第2文化層の集落がなんらかの理由で放棄された後にこの地域が一定期間水没した場合と、水没が直接の原因で放棄された場合である。扇状地末端の微高地という立地条件からすれば、この地域が冠水することは珍しくなかった。それは、この地が準硬式野球場として利用されるまで毎年の融雪期には水没するケースが多く、耕作地として不適格であったことでも分る。また、はげしい冠水は時として蛇行する水路の変更をもたらし、サケ・マスの産卵床をも破壊した。これは当時の集落の生活に大きくかかわる問題であった。農耕地の荒廃も含めてこうしたいくつかの原因

が複合して、集落の遷移が引き起こされた可能性は十分にある。この集落の遷移パターンが、北海道でも有数に密度の高いコトニ川水系の遺跡分布様相と無関係であるとはいえないであろう。

結語にかえて

#### 〈生活形態のイメージ〉

サクシコトニ川遺跡の古代人は、オオムギ、コムギ、アワなどの耕地を所有し、さらに集落のはずれの小河川の魚止めで、豊富な蛋白源を確保していた。集落の規模は4軒といいで構成されるると推定できる。集落内では、低火度の鍛冶もおこなわれていた。また、集落の立地が中小河川の上流域にみられるにせよ、これが季節的な漁場キャンプとか狩猟キャンプであったという証拠は全くない。周辺に農耕地をもつ通常の集落であろう。彼等は、サケの産卵床近くに共同でテントを設置し、ウダイ・サクラマス・シロザケなどを捕獲していた。他の集団との間の主たる物流には、丸木舟による水上輸送が用いられていたであろう。この点、サクシコトニ川遺跡の立地が、河川の状況からみて、その海上境界に近い所に位置しているのは示唆的である。河川のこうした利用形態から考えれば、本支流を含む各地点の住民が、なんらかの共通した規制のもとに生活していたことが予想されよう。もし、このような生活形態がサクシコトニ川・コトニ川水系域住民のみにみられる特殊なケースでないとすれば、従来いわれている擦文時代の集落論や生業論は、再考の余地がありそうである。

#### 〈擦文化の概念について〉

遺物の記載部分をみてもわかるように、サクシコトニ川遺跡出土の土器については、「土師器・土師質土器」という用語で説明されている。にもかかわらず「擦文時代あるいは擦文化」という從来からの時代区分概念を検討せずに階級したことを断わっておきたい。北海道のこの時代のものは、本州の土師器を伴なう一般的な住居と同種の構造の住居を持ち、米以外の雜穀栽培がなされていたことも確認されている。しかし、当時の政治組織からすれば、ここは化外の地であろう。しかし、物質文化の上からみれば、東日本の大部分の地域と「擦文化」の間に、それ程の異質性を強調する理由が果たして存在するだろうか。本州東北部の文化の周辺として扱ってはいけないのである（たとえば、吉崎昌一・岡田淳子：1984, pp.80～105）。今後、広い視野からの検討が必要なのである。

（吉崎昌一）

#### 〈引用文献〉

- ▶石附喜三男編著 1977 『ウサクマイ遺跡—N地点発掘報告書』 千歳市教育委員会
- ▶宇田川洋 1985 「アイヌ文化期の送り場遺跡」『考古学雑誌』 70巻4号 32～78 日本考古学会
- ▶岡田淳子・山田哲郎 1982 「北海道における農耕の起源に関する考察」梅原達治編『北海道における農耕の起源(予報)』pp.26～30
- ▶加藤晋平ほか 1983 「擦文期の生業をめぐって」『考古学ジャーナル』 N.213 pp.21～27
- ▶瀬地徹夫 1983 「擦文化研究の現状と課題」『考古学ジャーナル』 N.213 pp.2～3
- ▶高橋正勝 1971 「柏木川」恵庭町教育委員会
- ▶千歳市教育委員会 1981 『末広遺跡における考古学的調査(上)』 千歳市教育委員会
- ▶福士廣志 1985 『高砂遺跡第Ⅱ地点発掘調査報告』 小平町教育委員会 285p.
- ▶吉崎昌一ほか 1972 『シンボジュム・アイヌ』 北海道大学図書刊行会
- ▶吉崎昌一・岡田淳子 1984 「考古学におけるエゾとニゾ地」『創造の世界』 49号 pp.80～105  
小学館

[本文編]

1

## サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初的農耕集落

昭和61年3月20日発行

発行所——北海道大学

札幌市北区北8条西5丁目

編集——北海道大学埋蔵文化財調査室

デザイン——桜井雅章

印刷所——(株)北海道模写紙印刷所

札幌市北区北6条西7丁目

付表

Tab. II-20 第Ⅰ文化層出土土器・須恵器一覧表

器体番号	通称番号	破片数	大きさ	小グリット	断面・出土位置	開口部構造など	部位	関連PL、番号	
素	53	13183	66	06-10	(30)	直	邊縫外	口縫部	PL-II-8-2
		13452	1	07-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	PL-II-10
		13869	1	06-10	(21)	直	邊縫外	口縫部	
		13204	1	05-10	(21)	直	邊縫外	口縫部	
		13132	1	07-10	(00)	直	邊縫外	口縫部	
		13161	1	07-10	(11)	直	邊縫外	口縫部	
		13185	6	06-10	(20)	直	邊縫外	口縫部	
		13190	1	06-10	(21)	直	邊縫外	口縫部	
		13191	1	06-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13857	2	06-10	(20)	カゲラン	邊縫外	口縫部	
		13463	1	07-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13867	2	06-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13197	1	06-10	(22)	直	邊縫外	口縫部	
		13472	1	07-10	(12)	直	邊縫外	口縫部	
		13118	1	06-11	(21)	直	邊縫外	口縫部	
		13477	1	07-10	(15)	直	邊縫外	口縫部	
		13875	1	06-10	(00)	直	邊縫外	口縫部	
		14333	1	06-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13137	1	07-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13176	1	07-10	(20)	直	邊縫外	口縫部	
		13454	1	07-10	(01)	直	邊縫外	口縫部	
		13868	6	06-10	(21)	直	邊縫外	縫部	
		13185	4	06-10	(20)	直	邊縫外	縫部	
		13205	1	05-09	(01)	直	邊縫外	縫部	
		13202	2	06-09	(04)	直	邊縫外	縫部	
		13179	5	06-10	(23)	直	邊縫外	縫部	
		13182	4	06-10	(20)	直	邊縫外	縫部3、底部1	
		13126	2	07-10	(01)	直	邊縫外	縫部	
		13135	2	07-10	(04)	直	邊縫外	縫部	
		13180	2	06-10	(25)	直	邊縫外	縫部	
		13856	1	06-10	(12)	直	邊縫外	縫部	
		13855	1	06-10	(12)	直	邊縫外	縫部	
		13177	7	06-10	(02)	直	邊縫外	縫部	
		13134	1	07-10	(01)	直	邊縫外	縫部	
		13160	1	07-10	(11)	直	邊縫外	縫部	
		13186	4	06-10	(01)	直	邊縫外	縫部	
		13873	1	06-10	(35)	直	邊縫外	縫部	
		13079	1	06-11	(20)	直上	邊縫外	縫部	
		13379	1	07-08	(11)	直上	邊縫外	縫部	
		13880	1	06-11	(30)	直上	邊縫外	縫部	
		13111	1	06-11	(20)	直	邊縫外	縫部	
		13120	1	06-11	(20)	直	邊縫外	縫部	
		13458	1	07-10	(00)	直	邊縫外	縫部	
		13184	9	06-10	(30)	直	邊縫外	縫部	
		13149	1	07-10	(03)	直	邊縫外	縫部	
		13147	1	07-10	(08)	直	邊縫外	縫部	
		13649	1	06-06	(31)	斜	邊縫外	縫部	
		13171	1	07-10	(13)	直	邊縫外	縫部	
		13124	1	06-11	(30)	直	邊縫外	縫部	
		13125	1	06-11	(30)	直	邊縫外	縫部	
		13187	1	06-10	(21)	直	邊縫外	縫部	
		13122	1	06-11	(20)	直	邊縫外	縫部	
		14417	1	06-10	(20)	カゲラン	邊縫外	縫部	
		13865	1	06-10	(21)	直	邊縫外	縫部	
		14706	1	06-10	(33)	カゲラン	邊縫外	縫部	
		13186	1	06-15	(21)	直	邊縫外	縫部	
		13166	1	07-10	(12)	直	邊縫外	縫部	
		13133	1	07-10	(00)	直	邊縫外	縫部	
		13139	1	07-10	(01)	直	邊縫外	縫部	
		13894	1	06-10	(21)	直	邊縫外	縫部	
		13234	1	06-09	(10)	直	邊縫外	縫部	
		13204	1	06-09	(23)	直	邊縫外	縫部	
		13142	1	07-10	(02)	直	邊縫外	縫部	
		13150	1	07-10	(03)	直	邊縫外	縫部	
		172件							
素	54	3678	3	09-06	(11)	直上	邊縫外	口縫部	PL-II-11
		3647	2	09-06	(21)	直上	邊縫外	口縫部	
		3649	1	09-06	(21)	直上	邊縫外	口縫部	
		3667	13	09-06	(20)	直上	邊縫外	口縫部	
		3668	2	09-06	(20)	直上	邊縫外	口縫部	
		3619	1	10-07	(02)	直上	邊縫外	口縫部	

保存番号	遺物番号	被片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	3683	1	09-06	(22)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
(ツヅキ)	3696	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3639	5	10-06	(00)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3658	2	10-06	(03)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3625	2	10-06	(01)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3674	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3664	6	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3653	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3665	2	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3666	4	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3630	2	09-06	(06)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3634	1	09-06	(31)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3631	2	09-06	(31)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3633	3	09-06	(31)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3642	2	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3676	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3669	3	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3607	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3673	5	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3637	1	09-06	(22)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3629	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3615	1	09-06	(02)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3618	1	10-07	(02)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3605	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3671	7	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3657	7	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3624	3	10-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3661	4	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3609	3	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3677	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3641	1	09-06	(22)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3670	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3810	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3659	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3680	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3654	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3662	3	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3684	1	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3611	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3614	1	09-06	(20)	V	遺物外	口縫部	
	3619	1	09-07	(23)	V	遺物外	口縫部	
	3613	3	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3612	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3668	12	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3636	1	09-06	(22)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3683	1	09-06	(12)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3679	2	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3675	3	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部, 面部	
	3672	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3674	1	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3644	1	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3648	1	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3640	2	09-06	(22)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3643	1	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3804	3	09-06	(11)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3660	1	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3663	2	09-06	(10)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3170	1	09-07	(22)	V	遺物外	口縫部	
	3645	1	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3651	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3655	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3614	1	09-07	(03)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3683	1	09-06	(12)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3623	1	10-06	(00)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3620	1	10-07	(03)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3621	3	10-07	(03)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3635	2	09-06	(21)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	3656	1	09-06	(20)	Ⅲ上	遺物外	口縫部	
	166片(13枚断片), 面部3片, 面部2片(番号わからず)							
■	13461	1	07-10	(03)	Ⅲ	遺物外	口縫部	PL.12-9-4
	13184	1	07-10	(03)	Ⅲ	遺物外	口縫部	PL.12-13

個体番号	通物番号	岐阜登	大アクリド	小アクリド	種位・出土位置	周辺遺跡など	部位	開拓PL.番号
95	130944	1	06-11	[20]	Ⅲ	地土	地表	
(つづき)	13462	1	07-10	[05]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13463	7	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13480	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13129	1	06-11	[81]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13144	1	07-10	[06]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13123	2	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13172	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13782	2	07-10	[06]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13176	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13142	2	07-10	[06]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13148	1	07-10	[05]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13873	2	06-10	[83]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13872	1	06-10	[10]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13149	1	07-10	[05]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13167	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13141	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13465	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13096	1	07-10	[06]	カクラン	遺跡外	□特部	
	13116	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13307	1	06-11	[11]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13174	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13110	3	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	□特部	
	13076	1	06-11	[10]	Ⅲ上	遺跡外	□特部	
	13119	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13130	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13117	1	06-11	[21]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13127	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13112	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13126	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13129	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13120	2	06-11	[80]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13878	2	06-11	[30]	Ⅲ上	遺跡外	網部	
	13877	1	06-11	[20]	Ⅲ上	遺跡外	網部	
	13200	3	06-10	[35]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13199	1	06-10	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13169	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13115	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13201	1	06-10	[55]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13178	1	06-10	[28]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13880	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13131	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	16075	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13154	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13153	1	07-10	[05]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13181	1	06-10	[35]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13114	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13484	3	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13463	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13469	1	07-10	[22]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13480	1	07-10	[22]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13494	1	07-10	[31]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13487	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13486	1	07-10	[23]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13476	3	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13133	2	07-10	[06]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13455	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13468	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	14708	1	06-10	[38]	カクラン	遺跡外	網部	
	13163	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13140	1	07-10	[08]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13099	1	07-11	[01]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13169	1	07-10	[15]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13124	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13162	2	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13152	1	07-10	[05]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13143	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13157	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13159	1	07-10	[04]	Ⅲ	遺跡外	網部	
	13173	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺跡外	網部	



個体番号	遺物番号	破片数	大きさ	小形	断片・出土位置	関連標名など	部位	開拓PL.番号
■	172	5630	1	28-36	(xx)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		6118	1	28-36	(xx)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		5993	1	28-36	(xx)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		5995	1	28-36	(xx)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		6907	1	27-34	(10)	Ⅲ	遺縫外	口縁部
		6534	1	22-23	(23)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		6637	1	22-23	(23)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		12810	1	24-23	(23)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		6638	1	22-23	(23)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		5片						
■	173	12601	2	30-36	(xx)	Ⅳ	焼土72	口縁部
		12604	2	30-36	(xx)	Ⅳ	焼土72	口縁部
		4片						
■	174	6863	1	30-36	(xx)	焼土上	焼土72	口縁部
		6862	1	30-36	(xx)	焼土上	焼土72	口縁部
		6220	1	29-34	(31)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		12827	1	29-35	(30)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		12767	1	27-34	(10)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		6909	1	27-33	(31)	V	遺縫外	口縁部
		12846	1	30-35	(xx)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		12807	1	30-36	(xx)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		5片						
■	193	6119	4	11-45	(11)	Ⅳ土(5)層	5号地穴住居	口縁部
		3106	1	09-47	(04)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		12721	1	05-65	(10)	Ⅳ	遺縫外	口縁部
		5片						
■	184	5497	1	26-37	(不規)	高土	遺縫外	口縁部
		5498	2	26-37	(不規)	高土	遺縫外	口縁部
		5509	1	26-36	(xx)	Ⅲ	遺縫外	口縁部
		5536	1	26-36	(xx)	Ⅲ	遺縫外	口縁部
		5片						
現地部(總)	17	12632	10	30-37	(xx)	Ⅲ	遺縫外	削部
		10片						

PL.12-9-2.



個体番号	測定番号	被覆物	大クラック	小クラック	層位	出土位置	開通箇所など	部位	測定PL.番号
坪	16	11710	1	15-17	[81]	土壌内	3号土壤	口縫部	PL-II-194-1
		11648	2	15-17	[83]	被土	被土41	口縫部	PL-II-213
		3393	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
		3395	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		3396	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部	
		6片							
坪	17	10955	1	17-11	[80]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	參照圖版5-上
		10442	2	17-11	[26]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部1,伴部1	PL-II-32
		10667	1	17-11	[81]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部	PL-II-303-6
		13255	1	07-08	[81]	N	被土18	伴部	PL-II-214
		13305	1	07-08	[81]	N	被土18	伴部	
		14157	1	08-04	[83]	N	被土・炭化物G5	伴部	
		3866	1	10-08	[21]	N	炭化物G5	伴部	
		14230	1	08-05	[16]	N	炭化物G5	伴部	
		6片							
坪	18	12063	8	17-17	[12]	カマド	2号窓穴住居	口縫部4,伴部~底部2	PL-II-32-4
		8片							PL-II-47
坪	19	2204	9	09-05	[22]	被土	1号土壌調査の被土・炭化物	口縫部1,伴部4	PL-II-157-1
		2205	9	09-05	[22]	被土	1号土壌調査の被土・炭化物	口縫部1,伴部5,底部3	PL-II-134
		14片							
坪	20	73	1	19-15	[80]	(不明)	炭化物G5	口縫部	PL-II-265-2
		71	2	19-16	[80]	(不明)	炭化物G5周辺	口縫部1,伴部1	
		9080	2	19-15	[20]	N'	炭化物G5	口縫部1,伴部1	
		9083	1	19-16	[20]	N'	炭化物G5	底部	
		7928	1	19-15	[20]	N'	炭化物G5	底部	
		7片							
坪	21	9851	1	17-13	[80]	N	炭化物マウンド周辺	口縫部	PL-II-202-3
		8853	1	17-17	[11]	N	被土43	口縫部	PL-II-215
		9790	1	15-17	[21]	N	被土43	口縫部	
		8219	1	15-17	[21]	N	被土43	伴部	
		4片							
坪	22	13647	2	08-08	[31]	N	被土27	伴部	PL-II-202-4
		10031	1	17-11	[22]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-216
		7296	3	17-12	[20]	N	炭化物マウンド	口縫部2,伴部1	
		7111	1	17-12	[81]	N	炭化物マウンド	口縫部	
		6991	11	17-12	[81]	N	炭化物マウンド	口縫部3,伴部6,底部2	
		18片							
坪	23	7421	1	19-18	[12]	N'	炭化物G5	口縫部	PL-II-266-3
		8097	1	19-15	[20]	N'	炭化物G5	口縫部	
		13311	1	19-15	[20]	N'	炭化物G5	口縫部	
		8183	1	19-15	[11]	N	炭化物G5	口縫部	
		7894	1	19-15	[12]	N'	炭化物G5	口縫部	
		7700	1	19-15	[20]	N'	炭化物G5	口縫部	
		7688	10	19-15	[12]	N'	炭化物G5	口縫部6,伴部6,底部1	
		7907	1	19-15	[13]	N'	炭化物G5	底部	
		17片							
坪	24	8041	3	16-18	[21]	N	被土44	伴部	PL-II-202-5
		7961	1	19-15	[10]	N'	炭化物G5	口縫部	PL-II-217
		7149	2	17-12	[20]	N	炭化物マウンド	口縫部	
		10679	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
		7030	1	17-12	[20]	N	炭化物マウンド	伴部	
		8772	1	17-12	[11]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部	
		1766	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縫部	
		7340	1	17-12	[10]	N	炭化物マウンド	口縫部	
		7331	1	17-12	[08]	N	炭化物マウンド	口縫部	
		7351	1	17-12	[11]	N	炭化物マウンド	底部	
		7329	1	17-12	[08]	N	炭化物マウンド	底部	
		7394	1	17-12	[22]	N	炭化物マウンド	伴部	
		15片							
坪	25	8906	1	17-18	[00]	被土44	2号窓穴住居	底部	PL-II-266-4
		11649	2	15-17	[31]	被土	被土43	口縫部	PL-II-273
		11195	1	15-17	[31]	N	被土43	口縫部	
		9711	1	16-17	[01]	被土上部	被土43	口縫部	
		9967	2	19-15	[23]	N'	炭化物G5	口縫部	
		5014	1	19-16	[20]	N	炭化物G5周辺	口縫部	
		5008	1	19-16	[20]	N	炭化物G5周辺	伴部	
		10805	1	15-14	[22]	N	道縫外	口縫部	
		5301	1	20-17	[22]	N	道縫外	底部	
		11片							
坪	26	15946	1	08-08	[02]	N'	4号土壌	口縫部	PL-II-194-5
		16949	1	08-09	[02]	N'	4号土壌	口縫部	PL-II-167

個体番号	遺物番号	破片数	大・小リットル	小・大リットル	層段・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
环	26	15422	2	06-09	(03)	炭化物等	4号土塼	
(ツブキ)			4片				体部1, 底部1	
环	27	7175	7	26-16	(32)	炭化物等	炭化物-焼土70	口縁部2, 体部5
	7200	3	27-16	(03)	炭化物等	炭化物-焼土70	体部3, 底部1	PL-II-363-2
	7194	1	27-16	(03)	炭化物等	炭化物-焼土70	体部	
		11片						
环	28	11957	1	18-15	(16)	瓦	炭化物G2場辺	口縁部
	3338	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物G2ウンド	口縁部	PL-II-220-1
	9257	2	17-11	(13)	マウンド上層	炭化物G2ウンド	口縁部1, 体部1	PL-II-218
	9308	1	17-11	(03)	マウンド内	炭化物G2ウンド	口縁部	
	9205	1	17-11	(03)	マウンド上層	炭化物G2ウンド	口縁部	
	9307	1	17-11	(03)	マウンド内	炭化物G2マウンド	口縁部	
	9310	1	17-11	(03)	マウンド内	炭化物G2ウンド	口縁部	
	7130	1	17-11	(16)	瓦	炭化物G2ウンド	口縁部	
	10285	1	17-12	(26)	マウンド内	炭化物G2ウンド	体部	
	10310	1	17-12	(21)	マウンド内	炭化物G2マウンド	口縁部	
	9459	2	17-12	(11)	マウンド内	炭化物G2ウンド	口縁部	
	3461	1	17-10	(33)	マウンド内	炭化物G2ウンド	底部	
	9265	1	17-11	(13)	マウンド上層	炭化物G2ウンド	体部	
		15片(12脚部+調査部片等含むから)						
环	29	1177	1	10-05	(20)	カマド	5号窓穴住居	口縁部
	1196	1	10-05	(20)	カマド	5号窓穴住居	底部	PL-II-135
	1195	1	10-05	(20)	カマド	5号窓穴住居	体部	
		3片						
环	30	3491	8	17-11	(12)	マウンド内	炭化物G2ウンド	口縁部5, 体部2, 底部1
	8701	5	17-11	(22)	マウンド上層	炭化物G2ウンド	口縁部3, 体部4	PL-II-219
	9304	1	17-11	(02)	マウンド内	炭化物G2ウンド	体部	
	3340	1	17-11	(15)	マウンド内	炭化物G2ウンド	体部	
	10253	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物G2ウンド	体部	
		16片						
环	31	15687	1	08-09	(03)	x*	4号土塼	口縁部
	1865	1	18-10	(11)	カタラン	炭化物G2ウンド	口縁部	PL-II-230
	1860	1	18-10	(12)	カタラン	炭化物G2ウンド	底部	
	2782	1	18-10	(01)	マウンド内	炭化物G2マウンド	体部	
	4463	1	16-22	(31)	瓦	炭化物G2	体部	
	9574	6	20-15	(31)	x*	炭化物G2	口縁部3, 体部3	
	8148	1	19-14	(33)	瓦	炭化物G2周辺	体部	
	1717	1	15-08	(23)	瓦	遺構外	体部	
		13片						
环	32	1185	3	09-11	(33)	覆土③厚	3号窓穴住居	口縁部1, 体部1, 底部1
		3片						PL-II-168
环	33	1356	7	11-06	(20)	床直	5号窓穴住居	口縁部3, 体部4, 底部1
	1353	1	11-06	(20)	床直	5号窓穴住居	口縁部	PL-II-127-5
	1453	1	11-06	(20)	床	5号窓穴住居	体部	PL-II-127
	3690	1	08-08	(30)	瓦	燒土G2周辺	体部	
	3294	1	09-09	(20)	V	1号土塼壁土周辺	体部	
		11片						
环	34	372	7	18-16	(23)	(不明)	炭化物G2	口縁部2, 体部5
	1760	1	18-16	(13)	瓦	炭化物G2	体部	PL-II-267-1
	11088	1	19-15	(22)	x*	炭化物G2	底部	
	7669	1	19-15	(22)	x*	炭化物G2	底部	
	1759	2	18-16	(13)	瓦	炭化物G2	体部	
	9052	1	19-15	(12)	x*	炭化物G2	体部	
	7993	1	19-15	(22)	x*	炭化物G2	体部	
	1756	1	18-16	(03)	瓦	炭化物G2	体部	
	1758	1	18-16	(13)	瓦	炭化物G2	体部	
		10片						
环	35	4386	1	16-23	(01)	瓦	炭化物G2	口縁部
	4384	1	16-23	(01)	瓦	炭化物G2	口縁部	PL-II-222
	4383	1	16-23	(01)	瓦	炭化物G2	口縁部	
	4387	1	16-23	(01)	瓦	炭化物G2	体部	
	4382	1	16-23	(01)	瓦	炭化物G2	底部	
	16519	1	16-23	(不明)	炭化物G2ウンド周辺	口縁部		
	4195	1	17-22	(00)	瓦	遺構外	体部	
	42	1	15-22	(不明)	カタラン	遺構外	体部	
		5片						
环	36	3496	2	17-11	(02)	瓦	炭化物G2ウンド	口縁部1, 体部1
	7434	1	19-15	(22)	x*	炭化物G2	口縁部	PL-II-222
	9520	1	20-15	(02)	x*	炭化物G2	口縁部	
	7451	1	19-15	(22)	x*	炭化物G2	口縁部	
	9099	10	19-15	(32)	x*	炭化物G2	口縁部3, 体部3, 底部4	

個体番号	測定番号	被片数	大アノット	小アノット	巣位置	出土位置	通達機種など	部放	通達PL-番号
坪 ('ツブキ')	30 7031	2	19-15	[11]	x'		炭化物G2	口縫部1, 伸部1	
	7977	1	19-15	[10]	x'		炭化物G2	底部	
	11083	1	19-15	[22]	x'		炭化物G2	伸部	
	7668	1	19-15	[22]	x'		炭化物G2	伸部	
		20片							
坪	37 3972	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	底部		PL-II-203-5
	3973	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		PL-II-223
	3974	4	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部2, 底部2		
	3839	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		
		7片							
坪	38 5495	1	07-08	[13]	焼土	炭化物G9	口縫部		PL-II-261-3
	15107	1	07-08	[13]	焼土下層	炭化物G9	口縫部		PL-II-274
	15120	1	07-08	[10]	焼土下層	炭化物G9	伸部		
	16323	1	08-17	[00]	V		通縫外	口縫部	
	4484	1	08-14	[12]	N		通縫外	口縫部	
坪	2717	1	08-12	[10]	V		通縫外	底部	
	15063	1	06-07	[30]	N		通縫外	伸部	
	4099	1	11-16	[10]	V		通縫外	伸部	
		8片							
	39 538	4	17-17	[20]	焼土凹部	2号骨穴注釈	伸部		PL-II-268-5
坪	7500	1	14-15	[01]	N		通縫外	口縫部	
	7781	1	13-15	[32]	N		通縫外	口縫部	
	638	2	13-15	[11]	N		通縫外	口縫部	
	7792	2	13-15	[00]	N		通縫外	口縫部1, 伸部1	
	1369	1	11-18	[11]	V		通縫外	底部	
坪	7540	1	13-15	[32]	N		通縫外	伸部	
	8356	1	13-17	[21]	N		通縫外	伸部	
	827	1	13-15	[11]	N		通縫外	伸部	
		14片							
	40 8967	1	12-14	[33]	N	焼土35	底部		PL-II-281-4
坪	7530	1	13-15	[02]	N	焼土37周辺	伸部		
	7527	1	13-15	[23]	N	焼土37周辺	伸部		
	7524	1	13-15	[23]	N	焼土37周辺	伸部		
	5976	1	13-15	[33]	H	焼土37周辺	伸部		
	1497	1	14-15	[00]	N		通縫外	口縫部	
坪	7499	1	14-15	[01]	N		通縫外	伸部	
	7704	1	15-15	[00]	N	-	通縫外	底部	
	8268	2	13-16	[13]	N		通縫外	口縫部	
		10片							
	41 9349	2	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部1, 伸部1		PL-II-203-5
坪	9438	1	17-12	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	底部		PL-II-224
	7610	1	19-15	[00]	x'		炭化物G2	口縫部	
	11402	2	21-15	[13]	N	焼土62	伸部		
		6片							
坪	42 10246	3	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		PL-II-203-7
	8802	1	16-11	[32]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	7814	1	18-11	[02]	N	炭化物マウンド附近	口縫部		
	10760	1	17-11	[32]	マウンド下部	炭化物マウンド	口縫部		
	10032	1	17-11	[22]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
坪	10067	1	17-12	[21]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	8992	1	17-11	[22]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	10054	1	17-11	[22]	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	9889	1	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		
	10431	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		
坪	2519	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	10420	2	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	伸部		
	3452	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	伸部		
	3263	1	17-11	[23]	N	炭化物マウンド	伸部		
	9254	1	17-11	[12]	マウンド上部	炭化物マウンド	伸部		
坪	3366	1	17-11	[13]	マウンド上部	炭化物マウンド	伸部		
	10323	1	17-12	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	伸部		
	10246	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	伸部		
	10430	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	伸部		
		22片							
坪	43 1758	1	18-15	[13]	N		2号骨穴注釈	口縫部	PL-II-32-5
	492	1	16-17	[03]	x'上	織士43	口縫部		PL-II-326
	12251	1	16-18	[05]	N	織士43	口縫部		
	12256	1	16-18	[11]	N	織士43	伸部		
	9227	1	16-18	[11]	N	織士43	底部		
坪	4639	1	16-18	[11]	N	織士43	伸部		
	12528	1	16-18	[10]	N	織士43	伸部		

個体番号	遺物番号	種類	大分類	小分類	層位・出土位置	関連遺構など	部材	関連PL.番号
环	43	12521	1	10-18	(00)	粘土	出土43	岸部
(つづき)	441	1	10-17	(02)	上	出土43	岸部	
	12190	1	10-18	(21)	下	出土44	口縁部	
	12253	2	10-18	(10)	下	出土44周辺	口縁部	
	10062	1	10-17	(21)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
	7800	1	10-17	(20)	下	炭化物マウンド	口縁部	
	14片							
环	44	6181	1	20-15	(20)	粘土	出土44	PL.2-261-5
	6182	1	20-15	(32)	粘土	出土44	岸部	
	6171	1	20-15	(23)	粘土	出土44	岸部	
	6138	1	20-14	(33)	下	出土44周辺	底部	
	6709	1	20-15	(11)	下	出土44周辺	底部	
	5片							
环	45	9816	1	17-13	(03)	下	透構外	口縁部
	10179	1	17-13	(03)	下	透構外	口縁部	
	9807	2	17-13	(02)	下	透構外	岸部	
	9906	1	17-13	(02)	下	透構外	岸部	
	9838	1	17-13	(13)	下	透構外	岸部	
	9969	1	16-13	(33)	下	透構外	底部	
	11454	1	20-16	(10)	下	炭化物52周辺	底部	
	4片							
环	46	14923	1	07-08	(03)	粘土	炭化物19	口縁部
	8394	1	20-14	(30)	下	出土41	PL.2-272	
	8396	1	20-14	(30)	下	出土41	底部	
	12947	1	07-07	(22)	下	透構外	岸部	
	4片							
环	47	14356	1	06-07	(32)	土壌内	6号土壌	PL.2-154-4
	14360	1	06-07	(21)	土壌内	6号土壌	岸部	PL.2-152
	13953	1	06-07	(20)	下	6号土壌周辺	岸部	
	3733	1	09-07	(00)	下	6号土壌周辺	口縁部	
	3732	1	09-07	(00)	下	6号土壌周辺	口縁部	
	5194	1	09-06	(01)	V	6号土壌周辺	口縁部	
	3741	1	09-07	(02)	下	6号土壌周辺	口縁部	
	5057	2	08-06	(23)	下	6号土壌周辺	底部	
	5片							
环	48	1496	1	10-05	(13)	底底	5号窓穴住居	岸部
	1410	1	10-05	(13)	底底	5号窓穴住居	岸部	PL.2-153
	13962	1	08-07	(21)	土壌内	5号土壌	岸部	
	12771	1	08-07	(23)	下	5号土壌周辺	底部	
	12914	1	08-07	(23)	下	5号土壌周辺	岸部	
	1348	1	10-04	(21)	下	透構外	岸部	
	1349	1	10-05	(21)	下	透構外	岸部	
	16242	1	04-06	(30)	V	透構外	岸部	
	5片							
环	49	10509	2	17-15	(23)	底底	2号窓穴住居	PL.2-127-6
	8161	2	19-15	(01)	下	炭化物52	口縁部	PL.2-275
	8002	1	19-15	(22)	下	炭化物52	口縁部	
	12571	1	20-15	(23)	下	炭化物52	口縁部	
	7633	1	19-15	(02)	下	炭化物52	岸部	
	9520	1	10-15	(02)	下	炭化物52	岸部	
	997	1	11-08	(02)	上	炭化物50周辺	底部	
	9976	1	10-13	(22)	下	透構外	底部	
	10片							
环	50	9054	19	19-16	(20)	x	炭化物52	口縁部A、体部II、底部I
	10片							PL.2-286-5
环	51	11180	1	16-17	(31)	底底	2号窓穴住居	PL.2-204-1
	10290	6	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部II、体部4	PL.2-227
	464	1	16-17	(12)	上	出土43	底部	
	12592	1	16-17	(23)	下	出土43	底部	
	12546	1	16-17	(23)	下	出土43	底部	
	10片							
环	52	8301	1	16-16	(22)	下	出土43周辺	岸部
	413	1	16-16	(21)	上	出土43周辺	岸部	
	411	1	16-16	(21)	上	出土43周辺	岸部	
	8390	1	16-16	(12)	下	出土43周辺	岸部	
	11814	1	15-17	(12)	下	出土43周辺	岸部	
	9097	3	14-17	(32)	下	透構外	口縁部	
	4228	1	11-11	(31)	下	透構外	底部	
	7496	1	14-15	(00)	下	透構外	岸部	
	4171	1	13-18	(22)	下	透構外	岸部	
	4126	1	14-19	(30)	V	透構外	岸部	
	12片							

個体番号	遺物番号	破片数	大クリット	小クリット	断面・出土位置	断面構造など	部位	関連PL、番号	
环	53	3514	1	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-204-2
	3509	2	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-228	
	3572	2	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	口縫部		
	3571	2	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	口縫部		
	3569	2	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	直部		
	3540	3	17-12	(60)	N	炭化物マウンド	直部		
	3539	1	16-12	(30)	N	炭化物マウンド直辺	直部		
	3566	2	16-12	(30)	N	炭化物マウンド直辺	直部		
	3596	2	20-14	(30)	N	直辺外	直部		
					17片				
环	54	272	1	16-16	(33)	(不明)	直土43	口縫部	PL-II-204-3
	9798	1	16-16	(不明)	直土上部	直土43	口縫部	PL-II-229	
	254	1	16-16	(33)	(不明)	直土43	直部		
	294	4	16-17	(20)	(不明)	直土43	直部		
	3741	1	17-11	(32)	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	10031	1	17-11	(32)	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	10489	1	17-12	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	直部		
	2898	1	17-10	(32)	N	炭化物マウンド	直部		
	2413	1	17-10	(20)	N	炭化物マウンド	直部		
	1884	1	18-10	(12)	カクラン	炭化物マウンド	直部		
	8516	1	13-17	(60)	N	直辺外	直部		
					14片				
环	55	8179	1	19-15	(11)	N	炭化物62	直部	PL-II-204-4
	3542	1	17-12	(60)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-230	
	10903	1	17-	(31)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		
	10061	2	17-12	(21)	マウンド上部	炭化物マウンド	口縫部		
	184	2	17-12	(10)	(不明)	炭化物マウンド	直部		
	9660	1	17-12	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部		
	8648	2	17-11	(12)	マウンド上部	炭化物マウンド	直部		
	739	1	17-	(10)	N	炭化物マウンド	直部		
	9293	1	17-12	(10)	マウンド上部	炭化物マウンド	直部		
	8758	1	17-12	(31)	マウンド上部	炭化物マウンド	直部		
	10699	1	18-14	(11)	N	直辺外	口縫部		
	4781	1	12-08	(60)	N	直辺外	口縫部		
					15片				
环	56	539	2	17-17	(20)	直土④場	2号窓穴柱筋	口縫部	PL-II-266-6
	537	2	17-17	(20)	直土④場	2号窓穴柱筋	口縫部		
	7293	1	20-16	(10)	N	炭化物62直辺	直部		
	226	2	15-16	(31)	(不明)	直辺外	口縫部		
	7713	1	15-15	(10)	N	直辺外	直部		
	10413	1	15-14	(11)	N	直辺外	直部		
	7723	1	15-15	(23)	N	直辺外	直部		
	224	1	15-16	(20)	N	直辺外	直部		
					11片				
环	57	105	2	21-14	(23)	(不明)	直辺外	口縫部	PL-II-229
	106	7	21-14	(23)	(不明)	直辺外	口縫部	PL-II-266-7	
	8319	2	21-14	(22)	N	直辺外	直部		
	8333	2	21-14	(20)	N	直辺外	口縫部		
	8400	2	21-14	(10)	N	直辺外	直部		
					15片				
环	58	10341	1	17-12	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-231
	10761	1	17-11	(32)	マウンド下部	炭化物マウンド	口縫部		
	3434	1	17-11	(33)	マウンド下部	炭化物マウンド	口縫部		
	3435	1	17-11	(33)	マウンド下部	炭化物マウンド	口縫部		
	3436	1	17-11	(33)	マウンド下部	炭化物マウンド	口縫部		
	10342	1	17-12	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	直部		
	10761	1	17-11	(32)	マウンド下部	炭化物マウンド	直部		
	9130	1	18-16	(23)	N	炭火物63	直部		
					8片				
环	59	10530	1	21-17	(10)	N	直辺外	口縫部～直部	PL-II-266-8
	10831	1	21-17	(10)	N	直辺外	口縫部～直部		
	10835	1	21-17	(10)	N	直辺外	口縫部～直部		
	13410	1	19-18	(11)	N	直辺外	口縫部～直部		
	12908	1	21-13	(30)	N	直辺外	口縫部～直部		
					5片				
环	60	15483	1	19-18	(11)	N <sup>a</sup>	炭化物62	口縫部	PL-II-276
	15195	1	19-18	(22)	N	炭化物62	直部	PL-II-266-7	
	11973	1	19-18	(20)	N <sup>a</sup>	炭化物62	直部		
	11877	1	19-18	(21)	N	炭化物62	直部		
	12125	1	19-16	(30)	N	炭化物62直辺	直部		
	211	1	20-16	(32)	(不明)	炭化物62直辺	直部		



個体番号	通称番号	破片数	大クリット	小クリット	層位・出土位置	開通構造など	部材	周囲PL.番号
75	13071	1	09-11	[21]	背	通横外	口縫部～伴部	PL.22-172
		1片						
76	14994	1	05-07	[08]	背	焼土7	口縫部～伴部	PL.22-277
	15553	1	05-10	[32]	焼土	焼土11	口縫部～伴部	
	3838	1	09-08	[31]	背	通横外	口縫部～伴部	
	12882	1	09-06	[01]	N	通横外	口縫部～伴部	
	12969	1	07-07	[22]	背	通横外	口縫部～伴部	
	13712	1	09-10	[20]	N	通横外	口縫部～伴部	
		6片						
77	10085	1	10-14	[00]	背	通横外	伴部	
	10400	1	10-14	[22]	N	通横外	底部	
		2片						
78	13033	1	08-09	[15]	焼土	4号土壁	底部	PL.22-278
		1片						
79	7225	1	19-15	[11]	x'	炭化物52	底部	
	7445	1	19-15	[30]	x'	炭化物52	伴部	
	8864	1	19-15	[09]	x'	炭化物52	伴部	
	8881	1	19-15	[08]	N	炭化物52	伴部	
	4035	1	10-09	[23]	V	通横外	伴部	
		5片						
80	14392	1	06-08	[20]	V	通横外	底部	
		1片						
81	1361	1	11-06	[31]	床	5号柱穴住居	底部	PL.22-127-7
		1片						
82	14022	1	08-09	[05]	V	4号土壁	底部	
	9818	1	17-13	[05]	N	通横外	伴部	
		2片						
83	13808	1	08-09	[30]	N	通横外	底部	
	5366	1	15-05	[32]	N	通横外	底部	
	1053	1	14-12	[12]	N	通横外	底部	
		3片						
84	14206	2	08-10	[30]	V	炭化物～焼土20-21	底部	PL.22-279
		2片						
85	1708	1	16-09	[22]	N	通横外	底部	
		1片						
86	2994	1	07-12	[31]	V	焼土24	底部	
		1片						
87	7301	1	14-14	[03]	N	通横外	底部	
		1片						
88	88	1	22-21	[31]	(平暗)	通横外	底部	
		1片						
89	242	1	15-21	[30]	(不規)	炭化物42	底部	
		1片						
90	15133	1	05-11	[30]	N	焼土11	底部	PL.22-281
	16175	1	05-10	[33]	V	焼土11	底部	
		2片						
91	13360	1	07-06	[12]	N	通横外	底部	
		1片						
92	14542	1	05-06	[30]	V	通横外	底部	
	14643	1	05-06	[30]	V	通横外	底部	
		2片						
93	15693	1	07-09	[32]	x'	4号土壁	底部	PL.22-280
		1片						
94	3115	1	08-07	[22]	N	通横外	底部	PL.22-282
	4967	1	09-09	[23]	V	通横外	底部	
		2片						
95	12980	1	08-07	[21]	土壁内	5号土壁	底部	
		1片						
96	5348	1	30-16	[30]	Ⅲ	通横外	底部	
		1片						
97	15761	1	04-09	[21]	IV	通横外	底部	
		1片						
98	13092	2	08-11	[30]	N	炭化物～焼土22	底部	PL.22-284
	13549	1	10-10	[03]	N	通横外	底部	
		3片						
99	15476	2	06-09	[16]	焼土	炭化物14	底部	PL.22-283
		2片						
100	12943	1	08-07	[11]	土壁内	5号土壁	底部	
	14705	1	06-10	[32]	炭化物等	炭化物16	底部	
		2片						
101	3795	1	09-08	[06]	N	通横外	底部	
		1片						

個体番号	遺物番号	破片数	大・小リット	小・中リット	断面・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
坏	102 6035	1	20-16	[01]	Ⅲ	遺構外	底部	
		1片						
坏	103 1380	1	10-06	[01]	V	遺構外	底部	PL.Ⅱ-127-6
		1片						
坏	104 15086	1	04-08	[11]	V	炭化物4	底部	PL.Ⅱ-285
	14862	1	06-10	[21]	V	炭化物16	底部	
		2片						
坏	105 1501	1	10-05	[11]	V	遺構外	底部	
		1片						
坏	106 12233	2	17-17	[11]	▲マド	2号窓穴往期	口縁部	PL.Ⅱ-236
	9562	1	20-15	[13]	■	炭化物52	口縁部	
		3片						
坏	107 15683	1	07-09	[32]	■	4号土壁	口縁部	PL.Ⅱ-302
	15670	1	08-09	[03]	■	4号土壁	口縁部	
	16057	1	08-09	[03]	■	4号土壁	口縁部	
	13904	1	08-10	[03]	■	壁土	壁土22	口縁部
		4片						
坏	108 614	1	10-05	[12]	■	壁土⑤場	5号窓穴往期	PL.Ⅱ-185
		1片						
坏	109 612	4	10-06	[21]	V	遺構外	口縁部	
	1346	1	10-06	[21]	V	遺構外	口縁部	
	13103	1	07-11	[13]	V	遺構外	口縁部	
		4片						
坏	110 2964	1	17-10	[16]	■	炭化物マウンド	口縁部	PL.Ⅱ-187
		1片						PL.Ⅱ-237
坏	111 15138	2	05-11	[30]	V	壁土11	口縁部	PL.Ⅱ-108
	14684	1	06-11	[30]	V	遺構外	口縁部	
		3片						
坏	112 1187	2	11-04	[16]	V	遺構外	口縁部～側部	PL.Ⅱ-136
		2片(口縁部～側部1片番号わからず)						
坏	113 199	1	20-15	[31]	■	炭化物52	口縁部	PL.Ⅱ-286
	9575	1	20-15	[21]	■	炭化物52	口縁部	
	9570	1	20-15	[31]	■	炭化物52	側部	
	8103	2	20-14	[13]	■	炭化物52周辺	口縁部	
	10537	1	23-15	[06]	V	炭化物52周辺	口縁部	
	11384	1	20-15	[31]	V	炭化物52周辺	口縁部	
	5697	1	20-15	[31]	V	炭化物52周辺	側部	
	10538	1	23-15	[06]	V	炭化物52周辺	側部	
	11385	1	20-15	[32]	V	炭化物52周辺	底部	
(完品)		10片						
その他(すり鉢形)	1623	4	08-13	[30]	廻内	3号窓穴往期		PL.Ⅱ-99-1
	2687	1	08-12	[22]	V	3号窓穴往期		
		5片						

Tab. II-22 第2文化層出土須恵器一覧表

個体番号	通巻番号	縦幅(ミリ)	横幅(ミリ)	小判型	部位	調査PL.番号
須恵器(片)	1 15608	1 04-06	[80]	V	炭化物4	1部部
	15365	5 05-07	[10]	V上	透焼外	口縁部3, 伴部1
	15749	1 06-07	[不規]	[不規]	透焼外	口縁部
(先形品)	7片					
須恵器(片)	2 3334	1 17-11	[12]	上画	炭化物マウンド	口縁部
	4795	1 19-11	[03]	V	炭化物・埴土50	伴部
	6652	2 19-12	[13]	V	透焼外	口縁部1, 伴部1
	10213	1 19-13	[10]	V	透焼外	伴部
	10211	1 19-13	[05]	V	透焼外	伴部
	7579	1 18-13	[31]	V	透焼外	底部
	7片					
須恵器(片)	3 15456	1 06-06	[20]	埴土	埴土15	口縁部
「赤絞」	15589	1 07-08	[不規]	(カクラン)	焼土18	伴部
	13018	1 07-08	[03]	V	焼土18	底部
	16528	1 06-03	[不規]	埴土	焼土25	伴部
	16525	1 06-07	[不規]	埴土	6号土被周延	伴部
	14350	1 07-09	[06]	埴土	炭化物19	口縁部
	13618	1 07-09	[05]	V	炭化物19	伴部
	15119	1 07-07	[03]	埴土下面	炭化物19	底部
	15617	1 07-09	[06]	V	炭化物19	底部
	14112	1 06-08	[23]	V	透焼外	口縁部
	15299	1 06-09	[21]	V	透焼外	底部
	11片					
須恵器(片)	4 14411	1 06-10	[30]	V	炭化物16	口縁部
	15567	2 05-10	[21]	V	透焼外	口縁部1, 伴部1
	15175	1 05-10	[22]	V	透焼外	口縁部
	15565	1 05-10	[21]	V	透焼外	伴部
須恵器(片)	5 1161	1 20-18	[12]	V	埴土・炭化物59	口縁部
	4185	1 20-18	[13]	V	埴土・炭化物59	口縁部
	6065	1 21-17	[03]	V	透焼外	底部
	10989	1 22-16	[05]	V	透焼外	底部
	6片					
	6 783	2 21-15	[11]	V	焼土42	口縁部
	6660	2 21-16	[02]	V	透焼外	口縁部
	3139	1 10-07	[01]	V	透焼外	口縁部
	5489	4 17-07	[31]	V	透焼外	口縁部3, 伴部1
	11459	5 20-16	[20]	V	透焼外	口縁部4, 伴部1
	6055	1 21-16	[05]	V	透焼外	口縁部
	11463	3 20-16	[20]	V	透焼外	口縁部1, 伴部1
	9992	1 20-16	[21]	V	焼土外	口縁部
	7488	2 21-16	[01]	V	透焼外	伴部
	11246	1 21-16	[06]	V	透焼外	伴部
	11991	1 20-16	[20]	V	透焼外	伴部
	11455	1 20-16	[11]	V	透焼外	底部
	206	1 30-16	[30]	V	透焼外	底部
	9598	1 20-16	[21]	V	透焼外	底部
須恵器(片)	25片					
	7 12659	1 16-17	[13]	V	焼土43	口縁部
	9328	1 17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10675	1 18-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10437	2 17-11	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10751	1 17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10603	1 17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10793	1 17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	10695	1 18-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部
	10416	1 17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部
	10958	1 18-10	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部
	2076	1 18-10	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	伴部
	10415	1 17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	底部
	10482	1 17-11	[22]	マウンド下面	炭化物マウンド	底部
	15465	1 17-11	[22]	マウンド下面	炭化物マウンド	底部
須恵器(片)	15片					
	8 1780	1 18-17	[12]	底土灰層	2号盤六弦形	底部
	1921	3 17-10	[23]	V	炭化物マウンド	脚部
	1061	1 18-10	[13]	カクラン	炭化物マウンド	脚部
	5574	1 18-10	[不規]	埴土	炭化物マウンド	脚部
	6690	1 19-11	[23]	V	炭化物・埴土50	脚部
	9578	1 20-15	[20]	x*	炭化物62	脚部
	9563	1 20-15	[11]	x*	炭化物62	脚部
	9569	1 20-15	[22]	x*	炭化物62	底部



Tab. II-23 第2文化層出土土器器種一覧表

側面番号	出土番号	破片数	大きさ	施紋・出土位置	開口部	部位	開口部上・番号
裏	1 14572	1	13-16	[11] 底	5号板六辺底	底部	李朝四脚4上
	2684	14	09-04	[33] 土礫内	1号土礫	口縁部	PL-II-158
	2487	45	09-04	[33] 土礫内	1号土礫	脚部	PL-II-140
(変形品)		60片					
裏	2 2918	57	09-04	[33] 土礫内	1号土礫	口縁部II, 断面35, 断面1	開口部4上
(変形品)		57片					PL-II-159, 141
裏	3 14044	5	08-08	[31]	V	底土27	口縁部II, 脚部3,
	13668	2	08-08	[31]	V	底土27	口縁部I, 脚部1
	14045	3	08-08	[31]	V	底土27	脚部3, 底部1
	15550	1	08-07	[33]	V	通縫外	口縁部
(変形品)		11片					
裏	4 10850	9	17-18	[11]	底	2号板六辺底	底部4, 脚部1
	9614	1	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	9335	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	3642	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	9692	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部
	9226	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部
	16646	1	17-11	[20]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
	4291	1	10-11	[33]	V	通縫外	口縁部
	11124	1	16-13	[33]	V	通縫外	口縁部
	11125	1	16-13	[33]	V	通縫外	口縁部
(変形品)		18片					
裏	5 12534	1	21-17	[22]	V	通縫外	
(変形品)		1個体					
裏	6 1511	12	09-12	[03]	壁土③場	3号板六辺底	口縁部3, 脚部8, 断面1
(変形品)		12片					PL-II-100-4
裏	7 807	25	19-14	[11]	カマド	1号板六辺底	口縁部5, 脚部15, 断面5
(変形品)		25片					PL-II-22
裏	8 1500	15	10-08	[11]	底	5号板六辺底	口縁部6, 脚部8, 底部1
(変形品)		15片					PL-II-143
裏	9 727	14	19-14	[11]	カマド	1号板六辺底	口縁部13, 脚部1-底部1
(変形品)		14片					PL-II-20-2
裏	10 582	1	19-14	[30]	壁土③場	1号板六辺底	脚部
	9870	1	17-12	[16]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	9871	2	17-12	[16]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	3542	19	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	脚部17, 低部2
	9356	1	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	9344	1	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	9691	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	9676	1	17-12	[16]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	10474	2	17-11	[22]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	9413	2	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	脚部
	54	1	16-16	[32]	(不明)	土43周辺	口縁部
	6157	1	19-14	[11]	V	通縫外	脚部
	64	1	19-16	[31]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
	8134	1	19-14	[30]	V	通縫外	脚部
	10983	2	19-14	[16]	V	通縫外	脚部
	108	5	20-14	[18]	(不明)	通縫外	口縁部
	112	1	20-14	[02]	(不明)	通縫外	口縁部
	6595	1	20-17	[01]	V	通縫外	口縁部
		44片					PL-II-207-2
裏	11 7991	1	19-15	[22]	?	炭化物	口縁部
	16581	1	19-15	(不明)	?	炭化物8	口縁部
	11889	1	18-15	[11]	V	炭化物6周辺	口縁部
	11942	1	18-15	[11]	V	炭化物6周辺	口縁部
	11521	10	18-15	[31]	V	炭化物6周辺	口縁部5, 脚部8, 底部1
	13464	1	19-16	[30]	V	炭化物6周辺	口縁部
	8177	1	19-15	[01]	V	炭化物6周辺	口縁部
	7119	1	17-12	[01]	V	炭化物マウンド	口縁部
	16787	1	17-12	[11]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
		10片					PL-II-49
裏	12 309	1	16-17	[11]	(不明)	土43	口縁部
	225	1	16-17	[16]	(不明)	土43	口縁部
	369	1	16-17	[22]	(不明)	土43	脚部
	467	1	16-17	[22]	?	土43	脚部
	300	1	16-17	[16]	(不明)	土43	脚部
	8339	3	16-17	[11]	土43	土43	脚部
	8340	1	16-17	[11]	土43	土43	脚部
	8341	1	16-17	[11]	土43	土43	脚部
	307	2	16-17	[11]	(不明)	土43	脚部1, 底部1
	317	1	16-17	[21]	(不明)	土43	脚部

検体番号	遺物番号	種類	枚数	大アリット	小アリット	層位・出土位置	用途・遺物など	部位	関連PL.番号
■	12 289	I	16-17	(20)	(不明)	縫土43	縫部		
(づき)	465	I	16-17	(12)		縫土43	縫部		
	12542	I	16-17	(25)		縫土43	縫部		
	8233	2	16-17	(21)		縫土	縫土43	縫部	
	226	2	16-17	(20)	(不明)	縫土43	縫部1, 縫部2		
	2824	I	17-18	(35)	V	炭化物マウンド	口縫部		
	7631	I	19-20	(02)	x <sup>2</sup>	炭化物2	口縫部		
	11295	I	17-18	(22)	V	遺構外	底部		
	5045	I	20-21	(03)	V	遺構外	口縫部		
			24件						
■	13 5886	I	18-19	(31)	V	遺構外	口縫部	PL.12-260-1	
	8429	6	18-19	(22)	V	遺構外	口縫部, 縫部		
	10900	29	18-19	(11)	V	遺構外	口縫部1, 縫部18		
	10362	I	18-19	(22)	V	遺構外	底部		
	10367	I	18-19	(31)	V	遺構外	縫部		
			28件						
■	14 15443	2	08-09	(18)	V	4号土塗	口縫部	PL.12-119-2	
	4845	I	11-11	(21)	縫土	縫土22	口縫部	PL.12-173	
	4848	I	11-11	(21)	縫土	縫土22	縫部		
	4847	I	11-11	(21)	縫土	縫土22	底部		
	4652	I	12-08	(02)	V	遺構外	口縫部		
	1631	I	12-08	(02)	V	遺構外	口縫部		
	709	I	12-08	(03)	V	遺構外	口縫部		
	4638	I	12-08	(02)	V	遺構外	口縫部		
	4787	2	12-08	(02)	V	遺構外	口縫部		
	1474	I	12-08	(12)	V	遺構外	縫部		
	4635	I	12-08	(02)	V	遺構外	縫部		
	4636	I	12-08	(02)	V	遺構外	縫部		
	1475	I	12-08	(12)	V	遺構外	底部		
	4633	I	12-08	(01)	V	遺構外	底部		
	4631	I	12-08	(02)	V	遺構外	底部		
	4636	I	12-08	(21)	V	遺構外	縫部		
	4679	I	13-10	(32)	V	遺構外	口縫部		
	4217	I	13-10	(32)	V	遺構外	縫部		
			20件						
■	15 10511	I	17-17	(26)	V	2号窓穴柱	縫部	PL.12-40-1	
	174	2	17-11	(12)	V	炭化物マウンド	縫部	PL.12-53	
	3191	I	17-11	(12)	V	炭化物マウンド	縫部		
	3337	I	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	縫部		
	178	I	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	縫部		
	8578	I	13-13	(30)	V	縫土43附近	口縫部		
	9136	I	13-11	(33)	V	縫土43附近	口縫部		
	6795	I	13-13	(03)	V	縫土51	縫部		
	4948	I	13-13	(33)	V	遺構外	口縫部		
	5583	I	13-13	(31)	V	遺構外	口縫部		
	4949	I	13-13	(30)	V	遺構外	口縫部		
	4946	I	13-13	(32)	V	遺構外	口縫部		
	4947	I	13-13	(33)	V	遺構外	口縫部		
	4908	I	13-13	(21)	V	遺構外	口縫部		
	4951	I	13-13	(33)	V	遺構外	口縫部		
	10717	I	14-13	(22)	V	遺構外	口縫部		
	8947	4	14-13	(02)	V	遺構外	口縫部, 縫部		
	8209	I	13-13	(32)	V	遺構外	口縫部		
	9764	I	14-13	(12)	V	遺構外	口縫部		
	11613	2	13-13	(32)	V	遺構外	口縫部		
	11615	I	14-13	(02)	V	遺構外	縫部		
	8582	I	13-13	(31)	V	遺構外	縫部		
	8952	I	13-13	(03)	V	遺構外	縫部		
	8950	2	13-12	(02)	V	遺構外	縫部		
	10625	I	14-13	(03)	V	遺構外	縫部		
			31片						
■	16 1323	I	11-06	(03)	床	5号窓穴住居	口縫部	PL.12-127-10	
	1320	I	10-05	(33)	床	5号窓穴住居	口縫部	PL.12-144	
	1445	5	10-05	(32)	床	5号窓穴住居	口縫部		
	1030	I	10-05	(31)	床	5号窓穴住居	口縫部		
	684	3	11-04	(03)	床底	5号窓穴住居	口縫部		
	1543	I	10-05	(10)	縫道	5号窓穴住居	縫部		
	1573	I	10-05	(13)	縫道	5号窓穴住居	縫部		
	1547	I	10-05	(10)	床	5号窓穴住居	縫部		
	1592	I	10-05	(30)	床底	5号窓穴住居	縫部		
	1541	I	10-05	(10)	床	5号窓穴住居	縫部		

機器番号	造物番号	種類	大アクリル	大アクリル	壁面・土台直接	間接連結など	部位	関連PL-番号
機 器 (ツブキ)	16	1080	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部
	1543	2	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	1554	6	10-05	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部1, 床部	
	25片							
機 器 (ツブキ)	17	1197	2	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	口縫部
	1198	1	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	口縫部	
	1199	1	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	口縫部	
	1201	2	10-05	[11]	床	5号壁穴住居	口縫部	
	959	1	10-05	[11]	床	5号壁穴住居	口縫部	
	935	1	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	口縫部	
	1080	4	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	口縫部	
	942	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	口縫部	
	958	1	10-05	[11]	床底	5号壁穴住居	口縫部	
	931	4	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	937	2	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	938	1	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	934	1	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	1196	1	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	脚部	
	1198	2	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	脚部	
	1194	1	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	脚部	
	1095	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	941	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	853	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	1189	1	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	脚部	
	1215	2	11-05	[00]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	992	2	10-05	[11]	床	5号壁穴住居	脚部	
	1177	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	815	1	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	831	1	10-05	[10]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	932	1	10-04	[12]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	988	2	10-05	[10]	床	5号壁穴住居	脚部	
	957	1	10-05	[11]	床底	5号壁穴住居	脚部	
	1204	7	10-04	[13]	床底	5号壁穴住居	脚部3, 底部4	
	954	1	10-05	[11]	床底	5号壁穴住居	口縫部	
	974	1	10-21	[01]	瓦	裏縫外	口縫部	
50片								
機 器 (ツブキ)	18	3971	1	09-09	[22]	N	通商外	口縫部
	3969	8	09-09	[21]	N	通商外	口縫部	
	3982	4	09-09	[23]	N	通商外	口縫部	
	3974	1	09-09	[22]	N	通商外	口縫部	
	4114	1	10-09	[01]	V	通商外	口縫部	
	3978	4	09-09	[21]	N	通商外	口縫部	
	4013	2	10-09	[01]	N	通商外	口縫部	
	3976	4	09-09	[22]	N	通商外	口縫部	
	4111	1	10-09	[22]	V	通商外	口縫部	
	3969	1	09-09	[21]	V	通商外	口縫部	
	3970	1	09-09	[21]	V	通商外	口縫部	
	4027	1	10-09	[03]	N	通商外	口縫部	
	4110	1	09-09	[21]	V	通商外	口縫部	
	3977	1	09-09	[22]	V	通商外	口縫部	
	3981	4	09-09	[23]	N	通商外	脚部	
	3983	1	09-09	[23]	N	通商外	脚部	
	3980	1	09-09	[23]	N	通商外	脚部	
	3991	1	09-09	[23]	V	通商外	脚部	
	4015	1	10-09	[01]	V	通商外	脚部	
	4014	1	10-09	[01]	V	通商外	脚部	
	4005	1	10-09	[01]	V	通商外	脚部	
	4025	1	10-09	[01]	V	通商外	脚部	
	3965	2	09-09	[23]	瓦	通商外	底部	
	4006	1	09-09	[23]	V	通商外	底部	
	4059	1	09-09	[23]	V	通商外	底部	
	3984	2	09-09	[23]	瓦	通商外	底部	
48片								
機 器 (ツブキ)	18	6021	1	22-18	[01]	瓦	壁土44	口縫部
	6019	1	22-18	[11]	N	壁土44	口縫部	
	6022	1	22-16	[22]	N	壁土64	口縫部	
	11272	1	21-16	[22]	瓦	通商外	口縫部	
	11273	1	21-16	[23]	瓦	通商外	口縫部	
	7496	1	21-16	[23]	瓦	通商外	口縫部	
	5016	3	23-17	[13]	N	通商外	口縫部	
	5052	1	22-17	[22]	N	通商外	口縫部	
	5053	1	22-17	[22]	N	通商外	口縫部	
	5054	1	22-17	[22]	N	通商外	口縫部	

個体番号	遺物番号	種類	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連構造など	部位	関連PL.番号
■ (つづき)	19 5922	2 22-17	(21)	N	遺物外		頭部	
	6661	1 22-13	(12)	V	遺物外		口輪部	
	5945	1 23-16	(13)	N	遺物外		口輪部	
	5944	1 22-16	(13)	N	遺物外		口輪部	
	5920	5 22-17	(21)	N	遺物外		口輪部1, 頭部4	
	6581	2 22-16	(21)	N	遺物外		口輪部	
	6627	1 22-16	(21)	N	遺物外		頭部	
	6614	1 22-16	(22)	V	遺物外		頭部	
	6597	9 23-16	(03)	N	遺物外		底部	
	11274	2 23-16	(02)	N	遺物外		頭部	
	5646	1 22-17	(21)	N	遺物外		頭部	
	83	1 23-17	(03)	N	遺物外		頭部	
	6592	1 22-16	(10)	N	遺物外		頭部	
	6589	1 22-16	(23)	N	遺物外		頭部	
	6811	1 22-16	(21)	V	遺物外		頭部	
	5921	1 22-17	(21)	V	遺物外		頭部	
	83	3 22-17	(02)	V	遺物外		頭部	
	5647	1 22-17	(21)	V	遺物外		頭部	
	5648	1 22-17	(21)	V	遺物外		頭部	
	6581	1 22-16	(10)	V	遺物外		頭部	
(次形態)	42片							
■	20 9869	1 17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド		口輪部	PL-II-207-3
	9416	4 17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	口輪部3, 頭部2		PL-II-24
	9665	3 17-11	(10)	マウンド	炭化物マウンド		口輪部	
	2904	1 18-10	(03)	レ	炭化物マウンド		口輪部	
	9423	1 17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド		口輪部	
	10279	5 17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド		口輪部	
	2643	1 18-10	(02)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	2767	1 18-10	(02)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	3067	1 18-10	(03)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	9641	1 17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド		頭部	
	9653	1 17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド		頭部	
	9697	3 17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド		頭部	
	9276	1 17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド		頭部	
	2311	1 18-10	(02)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	7375	1 17-12	(20)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	2069	1 18-10	(03)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	2756	1 18-10	(01)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	3468	2 17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド		頭部	
	2742	1 18-10	(00)	レ	炭化物マウンド		頭部	
	10668	2 17-11	(20)	マウンド	炭化物マウンド		頭部	
	7935	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		口輪部	
	9094	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		口輪部	
	7933	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		口輪部	
	7651	1 18-15	(12)	レ	炭化物S2		口輪部	
	7442	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		頭部	
	9070	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		頭部	
	11377	1 20-15	(13)	レ	炭化物S2		頭部	
	9093	1 19-15	(33)	レ	炭化物S2		頭部	
	9088	3 19-16	(30)	レ	炭化物S2		頭部	
	9091	3 19-16	(33)	レ	炭化物S2		頭部	
	5812	3 19-16	(30)	レ	炭化物S2		頭部	
	6502	3 19-16	(04)	レ	炭化物S2		頭部	
	11109	1 15-12	(03)	N	遺物外		頭部	
(先形態)	53片							
■	21 8927	1 19-18	(04)	廻土④層	2号壁穴頂部		頭部	PL-II-25-1
	11827	1 16-17	(02)	土塁内	3号土塁		口輪部	PL-II-25-20
	12504	1 16-17	(22)	N	廻土43		口輪部	
	12589	1 16-17	(23)	N	廻土43		頭部	
	12653	1 16-17	(20)	N	廻土43		頭部	
	502	1 16-17	(13)	廻	廻土43		口輪部	
	12587	4 16-17	(21)	N	廻土43		口輪部	
	12586	13 16-17	(21)	N	廻土43		口輪部	
	13505	1 16-17	(12)	廻土	廻土43		頭部	
	13518	2 16-17	(22)	N	廻土43		頭部	
	13651	4 16-17	(22)	N	廻土43		頭部	
	495	1 16-17	(32)	レ上	廻土43		頭部	
	13547	9 16-17	(23)	N	廻土43		頭部	
	13661	1 16-17	(13)	N	廻土43		頭部	
	13596	3 16-17	(21)	N	廻土43		頭部	
	13665	2 16-17	(12)	N	廻土43		頭部	

個体番号	遺物番号	被片数	大分類	小分類	層位・出土位置	部位	開拓L・番号	
裏 (つづき)	21	12502	5	16-17	[12]	縫土	縫土43	解剖
	12502	1	16-17	[22]	IV	縫土43	解剖	
	12503	1	16-17	[13]	IV	縫土43	解剖	
	12504	1	16-17	[13]	IV	縫土43	解剖	
	12505	1	16-17	[22]	IV	縫土43	解剖	
	12506	1	16-17	[23]	IV	縫土43	解剖	
	12507	1	16-17	[23]	IV	縫土43	解剖	
	12508	1	16-17	[23]	IV	縫土43	解剖	
	12509	1	16-17	[23]	IV	縫土43	解剖	
	12510	1	16-17	[22]	縫土	縫土43	解剖	
	12511	1	16-17	[13]	縫土	縫土43	解剖	
	12512	1	16-17	[13]	縫土上層	縫土43	解剖	
	12513	1	16-17	[12]	IV	縫土43	解剖	
	12514	1	16-17	[12]	縫土	縫土43	解剖	
	12515	1	16-17	[13]	縫土	縫土43	解剖	
	9714	1	16-17	[04]	縫土上層	縫土43	解剖	
	12516	1	16-17	[12]	IV	縫土43	解剖	
	12517	1	16-17	[12]	IV	縫土43	解剖	
	12518	2	16-17	[08]	IV	縫土43	解剖	
	16358	2	16-18	[10]	IV	縫土43遺	解剖	
	9630	3	19-15	[12]	x'	炭化物53	口縫部	
	11233	1	19-15	[13]	x'	炭化物53	口縫部	
	11891	1	19-15	[12]	x'	炭化物53	口縫部	
	9647	1	19-15	[12]	x'	炭化物53	口縫部	
	11892	1	19-15	[13]	x'	炭化物53	口縫部	
	5621	1	19-15	[13]	x'	炭化物53	口縫部	
	3327	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
	16780	1	17-11	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
	16226	2	17-11	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
	2863	1	18-09	[22]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	2477	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	2096	1	17-09	[25]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	2297	1	18-10	[06]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	8760	1	17-12	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	口縫部	
	2397	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	9662	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	解剖	
	10068	1	17-12	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	解剖	
	2395	1	17-10	[10]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	2651	1	18-10	[10]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	3546	1	17-12	[06]	マウンド内	炭化物マウンド	解剖	
	1587	1	18-10	[06]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	7382	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	解剖	
	8666	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	解剖	
	10294	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	解剖	
	3460	1	17-10	[25]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	16990	1	17-11	[21]	b'	炭化物マウンド	解剖	
	16300	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	解剖	
	16238	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	解剖	
	369	1	19-21	[06]	(不明)	遺縫外	口縫部	
	5840	1	17-13	[21]	IV	遺縫外	解剖	
	12553	1	17-13	[13]	IV	遺縫外	解剖	
	12705	1	10-19	[21]	V	遺縫外	解剖	
	100片							
裏	22	714	2	13-09	[不明]	カツラン	4号窓六往開	解剖
	715	2	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	口縫部	
	716	1	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	解剖	
	717	11	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	解剖	
	718	5	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	解剖	
	719	5	12-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	解剖	
	720	4	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	解剖	
	721	3	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	口縫部	
	581	51	13-09	[06]	縫土③解	4号窓六往開	口縫部15、解剖36	
	84片							
裏	23	12333	1	17-17	[11]	カマド	2号窓六往開	解剖
	12557	1	15-17	[12]	IV	縫土41遺	口縫部	
	279	1	16-17	[10]	(不明)	縫土43	解剖	
	436	1	16-17	[10]	IV	縫土43	解剖	
	5074	3	19-18	[22]	x'	炭化物53	口縫部	
	12570	1	20-16	[10]	IV	炭化物53	口縫部	
	5773	6	19-18	[23]	IV	炭化物53遺	解剖4、解剖2	
	3367	1	17-11	[18]	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
	2057	4	18-20	[06]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	2315	1	18-18	[06]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	10295	1	17-11	[25]	マウンド	炭化物マウンド	口縫部	
	3479	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縫部	
	3484	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	2269	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	口縫部	
	7812	1	18-11	[06]	IV	炭化物マウンド	解剖	

PL-II-119-1

PL-II-35-2

PL-II-52

資料番号	遺物番号	片数	大グリップ	小グリップ	部位	出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	23	9455	1	17-11	(18)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部	
(ツバキ)	3477	4	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部		
	9380	1	17-11	(18)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	2421	1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	8548	2	18-10	(11)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9428	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	6567	1	18-10	(11)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9873	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9872	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	1993	1	18-10	(10)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	9867	1	17-11	(18)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	7368	1	17-12	(18)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	1995	1	18-10	(10)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	10488	1	17-18	(20)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9251	1	17-11	(12)	マウンド上	炭化物マウンド	脚部		
	10483	1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	10369	2	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	2301	1	18-10	(01)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	2805	1	17-10	(35)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	2334	1	18-10	(01)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	2909	1	18-10	(01)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	9291	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	185	3	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9381	1	17-11	(08)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	9315	1	17-11	(08)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	10044	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	脚部		
	3368	1	17-11	(15)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部		
	2759	1	18-10	(06)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	3465	1	17-12	(09)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	3448	1	17-11	(31)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部		
	3450	1	17-11	(32)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部		
	3438	1	17-11	(26)	マウンド内	炭化物マウンド	脚部		
	9566	1	17-11	(18)	マウンド	炭化物マウンド	脚部		
	2289	1	17-10	(30)	b'	炭化物マウンド	脚部		
	2395	1	17-10	(20)	b'上	炭化物マウンド	脚部		
	5564	1	18-10	(21)	b'	炭化物マウンド	脚部		
40片(13種類2片、脚部片 番号わからず)									
■	24	947	1	18-06	(10)	カマド	5号竪穴住居	口縁部	PL.23-130-3
	826	1	18-05	(20)	竪土留壁	5号竪穴住居	口縁部		PL.23-347
	963	1	18-05	(20)	カマド	5号竪穴住居	口縁部		
	1351	1	18-06	(20)	床底	5号竪穴住居	口縁部		
	1029	1	18-05	(21)	床底	5号竪穴住居	脚部		
	1210	1	18-05	(16)	床底	5号竪穴住居	脚部		
	1500	2	18-05	(11)	床	5号竪穴住居	脚部		
	1508	2	18-05	(16)	壁道	5号竪穴住居	脚部		
	1028	1	18-05	(31)	床底	5号竪穴住居	脚部		
	1312	1	18-05	(32)	床底	5号竪穴住居	脚部		
	949	1	18-05	(20)	カマド	5号竪穴住居	脚部		
	985	2	18-05	(20)	カマド	5号竪穴住居	脚部		
	991	1	18-05	(21)	床	5号竪穴住居	脚部		
	951	1	18-05	(20)	カマド	5号竪穴住居	脚部		
	748	1	18-05	(30)	竪土留壁	5号竪穴住居	脚部		
	1178	1	18-05	(20)	カマド	5号竪穴住居	脚部		
	945	1	18-25	(25)	床底	5号竪穴住居	口縁部		
	953	1	18-05	(31)	床底	5号竪穴住居	口縁部		
	742	1	18-04	(11)	竪土留壁	5号竪穴住居	口縁部		
	2218	1	18-05	(06)	竪土留壁	5号竪穴住居	口縁部		
	743	1	18-04	(23)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	617	1	18-04	(23)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	744	1	18-04	(23)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	810	1	18-04	(22)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	691	1	18-04	(23)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	746	1	18-04	(23)	床	1号横浜辺の壁土-炭化物	脚部		
	14046	1	08-07	(01)	床	6号土壙	口縁部		
	14352	1	08-07	(31)	土壙内	6号土壙	口縁部		
	14353	1	08-07	(31)	土壙内	6号土壙	口縁部		
	14407	2	08-07	(26)	床	6号土壙	口縁部		
	15513	1	08-07	(36)	土壙床面	6号土壙	脱部		
	15098	1	08-07	(08)	土壙内	6号土壙	脚部		
	15098	1	08-07	(32)	土壙床面	6号土壙	脚部		
	13972	1	08-07	(31)	土壙内	6号土壙	口縁部		

標本番号	葉片数	大きさ	小クリード	属性	出土地	関連遺物など	部数	関連PL.番号
24 (つづき)	13959	1 08-07	[21]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	2873	1 09-07	[01]	V	6号土壁周辺		口跡部	
	3722	1 09-07	[03]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	3753	2 09-07	[03]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	3748	1 09-07	[03]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	15534	1 09-07	[02]	鐵土	6号土壁周辺		口跡部	
	3149	1 09-07	[12]	V	6号土壁周辺		口跡部	
	3179	1 09-07	[22]	V	6号土壁周辺		口跡部	
	12972	1 08-07	[21]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	12782	2 08-07	[22]	IV	6号土壁周辺		口跡部	
	13958	1 08-07	[21]	IV	5号土壁周辺		口跡部	
	13957	1 08-07	[21]	IV	5号土壁周辺		口跡部	
	3212	1 17-11	[02]	IV	炭化物マウンド		痕跡部	
	1852	1 18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド		痕跡部	
	1181	1 11-04	[06]	IV	遺構外		口跡部	
	1536	1 10-05	[01]	IV	遺構外		痕跡部	
	1179	1 11-04	[06]	IV	遺構外		痕跡部	
	1294	1 10-05	[11]	IV	遺構外		痕跡部	
	3127	1 09-06	[21]	V	遺構外		痕跡部	
	8191	1 09-06	[06]	IV	遺構外		痕跡部	
	16113	1 06-06	[01]	V	遺構外		痕跡部	
	崩落(L100部片岩層わからず)							
25	5339	3 13-09	[21]	IV	炭化物36		痕跡部	PL.23-263-1
	11	1 15-07	[22]	[不明]	炭化物39		痕跡部	
	5271	1 15-07	[13]	[不明]	炭化物39		痕跡部	
	1222	1 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1223	1 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1224	1 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1221	1 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1225	2 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1226	1 12-06	[21]	IV	遺構外		痕跡部	
	1636	1 12-06	[22]	IV	遺構外		痕跡部	
	4570	3 14-06	[23]	IV	遺構外		口跡部	
	4571	6 14-06	[23]	IV	遺構外		口跡部	
	4572	1 14-06	[23]	IV	遺構外		口跡部	
	4725	1 14-07	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	4564	1 14-07	[21]	IV	遺構外		口跡部	
	1339	1 13-08	[01]	IV	遺構外		口跡部	
	19	1 15-08	[21]	[不明]	遺構外		口跡部	
	9	1 15-08	[21]	[不明]	遺構外		口跡部	
	4575	1 14-08	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	4575	1 14-08	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	4577	3 14-08	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	4562	1 14-08	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	4561	2 14-08	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	1649	1 13-08	[18]	IV	遺構外		口跡部	
	4579	1 14-09	[06]	IV	遺構外		口跡部	
	4729	1 13-08	[21]	IV	遺構外		口跡部	
	6	1 15-08	[01]	IV	遺構外		痕跡部	
	4574	1 14-08	[26]	■	遺構外		痕跡部	
	1234	1 13-08	[18]	カクラン	遺構外		痕跡部	
	4	1 15-08	[06]	[不明]	遺構外		痕跡部	
	5	2 15-08	[16]	[不明]	遺構外		痕跡部	
	722	1 15-07	[03]	IV	遺構外		痕跡部	
	12	1 16-08	[11]	[不明]	遺構外		痕跡部	
	1232	1 13-08	[01]	IV	遺構外		痕跡部	
	1238	1 13-08	[01]	IV	遺構外		痕跡部	
	1639	2 13-08	[22]	IV	遺構外		痕跡部	
	4568	1 14-08	[23]	IV	遺構外		痕跡部	
	4569	1 14-08	[23]	IV	遺構外		口跡部	
	4567	2 14-08	[23]	IV	遺構外		口跡部	
	4595	1 14-09	[26]	IV	遺構外		口跡部	
	1239	1 13-08	[11]	カクラン	遺構外		口跡部	
	1494	1 13-08	[12]	IV	遺構外		口跡部	
	1343	1 13-08	[01]	IV	遺構外		口跡部	
	1405	1 13-08	[11]	カクラン	遺構外		口跡部	
	4555	2 14-08	[06]	■	遺構外		口跡部	
	4566	7 14-08	[22]	IV	遺構外		口跡部	
	4556	1 14-08	[06]	■	遺構外		口跡部	
	1342	1 13-08	[11]	IV	遺構外		口跡部	
	5149	1 18-07	[10]	IV	遺構外		口跡部	

器物番号	遺物番号	破片数	大ブリグド	小タッカド	耐久性・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL_番号
黒 (ツバミ)	25 5479	1	17-06	(A5)	否	遺物外	口縁部	
	9018	1	15-06	(B3)	否	遺物外	口縁部	
	5358	1	16-07	(D6)	否	遺物外	口縁部	
	5351	1	17-07	(B6)	否	遺物外	口縁部	
	5473	1	17-06	(B3)	否	遺物外	口縁部	
	5336	1	14-07	(D6)	否	遺物外	底部	
76片(既存1片番号わからず)								
黒	25 83	1	19-15	(B2)	(不明)	炭化物G2	肩部	PL-II-03
	4501	11	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	口縁部S、肩部S	PL-II-267-6
	11461	1	20-16	(B1)	否	炭化物G2縁付	口縁部	
	13470	1	20-17	(B0)	否	炭化物G2縁付	口縁部	
	5487	1	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	口縁部	
	6013	1	20-16	(B3)	是	炭化物G2縁付	底部	
	9458	2	20-16	(B2)	否	炭化物G2縁付	肩部	
	5598	1	20-16	(B2)	是	炭化物G2縁付	肩部	
	9501	1	20-16	(B1)	是	炭化物G2縁付	肩部	
	7894	1	20-16	(B3)	是	炭化物G2縁付	肩部	
	213	6	20-16	(B3)	(不明)	炭化物G2縁付	肩部	
	11475	2	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	肩部	
	11454	1	20-16	(B2)	否	炭化物G2縁付	肩部	
	219	2	20-16	(B2)	(不明)	炭化物G2縁付	肩部	
	201	1	20-15	(B2)	(不明)	炭化物G2縁付	肩部	
	209	1	20-16	(B3)	(不明)	炭化物G2縁付	肩部	
	311	1	20-16	(B2)	(不明)	炭化物G2縁付	肩部	
	5588	1	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	肩部	
	12897	1	21-15	(B3)	否	炭化物G2縁付	底部	
	11483	6	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	肩部S、底部S	
	11476	1	20-16	(B2)	否	炭化物G2縁付	肩部	
	6014	1	20-16	(B3)	是	炭化物G2縁付	肩部	
	11479	1	20-16	(B3)	否	炭化物G2縁付	肩部	
端片(既存5片番号わからず)								
黒	27 650	1	19-14	(B6)	麻直	2号墓穴住居	口縁部	PL-II-3
	574	1	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	口縁部	PL-II-20-3
	575	1	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	口縁部	PL-II-94
	577	1	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	口縁部	
	578	1	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	肩部	
	579	1	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	肩部	
	581	2	19-14	(B1)	麻直	1号墓穴住居	肩部S、底部S	
	678	1	19-14	(B6)	麻直	1号墓穴住居	肩部	
	735	1	19-14	(B1)	カマド	1号墓穴住居カマド左側	肩部	
	736	1	19-14	(B2)	カマド	1号墓穴住居カマド右側	口縁部	
	11838	1	16-17	(B6)	土瓶内	3号土瓶	肩部	
	16563	1	18-13	(不明)	焼土	焼土46	肩部	
	7057	2	18-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	口縁部	
	11845	1	18-12	(B3)	否	焼土47-48縁付	口縁部	
	12394	5	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	口縁部S、底部S	
	10235	8	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	口縁部S、底部S	
	7977	1	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	口縁部	
	10309	3	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	7795	1	19-12	(B2)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	13044	1	19-12	(B3)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	10216	1	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	6725	1	19-13	(B3)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	6844	1	18-13	(B1)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	6841	1	18-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	13263	1	19-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	10319	2	18-13	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	6650	1	19-12	(B6)	否	焼土47-48縁付	肩部	
	10160	1	18-14	(B6)	否	焼土51	肩部	
	10165	3	18-14	(B1)	否	遺物外	肩部	
	10379	1	19-13	(B6)	否	遺物外	肩部	
	10214	3	19-13	(B6)	否	遺物外	肩部	
(完形品)								
黒	28 9913	1	17-16	(B2)	床	2号墓穴住居	肩部	PL-II-38-1
	6855	5	17-12	(B6)	否	炭化物マウンド	口縁部S、肩部S	PL-II-55
	3203	5	17-11	(B2)	否	炭化物マウンド	口縁部	
	7159	3	17-12	(B1)	否	炭化物マウンド	口縁部	
	171	5	17-11	(B6)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	183	10	17-12	(B6)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	3341	1	17-11	(B2)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8388	3	17-12	(B6)	否	炭化物マウンド	口縁部	

個体番号	通称番号	被片番号	大クラッド	小クラッド	部位・出土位置	開拓遺構番号	属性	開拓PL.番号
■	28	7328	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	口縫部
(つづき)		7054	3	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	口縫部I, 別部2
		7006	4	17-12	(11)	背	炭化物マウンド	I縫部
		7134	1	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	I縫部
		8375	1	16-12	(30)	背	炭化物マウンド	網縫
		8381	1	16-12	(30)	背	炭化物マウンド	網縫
		8382	1	16-12	(30)	背	炭化物マウンド	網縫
		8377	1	16-12	(30)	背	炭化物マウンド	網縫
		7809	1	17-11	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		7126	2	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		3359	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	網縫
		9696	2	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	網縫
		7355	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	網縫
		7544	1	17-12	(21)	背	炭化物マウンド	網縫
		7022	2	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		7020	2	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		6992	4	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		3501	2	17-11	(00)	背	炭化物マウンド	網縫
		7005	1	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	網縫
		7053	1	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	網縫
		8490	2	16-12	(21)	背	炭化物マウンド	網縫
		7032	2	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		8142	1	16-12	(21)	背	炭化物マウンド	網縫
		7542	1	17-12	(21)	背	炭化物マウンド	網縫
		7017	2	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		7339	1	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	網縫
		10010	2	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	網縫
		10233	1	17-11	(22)	マウンド上	炭化物マウンド	網縫
		8700	2	17-11	(22)	マウンド上	炭化物マウンド	網縫
		6854	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		6853	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		3472	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	網縫
		7353	1	17-12	(11)	背	炭化物マウンド	網縫
		8367	1	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		9425	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	網縫
		7115	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		7113	3	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網縫
		8554	3	16-12	(21)	背	炭化物マウンド	網縫
		7136	1	17-12	(10)	背	炭化物マウンド	網縫
		7038	2	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	網縫
		3384	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	網縫
		6993	2	17-12	(00)	背	炭化物マウンド	網縫
		176	2	17-11	(10)	(不明)	炭化物マウンド	網縫
		180	1	17-11	(10)	(不明)	炭化物マウンド	網縫
		3360	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	網縫
		3344	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	網縫
103片(断続3片書付わからず)								
■	29	3439	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		8666	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縫部
		7039	1	17-12	(21)	背	炭化物マウンド	口縫部
		8358	2	16-11	(30)	背	炭化物マウンド	口縫部
		7348	1	17-12	(11)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3433	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3434	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		6858	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3314	1	17-11	(11)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3363	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		8783	1	17-12	(20)	マウンド上	炭化物マウンド	口縫部
		8484	1	16-12	(21)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3449	1	16-12	(20)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3433	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		10437	1	17-11	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縫部
		3430	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3396	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3426	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3426	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		10437	1	17-11	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縫部
		7031	1	17-12	(20)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3312	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部
		3040	1	17-09	(20)	背	炭化物マウンド	口縫部
		3318	1	17-11	(11)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部

PL.12-205-3

PL.12-56

個体番号	遺物番号	破片数	大グリップ	小グリップ	部位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
29 (つづき)	3460	1	17-11	(53)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	6672	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	6608	1	18-10	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	7094	1	17-12	(21)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	8763	1	17-12	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	3390	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	6664	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	3418	2	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	8715	1	17-11	(25)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10081	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10089	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10194	1	17-12	(21)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	7166	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	3537	1	16-11	(33)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	7152	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	7042	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	9628	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	7122	3	17-12	(01)	百	炭化物マウンド	口縁部	
	3508	3	17-12	(00)	百	炭化物マウンド	胴部	
	6994	1	17-12	(01)	百	炭化物マウンド	胴部	
	6855	1	17-12	(01)	百	炭化物マウンド	胴部	
	8355	1	16-12	(31)	百	炭化物マウンド	胴部	
	7136	1	17-12	(16)	百	炭化物マウンド	胴部	
	7845	12	17-12	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	7037	1	17-12	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	1986	1	18-10	(00)	百	炭化物マウンド	胴部	
	10014	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	7338	1	17-12	(16)	百	炭化物マウンド	胴部	
	10030	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	2988	2	18-09	(08)	百	炭化物マウンド	胴部	
	3180	3	18-11	(03)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2483	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2479	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2403	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2476	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2997	1	18-10	(00)	百	炭化物マウンド	胴部	
	3494	1	17-10	(31)	百	炭化物マウンド	胴部	
	3380	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	3381	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	7381	1	17-12	(20)	百	炭化物マウンド	胴部	
	8496	1	16-11	(11)	百	炭化物マウンド	胴部	
	8782	1	17-12	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	5376	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	7028	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	胴部	
	7804	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2022	1	18-10	(16)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2395	2	17-10	(20)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2402	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	2487	1	17-10	(21)	百	炭化物マウンド	胴部	
	3398	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	8548	1	16-17	(20)	百	炭土43	口縁部	
	8545	1	16-17	(31)	百	炭土43	口縁部	
	12509	1	16-17	(18)	百	炭土43	胴部	
	368	1	16-17	(30)	(不明)	炭土43	口縁部	
	12668	1	16-17	(15)	百	炭土43	胴部	
	12665	1	16-17	(15)	百	炭土43	胴部	
	12290	1	16-17	(31)	隧道に落込	炭土43	胴部	
	12469	1	16-17	(31)	隧道に落込	炭土43	胴部	
	9079	3	19-15	(23)	百	炭化物G2	胴部	
	12274	1	19-12	(22)	百	遺構外	口縁部	
	109W (C)標印3片参考わからず)							
30	1802	3	17-17	(11)	麻直	2号窓穴柱筋	口縁部	PL.12-38-2
	10517	1	17-16	(20)	麻	2号窓穴柱筋	口縁部	PL.12-57
	11013	1	17-18	(01)	麻	2号窓穴柱筋	口縁部	
	7818	1	19-15	(16)	百	炭土37	胴部	
	12288	1	16-17	(12)	礁土	礁土43	口縁部	
	9999	1	16-17	(19)	礁土	礁土43	胴部	
	5785	2	19-15	(23)	百	炭化物G2	口縁部	
	11069	1	19-15	(16)	百	炭化物G2	口縁部	
	5775	2	19-15	(33)	百	炭化物G2	口縁部	
	11079	1	19-15	(12)	百	炭化物G2	口縁部	

供体番号	漁獲年	漁獲地	大アソブ	小アソブ	層位・出土位置	漁獲連鎖など	部位	関連PL・番号
30	34463	1 19-16	[33]	前	貝化物マウンド		口縫部	
(つづき)	11485	1 20-16	[23]	前	貝化物マウンド		口縫部	
7806	1 20-16	[22]	前	貝化物マウンド		口縫部		
6640	1 19-18	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
9862	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
3458	1 17-10	[33]	前	貝化物マウンド		口縫部		
9434	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
9279	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
16294	1 17-12	[20]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
3438	1 17-10	[31]	前	貝化物マウンド		口縫部		
9204	1 17-11	[02]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
16585	1 17-11	[22]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
9447	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
9212	1 17-11	[03]	マウンド上	貝化物マウンド		口縫部		
9218	1 17-12	[03]	マウンド上	貝化物マウンド		口縫部		
9667	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		口縫部		
9685	1 17-12	[03]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
10317	1 17-11	[21]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
186	1 17-12	[10]	(不明)	貝化物マウンド		頭部		
7105	1 17-12	[03]	前	貝化物マウンド		頭部		
3466	1 17-12	[00]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
3639	1 17-12	[06]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
187	2 17-12	[10]	(不明)	貝化物マウンド		頭部		
3371	1 17-11	[20]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
6657	1 17-11	[20]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
3444	3 17-10	[32]	前	貝化物マウンド		頭部		
3889	2 17-10	[00]	前	貝化物マウンド		頭部		
2436	1 17-10	[31]	前	貝化物マウンド		頭部		
10642	1 17-10	[02]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
2889	1 17-10	[33]	前	貝化物マウンド		頭部		
2911	1 18-10	[03]	前	貝化物マウンド		頭部		
2296	1 18-10	[00]	前	貝化物マウンド		頭部		
2743	1 18-10	[02]	前	貝化物マウンド		頭部		
9663	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
3055	1 18-10	[03]	前	貝化物マウンド		頭部		
3056	1 18-10	[00]	前	貝化物マウンド		頭部		
2443	1 17-11	[06]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
9862	1 17-12	[12]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
9853	1 17-12	[12]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
9625	1 17-11	[11]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
9524	1 17-12	[11]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
9230	1 17-12	[11]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
7224	1 17-12	[01]	前	貝化物マウンド		頭部		
9672	1 17-12	[10]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
9493	1 17-12	[12]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
189	2 17-12	[11]	前	貝化物マウンド		頭部		
2264	1 17-11	[23]	前	貝化物マウンド		頭部		
3642	2 17-11	[12]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
10660	1 17-11	[23]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
3253	1 17-11	[23]	前	貝化物マウンド		頭部		
3611	1 17-12	[03]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
3515	3 17-12	[02]	マウンド内	貝化物マウンド		頭部		
3199	1 17-11	[02]	前	貝化物マウンド		頭部		
8731	1 17-11	[31]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
3613	1 17-12	[00]	マウンド上	貝化物マウンド		頭部		
9443	2 17-12	[16]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		
3512	1 17-12	[00]	マウンド	貝化物マウンド		頭部		

第1章(1)

番	11362	1 17-16	〔33〕	蟹子⑥場	2号館内往住	口鐘部	PL-II-41-1
							PL-II-58
10837		1 17-16	〔22〕	座直	2号館内往住	口鐘部	
18888		1 17-16	〔23〕	座直	2号館内往住	胴部	
11844		1 17-16	〔23〕	座直	2号館内往住	胴部	
10119		1 17-17	〔23〕	座直	2号館内往住	胴部	
11856		1 15-17	〔32〕	土居内	3号-2號	胴部	
370	2	16-17	〔35〕	(不明)	壁土43	口鐘部	
11199		1 16-17	〔22〕	壁土	壁土43	胴部	
9716		1 16-17	〔22〕	瓦	壁土43	胴部	
9087		2 19-16	〔36〕	a <sup>2</sup>	新化物23	口鐘部	
9999		1 10-16	〔21〕	瓦	新化物23附近	胴部	
9597		1 20-16	〔21〕	瓦	新化物23附近	胴部	
13365		1 30-16	〔26〕	瓦	新化物23附近	胴部	

個体番号	地質番号	被片数	大トリップ	小トリップ	層位・出土位置	開通連絡など	部位	周辺PL.番号		
東 (つづき)	31	7605	1	30-16	(22)	Ⅲ	炭化物マウンド	底部		
		3690	1	30-16	(20)	Ⅲ	炭化物マウンド	底部		
		11458	1	30-16	(16)	Ⅲ	炭化物マウンド	底部		
		2084	1	18-09	(03)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		2491	1	17-10	(22)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		2907	1	18-10	(01)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		4605	1	18-10	(21)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		10441	1	17-11	(20)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		2490	1	17-10	(22)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		2990	1	18-09	(03)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		1919	1	17-10	(31)	オクラン	炭化物マウンド	口縫部		
		3938	1	18-10	(06)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		2975	1	18-10	(09)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縫部		
		10980	1	17-11	(30)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		9236	1	17-11	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		1927	1	17-10	(15)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		6606	2	18-10	(21)	マウンダ	炭化物マウンド	頭部		
		2256	1	17-10	(15)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		10987	1	17-10	(23)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		9237	1	17-11	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		9240	1	17-11	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		2300	1	18-10	(09)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		9548	1	17-11	(12)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		6629	1	17-11	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		6625	1	17-11	(06)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部		
		2895	1	17-10	(31)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		2744	1	18-10	(06)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		2659	1	18-10	(16)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		2631	1	18-10	(06)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		2747	1	18-10	(06)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		10463	1	17-11	(22)	マウンド下	炭化物マウンド	頭部		
		10459	1	17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		10963	1	17-10	(33)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		2745	1	18-10	(06)	Ⅲ	炭化物マウンド	頭部		
		1867	1	18-10	(12)	オクラン	炭化物マウンド	頭部		
		1866	1	18-10	(01)	オクラン	炭化物マウンド	頭部		
		6607	1	18-10	(21)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		9430	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	頭部		
		5888	1	14-14	(12)	Ⅲ	透水外	口縫部		
		7748	1	14-15	(30)	Ⅲ	透水外	口縫部		
		7507	1	14-15	(26)	Ⅲ	透水外	口縫部		
		1155	6	13-14	(31)	Ⅲ	透水外	口縫部、頭部		
		5883	2	14-14	(06)	Ⅲ	透水外	口縫部		
		5882	1	14-14	(02)	Ⅲ	透水外	口縫部		
		160	1	13-14	(31)	(不明)	透水外	頭部		
		右片(頭部)2番等わからぬ								
西	32	554	1	17-17	(11)	Ⅲ	2号鉄穴生割	口縫部		
		555	6	17-17	(11)	Ⅲ	2号鉄穴生割	口縫部、頭部		
		396	1	17-17	(22)	(不明)	2号鉄穴生割	頭部		
		12516	1	18-17	(22)	礁土	礁土43	口縫部		
		475	5	16-17	(22)	Ⅲ上	礁土43	口縫部		
		471	1	18-17	(22)	Ⅲ上	礁土43	口縫部		
		476	1	16-17	(22)	Ⅲ上	礁土43	口縫部		
		12549	1	16-17	(33)	Ⅲ	礁土43	口縫部		
		8347	1	16-17	(12)	礁土	礁土43	口縫部		
		474	1	16-17	(22)	Ⅲ上	礁土43	口縫部		
		375	1	16-17	(32)	(不明)	礁土43	口縫部		
		363	1	16-17	(22)	(不明)	礁土43	口縫部		
		365	1	16-17	(32)	(不明)	礁土43	口縫部		
		8480	1	16-17	(22)	(不明)	礁土43	口縫部		
		12534	1	16-17	(22)	礁土	礁土43	口縫部		
		811	1	16-17	(23)	Ⅲ上	礁土43	口縫部		
		374	1	16-17	(30)	(不明)	礁土43	口縫部		
		8586	2	16-17	(32)	Ⅲ	礁土43	四縫		
		12549	2	16-17	(32)	礁土	礁土43	頭部		
		8481	1	16-17	(22)	礁土	礁土43	頭部		
		8476	1	16-17	(22)	礁土	礁土43	頭部		
		373	1	16-17	(32)	(不明)	礁土43	頭部		
		367	1	16-17	(32)	(不明)	礁土43	頭部		
		315	1	16-17	(23)	Ⅲ上	礁土43	頭部		
		477	1	16-17	(22)	Ⅲ上	礁土43	頭部		

PL.②-35-1

PL.②-35-2

個体番号	標片番号	標片名	大グリフ	小グリフ	断面・出土位置	断面通過場所	部位	周辺PL.番号
32 (つづき)	7099	I 20-15	(02)	土上層	炭化物G2	胴部		
	9000	I 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	11047	B 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	11046	S 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9045	I 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	7243	I 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9043	I 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9038	I 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9017	T 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9041	E 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9019	G 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9010	G 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	9023	S 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	11060	S 19-15	(13)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	11321	I 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	胴部		
	2820	S 17-19	(22)	木 <sup>1</sup>	炭化物マクラ	胴部		
	10937	I 21-17	(22)	N	通構外	胴部		
	4732	I 13-08	(33)	N	通構外	胴部		
	4861	I 14-09	(02)	N	通構外	胴部		
	4829	I 13-08	(01)	N	通構外	胴部		
	85片(底部片番号ナシ)							
33	565	2 17-17	(23)	土上凹窓	2号鉢穴住居	胴部	PL-II-37-2	
	949	I 17-17	(21)	土上凹窓	2号鉢穴住居	胴部	PL-II-40	
	397	I 17-17	(22)	(不明)	2号鉢穴住居	胴部		
	945	I 17-17	(31)	(不明)	2号鉢穴住居	胴部		
	396	I 17-17	(12)	(不明)	2号鉢穴住居	底部		
	559	I 17-17	(22)	土上凹窓	2号鉢穴住居	底部		
	9482	22 16-17	(30)	土上	土上43	1号鉢印1, 鉢印10, 低部1		
	123	2 16-17	(30)	(不明)	土上43	1号鉢印1, 鉢印1		
	124	4 16-17	(30)	(不明)	土上43	1号鉢印2, 鉢印2		
	385	2 16-17	(30)	(不明)	土上43	胴部		
	9483	I 16-17	(20)	土上	土上43	胴部		
	125	15 16-17	(30)	(不明)	土上43	胴部		
	273	1 16-16	(33)	(不明)	土上43	胴部		
	8322	I 16-17	(31)	土上	土上43	胴部		
	384	2 16-17	(30)	(不明)	土上43	胴部		
	397	I 16-17	(20)	土上	土上43	胴部		
	378	I 16-17	(31)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	1867	I 17-16	(03)	カツラン	土上43周辺	胴部		
	6594	I 16-15	(31)	目	土上43周辺	胴部		
	57	I 16-18	(30)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	113	I 16-17	(20)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	296	2 16-17	(20)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	11146	I 15-17	(31)	目	土上43周辺	胴部		
	399	I 16-17	(30)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	350	I 16-17	(22)	(不明)	土上43周辺	胴部		
	68片							
34	1900	I 17-16	(32)	麻直	2号鉢穴住居	胴部	PL-II-37-1	
	11012	I 16-16	(31)	麻直	2号鉢穴住居	胴部	PL-II-41	
	11336	I 17-16	(32)	麻直	2号鉢穴住居	胴部		
	524	I 17-16	(32)	麻直	2号鉢穴住居	胴部		
	1841	I 18-17	(20)	麻直	2号鉢穴住居	胴部		
	10673	I 19-17	(01)	麻直	2号鉢穴住居	胴部		
	1692	I 17-17	(01)	N	2号鉢穴住居	胴部		
	129	3 16-17	(22)	(不明)	土上43	胴部		
	11563	I 16-17	(02)	土上	土上43	胴部		
	8212	8 15-17	(22)	目	土上43	胴部		
	11665	3 16-17	(02)	土上	土上43	胴部		
	11564	2 16-17	(02)	土上	土上43	胴部		
	11682	I 16-17	(02)	土上	土上43	胴部		
	12540	2 16-17	(22)	N	土上43	胴部		
	12536	I 16-17	(13)	目	土上43	胴部		
	1060	I 13-14	(01)	N	土上43周辺	胴部		
	4719	I 19-12	(11)	N	土上43周辺	胴部		
	7412	I 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	口縁部		
	9735	I 19-15	(12)	目	炭化物G2	口縁部		
	5745	I 19-15	(22)	目	炭化物G2	口縁部		
	5790	I 19-15	(22)	目	炭化物G2	口縁部		
	11079	S 19-15	(22)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	口縁部		
	7248	I 19-15	(22)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	口縁部		
	11066	I 19-15	(12)	土 <sup>1</sup>	炭化物G2	口縁部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連標記など	部位	関連PL.番号		
■	34	7435	2 19-15	(22)	x'	炭化物G2	口縁部			
(ツブリ)		7458	3 19-15	(31)	x'	炭化物G2	胴部			
		7466	1 19-15	(32)	x'	炭化物G2	胴部			
		7683	1 19-15	(18)	x'	炭化物G2	胴部			
		7417	1 19-15	(12)	x'	炭化物G2	胴部			
		11899	1 19-15	(12)	x'	炭化物G2	胴部			
		7239	1 19-15	(22)	x'	炭化物G2	胴部			
		65	1 19-15	(22)	(不明)	炭化物G2	胴部			
		5749	1 19-15	(22)	■	炭化物G2	胴部			
		7468	1 19-15	(31)	x'	炭化物G2	胴部			
		8755	3 19-15	(22)	■	炭化物G2	胴部			
		7574	1 19-15	(22)	■	炭化物G2	胴部			
		7238	1 19-15	(22)	x'	炭化物G2	胴部			
		7640	1 19-15	(21)	x'	炭化物G2	胴部			
		11049	1 19-15	(12)	x'	炭化物G2	胴部			
		9015	1 19-15	(18)	x'	炭化物G2	胴部			
		7692	2 19-15	(18)	x'	炭化物G2	胴部			
		7815	1 18-11	(02)	■	炭化物マクランド	胴部			
		1689	1 17-16	(03)	カクラン	透拂外	胴部			
		1716	3 14-09	(32)	■	透拂外	口縁部			
		11963	1 17-19	(30)	■	透拂外	口縁部			
		5667	1 22-14	(15)	■	透拂外	胴部			
		61	3 19-15	(32)	(不明)	透拂外	胴部			
		11301	1 17-16	(32)	■	透拂外	胴部			
		12524	3 16-18	(12)	■	透拂外	胴部			
		11785	1 16-15	(01)	■	透拂外	胴部			
		7片(網部片番号わからず)								
■	35	1793	7 18-10	(00)	覆土①裏	2号窓六住窓	口縁部	PL.22-02		
		1798	3 18-18	(01)	覆土①裏	2号窓六住窓	胴部			
		8537	1 19-18	(12)	覆土①裏	2号窓六住窓	胴部			
		542	2 17-17	(30)	覆土②裏	2号窓六住窓	胴部			
		118	8 16-17	(21)	(不明)	埴土43	胴部			
		117	4 16-17	(21)	(不明)	埴土43	胴部			
		115	1 16-17	(20)	(不明)	埴土43	胴部			
		127	1 16-17	(30)	(不明)	埴土43	胴部			
		139	1 16-17	(32)	カクラン	埴土43	胴部			
		1693	1 16-17	(31)	■	埴土43	胴部			
		8321	3 16-17	(31)	埴土	埴土43	胴部			
		8309	1 16-17	(20)	埴土	埴土43	胴部			
		283	1 16-17	(20)	(不明)	埴土43	胴部			
		8332	1 15-17	(20)	■	埴土43	胴部			
		1690	2 17-17	(00)	■	透拂外	胴部			
		1629	1 18-08	(00)	■	透拂外	胴部			
		8294	1 16-16	(23)	■	透拂外	胴部			
		8225	2 18-17	(10)	■	透拂外	胴部			
		37片(網部片番号ナシ 網部2片番号わからず)								
■	36	630	1 13-16	(10)	■	埴土33-37	口縁部	PL.22-201下		
		12657	2 16-17	(10)	■	埴土43	口縁部	PL.22-202-1		
		7443	1 19-15	(30)	x'	炭化物G2	口縁部	PL.22-03		
		7906	1 19-15	(03)	x'	炭化物G2	口縁部			
		9037	1 19-15	(12)	x'	炭化物G2	口縁部			
		8096	4 19-15	(33)	x'	炭化物G2	胴部			
		9092	1 19-15	(33)	x'	炭化物G2	胴部			
		7934	3 19-15	(33)	x'	炭化物G2	胴部			
		9076	2 19-15	(23)	x'	炭化物G2	胴部			
		7532	1 19-15	(02)	x'	炭化物G2	胴部			
		5776	2 19-15	(33)	■	炭化物G2	胴部			
		10248	3 17-11	(21)	マクランド	炭化物マクランド	口縁部			
		9424	1 17-11	(18)	マクランド	炭化物マクランド	口縁部			
		10258	1 17-11	(23)	マクランド	炭化物マクランド	口縁部			
		10041	1 17-11	(18)	マクランド上	炭化物マクランド	口縁部			
		9273	3 17-11	(13)	マクランド	炭化物マクランド	口縁部			
		10042	2 17-11	(33)	マクランド上	炭化物マクランド	口縁部			
		3196	1 17-11	(23)	■	炭化物マクランド	口縁部			
		3220	1 17-11	(23)	■	炭化物マクランド	口縁部			
		10257	1 17-11	(23)	マクランド	炭化物マクランド	口縁部			
		10290	4 17-12	(20)	マクランド	炭化物マクランド	胴部			
		9856	2 17-11	(18)	マクランド	炭化物マクランド	胴部			
		10016	1 17-11	(21)	マクランド	炭化物マクランド	胴部			

個体番号	遺物番号	器片名	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
箇 (つづき)	36 9420	1 17-11	[13]	マウンド	上	炭化物マウンド	頭部	
	10244	2 17-11	[21]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10056	1 17-11	[23]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10203	1 17-11	[22]	マウンド	上	炭化物マウンド	頭部	
	2772	1 18-10	[03]	■		炭化物マウンド	頭部	
	2737	1 18-10	[03]	■		炭化物マウンド	頭部	
	9663	9 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9655	1 17-12	[16]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9654	1 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9619	9 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9664	1 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9437	1 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10333	1 17-12	[26]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9665	3 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9371	1 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10040	1 17-11	[23]	マウンド	上	炭化物マウンド	頭部	
	10277	2 17-12	[26]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10330	1 17-12	[26]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10287	1 17-11	[26]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	10043	1 17-11	[23]	マウンド	上	炭化物マウンド	頭部	
	9333	2 17-11	[13]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9652	2 17-12	[16]	マウンド		炭化物マウンド	頭部	
	9462	14 20-16	[03]	■		遺物外	口縁部	
	8012	1 20-16	[13]	■		遺物外	口縁部	
91件(口縁部4件, 遺物22件書かわからず)								
箇	37 12557	13 17-17	[12]	カマド			口縁部4, 縁部9	PL.34-1
	12778	1 18-17	[26]	床底		2号窓内底面	口縁部	PL.34-44
	12246	1 17-17	[12]	カマド		2号窓六往忌	頭部	
	12249	1 17-17	[12]	カマド		2号窓六往忌	頭部	
	12565	3 17-17	[12]	カマド		2号窓六往忌	頭部	
	12529	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	11208	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	11008	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	10550	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	1740	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	1091	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	9916	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	12085	1 17-17	[11]	カマド		2号窓六往忌	頭部	
	12070	1 18-16	[23]	床		2号窓六往忌	頭部	
	12071	1 18-16	[23]	床		2号窓六往忌	頭部	
	16584	1 17-17	[不明]	カマド		2号窓六往忌	頭部	
	6892	1 18-16	[13]	床底		2号窓六往忌	1号部	
	16590	1 17-16	[23]	床底		2号窓六往忌	頭部	
	510	1 16-17	[23]	■上		焼土43	頭部	
	5553	1 15-17	[21]	■		焼土43	頭部	
	514	1 16-17	[23]	■上		焼土43	頭部	
	11152	1 15-17	[21]	■		焼土43	頭部	
	11190	1 15-17	[21]	■		焼土43	頭部	
	11683	1 16-17	[03]	地土		焼土43	頭部	
	5780	2 19-15	[22]	■		炭化物62	口縁部	
	7401	1 19-15	[21]	■		炭化物62	口縁部	
	7454	2 19-15	[22]	■		炭化物62	口縁部	
	5789	1 19-15	[22]	■		炭化物62	口縁部	
	7459	1 19-15	[22]	■		炭化物62	口縁部	
	9043	1 19-16	[20]	■		炭化物62	頭部	
	9090	1 19-15	[23]	■		炭化物62	頭部	
	5719	1 19-15	[21]	■		炭化物62	頭部	
	6018	1 20-16	[03]	■		炭化物62	頭部	
	7584	1 30-14	[10]	■		炭化物62	頭部	
	10560	1 25-17	[不明]	炭化物帯		炭化物+焼土70	頭部	
	9811	1 17-13	[02]	■		遺物外	口縁部	
	10357	1 18-14	[23]	■		遺物外	口縁部	
	5822	1 19-16	[10]	■		遺物外	口縁部	
	11199	1 18-15	[03]	■		遺物外	口縁部	
	8577	1 15-14	[20]	■		遺物外	口縁部	
	11486	1 18-15	[10]	■		遺物外	口縁部	
	7707	1 15-15	[03]	■		遺物外	口縁部	
	111805	1 18-15	[03]	■		遺物外	口縁部	
	5827	1 18-15	[12]	■		遺物外	口縁部	
	7728	1 15-15	[23]	■		遺物外	口縁部	
	9385	1 17-13	[13]	■		遺物外	口縁部	

個体番号	遺物番号	被片数	大ブリッド	小クリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
■	37 10499	1	17-13	(13)	瓦	通溝外	口縫部	
(つづき)	10723	1	14-12	(22)	瓦	通溝外	口縫部	
					63片(口縫1片、側縫11片 番号わからず)			
■	38 12065	2	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	口縫部	PL-II-36-1
	11837	1	17-16	(32)	瓦	2号竪穴住居	口縫部	PL-II-45
	12231	1	17-17	(11)	カマド	2号竪穴住居	口縫部	
	10836	6	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	口縫部2、側縫4	
	12156	1	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	口縫部	
	1755	1	18-16	(02)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	1749	1	17-17	(36)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	1830	1	17-17	(36)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	1748	1	17-17	(36)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	12084	1	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	側縫	
	16559	1	17-17	(不明)	カマド	2号竪穴住居	側縫	
	12246	2	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	側縫	
	1913	1	18-17	(13)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	11030	1	18-17	(33)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	1754	1	18-18	(02)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	12067	1	18-17	(33)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	11841	1	18-18	(03)	床底	2号竪穴住居	側縫	
	12277	1	15-16	(20)	瓦	焼土43	側縫	
	334	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	側縫	
	282	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	側縫	
	329	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	側縫	
	6282	1	16-16	(00)	瓦	焼土43	側縫	
	9704	1	16-17	(21)	焼土上	焼土43	側縫	
	16564	1	16-16	(33)	焼土	焼土43	側縫	
	11033	1	19-15	(12)	x'	炭化物62	口縫部	
	7460	1	19-15	(21)	x'	炭化物62	側縫	
	7241	1	19-15	(22)	x'	炭化物62	側縫	
	9740	1	19-15	(22)	x'	炭化物62	側縫	
	82	1	19-15	(32)	(不明)	炭化物62	側縫	
	72	1	19-15	(23)	(不明)	炭化物62	側縫	
	7612	1	19-15	(01)	x'	炭化物62	側縫	
	7613	1	19-15	(01)	x'	炭化物62	側縫	
	5716	1	19-15	(20)	x'	炭化物62	側縫	
	9039	1	19-15	(12)	x'	炭化物62	側縫	
	83	2	19-15	(23)	(不明)	炭化物62	側縫	
	8851	1	19-15	(00)	x'	炭化物62	側縫	
	9027	1	19-15	(13)	x'	炭化物62	側縫	
	5763	3	19-15	(22)	x'	炭化物62	側縫	
	5793	1	19-15	(23)	x'	炭化物62	側縫	
	5742	1	19-15	(22)	x'	炭化物62	側縫	
	5748	1	19-15	(22)	x'	炭化物62	側縫	
	3449	1	17-11	(23)	マウンド内	炭化物マウンド	口縫部	
	3454	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	側縫	
	10876	1	19-17	(03)	瓦	通溝外	側縫	
	7606	1	19-17	(不明)	カラン	通溝外	側縫	
	8061	1	13-14	(22)	瓦	通溝外	側縫	
	8025	1	20-16	(10)	瓦	通溝外	口縫部	
	7596	1	20-16	(11)	瓦	通溝外	口縫部	
	6017	1	20-16	(00)	瓦	通溝外	口縫部	
					10片(焼土3片 番号わからず)			
■	39 605	2	11-06	(20)	瓦	5号竪穴住居	側縫	PL-II-129-1
	13547	1	10-10	(03)	瓦	通溝外	口縫部	PL-II-148
	13548	4	10-10	(08)	瓦	通溝外	口縫部3、側縫3	
	13540	4	10-10	(02)	瓦	通溝外	口縫部	
	13542	6	10-10	(02)	瓦	通溝外	口縫部1、側縫5	
	4056	1	10-10	(01)	瓦	通溝外	口縫部	
	4057	1	10-10	(20)	V	通溝外	口縫部	
	13554	1	10-10	(12)	瓦	通溝外	側縫	
	4019	1	10-09	(12)	V	通溝外	側縫	
	4051	1	11-10	(00)	V	通溝外	側縫	
	13535	1	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	13537	4	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	13538	2	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	4076	1	10-10	(21)	V	通溝外	側縫	
	14724	2	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	13543	5	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	13545	1	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	
	13544	3	10-10	(02)	瓦	通溝外	側縫	

個体番号	通称番号	被片	底	土色	粒度	層位	土性	開通透水性	部	開通P.L.番号
■	39	13551	1	10-18	[12]	N	通透外	網部		
(つづき)		4627	1	10-09	[33]	N	通透外	網部		
		4659	1	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		4649	1	10-18	[11]	N	通透外	網部		
		4651	1	10-18	[11]	H	通透外	網部		
		1655	1	15-09	[30]	N	通透外	網部		
		12	1	15-09	[30]	(不明)	通透外	網部		
		4653	1	10-18	[11]	N	通透外	網部		
		4674	1	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		4648	1	10-18	[11]	N	通透外	網部		
		4678	1	10-18	[30]	N	通透外	網部		
		13536	1	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		705	1	11-09	[08]	N	通透外	網部		
		4632	1	10-09	[13]	N	通透外	網部		
		13539	3	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		13552	1	10-18	[12]	N	通透外	網部		
		13533	1	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		13546	1	10-18	[08]	N	通透外	網部		
		2997	1	09-09	[30]	N	通透外	網部		
		4623	1	10-09	[12]	V	通透外	底部		
		13335	1	09-09	[10]	N	通透外	底部		
		64片(網部透視番号わからず)								
■	40	811	1	10-04	[22]	褐土凹岸	5号帶六往復	網部	PL-II-139-1	
		536	1	10-04	[23]	床	5号帶六往復	網部	PL-II-149	
		1564	1	10-05	[10]	透道	5号帶六往復	底部		
		1574	1	10-05	[10]	透道	5号帶六往復	底部		
		2474	3	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	口縫部1, 網部2		
		2468	3	10-04	[08]	土壤内	1号土壤	口縫部2, 網部1		
		2473	2	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2659	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2664	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2660	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2666	3	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2470	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2472	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2661	3	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		2449	1	09-04	[30]	土壤内	1号土壤	網部		
		16711	1	09-04	(不明)	土壤内	1号土壤	網部		
		2915	1	09-04	(不明)	土壤内	1号土壤	網部		
		2158	1	09-04	[30]	V	1号土壤周囲	網部		
		2157	2	09-04	[30]	V	1号土壤周囲	網部		
		2258	2	09-04	[30]	床	1号土壤の地土・炭化物	網部		
		2832	1	09-04	[30]	透土	1号土壤の地土・炭化物	網部		
		2833	1	09-04	[30]	透土	1号土壤の地土・炭化物	網部		
		2831	1	09-04	[30]	透土	1号土壤の地土・炭化物	網部		
		2835	2	09-04	[30]	透土	1号土壤の地土・炭化物	網部		
		938	1	10-04	[13]	床	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2166	1	09-05	[30]	床	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2168	1	09-05	[30]	床	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2107	1	09-05	[30]	V	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2165	2	09-05	[30]	床	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2106	1	09-05	[30]	V	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2105	1	09-05	[30]	V	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2239	3	09-04	[30]	床	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		2333	1	09-05	[30]	V	1号土壤周囲の地土・炭化物	網部		
		4706	2	11-18	[10]	V	透継外	網部		
		4715	2	11-18	[10]	V	透継外	網部		
		5288	2	11-18	[13]	V	透継外	網部		
		4699	1	11-18	[10]	N	透継外	網部		
		4651	1	12-08	[08]	V	透継外	底部		
		52片(網部透視番号わからず)								
■	41	546	4	17-17	[21]	褐土凹岸	2号帶六往復	口縫部2, 網部2	PL-II-33-2	
		1807	7	17-17	[21]	床	2号帶六往復	口縫部1, 網部4	PL-II-46	
		1808	4	17-17	[21]	床	2号帶六往復	口縫部1, 網部3		
		1813	10	17-17	[21]	床	2号帶六往復	口縫部3, 網部7		
		547	2	17-17	[21]	褐土凹岸	2号帶六往復	網部		
		1806	4	17-17	[21]	床	2号帶六往復	網部		
		1806	1	17-17	[21]	褐土凹岸	2号帶六往復	網部		
		1810	8	17-17	[21]	床	2号帶六往復	網部		
		1826	1	17-17	[21]	床	2号帶六往復	網部		

個体番号	遺物番号	被片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺物など	剖面	関連PL.番号
41	1809	5	17-17	(31)	床	2号船穴住居	断面	
(つづき)	1821	1	17-17	(23)	土	2号船穴住居	断面	
	551	3	17-17	(11)	土	2号船穴住居	断面	
	304	1	17-17	(12)	(不明)	2号船穴住居	断面	
	425	2	16-16	(91)	V上	礁土43周明	断面	
	407	2	16-16	(81)	V上	礁土43周明	断面	
	409	1	16-16	(81)	V上	礁土43周明	断面	
	11509	1	18-15	(30)	N	炭化物G2	断面	
	5891	1	16-15	(11)	N	遺構外	断面	
	9943	1	16-15	(10)	N	遺構外	断面	
	595(1回転片番号から)							
42	1818	1	17-17	(33)	土	2号船穴住居	PL.㉓-34-2	PL.㉓-34-2
	11008	6	17-17	(33)	床	2号船穴住居	断面	
	8598	1	17-18	(30)	土	2号船穴住居	断面	
	11003	1	17-16	(33)	床	2号船穴住居	断面	
	9926	1	18-17	(63)	床	2号船穴住居	断面	
	10855	1	18-18	(30)	床	2号船穴住居	断面	
	1817	1	17-17	(33)	土	2号船穴住居	断面	
	582	1	17-17	(32)	土	2号船穴住居	断面	
	1882	2	17-17	(22)	土	2号船穴住居	断面	
	9701	2	17-17	(30)	床	2号船穴住居	断面	
	1820	1	17-17	(22)	床	2号船穴住居	断面	
	10847	5	17-18	(90)	床	2号船穴住居	断面	
	11011	1	17-17	(13)	床	2号船穴住居	断面	
	1815	6	17-17	(32)	土	2号船穴住居	断面	
	9925	1	17-17	(32)	床	2号船穴住居	断面	
	1816	1	17-17	(33)	土	2号船穴住居	断面	
	563	3	17-17	(32)	土	2号船穴住居	断面	
	1785	1	18-17	(33)	土	2号船穴住居	断面	
	15750	1	06-07	(03)	V	礁土13	断面	
	10943	1	19-14	(10)	N	遺構外	断面	
	38片							
43	417	1	16-16	(12)	(不明)	礁土43	PL.㉓-206-2	PL.㉓-206-2
	1191	1	16-17	(30)	礁土	礁土43	断面	
	11306	1	19-15	(22)	N*	炭化物G2	断面	
	5775	6	19-15	(33)	N	炭化物G2	断面	
	9537	1	20-15	(63)	N*	炭化物G2	断面	
	7476	1	20-15	(63)	礁土上	炭化物G2	断面	
	12564	1	20-15	(63)	N	炭化物G2	断面	
	9069	1	19-15	(33)	N*	炭化物G2	断面	
	7916	1	19-15	(23)	N*	炭化物G2	断面	
	221	1	18-15	(31)	(不明)	炭化物G2開辺	断面	
	11786	1	18-15	(04)	N	炭化物G2開辺	断面	
	11787	1	18-15	(04)	N	炭化物G2開辺	断面	
	11788	1	18-15	(04)	N	炭化物G2開辺	断面	
	9622	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	9623	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	10489	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	8609	1	18-10	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	断面	
	3466	1	18-10	(03)	マウンド内	炭化物マウンド	断面	
	9616	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	7810	1	18-11	(06)	N	炭化物マウンド	断面	
	3483	1	18-11	(06)	マウンド内	炭化物マウンド	断面	
	8624	1	17-11	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	断面	
	10282	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	8753	1	17-12	(06)	マウンド上	炭化物マウンド	断面	
	9825	1	17-13	(11)	N	炭化物マウンド	断面	
	10308	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	10340	2	17-12	(30)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	10429	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	10589	2	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	断面	
	7132	1	17-12	(10)	N	炭化物マウンド	断面	
	7396	1	17-12	(21)	N	炭化物マウンド	断面	
	2358	1	17-10	(33)	N	炭化物マウンド	断面	
	5081	1	13-08	(30)	N	遺構外	断面	
	12383	8	18-16	(31)	N	遺構外	断面	
	10562	1	19-14	(23)	N	遺構外	断面	
	8170	1	20-13	(20)	N	遺構外	断面	
	51片(開拓6片番号わからず)							
44	954	2	10-09	(31)	床底	5号船穴住居	PL.㉓-129-2	PL.㉓-129-2
	831	1	10-05	(20)	カマド	5号船穴住居	PL.㉓-146	PL.㉓-146

個体番号	通称番号	被片数	大きさ	小形	属性	出土地	関連遺物など	部類	関連PL.番号
(つづき)	44	1028	1 10-15	[21]	カマド		5号船穴住居	廻部	
	987	1 10-15	[20]	カマド			5号船穴住居	廻部	
	1191	1 10-15	[20]	煙道			5号船穴住居	廻部	
	1194	1 10-15	[20]	カマド			5号船穴住居	廻部	
	1628	1 10-15	[21]	床板			5号船穴住居	廻部	
	993	1 10-15	[21]	床板			5号船穴住居	廻部	
	1027	1 10-15	[21]	床板			5号船穴住居	廻部	
	944	1 10-15	[20]	カマド			5号船穴住居	廻部	
	1019	1 10-15	[21]	床板			5号船穴住居	廻部	
			12片						
	45	12983	1 17-17	[20]	カマド		2号船穴住居	廻部	PL.2D-36-2
		12285	1 17-17	[04]	煙道		2号船穴住居	廻部	PL.2E-68
■	11614	1 17-18	[01]	床板			2号船穴住居	廻部	
	11847	1 17-18	[01]	床板			2号船穴住居	廻部	
	1855	1 17-19	[21]	木			麻化物マウンド	廻部	
	1956	1 17-19	[21]	木			麻化物マウンド	廻部	
	7254	1 18-15	[33]	x <sup>2</sup>			麻化物G2	廻部	
	11783	1 18-15	[01]	瓦			麻化物G2	廻部	
	7645	2 19-15	[13]	x <sup>2</sup>			麻化物G2	廻部	
	8884	2 18-15	[31]	x <sup>2</sup>			麻化物G2	廻部	
	7877	1 19-15	[33]	x <sup>2</sup>			麻化物G2	廻部	
	8521	1 16-18	[11]	瓦			遺構外	廻部	
			14片(廻部)片番号(からず)						
	46	14569	1 05-08	[01]	V		遺構外	廻部	
		14667	1 05-08	[01]	V		遺構外	廻部	
■	16267	1 19-13	[30]	V			遺構外	廻部	
	6501	1 20-09	[02]	V			遺構外	廻部	
	3133	1 09-06	[30]	V			遺構外	廻部	
	10385	1 19-13	[30]	V			遺構外	廻部	
	10394	1 19-13	[30]	V			遺構外	底部	
	10386	1 19-13	[30]	V			遺構外	底部	
			8片(廻部)片番号(からず)						
	47	4584	1 14-09	[11]	V		遺構外	口縁部	
		5333	3 14-06	[11]	V		遺構外	口縁部1, 洞部3	
	6793	1 18-13	[01]	V			遺構外	口縁部	
	6794	4 18-13	[10]	V			遺構外	口縁部1, 洞部3	
	8929	1 14-11	[12]	V			遺構外	口縁部	
	8935	4 14-11	[22]	V			遺構外	口縁部1, 洞部3	
	7853	1 15-10	[20]	V			遺構外	口縁部	
	8933	4 14-11	[20]	V			遺構外	廻部	
	8931	12 14-11	[12]	V			遺構外	廻部	
	8932	3 14-13	[12]	V			遺構外	廻部	
	9778	1 24-11	[12]	V			遺構外	廻部	
	5495	2 13-11	[30]	V			遺構外	廻部	
	8936	1 14-11	[31]	V			遺構外	廻部	
	8937	2 14-11	[31]	V			遺構外	廻部	
	9776	1 14-11	[22]	V			遺構外	廻部	
■			41片						
	48	1728	4 18-16	[30]	V		麻化物G2	口縁部1, 洞部3	PL.2E-209-2
		11750	1 20-15	[04]	V		麻化物G2	口縁部	PL.2E-242
	9122	1 18-16	[30]	V			麻化物G2洞部	廻部	
	12654	1 19-16	[30]	V			麻化物G2洞部	廻部	
	12653	2 19-16	[30]	V			麻化物G2洞部	廻部	
	12656	1 19-16	[30]	V			麻化物G2洞部	廻部	
	12655	6 19-16	[30]	V			麻化物G2洞部	口縁部1, 洞部3	
	9133	1 18-16	[21]	V			麻化物G3	廻部	
	10627	1 17-11	[21]	サウンド			麻化物マウンド	口縁部	
	186	1 17-12	[16]	(不規)			麻化物マウンド	口縁部	
	7343	1 17-12	[16]	瓦			麻化物マウンド	口縁部	
	3330	2 17-11	[12]	マウンド内			麻化物マウンド	口縁部1, 廻部1	
	3408	1 17-11	[22]	マウンド内			麻化物マウンド	口縁部	
	3407	3 17-11	[22]	マウンド内			麻化物マウンド	口縁部	
■			26片						
	49	1902	2 18-17	[20]	床		2号船穴住居	口縁部	PL.2E-42-1
		1775	2 18-17	[20]	床		2号船穴住居	口縁部	PL.2E-49
	1773	2 18-17	[20]	床			2号船穴住居	口縁部	
	1858	2 18-17	[16]	床			2号船穴住居	口縁部	
	1777	1 18-17	[20]	床			2号船穴住居	口縁部	
	1772	1 18-17	[16]	床			2号船穴住居	口縁部	
	1940	1 18-17	[20]	床			2号船穴住居	口縁部	

検体番号	遺物番号	種類	片数	大グリット	小グリット	層位	出土位置	関連標本と	部位	関連品L番号
■	46 1804	1 17-17	(31)	■	■	2号軸穴周辺	口輪部			
(ツヅキ)	1946	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1949	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1944	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1947	2 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	2273	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	2335	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1948	1 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1945	2 17-10	(31)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	1960	1 17-10	(30)	■	■	炭化物マウンド	口輪部			
	9054	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	9050	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7834	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7913	1 19-15	(23)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7975	1 19-15	(10)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7230	2 19-15	(不明)	カクラン	■	炭化物52	口輪部			
	7471	1 20-15	(05)	焼土上	■	炭化物52	口輪部			
	7249	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	5721	1 19-15	(21)	■	■	炭化物52	口輪部			
	16531	1 19-15	(不明)	■	■	炭化物52	口輪部			
	9049	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7906	1 19-15	(13)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7891	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11076	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	9051	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	9034	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11045	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7438	1 19-15	(23)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7851	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7857	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11051	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	8853	1 19-15	(01)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7234	1 19-15	(11)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7897	1 19-15	(32)	■	■	炭化物52	口輪部			
	9040	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11077	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11036	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7864	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7860	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7852	1 19-15	(12)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7838	1 19-15	(02)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7858	1 19-15	(22)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7880	1 19-15	(10)	■	■	炭化物52	口輪部			
	7091	1 20-15	(20)	■	■	炭化物52	口輪部			
	11102	1 15-12	(30)	■	■	炭化物52	口輪部			

59片(鉄部2片番号かからず)

■	50 6419	1 21-09	(不明)	カクラン	達場外	口輪部				
	6338	1 21-09	(05)	カクラン	達場外	口輪部				
	5437	1 20-10	(32)	■	■	達場外	口輪部			
	6494	1 20-10	(33)	■	■	達場外	口輪部			
	6942	2 21-09	(02)	■	■	達場外	口輪部			
	5413	1 20-10	(20)	■	■	達場外	口輪部			
	6240	1 21-10	(00)	■	■	達場外	口輪部			
	729	1 20-10	(31)	■	■	達場外	口輪部			
	5433	1 20-10	(32)	■	■	達場外	口輪部			
	5434	2 20-10	(12)	■	■	達場外	口輪部			
	5405	1 20-10	(10)	■	■	達場外	口輪部			
	5404	5 20-10	(16)	■	■	達場外	口輪部2, 腹部3			
	5403	1 20-10	(10)	■	■	達場外	口輪部			
	5402	1 20-10	(10)	■	■	達場外	口輪部			
	6346	1 21-09	(06)	■	■	達場外	口輪部			
	5407	1 20-10	(30)	■	■	達場外	口輪部			
	5437	1 21-10	(06)	■	■	達場外	口輪部			
	5438	1 21-10	(06)	■	■	達場外	口輪部			
	6239	1 21-10	(00)	■	■	達場外	口輪部			
	5423	2 20-10	(31)	■	■	達場外	口輪部			
	5419	1 20-10	(21)	■	■	達場外	口輪部			
	6339	2 21-09	(03)	■	■	達場外	口輪部			

32片(鉄部2片番号かからず)

■	51 13017	4 06-06	(30)	■	達場外	口輪部	PL-2-264-2			
	13303	1 06-06	(31)	■	達場外	口輪部	PL-2-174			

調査番号	遺物番号	磁片数	大ジグソ	小ジグソ	層位・出土位置	測定済みなど	部位	関連PL.番号
東 (つづき)	S1 13847	6	08-08	(36)	焼土	焼土27	口縁部1, 脚部5	
	13840	1	08-08	(31)	IV	焼土27	口縁部	
	13915	6	08-08	(26)	IV	焼土27	口縁部, 脚部2	
	13914	1	08-08	(16)	IV	焼土27	脚部	
	13845	1	08-08	(36)	焼土	焼土27	口縁部	
	13829	1	07-08	(13)	IV	造縫外	脚部	
	21片							
	S2 11144	1	17-17	(12)	床	2号窓穴柱脚	口縁部	PL.21-38-2
東	1884	1	17-17	(25)	焼土・泥層	2号窓穴柱脚	口縁部	PL.21-70
	1885	1	17-17	(21)	焼土・泥層	2号窓穴柱脚	口縁部	
	1886	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴柱脚	口縁部	
	1881	1	17-17	(12)	床	2号窓穴柱脚	口縁部	
	1749	1	17-17	(26)	床	2号窓穴柱脚	口縁部	
	18558	1	19-17	(不明)	床	2号窓穴柱脚	口縁部	
	18584	2	17-17	(不明)	カマド	2号窓穴柱脚	口縁部	
	1833	1	17-17	(10)	床	2号窓穴柱脚	口縁部	
	12356	1	17-17	(02)	カマド	2号窓穴柱脚	口縁部	
	12090	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴柱脚	脚部	
西	9132	1	16-16	(31)	焼土・泥層	2号窓穴柱脚	脚部	
	A3	2	15-17	(11)	(不明)	焼土41	脚部	
	8035	3	16-16	(01)	IV	焼土43	脚部	
	8039	1	16-16	(11)	IV	焼土43	脚部	
	11683	2	16-17	(02)	焼土	焼土43	脚部	
	11682	2	16-17	(01)	焼土	焼土43	脚部	
	11673	1	15-17	(32)	焼土	焼土43	脚部	
	11681	1	16-17	(01)	焼土	焼土43	直部	
	80468	3	16-19	(25)	IV	焼土44	脚部	
	12256	1	16-18	(12)	IV	焼土44	脚部	
西	7440	1	19-15	(25)	n°	炭化物62	口縁部	
	5775	1	19-15	(33)	III	炭化物62	口縁部	
	12117	1	19-15	(25)	IV	炭化物62	口縁部	
	7919	2	19-15	(23)	n°	炭化物62	口縁部	
	9072	1	19-15	(33)	n°	炭化物62	口縁部	
	7966	1	19-15	(22)	n°	炭化物62	口縁部	
	14518	1	19-15	(不明)	n°	炭化物62	口縁部	
	7931	1	19-15	(33)	n°	炭化物62	口縁部	
	9540	1	20-15	(03)	n°	炭化物62	口縁部	
	9077	2	19-15	(23)	n°	炭化物62	口縁部	
西	7497	1	20-15	(13)	焼土上面	炭化物62	脚部	
	11367	1	20-15	(03)	n°	炭化物62	脚部	
	7932	4	19-15	(23)	n°	炭化物62	脚部	
	74	1	19-15	(33)	(不明)	炭化物62	脚部	
	5774	2	19-15	(33)	III	炭化物62	脚部	
	7444	1	19-15	(33)	n°	炭化物62	脚部	
	75	2	19-15	(33)	(不明)	炭化物62	脚部	
	9553	1	20-15	(12)	n°	炭化物62	脚部	
	12543	1	19-15	(25)	IV	炭化物62	脚部	
	9528	1	20-15	(03)	n°	炭化物62	脚部	
西	56718	1	19-15	(不明)	(不明)	炭化物62	脚部	
	12542	1	19-16	(03)	IV	炭化物62周辺	口縁部	
	12463	2	20-16	(03)	IV	炭化物62周辺	口縁部	
	11450	2	20-16	(10)	IV	炭化物62周辺	脚部	
	12583	1	20-15	(03)	IV	炭化物62周辺	脚部	
	12566	3	17-15	(22)	n°	炭化物62周辺	口縁部	
	2807	1	17-10	(31)	n°	炭化物62周辺	口縁部	
	8354	1	17-11	(03)	IV	炭化物62周辺	口縁部	
	12663	1	17-10	(11)	n°	炭化物62周辺	口縁部	
	20311	1	18-10	(12)	n°	炭化物62周辺	脚部	
西	8776	1	17-12	(12)	ヤウンド上	炭化物ヤウンド	脚部	
	1955	2	17-10	(21)	n°	炭化物ヤウンド	脚部	
	4452	1	15-18	(31)	IV	炭化物ヤウンド	脚部	
	12295	2	16-18	(11)	IV	炭化物ヤウンド	脚部	
	6051	1	20-16	(12)	III	炭化物ヤウンド	脚部	
	6055	1	20-16	(12)	III	炭化物ヤウンド	脚部	
	8031	1	16-18	(11)	IV	炭化物ヤウンド	脚部	
	6733	1	19-13	(12)	IV	炭化物ヤウンド	脚部	
	5500	1	19-13	(25)	(不明)	炭化物ヤウンド	脚部	
	780件(断片4片参考わからず)							
東	57 44	2	15-16	(02)	(不明)	焼土41	口縁部	PL.21-244
	10801	1	15-16	(03)	IV	焼土41	脚部	
	46	1	15-16	(02)	(不明)	焼土41周辺	脚部	

資料番号	遺物番号	通数	大ブリット	小ブリット	部位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■ (ツーブリッジ)	57	10800	1	15-16	(09)	前	鐵化物・鐵土50	頭部
	272	5	16-18	(33)	(不明)	鐵土43	口縁部	
	8453	1	16-17	(18)	鐵土	鐵土43	頭部	
	231	1	15-17	(31)	(不明)	鐵土43	頭部	
	10236	1	18-19	(31)	V	鐵土48	頭部	
	9741	1	19-21	(09)	前	鐵化物・鐵土50	頭部	
	9544	1	20-21	(06)	x'	鐵化物	頭部	
	12400	1	20-16	(21)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	11453	1	20-16	(16)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	11987	1	20-16	(15)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	11469	1	20-16	(23)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	11477	8	20-16	(38)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	9457	1	20-16	(22)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	107	2	20-16	(11)	前	鐵化物50周辺	頭部	
	11447	8	20-16	(01)	前	鐵化物50周辺	頭部3,底部5片	
	3643	1	18-19	(08)	b'	鐵化物マウンド	口縁部	
	16577	1	17-11	(31)	マウンド	鐵化物マウンド	頭部	
	2266	1	17-10	(23)	b'	鐵化物マウンド	頭部	
	10929	1	22-17	(12)	前	遺構外	頭部	
	4333	1	17-20	(15)	前	遺構外	頭部	
	7760	1	14-15	(23)	前	遺構外	頭部	
	248	5	14-16	(32)	前	遺構外	頭部	
	7745	1	14-15	(11)	前	遺構外	頭部	
	10230	1	19-13	(05)	前	遺構外	頭部	
	7736	1	15-15	(38)	前	遺構外	頭部	
	7361	1	14-15	(36)	前	遺構外	頭部	
	8526	1	14-17	(35)	前	遺構外	頭部	
	1041	1	12-13	(06)	前	遺構外	頭部	
	7716	1	15-15	(18)	前	遺構外	頭部	
	7787	2	14-16	(32)	前	遺構外	頭部	
	12404	3	20-17	(01)	前	遺構外	頭部	
	11259	1	22-16	(26)	前	遺構外	頭部	
	346	1	14-16	(33)	(不明)	遺構外	頭部	
	10399	1	18-14	(22)	前	遺構外	頭部	
	60片(頭部4片)番号わかならず							
■	58	6707	1	22-14	(21)	前	遺構外	口縁部
	11215	3	22-17	(12)	前	遺構外	口縁部	
	13414	1	20-17	(11)	前	遺構外	口縁部	
	11216	1	22-17	(15)	前	遺構外	頭部	
	10896	1	22-17	(25)	前	遺構外	頭部	
	11214	1	22-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	11549	1	22-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	11537	1	22-17	(12)	前	遺構外	頭部	
	6002	3	20-17	(23)	前	遺構外	頭部	
	6006	2	20-17	(25)	前	遺構外	頭部	
	10624	1	22-17	(12)	前	遺構外	頭部	
	9470	1	20-17	(21)	前	遺構外	頭部	
	6069	1	22-17	(02)	前	遺構外	頭部	
	11984	1	20-17	(21)	前	遺構外	頭部	
	10940	1	22-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	6067	11	22-17	(02)	前	遺構外	頭部	
	11234	1	22-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	11236	3	22-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	10897	1	21-17	(22)	前	遺構外	頭部	
	1159	1	20-18	(10)	前	遺構外	底部	
	11227	3	21-17	(13)	前	遺構外	底部	
	38片(頭部4片)番号わかならず							
■	59	1896	1	17-16	(32)	床	2号敷穴住居	頭部
	1875	1	17-17	(33)	床	2号敷穴住居	頭部	
	12466	1	20-14	(15)	前	鐵化物53	口縁部	
	9533	1	20-15	(03)	x'	鐵化物53	頭部	
	186	1	17-12	(16)	(不明)	鐵化物マウンド	口縁部	
	2071	1	18-10	(03)	(不明)	鐵化物マウンド	口縁部	
	8393	1	18-11	(03)	前	鐵化物マウンド	口縁部	
	6669	1	18-11	(22)	前	鐵化物マウンド	口縁部	
	3343	1	17-11	(13)	マウンド内	鐵化物マウンド	口縁部	
	10907	1	17-11	(22)	マウンド下	鐵化物マウンド	口縁部	
	10773	1	17-11	(22)	マウンド	鐵化物マウンド	口縁部	
	9693	1	17-12	(00)	マウンド	鐵化物マウンド	口縁部	
	6606	1	18-10	(11)	マウンド	鐵化物マウンド	口縁部	
	10445	1	17-11	(22)	マウンド下	鐵化物マウンド	口縁部	

個体番号	遺物番号	破片数	大分類	小分類	層位	出土位置	関連遺構名	部位	関連PL-番号
99 (つづき)	16737	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	6762	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	186	1	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	177	1	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	16464	1	17-11	[22]	マウンド下	炭化物マウンド	側部		
	2746	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	側部		
	16553	1	17-11	[26]	マウンド	炭化物マウンド	側部		
	9876	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	側部		
	9315	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	側部		
	3532	1	17-12	[00]	N	炭化物マウンド	側部		
	69	8	17-16	[24]	(不明)	遺構外	口縁部4, 側部4		
	4434	1	14-18	[01]	N	遺構外	口縁部		
	4156	1	14-18	[13]	N	遺構外	口縁部		
	7794	1	15-19	[20]	N	遺構外	側部		
	7494	1	21-16	[21]	N	遺構外	側部		
	36片(口縁部1片, 側部1片番号わからず)								
東	65 543	1	17-17	(不明)	カクラン	2号窓穴住居	側部		
	1082	2	12-14	[21]	N	焼土30	側部		
	1871	1	12-14	[20]	N	焼土30	側部		
	8842	1	12-14	[24]	N	焼土35	側部		
	5291	2	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	1079	10	12-14	[21]	N	焼土35	口縁部		
	1079	1	12-14	[20]	N	焼土35	口縁部		
	8843	1	12-14	[21]	N	焼土35	口縁部		
	5293	1	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	8890	3	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	8861	2	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	1677	1	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	1673	1	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	1672	1	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	1075	2	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	9739	1	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	1152	1	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	1153	1	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	1151	1	12-14	[20]	N	焼土35	側部		
	1080	2	12-14	[21]	N	焼土35	側部		
	5167	2	15-07	[22]	N	炭化物39	側部		
	8853	1	13-14	[21]	N	遺構外	口縁部		
	1043	1	13-13	[03]	N	遺構外	口縁部		
	1060	1	13-14	[01]	N	遺構外	口縁部		
	7312	1	15-13	[16]	N	遺構外	側部		
	1045	1	13-13	[03]	N	遺構外	側部		
	8874	5	13-14	[23]	N	遺構外	側部		
	7311	1	14-15	[20]	N	遺構外	側部		
	7305	1	14-14	[21]	N	遺構外	側部		
	1053	1	13-14	[01]	N	遺構外	側部		
	8873	1	13-13	[20]	N	遺構外	側部		
	1061	2	13-14	[01]	N	遺構外	側部		
	1064	1	13-14	[01]	N	遺構外	側部		
	7307	1	14-14	[20]	N	遺構外	側部		
	827	2	13-13	[22]	N	遺構外	側部		
	11813	1	13-13	[20]	N	遺構外	側部		
	8964	2	13-14	[01]	N	遺構外	側部		
	5890	1	13-14	[00]	底土	遺構外	側部		
	62片(窓4片番号わからず)								
西	83 372	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43	側部		P1-32-289
	480	1	16-17	[22]	上	焼土43	側部		
	12514	2	16-17	[22]	底土	焼土43	側部		
	478	1	16-17	[22]	上	焼土43	側部		
	475	1	16-17	[22]	上	焼土43	側部		
	7637	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	側部		
	5737	1	19-15	[22]	面	炭化物52	側部		
	9001	4	19-15	[13]	x'	炭化物52	側部		
	9022	2	19-15	[13]	x'	炭化物52	側部		
	7473	1	20-15	[00]	底土上	炭化物52	側部		
	8007	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	側部		
	8006	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	側部		
	7098	2	19-15	[23]	x'	炭化物52	側部		
	5781	2	19-15	[23]	面	炭化物52	側部		
	76	1	19-15	[22]	(不明)	炭化物52	側部		
	7314	2	14-13	[11]	N	遺構外	側部		

個体番号	遺物番号	破片数	大アリット	小アリット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.-番号
葉	61 7283	1	14-13	(21)	吉	過境外	頭部	
{つづき}	8961	1	16-14	(06)	三	過境外	頭部	
		26片						
葉	62 5707	1	19-17	(18)	三	2号窓穴住居	頭部	PL.52-42-4
	10111	1	17-17	(03)	覆土④層	2号窓穴住居	頭部	PL.52-73
	8868	1	17-18	(02)	覆土④層	2号窓穴住居	頭部	
	10879	4	19-18	(06)	床	2号窓穴住居	頭部	
	8925	1	19-18	(06)	床	2号窓穴住居	頭部	
	10860	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	頭部	
	1079	1	17-17	(18)	カマド	2号窓穴住居	頭部	
	10841	1	17-17	(03)	床	2号窓穴住居	頭部	
	10840	1	17-17	(03)	床	2号窓穴住居	頭部	
	11010	3	17-17	(03)	床	2号窓穴住居	頭部	
	10842	1	17-17	(03)	床	2号窓穴住居	頭部	
	10838	10	17-17	(02)	床	2号窓穴住居	頭部S、底部S	
	3062	1	08-13	(03)	瓦	鐵土24廻道	頭部	
	347	4	16-17	(18)	(不明)	鐵土43	口縁部2、頭部2	
	336	1	16-17	(18)	(不明)	鐵土43	口縁部	
	328	1	16-17	(06)	(不明)	鐵土43	口縁部	
	12537	1	16-17	(18)	瓦	鐵土43	頭部	
	342	1	16-17	(18)	(不明)	鐵土43	頭部	
	360	2	16-17	(22)	(不明)	鐵土43	頭部	
	9931	2	16-16	(23)	鐵土	鐵土43	頭部	
	16598	1	16-17	(不明)	鐵土	鐵土43	頭部	
	120	1	16-17	(23)	(不明)	鐵土43	頭部	
	8470	1	16-17	(23)	鐵土	鐵土43	頭部	
	9164	1	19-15	(32)	s'	炭化物52	口縁部	
	5803	1	19-15	(19)	(不明)	炭化物52	口縁部	
	79	1	19-15	(32)	(不明)	炭化物52	口縁部	
	5797	1	19-15	(23)	瓦	炭化物52	口縁部	
	5757	3	19-15	(22)	瓦	炭化物52	口縁部	
	7430	1	19-15	(22)	s'	炭化物52	頭部	
	7648	1	19-15	(31)	s'	炭化物52	頭部	
	11073	1	19-15	(21)	s'	炭化物52	頭部	
	7628	1	19-15	(02)	s'	炭化物52	頭部	
	5727	4	19-15	(11)	瓦	炭化物52	頭部	
	5724	1	19-15	(11)	瓦	炭化物52	頭部	
	8178	1	19-15	(11)	瓦	炭化物52	頭部	
	9556	1	20-15	(12)	s'	炭化物52	頭部	
	7976	1	19-15	(10)	s'	炭化物52	頭部	
	7687	1	19-15	(18)	s'	炭化物52	頭部	
	7688	1	19-15	(18)	s'	炭化物52	頭部	
	7699	1	19-15	(18)	s'	炭化物52	頭部	
	6030	1	20-16	(10)	瓦	炭化物52廻道	頭部	
	11513	2	18-15	(31)	瓦	炭化物52廻道	頭部	
	217	7	18-15	(30)	(不明)	炭化物52廻道	頭部	
	5739	1	19-15	(29)	瓦	炭化物52廻道	頭部	
	11496	1	18-15	(21)	瓦	炭化物52廻道	頭部	
	16454	1	18-18	(11)	V	過境外	口縁部	
	16455	1	18-18	(11)	V	過境外	口縁部	
	16457	2	18-18	(11)	V	過境外	口縁部, 頭部	
	8254	1	13-17	(21)	瓦	過境外	口縁部	
	4208	1	13-17	(23)	瓦	過境外	口縁部	
	10749	2	13-16	(33)	瓦	過境外	口縁部	
	16500	1	10-18	(31)	瓦	過境外	口縁部	
	1375	2	13-19	(61)	V	過境外	口縁部	
	642	1	13-21	(32)	瓦	過境外	口縁部	
	4435	1	13-18	(02)	瓦	過境外	口縁部	
	8514	1	13-17	(12)	瓦	過境外	口縁部	
	4272	1	13-17	(02)	瓦	過境外	口縁部	
	16355	1	10-18	(21)	瓦	過境外	口縁部	
	805	1	13-16	(不明)	セラミ	過境外	口縁部	
	8258	3	13-17	(21)	瓦	過境外	頭部	
	1367	5	11-18	(18)	V	過境外	頭部	
	1374	5	13-19	(16)	V	過境外	頭部	
	1377	1	13-19	(02)	V	過境外	頭部	
	1380	1	13-19	(12)	V	過境外	頭部	
	11785	1	18-15	(00)	瓦	過境外	頭部	
	11294	1	17-16	(23)	瓦	過境外	頭部	
	1375	1	13-19	(01)	V	過境外	頭部	
	8952	1	13-17	(23)	瓦	過境外	頭部	

個体番号	通称番号	地片	面積	出土位置	関連品など	部位	関連PL.番号	
62	9983	1	16-12	[23]	N	遺構外	頭部	
(つづき)	6590	1	19-17	[不明]	カクラン	遺構外	頭部	
	16356	2	10-18	[11]	N	遺構外	頭部	
	16432	1	10-18	[11]	V	遺構外	頭部	
	16443	1	10-18	[11]	V	遺構外	頭部	
	11574	1	15-16	[06]	N	遺構外	頭部	
	8507	1	14-17	[22]	N	遺構外	頭部	
	16386	1	10-18	[12]	N	遺構外	頭部	
	9958	3	16-14	[26]	N	遺構外	頭部	
	9830	2	17-13	[12]	N	遺構外	頭部	
	9463	1	16-13	[04]	N	遺構外	頭部	
	9814	2	17-13	[08]	N	遺構外	頭部	
	16468	1	09-18	[21]	N	遺構外	頭部	
	16372	1	10-18	[23]	N	遺構外	頭部	
	16430	3	10-18	[02]	V	遺構外	頭部	
	16427	2	10-18	[01]	N	遺構外	頭部	
	16391	1	10-18	[02]	N	遺構外	頭部	
	16438	2	10-18	[01]	N	遺構外	頭部	
	16361	3	10-18	[12]	N	遺構外	頭部	
	16402	4	10-18	[10]	V	遺構外	頭部	
	16488	1	09-18	[22]	N	遺構外	頭部	
	16467	1	10-18	[02]	V	遺構外	頭部	
	16434	1	10-18	[16]	V	遺構外	頭部	
	16444	1	10-18	[18]	V	遺構外	頭部	
	16379	1	10-18	[12]	V	遺構外	頭部	
	16389	1	10-18	[02]	N	遺構外	頭部	
	16360	1	10-17	[21]	N	遺構外	頭部	
	4252	2	11-17	[11]	V	遺構外	頭部	
	16408	1	10-19	[01]	V	遺構外	頭部	
	16461	2	10-18	[01]	V	遺構外	頭部	
	16460	1	10-18	[18]	V	遺構外	頭部	
	16429	1	10-18	[02]	V	遺構外	頭部	
161片(附植)片 番号わからず								
■	63	12501	1	16-17	[12]	地土	地土③	PL.22-72
	✓	16279	5	17-11	[21]	マッシュ	炭化物マッシュ	口輪部
	✓	16577	1	17-11	[21]	マッシュ	炭化物マッシュ	口輪部
	✓	8550	3	17-11	[18]	マッシュ上	炭化物マッシュ	頭部
	✓	1665	8	17-10	[21]	V	炭化物マッシュ	口輪部
	✓	9075	1	19-15	[23]	x'	炭化物62	頭部
	✓	7188	3	19-15	[23]	x'	炭化物63	口輪部
	✓	7439	3	19-15	[23]	x'	炭化物62	口輪部
	✓	7097	2	20-15	[02]	焼土上面	炭化物62	頭部
	✓	7098	2	20-15	[02]	焼土上面	炭化物62	口輪部
	✓	7095	1	20-15	[02]	焼土上面	炭化物63	頭部
	✓	7100	3	20-15	[02]	焼土上面	炭化物63	頭部
33片								
■	64	6453	1	15-16	[02]	■	焼土41周辺	PL.22-205-1
	8587	4	15-16	[02]	V	焼土41周辺	口輪部	
	5840	2	15-16	[11]	■	焼土41周辺	口輪部	
	5846	1	15-16	[02]	■	焼土41周辺	口輪部	
	6454	2	15-16	[02]	■	焼土41周辺	頭部	
	5848	4	15-16	[02]	■	焼土41周辺	頭部	
	47	2	15-16	[02]	{不明}	焼土41周辺	頭部	
	5846	2	15-16	[02]	■	焼土41周辺	頭部	
	5847	2	15-16	[02]	■	焼土41周辺	口輪部	
	5842	2	15-16	[01]	■	焼土41周辺	頭部	
	8587	1	15-16	[01]	V	焼土41周辺	頭部	
	44	4	15-16	[02]	{不明}	焼土41周辺	頭部	
	48	1	15-16	[02]	{不明}	焼土41周辺	頭部	
	49	1	15-16	[02]	{不明}	焼土41周辺	頭部	
	50	1	15-16	[02]	{不明}	焼土41周辺	頭部	
	5839	1	15-16	[11]	■	焼土41周辺	頭部	
	16148	1	15-16	[06]	■	焼土41周辺	頭部	
	8508	1	16-17	[20]	焼土	焼土43	口輪部	
	205	1	16-17	[20]	{不明}	焼土43	口輪部	
	269	27	16-18	[23]	{不明}	焼土43	頭部	
	268	1	16-16	[23]	{不明}	焼土43	頭部	
	16269	1	16-16	[23]	V	焼土43	頭部	
	433	1	16-16	[23]	V' 上	焼土43	頭部	
	12683	2	16-16	[23]	V	焼土43	頭部	
	8503	1	16-16	[20]	V	焼土43周辺	口輪部	

個体番号	遺物番号	破片数	大分類	小分類	層位/出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	54 861	5	16-16	(32)	「不明」	礫化物14	口縁部	
(ツバキ)	8667	1	16-16	(32)	カクラン	礫土43周辺	縫部	
	12097	2	16-16	(32)	■	礫土43周辺	縫部	
	14998	1	07-08	(03)	礫土	炭化物19	縫部	
	14938	1	07-08	(03)	礫土	炭化物19	縫部	
	9361	2	17-11	(18)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	186	3	17-12	(16)	「不明」	炭化物マウンド	縫部	
	9322	1	17-11	(03)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	2314	1	18-10	(05)	■	炭化物マウンド	縫部	
	118	1	20-14	(06)	「不明」	遺構外	縫部	
	16484	1	09-18	(31)	■	遺構外	口縁部	
	5896	1	14-14	(12)	■	遺構外	口縁部	
	5867	2	14-14	(12)	■	遺構外	口縁部	
	10147	2	14-16	(30)	■	遺構外	口縁部	
	10145	1	14-16	(00)	■	遺構外	口縁部	
	249	1	14-16	(30)	「不明」	遺構外	口縁部	
	7761	1	14-15	(36)	■	遺構外	口縁部	
	7781	1	13-15	(35)	■	遺構外	口縁部	
	5870	2	14-16	(26)	■	遺構外	縫部	
	11979	1	20-17	(11)	■	遺構外	縫部	
	9792	1	14-16	(12)	■	遺構外	縫部	
	9905	1	14-16	(21)	■	遺構外	縫部	
	6062	1	21-16	(03)	■	遺構外	縫部	
101片(断面片番号かきらす)								
■	65 12234	1	17-17	(11)	カマド	2号窓穴住居	縫部	PL-II-39-3
	8471	2	16-17	(23)	礫土	礫土43	縫部	PL-II-74
	371	2	15-17	(25)	「不明」	礫土43	縫部	
	277	1	16-17	(16)	「不明」	礫土43	縫部	
	9530	3	10-15	(03)	■	炭化物62	底部	
	7231	4	18-15	(03)	■	炭化物62周辺	縫部	
	12487	1	19-16	(26)	■	炭化物62周辺	縫部	
	1764	4	18-16	(23)	■	炭化物62周辺	縫部	
	3821	1	17-10	(32)	■	炭化物マウンド	縫部	
	3823	1	17-10	(33)	■	炭化物マウンド	縫部	
	2825	1	17-10	(33)	■	炭化物マウンド	縫部	
	2826	1	17-10	(35)	■	炭化物マウンド	縫部	
	10957	1	18-10	(03)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	2653	2	18-10	(11)	■	炭化物マウンド	縫部	
	9433	2	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	6064	1	18-10	(26)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	9211	1	17-11	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	縫部	
	186	1	17-10	(16)	「不明」	炭化物マウンド	縫部	
	3013	2	18-10	(12)	■	炭化物マウンド	縫部	
	10794	1	17-11	(36)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	10795	1	17-11	(36)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	10670	2	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	10678	1	18-11	(06)	マウンド	炭化物マウンド	縫部	
	1074	1	18-10	(12)	カクラン	炭化物マウンド	底部	
	2014	1	18-10	(12)	カクラン	炭化物マウンド	縫部	
39片(断面片番号かきらす)底部/片端部分かきらす								
■	66 12130	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	口縁部	PL-II-36-3
	✓ 11145	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	PL-II-125
✓	✓ 12063	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	PL-II-75
✓	✓ 12079	2	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	
✓	✓ 12061	2	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	
✓	✓ 2141	1	10-04	(13)	カマド	5号窓穴住居	口縁部	
✓	✓ 9552	4	30-15	(12)	■	炭化物62	縫部	
✓	✓ 9559	5	30-15	(12)	■	炭化物62	縫部	
✓	✓ 5784	1	18-15	(33)	■	炭化物62	縫部	
✓	✓ 12143	1	19-18	(25)	■	炭化物62	口縁部	
38片(断面片番号かきらす)								
■	✓ 67 16008	2	18-17	「不明」	床	2号窓穴住居	縫部	PL-II-41-2
✓	✓ 16691	1	19-17	「不明」	床	2号窓穴住居	縫部	PL-II-76
✓	✓ 12150	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	
✓	✓ 12131	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	縫部	
✓	✓ 714	5	12-09	「不明」	カクラン	縫土33周辺	縫部	
✓	✓ 8338	1	16-17	(11)	礫土	縫土43	縫部	
✓	✓ 502	3	16-17	(12)	■	縫土43	縫部	
✓	✓ 8466	1	16-17	(13)	礫土	縫土43	縫部	
✓	✓ 8465	3	16-17	(13)	礫土	縫土43	縫部	
✓	✓ 8464	3	16-17	(13)	礫土	縫土43	縫部	

個体番号	遺物番号	破片数	大きさ	小グリット	層位・出土位置	関連構造など	部位	周辺PL.番号
東 (つづき)	67	10518	1	16-17	(13)	背	砂土43	網部
		12508	2	16-17	(12)	地土	砂土43	網部
		13533	2	16-17	(13)	背	砂土43	網部
		13667	1	16-17	(13)	背	砂土43	網部
		13590	1	16-17	(23)	背	砂土43	網部
		13045	1	16-16	(12)	x'	炭化物62	網部
		11305	1	16-16	(22)	x'	炭化物62	網部
		8001	1	16-16	(22)	x'	炭化物62	網部
		11094	4	16-16	(12)	x'	炭化物62	網部
		8898	1	16-16	(02)	x'	炭化物62	網部
		9545	2	20-16	(12)	x'	炭化物62	網部
		9539	1	20-16	(02)	x'	炭化物62	網部
		11763	1	30-16	(12)	背	炭化物62網面	網部
		11764	1	20-16	(13)	背	炭化物62網面	網部
		13663	1	20-16	(02)	背	炭化物62網面	網部
		7118	2	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網部
		6856	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網部
		6994	1	17-12	(01)	背	炭化物マウンド	網部
		7320	1	17-12	(02)	背	炭化物マウンド	網部
47片(網部2片参考わからず)								
東	88	8554	1	16-17	(11)	裏土④層	2号窓六住層	網部
		550	1	17-17	(21)	裏土④層	2号窓六住層	網部
		13096	1	17-17	(01)	窓面	2号窓六住層	網部
		146	1	17-17	(12)	(不明)	2号窓六住層	網部
		534	1	17-17	(01)	床	2号窓六住層	網部
		552	1	17-17	(11)	床	2号窓六住層	網部
		667	1	08-13	(10)	裏土④層	3号窓六住層	網部
		9924	1	16-17	(20)	地土	地土43	口縫部
		443	1	16-17	(02)	上	地土43	口縫部
		8334	1	16-17	(21)	地土	地土43	口縫部
		397	1	16-17	(20)	(不明)	地土43	口縫部
		396	1	16-17	(21)	(不明)	地土43	口縫部
		439	1	16-16	(33)	上	地土43	口縫部
		129	2	16-17	(21)	(不明)	地土43	口縫部
		396	1	16-16	(33)	(不明)	地土43	網部
		286	1	16-17	(10)	(不明)	地土43	網部
		417	1	16-16	(12)	上	地土43	網部
		10115	1	16-17	(21)	背	地土43	網部
		8330	1	16-17	(31)	地土	地土43	網部
		481	1	16-17	(12)	上	地土43	網部
		453	1	16-17	(12)	上	地土43	網部
		372	1	16-16	(33)	(不明)	地土43	網部
		8325	1	16-17	(21)	地土	地土43	網部
		8336	1	16-17	(21)	地土	地土43	網部
		11190	1	16-17	(21)	地土	地土43	網部
		9486	1	16-17	(21)	地土	地土43	網部
		16622	1	16-17	(7-不明)	地土	地土43	網部
		138	1	16-17	(20)	(不明)	地土43	網部
		132	1	16-17	(20)	(不明)	地土43	網部
		9706	1	16-16	(23)	地土	地土43	網部
		10228	1	16-17	(31)	地土	地土43	網部
		1602	1	17-17	(01)	背	地土43網面	網部
		1694	1	17-16	(13)	背	地土43網面	網部
		379	1	16-17	(21)	(不明)	地土43網面	網部
		9895	1	16-16	(01)	背	地土43網面	網部
		131	1	16-17	(21)	(不明)	地土43網面	網部
		553	1	17-17	(11)	(不明)	地土43網面	網部
		408	1	16-16	(03)	上	地土43網面	網部
		366	1	16-16	(33)	(不明)	地土43網面	網部
		11198	1	16-17	(02)	背	地土43網面	網部
		1754	6	17-16	(05)	カタラン	地土43網面	網部
		11290	1	17-16	(13)	背	地土43網面	網部
		10682	1	18-11	(00)	マウンド	炭化物マウンド	網部
		4030	1	19-09	(13)	V	炭化物30網面	口縫部
		9623	4	20-15	(03)	x'	炭化物22	口縫部
		11775	1	18-15	(03)	背	通構外	網部
		7789	1	14-17	(20)	背	通構外	網部
		10153	1	18-14	(12)	背	通構外	網部
		45	1	15-16	(03)	(不明)	通構外	網部
		12875	1	18-15	(03)	背	通構外	網部

網部(口縫部2片、網部2片参考わからず)

供試番号	漁獲番号	漁獲日数	大グリット	小グリット	性別・底土位置	開道進捗など	部位	関連PL.番号
■	68 566	4 15-17	(28)		■■土④層	2号垂穴住居	口縫部	PL.㉒-43-1
	1776	1 15-17	(18)		床	2号垂穴住居	口縫部	PL.㉒-78
	12072	1 15-16	(28)		床	2号垂穴住居	口縫部	
	1799	1 15-17	(11)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	564	1 15-17	(28)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	6539	1 15-18	(10)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	8546	10 15-18	(21)		■■土④層	2号垂穴住居	網部4, 網部6	
	541	1 15-17	(26)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	8889	2 15-18	(08)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	7246	1 15-15	(22)			炭化物	口縫部	
	8144	1 15-12	(21)			炭化物マウンド	網部	
	230	2 15-17	(20)		(不明)	地土41	網部	
	11155	4 15-17	(28)		地土	地土41	網部	
	228	1 15-16	(28)		(不明)	地土41	網部	
	8234	1 15-17	(26)		■■	地土41周辺	網部	
	12211	1 15-17	(21)		■■	地土41周辺	網部	
	456	2 15-17	(12)		■■上	地土42	口縫部	
	9469	2 15-17	(21)		地土	地土43	口縫部1, 網部1	
	9487	1 15-17	(21)		地土	地土43	口縫部	
	377	1 15-17	(21)		(不明)	地土43	口縫部	
	133	7 15-17	(21)		(不明)	地土43	口縫部	
	303	2 15-17	(01)		(不明)	地土43	網部	
	9709	1 15-16	(18)		地土上	地土43	網部	
	323	1 15-17	(21)		(不明)	地土43	網部	
	281	1 15-17	(20)		(不明)	地土43	網部	
	272	1 15-16	(29)		(不明)	地土43	口縫部	
	361	1 15-17	(28)		(不明)	地土43	口縫部	
	8456	1 15-17	(11)		地土	地土43	口縫部	
	331	1 15-17	(02)		(不明)	地土43	口縫部	
	337	2 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	457	1 15-17	(10)		■■上	地土43	網部	
	345	1 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	129	1 15-17	(23)		(不明)	地土43	網部	
	517	3 15-17	(23)		■■上	地土43	網部	
	8457	1 15-17	(11)		地土	地土43	網部	
	295	1 15-17	(00)		(不明)	地土43	網部	
	9490	2 15-17	(21)		地土	地土43	網部	
	336	1 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	9705	1 15-17	(21)		地土	地土43	網部	
	11200	1 15-17	(03)		地土	地土43	網部	
	10735	1 15-17	(33)		地土	地土43	網部	
	8018	3 15-18	(10)		■■	遺構外	口縫部	
	9455	1 15-16	(22)		■■	遺構外	口縫部	
	8482	2 15-18	(20)		■■	遺構外	口縫部	
	ノノノ(網縫孔)(参考番号をかく下)							
■	70 571	2 15-16	(01)		■■土④層	2号垂穴住居	口縫部	PL.㉒-34-3
	533	1 15-17	(01)		床	2号垂穴住居	網部	PL.㉒-79
	9053	1 15-18	(00)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	570	3 15-16	(01)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	10112	1 15-17	(01)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	1892	1 15-17	(33)		床	2号垂穴住居	網部	
	536	1 15-17	(26)		■■土④層	2号垂穴住居	網部	
	11186	1 15-17	(23)		地土	地土41	網部	
	341	2 15-17	(12)		(不明)	地土43	口縫部	
	9713	1 15-17	(01)		地土上	地土43	網部	
	377	1 15-17	(02)		(不明)	地土43	網部	
	343	1 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	11153	1 15-17	(02)		地土	地土43	網部	
	9929	1 15-17	(12)		地土	地土43	網部	
	463	1 15-17	(12)		■■上	地土43	網部	
	449	1 15-17	(12)		■■上	地土43	網部	
	444	1 15-17	(02)		■■上	地土43	網部	
	505	1 15-17	(13)		■■上	地土43	網部	
	508	1 15-17	(13)		■■上	地土43	網部	
	340	1 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	516	1 15-17	(23)		■■上	地土43	網部	
	295	1 15-17	(00)		(不明)	地土43	網部	
	345	4 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	339	2 15-17	(12)		(不明)	地土43	網部	
	497	1 15-17	(12)		■■上	地土43	網部	
	11196	1 15-17	(00)		■■	地土43	網部	

個体番号	遺物番号	破片数	大・小リットル	小リットル・層位・出土位置	関連構造など	層位	関連PL・番号
70	12537	1	16-17	(15) N	地土43	網部	
(つづき)	8235	1	19-15	(06) (不明)	炭化物52	網部	
	7232	1	19-15	(06) x <sup>2</sup>	炭化物52	網部	
	5798	1	19-15	(23) N	炭化物52	網部	
	9403	2	17-14	(18) N	遺構外	口縁部	
	12281	1	27-14	(26) N	遺構外	網部	
	16395	1	27-14	(26) N	遺構外	網部	
	5645	1	24-14	(22) N	遺構外	網部	
	12179	1	16-13	(23) N	遺構外	網部	
	11798	1	18-15	(10) N	遺構外	網部	
	197	1	17-14	(15) (不明)	遺構外	網部	
	9383	1	17-13	(08) N	遺構外	網部	
	11508	1	15-12	(02) N	遺構外	網部	
	6948	1	19-12	(03) N	遺構外	網部	
	7723	1	15-15	(21) N	遺構外	網部	
	9405	1	17-14	(15) N	遺構外	網部	
	9404	1	17-14	(15) N	遺構外	網部	
	9414	1	18-14	(12) N	遺構外	網部	
	7729	1	15-15	(20) N	遺構外	網部	
	8637	1	16-18	(20) N	遺構外	網部	
	9721	1	16-18	(20) N	遺構外	網部	
	12252	1	16-18	(10) N	遺構外	網部	
	57片(延べ1番号ナシ)						
71	1602	2	10-13	(04) 床	3号窓内住居	口縁部1, 網部1	PL-II-99-6
	1302	1	10-06	(10) 床	5号窓内住居	網部	PL-II-105
	15667	2	08-08	(08) x <sup>2</sup>	4号土壁	口縁部1, 網部1	
	16399	1	08-08	(13) x <sup>2</sup>	4号土壁	口縁部	
	15642	1	08-09	(09) x <sup>2</sup>	4号土壁	口縁部	
	16074	1	08-09	(13) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	16057	1	08-09	(05) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	15669	1	08-09	(03) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	15428	1	08-08	(08) 炭化物層	4号土壁	網部	
	15663	1	08-08	(05) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	16336	1	08-08	(03) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	16053	1	08-08	(02) x <sup>2</sup>	4号土壁	網部	
	15423	1	08-08	(02) 炭化物層	4号土壁	網部	
	15429	1	08-09	(02) 炭化物層	4号土壁	口縁部	
	13891	4	08-11	(10) 地土	地土・炭化物52	口縁部	
	13897	5	09-11	(06) 地土	地土・炭化物52	口縁部	
	13890	3	08-11	(10) 地土	地土・炭化物52	口縁部	
	14291	1	09-11	(09) V	地土・炭化物52	網部	
	13895	3	09-11	(06) 地土	地土・炭化物52	網部	
	14290	3	09-11	(06) V	地土・炭化物52	網部	
	13894	5	09-11	(06) 地土	地土・炭化物52	網部	
	13896	5	09-11	(06) 地土	地土・炭化物52	網部	
	13898	1	08-11	(83) 地土	地土・炭化物52	網部	
	13899	3	08-11	(10) N	地土・炭化物52	網部	
	14246	1	08-11	(10) V	地土・炭化物52	網部	
	13898	1	08-11	(10) 地土	地土・炭化物52	網部	
	13934	1	08-11	(10) N	地土・炭化物52	網部	
	13935	8	09-11	(06) 地土	地土・炭化物52	口縁部1, 網部1	
	13931	2	08-11	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部1, 網部1	
	13743	8	08-11	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部1, 網部7	
	13098	10	08-11	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部9, 網部1	
	14792	1	08-10	(13) V	地土・炭化物52窓辺	口縁部	
	13733	1	08-10	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部	
	13745	1	08-11	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部	
	14345	1	08-11	(10) V	地土・炭化物52窓辺	網部	
	13730	1	09-10	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部	
	13526	2	09-10	(10) N	地土・炭化物52窓辺	口縁部	
	14297	1	09-11	(20) V	地土・炭化物52窓辺	網部	
	4849	1	11-11	(21) 地土	地土32	網部	
	13871	7	06-10	(15) N	炭化物52窓辺	口縁部	
	3995	1	18-09	(08) N	炭化物マッシュ	網部	
	13026	1	20-16	(12) N	炭化物52窓辺	網部	
	4694	1	11-12	(12) N	遺構外	網部	
	8574	1	13-14	(10) N	遺構外	口縁部	
	16199	1	04-08	(10) V	遺構外	網部	
	16057	1	04-08	(10) N	遺構外	網部	
	7310	1	14-14	(10) N	遺構外	網部	
	1067	1	13-14	(05) N	遺構外	網部	

個体番号	遺物番号	被片数	大タット	小タット	層位・出土位置	遺物連続など	部位	関連PL.番号
71 (つづき)	9141	1	13-13	(20)	Ⅴ	通横外	頭部	
	18151	1	06-05	(02)	Ⅴ	通横外	頭部	
136片(頭部)片番号わからず								
72	9058	2	19-15	(22)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	頭部	PL.22-80
	9059	2	19-15	(22)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	頭部	
	8249	2	19-15	(20)	Ⅴ	炭化物S2	頭部	
	12040	1	19-16	(32)	Ⅴ	炭化物S2周辺	頭部	
	8127	1	21-14	(33)	Ⅴ	通横外	頭部	
	11432	1	21-16	(10)	Ⅴ	通横外	頭部	
	11435	1	21-16	(10)	Ⅴ	通横外	頭部	
	11422	1	21-16	(10)	Ⅴ	通横外	頭部	
	11412	3	21-18	(06)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4320	1	17-20	(02)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4331	2	17-20	(13)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4426	3	16-20	(32)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4415	1	16-20	(21)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4186	1	17-21	(10)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4317	1	17-20	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
21片(頭部)片番号わからず								
73	15445	1	08-09	(12)	炭化物S2	4号土塗	頭部	PL.22-176
	15443	1	08-09	(03)	炭化物S2	4号土塗	頭部	
	15438	1	08-09	(12)	炭化物S2	4号土塗	頭部	
	3551	1	08-12	(20)	Ⅴ	織土S4	頭部	
	2247	1	08-12	(11)	Ⅴ	織土S4	頭部	
	13688	1	07-12	(06)	Ⅴ	通横外	頭部	
	13054	1	10-11	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	13055	1	10-11	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	13056	1	10-11	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	13057	1	10-11	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	4884	1	12-11	(06)	Ⅴ	通横外	頭部	
	1705	1	16-09	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	15453	1	06-09	(26)	Ⅴ	通横外	頭部	
	6503	1	19-09	(03)	Ⅴ	通横外	頭部	
	5453	1	16-06	(21)	Ⅴ	通横外	頭部	
15片(頭部)片番号わからず								
74	1451	1	11-06	(06)	Ⅴ	8号竪穴住居	頭部	PL.22-129-3
	1429	1	10-05	(26)	竪土⑤海	5号竪穴住居	頭部	PL.22-150
	695	1	11-04	(13)	底底	5号竪穴住居	頭部	
	3173	1	09-06	(11)	x <sup>2</sup>	焼土・炭化物S2	頭部	
	3643	1	10-04	(03)	織土	焼土・炭化物S2	頭部	
	1497	2	10-06	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	1498	2	10-06	(01)	Ⅴ	通横外	頭部	
	14001	1	08-09	(20)	Ⅴ	通横外	頭部	
10片								
75	12157	2	17-17	(12)	カマド	2号竪穴住居	口縁部1, 断面	PL.22-81
	12155	1	17-17	(02)	カマド	2号竪穴住居	頭部	
	11324	1	19-15	(13)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	8852	1	19-15	(06)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	7901	1	19-15	(22)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	7641	1	19-15	(21)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	5963	1	19-15	(22)	Ⅴ	炭化物S2	口縁部	
	7246	1	19-15	(22)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	8853	1	18-15	(31)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	11069	1	19-15	(21)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	9525	1	10-15	(02)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	9527	1	10-15	(02)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	口縁部	
	9168	1	19-15	(21)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	頭部	
	9513	1	18-15	(21)	x <sup>2</sup>	炭化物S2	頭部	
	11500	1	18-15	(23)	Ⅴ	炭化物S2周辺	口縁部	
	11871	1	18-15	(21)	Ⅴ	炭化物S2周辺	口縁部	
	11862	1	18-15	(20)	Ⅴ	炭化物S2周辺	口縁部	
	12452	1	19-16	(36)	Ⅴ	炭化物S2周辺	口縁部	
	9658	1	17-17	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	3009	1	18-10	(11)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	3010	1	18-10	(11)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	3011	2	18-10	(12)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	3012	1	18-10	(12)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	16577	1	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	2309	1	18-10	(02)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	3300	1	18-10	(06)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	
	2086	2	18-09	(13)	x <sup>2</sup>	炭化物マウンド	口縁部	

標体番号	植物番号	種類	大粒径	小粒径	留置・出土位置	関連遺物など	部	開拓PL-番号
76	7085	4	18-10	(10)	b'	炭化物マウンド	口縁部	
(つづき)	7104	1	17-12	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	6999	1	17-12	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	8754	1	17-12	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	7561	1	17-12	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	7260	1	17-12	(11)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	2649	1	18-10	(10)	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	11641	1	18-11	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	2062	1	18-10	(10)	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	7087	1	18-12	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	8745	1	17-12	(11)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	11640	1	18-12	(10)	N	炭化物マウンド	口縁部	
	1854	1	18-10	(11)	カクラン	炭化物マウンド	口縁部	
	14727	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	1955	1	17-10	(11)	b'	炭化物マウンド	削部	
	3653	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	削部	
	8625	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	削部	
	8749	1	17-12	(11)	マウンド上	炭化物マウンド	削部	
	1955	4	17-10	(10)	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2064	4	18-10	(11)	b'	炭化物マウンド	削部	
	8362	1	13-17	(10)	N	遺構外	口縁部	
	10381	1	18-14	(10)	N	遺構外	口縁部	
	8564	1	13-17	(10)	N	遺構外	口縁部	
	62片(13枚28片、断面1片番号わからず)							
76	16185	1	08-09	(02)	a'	4号土壙	削部	PL-II-194-8
	15698	1	08-09	(03)	a'	4号土壙	削部	PL-II-177
	15697	1	08-09	(03)	a'	4号土壙	削部	
	15699	1	08-09	(03)	a'	4号土壙	削部	
	14742	1	06-06	(12)	N	粘土	口縁部	
	15380	1	06-06	(21)	粘土	粘土	口縁部	
	14768	1	06-06	(10)	N	粘土	口縁部	
	15534	1	07-06	(10)	N	粘土	削部	
	13435	2	07-06	(03)	N	粘土	削部	
	15801	2	06-06	(10)	粘土	粘土	削部	
	13213	1	07-06	(10)	N	粘土	口縁部	
	12988	1	07-06	(06)	N	粘土	口縁部	
	15891	2	07-06	(10)	V	粘土	口縁部, 削部	
	13049	1	07-06	(10)	N	粘土	削部	
	15649	1	07-06	(10)	N	粘土	削部	
	16159	10	07-08	(03)	V	粘土	削部10, 断面2	
	15598	3	08-08	(10)	N	粘土	口縁部	
	18213	1	08-06	(10)	N	粘土	削部	
	13223	1	08-06	(10)	N	粘土	削部	
	16468	1	06-09	(01)	粘土	炭化物14	削部	
	15883	1	07-09	(10)	V	炭化物15	口縁部	
	15398	1	07-09	(10)	V	炭化物19	口縁部	
	16995	1	04-06	(03)	V	遺構外	削部	
	16243	1	04-06	(20)	V	遺構外	削部	
	14835	1	06-09	(03)	V	遺構外	削部	
	16094	1	04-09	(20)	V	遺構外	削部	
	16101	1	06-05	(03)	V	遺構外	削部	
	15010	1	06-05	(21)	V	遺構外	削部	
	15006	1	06-05	(01)	V	遺構外	削部	
	15002	1	06-05	(20)	V	遺構外	削部	
	8381	1	14-06	(10)	N	遺構外	削部	
	15718	1	05-06	(10)	V	遺構外	削部	
	15592	2	06-08	(20)	N	遺構外	削部	
	15004	1	06-05	(06)	V	遺構外	削部	
	15003	1	05-05	(10)	V	遺構外	削部	
	15454	2	06-06	(20)	V	遺構外	削部	
	15008	2	06-05	(21)	V	遺構外	削部	
	15451	2	06-06	(30)	N	遺構外	削部, 削部	
	15453	1	06-06	(30)	N	遺構外	削部	
	14118	1	06-08	(20)	N	遺構外	削部	
	14395	1	06-06	(20)	N	遺構外	削部	
	16106	1	06-05	(03)	N	遺構外	削部	
	15093	1	06-07	(20)	N	遺構外	削部	
	15039	1	06-05	(10)	V	遺構外	削部	
	14545	2	06-08	(20)	V	遺構外	削部	

67片(網部4片番号わからず)

標本番号	遺物番号	種類	大分類	小分類	層位・出土位置	関連遺構など	部数	関連PL.番号
77	13602	1	08-07	[11]	土壌内	5号室裏	1	PL.㉫-264-1
	13321	1	08-08	[13]	Ⅴ	地表	1	PL.㉫-290
	13333	3	08-08	[13]	Ⅴ	地表	1	
	13031	1	08-08	[31]	Ⅴ	地表27	1	
	13941	3	08-08	[33]	Ⅴ	地表27周辺	1	
	13329	1	08-08	[21]	Ⅴ	地表27周辺	1	
	13334	1	08-08	[23]	Ⅴ	地表27周辺	1	
	13645	1	08-08	[23]	Ⅴ	地表27周辺	1	
	14146	1	08-08	[10]	Ⅴ	地表29	1	
	8226	2	08-08	[32]	Ⅴ	地表-炭化物28	1	
	610	1	10-04	[11]	Ⅴ	遺構外	1	
	14108	8	08-08	[30]	V	遺構外	1	PL.㉫-444
	13811	1	08-09	[30]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-4
	14208	12	08-09	[30]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-1, 部部10
	3754	2	08-07	[33]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-2
	3133	1	08-04	[33]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-3
	13810	1	08-09	[30]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-4
	13811	1	08-09	[20]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-5
	3123	1	10-07	[08]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-6
	14209	1	08-09	[00]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-7
	15903	1	08-09	[00]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-8
	15905	1	08-09	[00]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-9
	14009	1	08-09	[31]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-10
	13652	1	08-09	[00]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-11
	13616	1	08-08	[30]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-12
	13608	1	08-08	[20]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-13
	14010	1	08-09	[31]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-14
	14098	2	08-09	[20]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-15
	13610	2	08-09	[20]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-16
	13614	3	08-09	[30]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-17
	13393	1	08-07	[13]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-18
	13814	1	08-09	[31]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-19
	3745	1	08-07	[02]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-20
	5841	2	08-07	[10]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-21
	16210	6	08-08	[03]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-22
	13948	1	08-08	[03]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-23
	13650	1	08-08	[03]	Ⅴ	遺構外	1	PL.㉫-24
	瓦片(焼成片 塗装わらび)							
78	1607	1	09-12	(08)	罐	3号室六住居	1	PL.㉫-99-5
	1612	1	09-13	(00)	カマド	3号室六住居	1	PL.㉫-108
	1613	1	09-13	(00)	カマド	3号室六住居	1	
	1625	4	09-13	(00)	カマド	3号室六住居	1	
	1427	1	09-12	(03)	カマド	3号室六住居	1	
	瓦片							
79	13845	1	08-08	(20)	瓦	地表	1	PL.㉫-108
	13841	1	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-109
	13837	3	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-110, 部部1
	13830	4	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-111, 部部1
	13831	6	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-112, 部部1
	13925	1	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-113
	13926	1	08-08	(01)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-114
	13928	1	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-115
	13839	2	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-116
	13927	1	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-117
	13864	3	08-08	(00)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-118
	13838	3	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-119
	13381	1	08-08	(02)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-120
	13974	1	08-07	(21)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-121
	13840	1	08-08	(20)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-122
	13300	1	08-08	(11)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-123
	13909	1	08-08	(10)	瓦	地表27周辺	1	PL.㉫-124
	4467	2	16-22	(21)	瓦	遺構外	1	PL.㉫-125
	33片							
80	1549	8	10-05	(00)	瓦土①層	5号室六住居	1	PL.㉫-137-6
	2218	1	10-05	(00)	瓦土①層	5号室六住居	1	
	2231	1	10-04	(02)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	
	2281	2	09-05	(11)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	
	2183	1	09-05	(11)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	
	2183	1	09-05	(21)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	
	2203	1	09-05	(22)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	
	2204	1	09-05	(00)	瓦	1号土塙周辺の土・瓦瓦飾	1	

個体番号	遺物番号	種類	大分類	小分類	層位	出土位置	関連通稿など	部位	関連PL・番号
■	80 2161	3	10-04	(13)	瓦		1号土器周辺の鐵土・瓦瓦飾 剥離		
〔つづき〕	3060	2	06-07	(20)	灰		5号土器周辺	剥離	
	1135	1	10-05	(81)	瓦		遺物外	剥離	
	3048	1	10-05	(03)	V		遺物外	剥離	
					22片				
■	81 1140	1	10-13	(00)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部	PL-II-100-3
	✓ 665	1	09-13	(16)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部	PL-II-107
	✓ 1138	1	09-13	(23)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部	
	✓ 1137	1	09-13	(22)	鐵土③層		3号窓六住居	剥離	
	✓ 646	1	09-13	(18)	鐵土③層		3号窓六住居	剥離	
	✓ 1139	1	09-13	(23)	鐵土③層		3号窓六住居	剥離	
	✓ 684	1	09-13	(18)	鐵土③層		3号窓六住居	剥離	
	✓ 688	1	09-13	(11)	鐵土③層		3号窓六住居	剥離	
	✓ 598	14	08-03	(20)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部、側縫部	
	✓ 1138	1	08-13	(00)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部	
	✓ 600	1	08-14	(20)	瓦		遺物外	剥離	
					24片				
■	82 1135	1	08-13	(20)	鐵土③層		3号窓六住居	口縫部	PL-II-100-5
	15127	1	05-11	(20)	瓦		遺物外	口縫部	PL-II-108
					2片				
■	83 29	1	08-13	(21)	(不明)	地表	4号窓六住居	剥離	PL-II-109
	591	1	08-13	(21)	(不明)	地表	4号窓六住居	剥離	
	2668	1	08-13	(21)	V	地表	4号窓六住居	剥離	
	2227	1	08-13	(21)	V	地表	4号窓六住居	剥離	
	2638	2	08-13	(21)	V	地表	4号窓六住居	剥離	
					8片				
■	84 12697	3	31-16	(33)	瓦		遺物外	口縫部	PL-II-263-3
					3片				
■	85. 11182	1	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	PL-II-40-4
	12497	1	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	PL-II-42
	12284	1	17-17	(01)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	12283	2	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12496 ..	1	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	1803	1	17-17	(21)	床		2号窓六住居	剥離	
	1833	1	17-17	(20)	床		2号窓六住居	剥離	
	✓ 0531	1	17-18	(00)	床		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12297	5	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12295	1	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	✓ 8525	1	17-18	(00)	床底		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12240	4	17-17	(22)	カマド		2号窓六住居	剥離	
	✓ 1819	1	17-17	(22)	床底		2号窓六住居	剥離	
	✓ 11143	1	17-17	(21)	床底		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12236	2	17-17	(12)	カマド		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12266	1	17-17	(01)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12560	1	16-17	(31)	鐵道		2号窓六住居	剥離	
	1828	1	17-16	(33)	床		2号窓六住居	剥離	
	✓ 12516	1	16-17	(22)	鐵土		鐵土43周辺	口縫部	
	✓ 488	1	16-17	(22)	瓦上		鐵土43周辺	口縫部	
	456	1	16-17	(12)	瓦上		鐵土43周辺	口縫部	
	✓ 472	1	16-17	(22)	瓦上		鐵土43周辺	剥離	
	498	1	16-17	(12)	瓦上		鐵土43周辺	剥離	
	485	4	16-17	(22)	瓦上		鐵土43周辺	剥離	
	486	1	16-17	(03)	瓦上		鐵土43周辺	剥離	
	483	1	16-17	(22)	瓦上		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 11693	1	16-17	(12)	鐵土		鐵土43周辺	剥離	
	12280	1	16-16	(22)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	9942	1	16-17	(21)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	12568 ..	1	16-17	(22)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 9717	2	16-17	(22)	瓦		鐵土43周辺	口縫部、剥離	
	368	1	16-17	(22)	(不明)		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 12547	1	16-17	(22)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 12289 ..	1	16-16	(不明)	(不明)		鐵土43周辺	口縫部	
	12528 ..	1	16-16	(22)	瓦		鐵土43周辺	口縫部	
	6779	1	19-11	(26)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 12450	1	21-15	(21)	瓦		鐵土43周辺	剥離	
	✓ 7873	1	19-15	(00)	瓦		炭化物63	口縫部	
	7623	1	19-15	(11)	瓦		炭化物62	口縫部	
	✓ 11344	1	19-15	(22)	瓦		炭化物62	口縫部	
	✓ 9025	1	19-15	(12)	瓦		炭化物62	口縫部	
	✓ 8997	1	19-15	(13)	瓦		炭化物62	口縫部	
	7251	1	19-15	(20)	瓦		炭化物62	剥離	

試料番号	遺物番号	枚数	大きさ	小クリット	部位	出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
■	85	9069	1	19-15	(25)	x'	炭化物S3	口縁部	
(つづき)		12118	3	19-15	(25)	百	炭化物S3	縁部	
✓	7931	1	19-15	(25)	x'	炭化物S3	縁部		
✓	7927	1	19-15	(11)	x'	炭化物S3	縁部		
✓	5786	2	19-15	(32)	百	炭化物S3	縁部		
✓	7925	1	19-15	(25)	x'	炭化物S3	縁部		
✓	9076	1	19-15	(25)	x'	炭化物S3	縁部		
✓	7586	1	20-16	(10)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	111449	2	20-16	(10)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	12566	1	20-16	(00)	百	炭化物S3周辺	縁部		
	6040	1	20-16	(11)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	5490	3	20-16	(10)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	8019	4	20-16	(10)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	6020	2	20-16	(10)	百	炭化物S3周辺	縁部		
✓	8788	1	17-12	(30)	マウンド上層	炭化物マウンド	口縁部		
✓	172	1	17-11	(03)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
✓	7028	1	17-12	(30)	百	炭化物マウンド	口縁部		
	3309	4	17-11	(03)	マウンド内	炭化物マウンド	縁部		
	7804	1	17-11	(13)	百	炭化物マウンド	縁部		
✓	9680	3	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	縁部		
✓	8709	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	縁部		
✓	3341	2	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	縁部		
✓	7085	1	18-09	(03)	百	炭化物マウンド	縁部		
✓	10239	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
✓	16627	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	縁部		
✓	8888	2	17-11	(22)	マウンド上層	炭化物マウンド	縁部		
✓	9960	2	16-13	(03)	百	遺構外	口縁部		
✓	9389	2	17-13	(31)	百	遺構外	口縁部		
✓	9384	1	17-13	(13)	百	遺構外	口縁部		
✓	6955	2	18-12	(32)	百	遺構外	口縁部		
✓	8886	1	17-13	(21)	百	遺構外	口縁部		
✓	9967	1	16-13	(22)	百	遺構外	口縁部		
✓	5867	42	17-19	(11)	百	遺構外	口縁部		
✓	10737	1	16-13	(00)	百	遺構外	口縁部		
	14433	3	18-10	(11)	V	遺構外	縁部		
✓	97	1	16-18	(30)	(不明)	遺構外	縁部		
✓	12204	1	16-18	(11)	百	遺構外	縁部		
✓	9413	1	17-14	(00)	百	遺構外	口縁部		
✓	9945	1	16-14	(03)	百	遺構外	口縁部		
	158	1	16-13	(31)	(不明)	遺構外	口縁部		
180片									
■	86	11457	1	21-16	(10)	百	遺構外	口縁部	
		5938	1	22-16	(01)	百	遺構外	口縁部	
		10990	1	22-18	(00)	カクラン	遺構外	口縁部	
		11480	1	21-18	(10)	百	遺構外	口縁部	
		11409	1	21-16	(00)	百	遺構外	縁部	
		8921	4	20-13	(31)	V	遺構外	縁部	
		11419	1	21-16	(10)	百	遺構外	縁部	
		11427	1	21-16	(10)	百	遺構外	縁部	
		11417	1	21-16	(10)	百	遺構外	縁部	
		11414	1	21-16	(01)	百	遺構外	縁部	
		11442	1	21-16	(11)	百	遺構外	縁部	
		11426	1	21-16	(16)	百	遺構外	縁部	
		9476	1	20-16	(01)	百	遺構外	縁部	
		5895	1	20-15	(33)	百	遺構外	縁部	
		7881	5	21-16	(02)	百	遺構外	縁部2, 縁部3	
22片(口縁部1片, 縁部1片, 巻物1片, 縁部2片, 番号わからず)									
■	87	1082	1	17-17	(22)	巻土・空場	2号施設6階	底部	PL.3-6-3
		11809	1	15-17	(32)	土壇内	3号土壇	縁部	PL.2-6-3
		338	1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	縁部	
		259	1	16-16	(32)	(不明)	焼土43	縁部	
		7625	1	19-15	(11)	x'	炭化物S3	縁部	
		2002	2	18-10	(01)	百	炭化物マウンド	縁部	
		3423	1	17-10	(20)	百	炭化物マウンド	縁部	
		1867	2	18-10	(12)	カクラン	炭化物マウンド	縁部	
		1889	1	18-10	(00)	百	炭化物マウンド	縁部	
		1999	1	18-10	(11)	百	炭化物マウンド	縁部	
		1869	1	18-10	(01)	カクラン	炭化物マウンド	縁部	
		1872	1	18-10	(01)	カクラン	炭化物マウンド	縁部	
		1870	1	18-10	(01)	カクラン	炭化物マウンド	底部	
		1853	1	18-10	(01)	カクラン	炭化物マウンド	底部	

微体番号	遺物番号	破片数	大アット	小アット	巻数	出土家	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	87 2269	1	17-18	[30]	b'		炭化物マウンド	頭部	
{つづき}	2263	1	17-18	[30]	b'		炭化物マウンド	頭部	
	8734	1	17-18	[30]		マウンド上	炭化物マウンド	頭部	
	2270	1	17-18	[30]	b'		炭化物マウンド	頭部	
		20片							
■	88 11802	1	18-19	[30]	N		炭化物G2	口縁部	PL-II-267-4
	8815	1	18-19	[30]	a'		炭化物G2	口縁部	
	11813	1	18-19	[30]	N		炭化物G2	口縁部	
	9512	1	18-19	[30]	a'		炭化物G2	頭部	
	8438	2	19-24	[10]	カテラン		炭化物G2周辺	口縁部	
	11490	5	18-19	[10]	N		炭化物G2周辺	口縁部、胸部1	
	11795	1	18-19	[10]	N		炭化物G2周辺	頭部	
	11796	1	18-19	[10]	N		炭化物G2周辺	頭部	
		11片(頭部片番号をわからず)							
■	89 14250	1	06-08	[20]	V	地土13		頭部	PL-II-175
	14393	1	06-08	[20]	V	地土13		頭部	
	15393	1	07-08	[03]	灰土	地土18		口縁部	
	15407	1	07-08	[10]	V	地土18周辺		頭部	
	13035	2	07-08	[11]	N	地土18周辺		頭部	
		6片							
■	90 2255	1	18-19	[08]	b'		炭化物マウンド	頭部	PL-II-205-1
	1123	3	21-22	[03]	N		通柵外	頭部1、底部2	PL-II-243
		4片							
■	91 11443	1	21-26	[20]	N		通柵外	口縁部	
	12669	1	21-25	[20]	N		通柵外	口縁部	
	12669	1	21-27	[18]	N		通柵外	口縁部	
	11890	1	21-27	[21]	N		通柵外	頭部	
	11891	1	21-27	[21]	N		通柵外	頭部	
	11276	1	21-26	[30]	N		通柵外	頭部	
	11277	1	21-26	[30]	N		通柵外	頭部	
		7片							
■	92 1751	1	18-16	[05]	底底		2号窓穴住居	頭部	PL-II-43-3
	11855	1	18-16	[04]	底底		2号窓穴住居	頭部	PL-II-44
	1758	1	18-16	[13]	底底		2号窓穴住居	底部	
	7897	1	19-15	[23]	a'		炭化物G2	頭部	
	5727	2	19-15	[11]	II		炭化物G2	頭部	
	7884	1	19-15	[13]	a'		炭化物G2	頭部	
	8895	1	19-15	[11]	a'		炭化物G2	頭部	
	7877	1	19-15	[01]	a'		炭化物G2	頭部	
	5726	1	19-15	[11]	■		炭化物G2	頭部	
	222	1	18-15	[32]	(不明)		炭化物G2	底部	
	5793	1	19-15	[22]	■		炭化物G2	頭部	
	18777	1	19-15	[不明]	(不明)		炭化物G2	頭部	
		13片							
■	93 393	1	17-17	[12]	カマド周辺		2号窓穴住居	頭部	PL-II-33-3
	8814	1	15-17	[21]	■		地土41周辺	頭部	PL-II-34
	8224	1	15-17	[21]	■		地土41周辺	頭部	
	8229	1	15-17	[20]	■		地土41周辺	頭部	
	9754	1	15-17	[33]	N		地土41周辺	頭部	
	8460	1	16-17	[13]	底底		底底	頭部	
	4222	1	15-17	[30]	■		地土43周辺	頭部	
	11170	2	15-17	[23]	N		地土43周辺	頭部	
	8308	1	15-17	[22]	■		地土43周辺	頭部	
	8207	1	15-17	[22]	■		地土43周辺	頭部	
	5854	1	15-17	[21]	■		地土43周辺	頭部	
	5853	1	15-17	[21]	■		地土43周辺	頭部	
	11187	1	15-17	[02]	N		地土43周辺	頭部	
	11171	1	15-17	[22]	N		地土43周辺	頭部	
	11148	1	15-17	[21]	N		地土43周辺	頭部	
	11147	1	15-17	[19]	N		地土43周辺	頭部	
	4603	1	15-17	[13]	N		地土43周辺	頭部	
	11166	1	15-17	[13]	N		地土43周辺	頭部	
	5857	2	15-17	[13]	N		地土43周辺	頭部	
	8837	1	15-16	[30]	■		地土43周辺	頭部	
	14321	1	04-08	[30]	■		炭化物G4	底部	
	11513	2	18-15	[31]	N		炭化物G2	頭部	
	119971	1	18-15	[30]	a'		炭化物G2	頭部	
	8881	1	18-18	[31]	a'		炭化物G2	頭部	
	8887	1	18-15	[02]	a'		炭化物G2	頭部	
	7611	1	19-15	[02]	a'		炭化物G2	頭部	
	8856	1	19-15	[01]	a'		炭化物G2	頭部	

個体番号	遺物番号	種片数	大アリット	小アリット	部位・出土位置	関連標名など	形状	関連PL.番号
98 (つづき)	9429	1	19-15	(32)	x'	炭化物652	頭部	
	9058	1	19-15	(32)	x'	炭化物652	頭部	
	9767	1	19-15	(32)	V	炭化物652	頭部	
	7452	2	19-15	(32)	x'	炭化物652	頭部	
	4449	1	15-18	(10)	V	遺構外	頭部	
	5303	1	16-18	(不明)	舌形	遺構外	頭部	
	4448	1	15-18	(20)	V	遺構外	頭部	
	4447	1	15-18	(20)	V	遺構外	頭部	
	4146	1	15-18	(31)	V	遺構外	頭部	
	8022	1	16-18	(11)	V	遺構外	頭部	
	4133	1	15-18	(30)	V	遺構外	頭部	
	42片(頭部片番号わからず)							
94	9167	3	19-15	(21)	x'	炭化物652	頭部	
	9169	4	19-15	(30)	x'	炭化物652	頭部3, 頭部1	
	5片							
95	381	1	16-17	(30)	(不明)	地土43	頭部	PL-II-85
	8315	1	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	3816	6	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	383	2	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	8317	3	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	9935	3	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	9720	3	16-17	(31)	地土	地土43	頭部	
	9484	3	16-17	(31)	地土	地土43	頭部	
	9483	4	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	8314	1	16-17	(30)	地土	地土43	頭部	
	24片(頭部片番号わからず)							
96	4178	2	21-18	(31)	V	遺構外	口縫部	PL-II-245
	4242	4	21-18	(20)	V	遺構外	口縫部1, 頭部2	
	878	1	21-19	(20)	V	遺構外	口縫部	
	862	7	21-19	(20)	V	遺構外	口縫部4, 頭部3	
	866	1	21-19	(31)	V	遺構外	口縫部	
	4245	1	22-18	(14)	V	遺構外	頭部	
	854	1	21-19	(30)	V	遺構外	頭部	
	858	1	21-19	(30)	V	遺構外	頭部	
	861	1	21-19	(30)	V	遺構外	頭部	
	864	1	21-19	(30)	V	遺構外	頭部	
	857	3	22-19	(20)	V	遺構外	頭部	
	871	1	21-19	(20)	V	遺構外	頭部	
	24片(頭部片番号わからず)							
97	87	2	22-21	(31)	(不明)	遺構外	口縫部	
	90	15	22-23	(31)	(不明)	遺構外	口縫部2, 頭部13	
	91	2	22-18	(31)	(不明)	遺構外	頭部	
	912	7	22-21	(21)	V	遺構外	口縫部4, 頭部3	
	913	10	22-21	(21)	V	遺構外	口縫部8, 頭部2	
	916	3	22-21	(31)	V	遺構外	頭部	
	918	1	22-21	(32)	V	遺構外	頭部	
	774	1	22-21	(32)	V	遺構外	頭部	
	775	2	22-21	(32)	V	遺構外	頭部	
	43片							
98	15664	2	06-09	(63)	x*	4号土被	口縫部	PL-II-194-7
	15636	4	06-09	(63)	x*	4号土被	口縫部1, 頭部2	PL-II-178
	13891	1	06-11	(20)	地土	地土・炭化物	頭部	
	13902	3	06-11	(63)	地土	地土・炭化物22	頭部	
	13893	1	06-11	(60)	地土	地土・炭化物22	頭部	
	13068	4	06-11	(60)	V	地土・炭化物22	口縫部1, 頭部2	
	14283	1	09-10	(63)	V	地土・炭化物22周辺	口縫部	
	14枚(13枚頭部片番号わからず)							
99	9243	1	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-208-3
	9312	1	17-11	(60)	マウンド	炭化物マウンド	口縫部	PL-II-245
	2876	10	18-10	(62)	b'	炭化物マウンド	口縫部6, 頭部4	
	12片							
100	3854	4	10-08	(61)	V	遺構外	口縫部2, 頭部2	PL-II-179
	3857	5	10-08	(61)	V	遺構外	口縫部	
	3860	5	10-08	(31)	V	遺構外	口縫部3, 頭部2	
	14片							
102	6444	1	18-10	(31)	V	炭化物マウンド	頭部	PL-II-247
	6610	4	18-10	(31)	V	炭化物マウンド	頭部	
	6384	1	18-10	(32)	V	炭化物マウンド	頭部	
	8266	3	18-11	(20)	V	炭化物マウンド周辺	頭部	
	6539	6	19-10	(11)	V	地土49周辺	頭部	
	6540	3	19-10	(11)	V	地土49周辺	頭部2, 頭部1	

標本番号	通巻番号	断片数	大形・小形	断片	断片・出土層	開通面積など	部数	開通PL.番号	
東	102	5413	1	20-10	(20)	N	粘土49周辺		
(つづき)		5449	2	19-10	(18)	N	粘土49周辺	断部1, 断部2	
		5456	1	19-10	(18)	N	粘土49周辺	底部	
		6611	1	19-10	(18)	N	炭化物・粘土50	断部	
		6668	1	19-11	(20)	N	炭化物・粘土50	断部	
		6477	8	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6485	1	11-10	(22)	N	通縫外	断部	
		6487	1	11-10	(20)	N	通縫外	断部	
		6483	1	11-10	(20)	N	通縫外	断部	
		6481	3	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6479	1	11-10	(18)	N	通縫外	断部	
		6480	2	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6488	1	11-10	(18)	N	通縫外	断部	
		6461	1	11-10	(20)	N	通縫外	断部	
		6471	1	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6462	1	11-10	(20)	N	通縫外	断部	
		6487	1	11-10	(22)	N	通縫外	断部	
		6475	3	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6486	1	11-10	(22)	N	通縫外	断部	
		6476	1	11-10	(18)	N	通縫外	断部	
		6489	2	11-10	(22)	N	通縫外	断部	
		6483	2	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6465	1	11-10	(20)	N	通縫外	断部	
		6473	1	11-10	(18)	N	通縫外	断部	
		6478	4	11-10	(21)	N	通縫外	断部	
		6474	3	11-10	(21)	N	通縫外	底部	
		13644	8	31-17	(16)	H	通縫外	口縫部	
		6436	1	18-09	(22)	N	通縫外	断部	
		6508	1	20-09	(20)	N	通縫外	断部	
		5553	1	20-10	(16)	N	通縫外	断部	
		6449	1	18-09	(18)	N	通縫外	断部	
		6441	1	18-09	(18)	N	通縫外	断部	
		5509	1	20-09	(01)	N	通縫外	断部	
		5558	1	18-09	(18)	N	通縫外	断部	
							7片		
東	103	1448	1	10-05	(31)	K	5号窓穴注跡	断部	PL-II-130-4
		1302	3	10-05	(12)	KH	5号窓穴注跡	断部2, 断部1	PL-II-151
		1391	1	10-05	(12)	K	5号窓穴注跡	底部	
		1466	1	12-06	(20)	N	通縫外	断部	
							6片		
東	104	2552	2	08-13	(11)	V	硬土34	断部1, 断部1	PL-II-110
							2片		
東	105	12296	2	16-17	(21)	経通	2号窓穴注跡	断部	PL-II-67
		11708	1	15-17	(22)	土壌内	3号土壌	断部	
		11197	1	16-17	(08)	硬土	硬土43	断部	
		10502	1	16-16	(18)	硬土	硬土43	断部	
		13682	2	16-17	(18)	N	硬土43周辺	断部1, 断部1	
		13996	1	16-16	(18)	N	硬土43周辺	断部	
		173	1	17-11	(12)	(不明)	炭化物マウンド	断部	
		9531	1	17-11	(02)	マウンド上	炭化物マウンド	断部	
		18550	1	17-12	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	断部	
		9825	1	17-11	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	断部	
		7798	1	17-12	(16)	N	炭化物マウンド	断部	
		9630	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	断部	
		9870	1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	断部	
		9655	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	断部	
		9695	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	断部	
		2421	1	17-10	(30)	H	炭化物マウンド	底部	
		16504	3	07-09	(33)	(不明)	通縫外	断部	
		15975	1	06-05	(33)	V	通縫外	断部	
							20片		
東	106	5731	16	15-15	(01)	H	炭化物S2	断部12, 断部4	
							16片		
東	108	1823	3	06-13	(20)	縦通	3号窓穴注跡	断部2, 断部1	PL-II-99-3
		1424	4	09-13	(03)	縦通	3号窓穴注跡	断部	PL-II-111
							7片		
東	109	3271	1	22-16	(12)	K	炭化物・硬土20	底部	
		7369	2	22-16	(03)	K	炭化物・硬土20	断部1, 断部1	
							3片		
東	110	5497	1	25-17	(不明)	表土	炭化物・硬土20	表部	
		5498	1	25-17	(不明)	表土	炭化物・硬土20	断部	

個体番号	遺物番号	断片数	大アリット	小アリット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	110	5010	2	26-16	(23)	V	炭化物・鍼土70	頭部
(ツバキ)			4片					
■	111	13374	1	07-08	(02)	V	炭化物19	頭部
	14894	2	07-08	(02)	地土	炭化物19	頭部1, 頭部2	
	16471	1	10-17	(23)	V	遺構外	頭部	
	16474	1	10-17	(32)	V	遺構外	頭部	
		5片(頭部片番号わからず)						
■	112	7918	1	10-15	(23)	x <sup>2</sup>	炭化物53	頭部
	8886	3	10-15	(01)	x <sup>2</sup>	炭化物53	頭部2, 頭部1	
	9073	1	10-15	(23)	x <sup>2</sup>	炭化物53	頭部	
	909	1	10-20	(10)	V	遺構外	底部	
	899	1	10-20	(10)	V	遺構外	底部	
	1168	2	10-20	(10)	V	遺構外	頭部	
		9片						
■	113	9220	1	17-12	(00)	マウンド上	炭化物マウンド	頭部 PL.2-349
	✓3523	4	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	頭部	
	✓3530	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	頭部	
	✓189	1	17-12	(11)	[不明]	炭化物マウンド	頭部	
	✓3547	3	17-12	(10)	V	炭化物マウンド	頭部1, 頭部2	
	✓9426	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	底部	
	✓3543	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	頭部	
		12片						
■	114	156	6	10-14	(32)	(不明)	遺構外	頭部3, 底部3
	8431	1	10-14	(23)	V	遺構外	底部	
		7片						
■	115	7415	1	10-15	(12)	x <sup>2</sup>	炭化物52	底部
	11060	3	10-15	(06)	V	炭化物63周辺	頭部1, 頭部2	
	9816	1	17-13	(08)	V	炭化物マウンド湖辺	頭部	
	10170	1	17-13	(06)	V	炭化物マウンド湖辺	頭部	
	11595	3	13-16	(01)	V	遺構外	頭部	
	1281	1	13-15	(33)	V	遺構外	底部	
	1237	1	12-07	(32)	V	遺構外	底部	
		11片						
■	116	1737	1	17-16	(33)	覆土⑤層	2号窓穴住居	底部 PL.2-40-5
	11194	1	15-17	(31)	V	鍼土43	頭部	PL.2-49
	11286	1	17-16	(12)	V	鍼土43周辺	頭部	
	11063	1	10-15	(31)	x <sup>2</sup>	炭化物52	頭部	
	9046	1	10-15	(12)	x <sup>2</sup>	炭化物52	頭部	
	28	1	10-15	(32)	(不明)	炭化物52	頭部	
	218	1	10-15	(30)	(不明)	炭化物52周辺	頭部	
	11630	1	10-13	(36)	V	遺構外	頭部	
		8片						
■	117	14096	1	09-09	(16)	V	炭化物・鍼土20-31	口縁部
	14727	1	09-09	(03)	V	炭化物・鍼土20-31	口縁部	
	14728	1	09-09	(12)	V	炭化物・鍼土20-31	口縁部	
	14295	1	09-10	(16)	V	炭化物・鍼土20-31	口縁部	
	14050	1	09-10	(00)	V	炭化物・鍼土20-31	口縁部	
	14725	1	09-10	(26)	V	炭化物・鍼土20-31周辺口縁部	頭部	
	4022	1	09-09	(22)	V	炭化物・鍼土20-31周辺口縁部	頭部	
	4066	1	09-09	(23)	V	炭化物・鍼土20-31周辺口縁部	頭部	
	14088	1	09-09	(11)	V	炭化物・鍼土20-31周辺口縁部	頭部	
		9片						
■	118	1889	1	10-16	(23)	床底	2号窓穴住居	口縁部 PL.2-43-2
	16634	2	17-17	[不明]	カマド	2号窓穴住居	口縁部	PL.2-49
	16702	1	17-17	[不明]	カマド	2号窓穴住居	口縁部	
	12141	1	17-17	[不明]	カマド	2号窓穴住居	頭部	
	935	1	17-17	(16)	床底	2号窓穴住居	頭部	
	12239	1	17-17	(12)	カマド	2号窓穴住居	頭部	
	1802	1	17-17	(11)	床底	2号窓穴住居	頭部	
	9193	1	17-18	(00)	床底	2号窓穴住居	頭部	
	9194	1	17-18	(00)	床底	2号窓穴住居	底部	
	16517	1	10-18	[不明]	床底	2号窓穴住居	口縁部	
	5568	1	15-17	(00)	V	鍼土41	頭部	
	8096	1	15-17	(00)	V	鍼土41	頭部	
	11812	1	15-17	(00)	(不明)	鍼土41	頭部	
	11188	3	16-17	(02)	V	鍼土43	頭部	
	11159	1	15-17	(00)	V	鍼土43	頭部	
	12088	1	16-16	(21)	V	鍼土43周辺	口縁部	
	11569	2	16-16	(20)	V	鍼土43周辺	頭部	
	9750	1	15-17	(01)	V	鍼土43周辺	頭部	
	223	3	15-16	(00)	(不明)	鍼土43周辺	頭部	



個体番号	遺物番号	遺物名	大分類	小分類	属性・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
123	846	1 19-18	(33)	百	遺構外	底部		
		1片						
122	13997	1 08-09	(10)	百	4号土壙附近	底部		
	13999	1 08-09	(20)	百	4号土壙附近	底部		
		2片						
125	5681	1 35-37	(32)	百	遺構外	底部		
		1片						
124	7791	1 14-15	(11)	百	遺構外	底部		
		1片						
125	9982	1 16-13	(21)	百	遺構外	底部		
		1片						
126	886	2 25-19	(23)	百	遺構外	底部		
	4176	1 22-18	(21)	百	遺構外	底部		
		3片						
127	4193	1 17-03	(36)	百	遺構外	底部		
	4318	1 17-20	(02)	百	遺構外	底部		
	4346	1 17-20	(25)	百	遺構外	底部		
	4358	1 17-20	(36)	百	遺構外	底部		
		4片(底部1片番号をかき飛ばす)						
128	12530	1 16-18	(06)	百	洗土43	底部		
		1片						
129	822	1 13-01	(03)	百	5号廻穴柱根	底部		
		1片						
130	10236	1 17-11	(26)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
		1片						
131	9192	1 19-15	(06)	マ	炭化物02	底部		
	892	1 20-19	(02)	百	遺構外	底部		
		2片(底部1片番号をかき飛ばす)						
132	9288	1 17-12	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	底部		
	10283	1 17-12	(26)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
		2片						
133	5969	8 22-15	(01)	百	遺構外	底部		
		8片						
134	16	1 07-14	(36)	(不明)	遺構外	底部	PL-II-112	
	4486	1 07-14	(31)	百	遺構外	底部		
		2片						
135	10926	1 07-09	(33)	百	遺構外	底部		
		1片						
136	13223	1 08-08	(03)	百	洗土27	網部		
	12961	1 07-08	(03)	百	遺構外	網部		
	12966	1 07-08	(01)	百	遺構外	網部		
	15059	1 06-07	(31)	百	遺構外	網部		
		4片						
137	14916	1 07-08	(15)	佛土	炭化物19	網部		
	14917	1 07-09	(10)	佛土	炭化物19	網部		
	14008	1 07-09	(01)	百	炭化物19周辺	底部		
	14039	1 07-09	(06)	百	炭化物19周辺	底部		
	14380	1 06-09	(33)	百	遺構外	底部		
	14500	1 07-06	(09)	百	遺構外	底部		
		6片						
138	1145	1 16-11	(23)	廻土5号	3号廻穴柱根	底部	PL-II-100-6	
	1146	1 16-12	(20)	廻土5号	3号廻穴柱根	底部	PL-II-113	
		2片						
139	15190	1 05-10	(23)	百	遺構外	底部		
	15191	1 05-10	(23)	百	遺構外	底部		
		2片						
140	5529	2 26-16	(33)	百	遺構外	底部		
		2片						
141	1175	1 10-05	(21)	廻土	5号廻穴柱根	底部	PL-II-152	
	13390	1 08-08	(31)	百	廻土27	底部		
		2片						
142	4607	1 11-07	(30)	百	遺構外	底部		
	4608	1 11-07	(30)	百	遺構外	底部		
		2片						
143	3386	2 09-06	(22)	百	遺構外	底部		
		2片						
144	640	1 12-21	(10)	百	遺構外	底部		
		1片						
145	1555	6 22-16	(03)	百	炭化物-廻土27	底部		
		6片						
146	126	3 16-17	(36)	(不明)	廻土43	底部		
		3片						

個体番号	遺物番号	磁片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	遺物連携など	断続	関連PL.番号
147	543	1	17-17	(不明)	カタラン	2号棟六作層	底部	
	81	1	19-15	(28)	(不明)	底部		
	7419	1	19-15	(12)	N	底化物52	底部	
	13087	1	19-15	(12)	N	底化物53	底部	
	221	4	18-18	(21)	(不明)	底化物53周辺	底部	
	8片(底面2片番号わからず)							
148	6166	1	26-15	(23)	底土	底土68	底部	
	6997	1	29-15	(21)	基	邊縁外	底部	
	2片(底面1片番号わからず)							
149	617	1	30-64	(25)	灰	1号棟周辺の底土・黄化物 底部		PL.II-187-5
	3633	1	30-64	(12)	底化物下	1号棟周辺の底土・黄化物 底部		
	3795	1	30-67	(15)	N	邊縁外	底部	
	14688	1	69-07	(02)	N	邊縁外	底部	
	15717	1	65-06	(12)	V	邊縁外	底部	
	15996	2	05-06	(20)	V	邊縁外	底部	
	7片(底面1片番号わからず)							
150	9122	1	18-18	(13)	底土④層	2号棟六作層	底部	PL.II-2-40-3
	1片							
151	7185	1	27-16	(02)	灰	底化物・焼土70	底部	
	7207	2	27-16	(03)	灰	底化物・焼土70	底部	
	5497	1	26-17	(不明)	土	底化物・焼土70	底部	
	5498	2	26-17	(不明)	土	底化物・焼土70	底部	
	6片							
152	16163	1	68-09	(02)	N	4号土塗	底部	PL.II-254-4
	15475	1	68-09	(10)	土	底化物14	底部	
	15477	1	68-09	(10)	土	底化物14	底部	
	15488	1	68-09	(11)	土	底化物14	口縁部	
	15508	1	07-09	(10)	N	底化物19	口縁部	
	15384	1	07-09	(00)	カタラン	底化物19	口縁部	
	14905	1	07-08	(13)	土	底化物19	底部	
	14914	1	07-08	(13)	土	底化物19	底部	
	15586	1	07-09	(00)	N	底化物19底辺	口縁部	
	15617	1	07-08	(03)	N	底化物19底辺	口縁部	
	15622	1	07-08	(21)	N	底化物19底辺	底部	
	15623	1	07-08	(03)	N	底化物19底辺	底部	
	15684	2	09-12	(02)	V	焼土24	口縁部	
	15229	1	05-06	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	15754	1	04-09	(11)	N	邊縁外	底部	
	15831	1	05-06	(21)	V	邊縁外	底部	
	14882	1	04-08	(03)	V	邊縁外	口縁部	
	19片							
153	14569	1	09-10	(21)	土	底化物16	底部	PL.II-263-4
	14454	1	05-10	(00)	V	底化物16周辺	底部	
	4632	1	12-08	(01)	N	邊縁外	口縁部	
	1433	2	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4629	1	11-08	(21)	N	邊縁外	口縁部	
	4639	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	1632	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	1018	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4764	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4639	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4785	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4786	2	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4623	1	11-08	(11)	V	邊縁外	口縁部	
	4624	1	11-08	(11)	V	邊縁外	口縁部	
	4625	1	11-08	(20)	N	邊縁外	口縁部	
	925	2	12-08	(03)	N	邊縁外	口縁部	
	753	1	11-08	(03)	N	邊縁外	口縁部	
	765	1	12-08	(00)	N	邊縁外	口縁部	
	4638	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4640	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	1468	1	12-08	(11)	N	邊縁外	口縁部	
	755	1	11-09	(00)	N	邊縁外	口縁部	
	834	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	836	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	936	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	4636	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	1634	1	12-08	(02)	N	邊縁外	口縁部	
	762	1	11-10	(10)	N	邊縁外	口縁部	
	31片(口縁部1片、例縁1片、底面1片番号わからず)							
154	63	1	19-20	(21)	(不明)	邊縁外	口縁部	PL.II-263-3

個体番号	遺物番号	枚数	大トリット	小トリット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL・番号
(つづき)	154	907	1	20-20	(00)	瓦	遺構外	口縁部
	908	1	20-20	(02)	瓦	遺構外	口縁部	
	918	45	22-21	(22)	瓦	遺構外	口縁部A、窓部37	
	921	5	22-21	(22)	瓦	遺構外	口縁部	
	1128	11	22-21	(22)	瓦	遺構外	窓部	
	914	14	22-21	(22)	瓦	遺構外	窓部	
	915	18	22-21	(22)	瓦	遺構外	窓部15、底部3	
	917	22	22-21	(22)	瓦	遺構外	窓部16、底部6	
	119片(口縁部2片、窓部3片番号わからず)							
	195	5662	19	22-16	(02)	瓦	焼土64	口縁部6、側部13
	5978	1	22-15	(12)	瓦	焼土64	口縁部	PL-II-283-2
	5941	1	22-16	(21)	瓦	焼土64	口縁部	
	5939	1	22-16	(11)	瓦	焼土64	口縁部	
	5661	1	22-16	(02)	瓦	焼土64	窓部	
	778	1	22-16	(10)	瓦	焼土64	窓部	
	777	1	22-16	(11)	瓦	焼土64	窓部	
	5933	1	22-16	(06)	瓦	焼土64	窓部	
	5831	1	22-16	(06)	瓦	焼土64	窓部	
	5887	1	22-16	(01)	瓦	焼土64	窓部	
	5660	1	22-15	(02)	瓦	焼土64	窓部	
	5653	4	22-16	(20)	瓦	焼土64	窓部	
	5659	2	22-16	(01)	瓦	焼土64	底部	
	7494	2	22-16	(21)	瓦	焼土64面透	口縁部1、側部1	
	6058	2	22-16	(01)	瓦	焼土64面透	窓部	
	5819	2	22-16	(01)	瓦	遺構外	口縁部	
	41片(口縁部2片、窓部3片番号わからず)							
	156	9123	1	18-19	(20)	床	2号柱穴傍	窓部
	12485	1	19-14	(05)	瓦	炭化物6面透	口縁部	PL-II-91
	12984	1	19-19	(31)	瓦	焼土・炭化物69	窓部	
	4182	1	20-18	(01)	瓦	焼土・炭化物69	側部	
	4200	1	20-18	(01)	瓦	焼土・炭化物69	底部	
	4187	1	19-19	(22)	瓦	焼土・炭化物69の隣辺	口縁部	
	1160	2	20-18	(10)	瓦	焼土・炭化物69の隣辺	口縁部	
	4315	1	17-20	(01)	瓦	遺構外	口縁部	
	4345	1	17-20	(32)	瓦	遺構外	口縁部	
	4360	1	17-20	(30)	瓦	遺構外	口縁部	
	4356	1	17-20	(33)	瓦	遺構外	窓部	
	10899	3	21-17	(21)	瓦	遺構外	底部	
	10978	1	21-17	(13)	カタラン	遺構外	窓部	
	11341	1	21-17	(不明)	カタラン	遺構外	底部	
	17片(断面3片番号わからず)							
	158	3767	1	09-09	(22)	瓦	遺構外	口縁部
	3920	6	09-09	(30)	V	遺構外	口縁部	PL-II-291
	3839	1	09-09	(31)	瓦	遺構外	口縁部	
	3623	2	09-09	(30)	瓦	遺構外	口縁部	
	3628	2	09-09	(30)	瓦	遺構外	口縁部	
	3631	2	09-09	(30)	瓦	遺構外	口縁部	
	3638	1	09-09	(31)	瓦	遺構外	口縁部	
	3843	1	09-09	(21)	瓦	遺構外	口縁部	
	3859	1	09-09	(30)	瓦	遺構外	窓部	
	3621	1	09-09	(20)	瓦	遺構外	窓部	
	3630	1	09-09	(20)	瓦	遺構外	窓部	
	3637	1	09-09	(31)	瓦	遺構外	窓部	
	3652	1	09-07	(33)	瓦	遺構外	窓部	
	3767	1	09-07	(23)	瓦	遺構外	窓部	
	3818	1	09-07	(20)	瓦	遺構外	窓部	
	3919	1	09-07	(23)	V	遺構外	底部	
	3913	1	09-08	(11)	瓦上	遺構外	底部	
	3769	1	09-07	(23)	瓦	遺構外	底部	
	3867	1	09-08	(20)	瓦	遺構外	底部	
	30片							
	159	13570	1	07-09	(10)	瓦	炭化物19	窓部
	14031	1	07-09	(21)	瓦	炭化物19	窓部	PL-II-283
	16018	1	08-09	(33)	瓦	炭化物等	炭化物・焼土20-21	窓部
	16019	1	08-09	(33)	瓦	炭化物等	炭化物・焼土20-21	窓部
	16019	1	08-09	(23)	瓦	炭化物等	炭化物・焼土20-21	窓部
	16013	1	08-09	(23)	瓦	炭化物等	炭化物・焼土20-21	窓部
	4202	1	10-11	(33)	瓦	遺構外	窓部	
	14271	1	08-10	(30)	V	遺構外	窓部	
	16205	1	08-10	(30)	V	遺構外	窓部	

個体番号	通称番号	現年齢	大きさ	小形ノット	部位・出土状況	関連地名など	部位	関連PL.番号	
■	180	15129	06-11	[30]	Ⅳ	遺跡外	東部		
		15149	05-10	[03]	Ⅳ	遺跡外	東部		
		15385	05-09	[12]	Ⅳ	遺跡外	東部		
3片									
■	181	6879	23-16	[01]	Ⅳ	土中64	側部	PL-II-248	
		12805	22-15	[21]	Ⅳ	土中64	側部		
		5606	25-16	[03]	Ⅳ	土中67	底部		
4片									
■	182	6933	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部	PL-II-292	
		6936	27-16	[02]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		6945	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		6943	27-16	[02]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		7174	26-16	[22]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		7306	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		7218	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		7222	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		7262	27-16	[02]	Ⅳ	炭化物・焼土20	側部		
		18610	27-16	[不明]	炭化物等	炭化物・焼土20	側部		
		5957	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		5958	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		5959	27-16	[13]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		5976	27-16	[13]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		6245	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		6248	27-16	[02]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		6285	27-16	[03]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		6296	27-16	[13]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
		6331	27-16	[22]	Ⅳ	炭化物・焼土20附近	側部		
21片									
■	183	825	19-05	[20]	Ⅳ	土中5場	5井型柱柱	口縁部	
		3998	29-09	[21]	Ⅳ	燒土・炭化物等	口縁部		
		13724	09-10	[23]	Ⅳ	燒土・炭化物等	側部		
		13723	29-09	[23]	Ⅳ	燒土・炭化物等	側部		
		13722	19-10	[23]	Ⅳ	燒土・炭化物等	口縁部		
		13661	09-09	[03]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		13665	09-09	[03]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		13078	09-11	[23]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		5198	09-06	[02]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		13883	09-06	[01]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		13886	29-09	[03]	Ⅳ	遺跡外	側部		
		16片							
■	164	656	23-15	[10]	Ⅳ	土中27	側部		
		1451	13-09	[20]	Ⅳ	遺跡外	側部		
		7744	14-15	[W3]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		1463	13-14	[22]	Ⅳ	遺跡外	口縁部		
		7303	14-14	[20]	Ⅳ	遺跡外	側部		
6片									
■	185	3069	09-12	[21]	Ⅳ	遺跡	3号窓火往窓	側部	PL-II-114
		668	29-13	[11]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		1131	09-12	[11]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		1531	09-12	[23]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		674	09-13	[21]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		V 1518	09-12	[23]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		✓ 679	09-13	[21]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		✓ 1520	09-12	[23]	Ⅳ	窓・土壘	3号窓火往窓	側部	
		3356	07-13	[18]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2526	07-13	[20]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2587	08-12	[21]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2582	08-12	[19]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2546	08-13	[10]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 1521	09-12	[23]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 1604	08-13	[23]	(不明)	焼土24	側部		
		✓ 1604	08-13	[01]	(不明)	焼土24	側部		
		✓ 2513	08-13	[23]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2578	09-12	[02]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2575	08-12	[13]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 1534	08-12	[23]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2582	08-12	[22]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 2578	08-12	[23]	Ⅳ	焼土24	側部		
		✓ 24	09-13	[13]	(不明)	焼土24	側部		

個体番号	遺物番号	破片数	大クリット	小クリット	層位	出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	165	2534	1	08-13	[30]	Y	粘土34	網部	
{ツヅキ}		✓2580	1	08-12	[18]	V	粘土34	網部	
		✓3009	1	08-13	[60]	V	粘土34	網部	
		✓3610	1	07-12	[18]	V	粘土34	網部	
			43片						
■	166	1609	4	08-13	[30]	網道	3号複六往復	網部	PL-II-99-4
		1626	1	08-13	[30]	質土34層	3号複六往復	網部	PL-II-115
		1141	1	10-12	[60]	質土34層	3号複六往復	網部	
		1142	1	10-12	[08]	質土34層	3号複六往復	網部	
		1820	4	08-12	[23]	質土34層	3号複六往復	網部3,底側1	
		1515	1	08-12	[30]	質土34層	3号複六往復	網部	
		2544	1	08-13	[10]	V	粘土34	網部	
			13片						
■	167	16805	9	08-10	[30]	V	炭化物+焼土20-21	網部4,底側3	
		4533	1	08-16	[30]	N	遺構外	網部	
			10片						
■	168	10414	1	10-13	[32]	N	遺構外	底部	
			1片						
■	169	5658	1	21-16	[01]	N	遺構外	網部	
		7486	2	21-16	[08]	N	遺構外	網部	
		7491	1	21-16	[30]	N	遺構外	網部	
		11383	2	21-16	[20]	N	遺構外	網部	
		11383	1	21-16	[30]	N	遺構外	口縫部	
		11385	1	21-16	[20]	N	遺構外	網部	
		11387	1	21-16	[20]	N	遺構外	網部	
		11389	1	21-16	[20]	N	遺構外	網部	
		11391	1	21-16	[21]	N	遺構外	網部	
		11375	1	21-16	[30]	N	遺構外	底部	
		11441	1	21-16	[11]	N	遺構外	網部	
		11533	1	21-17	[12]	N	遺構外	網部	
		12012	1	21-17	[11]	N	遺構外	口縫部	
		12303	4	21-17	[31]	N	遺構外	網部	
			19片						
■	170	1618	1	08-13	[30]	網道	3号複六往復	底部	PL-II-116
		1624	1	08-13	[30]	網道	3号複六往復	底部	
			2片						
■	171	4299	8	15-22	[30]	N	遺構外	底部	
			單片						
■	172	1534	2	10-05	[00]	灰	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	PL-II-128-2
		2100	3	10-05	[15]	N	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	
		2235	2	10-04	[15]	N	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	
		940	1	10-04	[28]	N	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	
		2376	2	09-05	[23]	N	1号土壌の土+炭化物	口縫部	
		3040	1	10-04	[08]	炭化物層下	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	
		1975	1	10-04	[08]	裏上	1号土壌斑状の土+炭化物	口縫部	
		14143	1	09-05	[31]	N	遺構外	口縫部	
		1182	1	10-04	[10]	N	遺構外	口縫部	
			14片						
■	177	6133	1	20-15	[23]	粘土	粘土69	網部	
		6309	1	20-16	[22]	N	粘土71	網部	
		5371	1	20-15	[20]	N	遺構外	網部	
		6269	1	20-15	[31]	N	遺構外	網部	
		6106	1	20-15	[20]	N	遺構外	網部	
		6110	1	20-14	[00]	N	遺構外	口縫部	
		6113	1	20-15	[31]	N	遺構外	口縫部	
		6133	4	20-14	[不明]	サクラン	遺構外	網部	
		6147	1	20-13	[35]	N	遺構外	口縫部	
		6318	1	20-14	[10]	N	遺構外	口縫部	
		6319	1	20-14	[10]	N	遺構外	口縫部	
		6321	1	20-14	[12]	N	遺構外	口縫部	
		6322	1	20-14	[00]	N	遺構外	口縫部	
		6323	1	20-14	[01]	N	遺構外	網部	
		6324	1	20-14	[02]	N	遺構外	網部	
		6325	1	20-14	[02]	N	遺構外	網部	
		6326	1	20-14	[11]	N	遺構外	網部	
		6329	1	20-14	[20]	N	遺構外	口縫部	
		12690	2	20-14	[31]	N	遺構外	口縫部	
			23片						
■	178	13621	1	08-09	[32]	N	遺構外	網部	
		13742	1	09-09	[01]	N	遺構外	網部	
		13817	2	08-09	[31]	N	遺構外	網部1,底側1	

個体番号	通巻番号	被片数	大きさ	タグリット	層位・出土位置	開底標識など	部材	関連PL・番号
(つづき)	178	13495	1	07-10	[30]	Ⅴ	通標外	瓦部
		13619	2	08-09	[31]	Ⅴ	通標外	瓦部
			7片					
■		179-2853	1	19-17	[03]	衛土②厚	5号骨穴住居	PL-II-42-2
		✓13700	1	08-08	[13]	Ⅴ	4号土壁	PL-II-251
		✓13718	1	08-09	[03]	衛土	4号土壁	
		✓8623	1	17-11	[03]	(不明)	炭化物マウンド	PL-II-2
		✓2083	1	18-10	[13]	(不明)	炭化物マウンド	PL-II-2
		✓9256	2	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	PL-II-2
		✓13339	1	08-07	[13]	Ⅴ	5号土壁周辺	PL-II-2
		✓13617	1	08-08	[30]	Ⅴ	衛土計測辺	PL-II-2
		✓3891	1	08-08	[03]	Ⅴ	衛土計測辺	PL-II-2
		✓13922	1	08-08	[30]	Ⅴ	衛土計測辺	PL-II-2
		✓13975	1	08-08	[30]	Ⅴ	地土計測辺	PL-II-2
		✓13621	1	08-08	[30]	Ⅴ	地土計測辺	PL-II-2
		✓13643	1	08-08	[30]	Ⅴ	衛土計測辺	PL-II-2
		✓4233	1	13-11	[01]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		✓852	3	10-07	[16]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		✓10902	1	14-12	[31]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
			10片					
■	180	12899	1	08-07	[12]	土壌内	5号土壁	PL-II-180
		13899	16	09-10	[03]	衛土	衛土-炭化物22	PL-II-294
		14294	1	08-10	[03]	Ⅴ	衛土-炭化物22	
		13658	1	08-10	[03]	衛土	衛土-炭化物22	PL-II-2
		13885	4	08-11	[30]	衛土	衛土-炭化物22	PL-II-2
		13735	5	08-10	[33]	Ⅴ	衛土-炭化物223辺	PL-II-2
		14472	1	08-10	[12]	炭化物等	炭化物16	PL-II-2
		16115	1	08-08	[02]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		13958	1	08-08	[20]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		13959	1	08-08	[02]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
			32片					
■	181	1087	1	10-05	[20]	床底	5号骨穴住居	PL-II-364-3
		1090	2	10-05	[20]	床底	5号骨穴住居	
			3片					
■	182	12893	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壁	PL-II-364-3
		12895	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壁	
		13851	1	08-07	[11]	Ⅴ	5号土壁周辺	
		13836	5	08-08	[30]	Ⅴ	地土計測辺	PL-II-2
		2555	1	08-13	[11]	Ⅴ	衛土24	PL-II-2
			9片					
■	183	6817	1	27-16	[22]	Ⅴ	通標外	PL-II-364-3
		12648	2	31-17	[11]	Ⅴ	通標外	
		12688	1	28-13	[23]	Ⅴ	通標外	
		12751	1	30-18	[20]	Ⅴ	通標外	
			5片					
■	184	6880	1	32-16	[22]	Ⅴ	通標外	PL-II-364-3
		6983	1	27-16	[32]	Ⅴ	通標外	
		6985	1	27-16	[32]	Ⅴ	通標外	
			3片					
■	187	1318	1	10-05	[30]	床底	5号骨穴住居	PL-II-2
		1056	1	13-13	[15]	Ⅴ	通標外	
			2片					
■	188	3148	2	09-07	[20]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
			2片					
■	189	5368	2	10-16	[01]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		12832	1	29-15	[20]	Ⅴ	通標外	
			3片					
■	190	14501	2	04-08	[21]	Ⅴ	炭化物4	PL-II-2
		14502	1	04-08	[21]	Ⅴ	炭化物4	
		14480	1	04-08	[21]	Ⅴ	炭化物4	PL-II-2
		13623	1	04-08	[31]	Ⅴの衛土上	炭化物4	
		15328	1	06-09	[11]	Ⅴ	炭化物14	PL-II-2
		5043	2	11-06	[03]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		3169	1	08-07	[13]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
		15032	1	05-06	[21]	Ⅴ	通標外	PL-II-2
			10片					
■	191	1087	4	10-05	[20]	床底	5号骨穴住居	PL-II-2
			4片					
■	192	2550	1	08-13	[11]	Ⅴ	衛土24	PL-II-2
			1片					

個体番号	遺物番号	被片数	大クリット	小クリット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.番号
■	193	11065	5	19-15	[21]	x'	炭化物焼	口縁部
		11900	2	19-15	[22]	x'	炭化物焼	口縁部
			2片					
■	194	✓1033	2	10-05	[20]	床	5号窓穴生焼	口縁部
		1213	1	10-05	[32]	床	5号窓穴生焼	口縁部
		✓1006	1	10-05	[21]	床	5号窓穴生焼	口縁部
		997	1	10-05	[31]	床	5号窓穴生焼	口縁部
		14354	1	08-07	[32]	土壤内	6号土壠	口縁部
		3890	1	08-08	[30]	背	地土13周辺	口縁部
			2片					
■	195	2274	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	口縁部
		2814	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	口縁部
			2片					
■	196	15058	1	06-07	[31]	背	地土13周辺	口縁部
		12996	1	07-08	[01]	背	地土13周辺	口縁部
		13273	1	08-08	[02]	背	地土13周辺	口縁部
		12941	1	07-06	[03]	背	遺構外	口縁部
			4片					

Tab. II-24 第2文化層出土土支脚一覧表

調査番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部材	関連PL.番号
支脚	1 676	1	10-13	(36)	壁土塗漆	3号施六住前	PL-II-126-下	
	1200	1	10-05	(20)	床	5号施六住居	PL-II-297-1	
(完形品)		2片					PL-II-301	
支脚	2 956	2	10-05	(31)	床	5号施六住居	PL-II-297-2	
	1015	1	10-04	(38)	床	5号施六住居	PL-II-302	
	1036	1	10-04	(34)	床	5号施六住居		
	1353	1	10-04	(35)	床底	5号施六住居		
	1556	1	10-05	(00)	煙道	5号施六住居		
	2063	1	09-04	(38)	(不明)	1号土塗壁土		
	2016	2	09-04	(不明)	壁土	1号土塗		
	2917	1	09-04	(不明)	壁土	1号土塗		
	34997	1	08-07	(不明)	?	0号土塗		
	14363	1	05-08	(13)	V	邊縁外		
(完形品)		12片						
支脚	3 10000	1	10-17	(31)	瓦	施土43	PL-II-254上	
	132	1	10-17	(31)	(不明)	施土43	PL-II-298-1	
		2片					PL-II-303	
支脚	4 956	2	10-05	(34)	床底	5号施六住居	PL-II-298-2	
	957	4	10-05	(34)	床底	5号施六住居	PL-II-304	
	968	1	11-04	(08)	床底	5号施六住居		
	3023	1	09-04	(35)	床土	1号土塗周辺の焼土・炭化物		
	3039	1	10-04	(08)	炭化物層下	1号土塗周辺の焼土・炭化物		
		9片						
支脚	5 13285	1	08-11	(30)	瓦	施土22		
		1片					PL-II-305	
支脚	6 12274	3	12-17	(12)	タマド	2号施六住居	PL-II-27	
	5790	1	19-15	(03)	瓦	炭化物53	PL-II-28	
	5801	1	19-15	(13)	瓦	炭化物53	PL-II-30	
	7422	4	19-15	(10)	x'	炭化物52	PL-II-298-3	
	8996	1	19-15	(10)	x'	炭化物52	PL-II-306	
	9030	3	20-16	(03)	瓦	炭化物52周辺		
	9039	1	20-16	(11)	瓦	炭化物52周辺		
	6041	1	20-16	(11)	瓦	炭化物52周辺		
(完形品)		15片						
支脚	7 6184	1	26-15	(33)	焼土	焼土65		
	6177	3	26-15	(33)	焼土	焼土65	PL-II-307	
		4片						

Tab. II-25 第2文化層出土土製玉一覧表

調査番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部材	関連PL.番号
土製玉	1900	1	17-10	(21)	?	炭化物マウンド		PL-II-309-1
	2547	1	17-10	(23)	?	炭化物マウンド		PL-II-309-2
	6789	1	19-11	(03)	?	炭化物マウンド周辺		PL-II-309-3
	7386	1	17-12	(20)	瓦	炭化物マウンド		PL-II-309-4
	7388	1	17-12	(23)	瓦	炭化物マウンド		PL-II-309-5
	8172	1	17-11	(03)	マウンド上面	炭化物マウンド		PL-II-309-6
	8173	1	17-12	(20)	マウンド上面	炭化物マウンド		PL-II-309-7
	8175	4	17-10	(33)	マウンド上面	炭化物マウンド		PL-II-309-8.9.10.11
	9896	1	17-11	(03)	マウンド上面	炭化物マウンド		PL-II-309-12
	16501	2	17-12	(31)	マウンド	炭化物マウンド		PL-II-309-13.14
	16630	3	17-12	(18)	マウンド	炭化物マウンド		PL-II-309-15.17
	5001	1	19-15	(23)	瓦	炭化物62		PL-II-309-16
		17個						PL-II-312

Tab. II-26 第2文化層出土紡錘車一覧表

遺物番号	遺物番号	破片数	破片形	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	部位	関連PL.番号
紡錘車	1 725	1	19-13	(61)	■	覆土⑤層	3号船穴住居	PL-II-299-1
				1個				PL-II-308
紡錘車	2 11650	1	15-17	(30)	■	鐵土	3号土蔵	PL-II-299-2
(実用品)				1個				PL-II-308
紡錘車	3 11850	1	18-18	(21)	■	表面	2号船穴住居	PL-II-299-3
(実用品)				1個				PL-II-308
紡錘車	4 1022	1	19-05	(26)	■	底面	5号船穴住居	PL-II-299-4
(実用品)				1片				PL-II-308
紡錘車	5 11117	1	13-10	(28)	■	上	遺構外	PL-II-299-5
	11118	1	13-10	(28)	■	上	遺構外	PL-II-308
				2片				
紡錘車	6 7233	1	19-18	(66)	■	表面	炭化物62	PL-II-300-6
	10951	1	19-15	(66)	■	表面	炭化物62	PL-II-308
				2片				
紡錘車	7 3960	1	09-09	(30)	■	表面	遺構外	PL-II-300-7
	3957	1	09-08	(28)	■	表面	遺構外	PL-II-308
				2片				
紡錘車	8 9669	1	17-12	(16)	■	マウンド	炭化物マウンド	PL-II-300-8
	9663	2	17-12	(66)	■	マウンド	炭化物マウンド	PL-II-308
	9874	1	17-12	(16)	■	マウンド	炭化物マウンド	
				4片				
紡錘車	9 6837	1	18-12	(31)	■	表面	炭化物マウンド	PL-II-300-9
	8298	1	18-16	(28)	■	鐵土43		PL-II-308
				2片				
紡錘車	10 7411	1	19-18	(11)	■	表面	炭化物62	PL-II-300-10
	9105	1	19-15	(28)	■	表面	炭化物62	PL-II-308
				2片				
紡錘車	11 1392	1	13-21	(13)	■	表面	遺構外	PL-II-300-11
				1片				PL-II-308
紡錘車	12 4131	1	19-09	(16)	■	表面	遺構外	PL-II-308
				1片				
紡錘車	13 10230	1	27-11	(21)	■	マウンド	炭化物マウンド	PL-II-308
				1片				
紡錘車	14 1103	1	12-05	(66)	■	覆土⑤層	5号船穴住居	PL-II-308
				1片				

Tab. II-27 第2文化層出土フイゴ羽口・石製品一覧表

遺物番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	開通溝など	部位	関連PL.番号
トイゴ羽口C	1 613	9	10-05	(12)	■	覆土⑤層	5号船穴住居	PL-II-310-1
			9片					PL-II-313
トイゴ羽口C	2 1987	1	10-05	(66)	■	表面	遺構外	PL-II-310-2
	1988	2	10-05	(66)	■	表面	遺構外	PL-II-313
	1989	1	10-05	(66)	■	表面	遺構外	
			4片					
石斧	1 400	1	16-17	(61)	■	鐵土43		PL-II-310-1
(実用品)			1個					PL-II-310-11
石斧	2 4237	1	19-18	(66)	■	表面	遺構外	PL-II-310-2
(実用品)			1個					PL-II-310-12
たたき石	999	1	10-05	(26)	■	表面	5号船穴住居	PL-II-310-3
(実用品)			1個					PL-II-310-10
石製品	1 190	1	14-18	(26)	(不明)	表面	遺構外	
			1片					

Tab. II-28 第2文化層出土金属器・鉄洋一覧表

遺物番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	開通溝など	形状・備考	関連PL.番号
金属器	1 8527	1	17-11	(38)	■	マウンド	炭化物マウンド	塊状
			1個					PL-II-310-20-F PL-II-310-3
金属器	2 1189	1	11-04	(26)	■	表面	遺構外	PL-II-310-4
金属器	3 2374	1	09-05	(26)	■	表面	刀子(?)	PL-II-310-7
鉄矛	4 580	1	19-14	(21)	■	表面	1号船穴住居	鉄矛
鉄矛	5 2725	1	08-13	(16)	■	鐵土	鐵土	PL-II-310-8
鉄矛	6 2727	1	08-13	(16)	■	鐵土	鐵土24	鉄矛
鉄矛	7 2902	1	08-13	(66)	■	表面	鐵土24周辺	鉄矛
鉄矛	8 3096	1	08-12	(66)	■	表面	鐵土24周辺	鉄矛
鉄矛	9 3845	1	10-08	(66)	■	表面	遺構外	鉄矛
鉄矛	10 16030	1	07-09	(38)	(不明)	4号船穴	4号船穴	
鉄矛	11 14462	1	08-07	(32)	(不明)	5号船穴	5号船穴	
鉄矛	12 3321	1	17-11	(11)	■	マウンド内	炭化物マウンド	塊状
鉄矛	13 —	1	—	—	■	鐵土24	鐵片状	

Tab. II-29 第3文化層出土主體一覽表

備考番号	遺失番号	被片数	大アリッド	小アリッド	履歴	出土位置	関連遺物など	部位	関連PL.,番号
往口	1 14884	1	06-10	(33)	Ⅳ	遺構外	口縁部	PL.11-38上	
	2 13587	1	07-07	(12)	Ⅴ	遺構外	口縁部	PL.11-38下	

Tab. II-30 焼土・炭化物集積一覧

No.	位置(グリッド)	層	形状	大きさ	状態(厚さ)	備考
1	03-14	川砂	一	—	—	自然堆積
2	02-08~03-08	V	稍凹	70cm強	炭化物、焼土、粘土の混合(8mm)	
3	04-07	N	不整形	1m	焼土。(70mm)	
4	04-07~04-08~05-07~05-08	N	不整形	約4m	炭化物、焼土	
5	03-08~04-08	N	不整形	1m弱	焼土。(10~40mm)	
6	05-05~06-05	V	不整形	大80cm、小30cm	炭化物。(1~3mm)	2個
7	05-07	N	不整形	大1.2m、小1m	焼土。(5~20mm)	4個
8	04-07~05-07	N	不整形	大2.5m、小0.5m	焼土。(5~10mm)	3個
9	05-09	V	不整形	1.3m	焼土。(15mm)	
10	05-09	N	不整形	1.5m	焼土。(30~50mm)	
11	05-10~06-11	V	不整形	大1.5m、小0.5m	焼土。(5~10mm)	3個
12	06-06~07-06	V	不整形	大0.7m、小0.3m	焼土	4個
13	06-07~06-08	V	不整形	2.7m	焼土。(5mm)	
14	06-09	V	不整形	2.1m	炭化物。(10~20mm)	
15	06-10	V	不整形	0.6m	焼土	
16	06-10~07-10	N下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物。(10~50mm)	
17	07-05	V	不整形	1~1.3(m)	焼土	3個
18	07-08	V	不整形	大1.4m、小0.8m	焼土。(60mm)	2個
19	06-10~07-08~07-09	N下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物。(10~40mm)	
20	06-09~08-10	V	不整形	2m	炭化物。(5~6mm)	21と重複
21	06-09~08-10	V	不整形	2m	焼土	20と重複
22	06-10~08-11~09-10~09-11	N中	不整形	2.4m弱	焼土・炭化物	
23	08-10	N	不整形	大1.5m、小0.4m	焼土。(2~3mm)	3号竪穴縫道前
24	07-12~07-13~08-12~08-13	N	不整形	大7m、小1m	焼土	
25	09-03	N	不整形	1m弱	焼土。(2~4mm)	
26	09-10	N	不整形	1.3m	炭化物・焼土	
27	08-08	N	不整形	大2.6m、小1m	焼土	
28	08-04~08-05~09-04~09-05	V	不整形	0.5m強	焼土・炭化物	
29	08-05~08-06	V	不整形	1m強	焼土。(10~20mm)	2個
30	10-06	N	不整形	2m強	炭化物。(10~15mm)	
31	10-10	N	不整形	1.1m	炭化物。(1~3mm)	
32	11-11	N	不整形	大0.8m弱、小0.4m強	焼土。(10~40mm)	
33	12-09~12-10~13-09~13-10	N下	不整形	1.5m	焼土。(10~70mm)	
34	12-13~12-14	N	稍円形	1.4×0.6(m)	焼土	
35	12-14~12-15	V	不整形	大0.6m、小0.4m	焼土。(10mm)	2個
36	13-09	V	不整形	1m強	炭化物	
37	13-15	N下	不整形	1.6m	焼土。(10mm)	
38	14-11	N	不整形	0.8m	焼土	
39	15-07~16-07	N	不整形	2.4m弱	炭化物。(30~40mm)	
40	15-12~16-12	N	不整形	1.5m	炭化物	
41	15-16~15-17	N	不整形	大1.5m、小1m強	焼土	
42	15-21~15-22~16-21, 16-22	N	不整形	円形約2.7m	炭化物	
43	2号竪穴縫道前	N	不整形	—	焼土・炭化物	
44	16-18~16-19	N	不整形	大3m強、小0.8m	焼土	2個
45	16-11	N	不明	不明	焼土	
46	16-13	N	不明	不明	焼土	
47	18-11~18-12~18-13~19-11~19-12	N	不整形	3m~1.5m	焼土	3個
48	18-13	N	不整形	1.5m	焼土	
49	18-10~19-10~20-10~20-11	N	不整形	7.5×1(m)	焼土	
50	19-11	N	不整形	炭化物2.6m、焼土0.6m	炭化物・焼土	2個
51	18-13~19-13	N	不整形	大2.5m、小0.6m	焼土	2個
52	18-15, 19-14, 19-15, 19-16, 20-14	N	不整形	8m弱	炭化物	
53	18-16~19-16	V上	不整形	内径1.8×1.2(m)	炭化物	
54	19-07~20-07	N	不整形	大3m弱	焼土	
55	20-07~20-08~21-08	N	不整形	2m強	焼土。(30~50mm)	
56	20-12	N	不明	不明	焼土	
57	20-13	N	不明	不明	炭化物	
58	20-13~20-14~21-14	N	不整形	大2.3m強	焼土	3個

No.	位置	層	形状	大きさ	状態	備考
59	19-18~20-18	IV	不整形	燒土・大0.9m, 炭化物・大0.3m	燒土・炭化物	
60	21-12	IV	不整形	1.7m	燒土	
61	21-14	IV	不整形	2.8m	燒土	
62	21-15	IV	不整形	2.3m	燒土	
63	22-11	IV	不整形	1.8m	燒土	
64	22-15~22-16~23-16	IV	不整形	大2.5m, 小0.8m	燒土	
65	23-16	IV	不整形	0.7m	燒土	
66	24-13	IV	不整形	0.4m	燒土,(8mm)	
67	25-16	IV	不整形	1.3m	燒土,(10~60mm)	
68	26-15~26-16	IV	不整形	大2.5m, 小0.8m	燒土,(5~7mm)	
69	27-15	IV	不整形	0.7m強	燒土	
70	26-16~26-17~27-16~27-17	IV	不整形	約2m	炭化物・燒土	
71	28-16	IV	不整形	大1.5m, 小0.5m	燒土,(20~40mm)	
72	30-16~31-16	IV	不整形	5m強	燒土	第1文化層
73	31-16	IV	不整形	1m強	炭化物,(5mm)	
74	16-06, 17-08	IV	不整形	1.10~1.4(m)	燒土	3個
75	21-17	IV	不明	不明	炭化物	

注：「炭化物マウンド」はこの表に示していない。

Tab. II-31 集石の計測

## ■2号穴の実測

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
11849	8.35	4.45	3.72	160
12051	7.92	4.07	2.70	150
12055	10.35	5.34	3.64	200
12053	9.16	5.10	2.93	220
12054	7.38	4.60	3.06	164
12055	7.73	4.32	3.32	148
12056	7.87	4.55	3.09	150
12057	8.22	4.01	3.47	154
12058	7.70	5.26	3.11	170
12059	8.03	3.20	3.27	107
11834	11.47	6.70	2.75	198
12060	9.16	4.04	5.03	135
12073	10.95	4.31	2.85	187
12076	—	—	—	256

## ■20-08~21-08グリッド

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
6360	5.49	4.45	3.34	111
6361	6.37	3.08	2.84	86
6362	6.45	3.68	3.68	118
6363	5.99	4.17	3.09	69
6364	6.78	3.81	2.98	77
6365	—	—	—	68
6366	5.09	4.97	2.35	77
6367	7.80	4.28	3.61	132
6368	—	—	—	35
6369	—	—	—	47
6370	6.31	3.99	2.31	83
6371	5.96	4.12	3.37	83
6372	5.80	4.39	2.38	64
6373	7.10	3.95	2.85	110
6374	5.08	3.33	2.40	37
6375	6.21	2.52	3.20	65
6376	6.74	3.16	2.33	66
6377	5.47	2.81	2.16	45
6378	6.93	3.78	2.37	91
6379	5.75	2.75	2.36	57
6380	—	—	—	64
6381	5.76	4.22	2.43	55
6382	8.34	4.38	2.46	106
6383	5.79	4.07	3.22	92
6384	6.03	3.90	2.83	62
6385	5.67	3.49	2.37	44
6386	6.93	5.63	3.56	153
6387	—	—	—	52
6388	8.01	3.60	2.96	104
6389	6.86	3.31	3.26	90
6390	8.05	3.16	3.74	94
6391	6.03	3.50	2.84	89
6392	6.94	3.87	3.90	120
6393	5.45	3.90	3.94	85
6394	—	—	—	64
6395	5.76	2.83	3.27	61
6396	6.85	4.20	3.11	93
6397	5.83	3.91	3.49	92
6398	8.89	3.98	2.97	71
6399	7.37	4.42	4.07	108
6400	6.27	3.96	2.79	92
6401	6.44	3.40	3.12	106
6402	6.99	3.94	2.06	38
6403	6.57	2.98	2.75	70
6404	7.19	4.63	3.55	127

## ■3号塘④層上面

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
11652	9.45	3.89	2.98	155
11653	8.51	4.14	2.60	128
11654	10.11	2.63	2.58	123
11655	8.95	5.24	2.71	164
11656	11.46	4.32	2.49	162
11657	8.11	4.10	3.75	155
11658	7.39	3.61	3.79	158
11659	8.39	5.26	2.24	134
11660	10.37	3.59	2.87	157
11661	9.82	4.64	3.12	188
11662	10.21	3.82	3.49	192
11663	11.07	5.57	3.53	304
11664	8.84	5.01	2.75	167
11665	8.30	5.44	2.65	154
11666	9.11	4.11	2.83	137
11667	8.36	3.95	2.86	136
11670	9.07	5.52	3.00	208
11671	9.33	4.39	3.37	196
11672	8.88	4.54	3.28	173
11674	11.83	4.03	3.88	316
11675	8.38	4.66	2.33	159
11676	7.75	4.80	3.04	176
11677	8.95	4.62	3.45	187
11678	8.30	4.72	3.70	182
11679	9.43	5.00	3.39	312
11680	8.00	5.01	3.03	163
11681	9.40	4.47	1.88	105
11685	8.77	4.15	2.68	136
11686	8.84	5.04	3.67	172
11687	7.68	3.84	2.93	102
11688	8.47	4.37	2.56	134
11689	8.16	3.81	3.13	134
11690	8.01	3.55	3.31	137

## ■31-16グリッド

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
12025	8.75	5.86	2.47	164
12026	8.94	6.43	2.38	158
12027	8.12	5.03	2.97	170
12028	8.72	4.90	3.12	180
12029	8.77	4.29	2.96	151
12030	8.33	4.80	3.24	177
12031	7.80	4.91	2.88	150

## ■13-10グリッド

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
4864	6.98	4.91	2.31	124
4865	6.52	5.04	2.62	107
4866	7.12	5.53	2.47	99
4867	6.99	4.54	3.64	130
4868	9.18	5.48	2.51	226
4869	8.33	4.85	2.74	162
4870	7.90	4.33	3.16	131
4871	5.92	4.06	3.66	136
4872	6.29	4.63	1.46	53
4873	6.91	5.12	3.43	152
4874	6.47	4.46	3.81	180
4875	7.33	4.24	3.02	120
4876	7.00	4.47	3.00	130
4877	7.71	4.51	4.17	228
4878	8.26	4.61	2.76	146
4879	7.31	4.69	3.23	128
4880	10.17	6.09	3.88	252
4881	8.50	3.90	1.95	89
4882	5.62	4.37	2.60	91
4883	8.95	4.82	2.47	135
4884	5.66	4.40	3.14	108
4885	6.78	4.50	2.88	197
4886	7.80	4.61	2.72	129
4887	7.95	3.96	3.55	127
4888	7.56	4.43	3.82	111
4889	7.72	5.17	2.87	144
4890	7.96	4.14	3.08	133
4891	6.34	4.15	2.87	102
4892	6.50	4.05	3.15	129
4893	7.06	3.90	3.69	133
4894	8.10	4.33	3.04	128
4895	6.91	4.50	2.82	111
4896	7.00	3.99	3.09	116
4897	6.40	4.05	3.16	113
4898	8.02	5.12	3.40	182
4899	7.39	4.37	3.12	117
4900	6.79	5.93	3.25	114
4901	6.82	3.58	2.83	87
4902	6.90	4.49	2.93	117
4903	6.18	4.76	4.77	100
4904	5.18	2.34	2.95	97
4905	7.22	4.81	2.50	102
4906	6.40	4.79	3.44	104
4907	6.49	4.27	3.06	49
4908	8.09	4.58	2.51	144
4909	7.91	5.26	3.31	168
4910	5.67	3.95	2.98	90
4911	5.63	4.28	3.60	107
4912	—	—	—	120
4913	5.02	4.81	2.98	96
4914	5.02	4.82	2.81	98
4915	5.48	3.89	2.96	98
4916	7.15	4.37	2.12	101
4917	10.38	8.85	2.31	409
4918	6.38	5.00	3.16	116
4919	5.95	4.37	3.75	109
4920	5.02	3.63	1.87	50
4921	5.74	2.83	1.95	41
4922	7.00	4.37	2.41	104
4923	7.41	5.19	2.47	93
4924	7.44	3.58	2.89	100
4925	—	—	—	94
4926	4.93	2.70	2.72	53
4927	4.80	2.98	2.14	35
4928	8.25	5.41	2.62	152
4929	5.42	3.34	3.14	76
4930	4.98	2.88	2.50	68
4931	6.33	3.79	2.56	63
4932	—	—	—	107
4933	6.72	3.29	2.49	77
4934	5.90	3.38	3.01	80
4935	6.33	4.37	2.61	106
4936	7.19	3.94	2.14	80
4937	5.94	4.40	4.17	113

## ■20-15グリッド

No.	高(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
12305	6.20	4.17	3.73	82
12306	4.94	3.42	1.84	21
12307	—	—	—	45
12308	5.98	3.84	4.89	93
12309	6.66	2.08	2.05	41
12310	6.14	2.85	2.40	33
12311	5.90	3.16	4.40	120
12312	3.35	8.03	1.00	8
12313	4.35	3.16	3.15	19
12314	4.35	4.28	3.34	42
12315	5.88	2.48	4.29	117
12316	6.35	3.29	2.52	48
12317	6.33	3.26	2.56	66
12318	5.35	3.29	2.52	48
12319	6.33	3.52	2.76	66
12320	—	—	—	66
12321	5.33	3.52	2.76	66
12322	4.65	4.00	3.22	51
12323	5.11	2.89	2.12	8
12324	5.11	2.89	2.12	8
12325	5.33	2.89	2.12	8
12326	5.33	2.89	2.12	8
12327	5.11	2.89	2.12	8
12328	5.33	2.89	2.12	8
12329	5.33	2.89	2.12	8
12330	—	—	—	8
12331	5.33	2.89	2.12	8
12332	5.33	2.89	2.12	8
12333	5.33	2.89	2.12	8
12334	5.33	2.89	2.12	8
12335	5.33	2.89	2.12	8
12336	5.33	2.89	2.12	8
12337	5.33	2.89	2.12	8
12338	5.33	2.89	2.12	8
12339	5.33	2.89	2.12	8
12340	5.33	2.89	2.12	8
12341	5.33	2.89	2.12	8
12342	4.45	3.33	3.17	24
12343	—	—	—	44
12344	5.33	2.89	2.12	8
12345	6.74	3.41	2.46	61
12346	2.89	2.36	2.05	9
12347	4.81	3.90	3.45	48
1234				

〔本文編〕

## サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初的農耕集落

1986

北海道大学

1